

大正六年陸甲五五 別冊号三

開戦直前ニ於ケル列強ノ情勢

臨時軍事調査委員

秘

九			十
函	架	冊	類

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-6
	① 2136

大正六年六月十日陸軍省印刷

2137

方今世界列強ノ趨勢ヲ記スルノ書多々アリト雖或ハ繁ニアラサレハ冗ニ過ク
之ニ關シテ瑞國博士「クエルレン」氏ノ著ハセルモノ開戦以來能ク中歐ニ傳播
シ千九百十四年六月起草セシヨリ翌年二月ニ及ヒ既ニ第十版ヲ見ルニ至レリ
蓋シ頗ル有益ノ書ナラムカ

同博士ノ序ニ曰ク戦争ノ起因ハ本書ヲ讀ムノ間讀者自ラ會得スル所アルヘシ
ト然リ而シテ塊國ニ對シテハ獨國ニ依頼セサルヘカラスト斷言シタル如キ及
獨國ニ於テハ聯邦ノ統一ト發展トハ實ニ皇帝ノ偉大ナル權力ニ基クト述ヘタ
ルカ如キ等ヨリ推斷スルトキハ獨、塊ノ同盟ヲ鞏固ニシ及獨逸帝國內ノ結束
ヲ十分ナラシムル必要上何人カノ使喚ニ依リ博士ヲシテ之ヲ言ハシメタルニ
ハアラサルヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ曩ニ瑞國博士「スウエン、ヘデン」(有名
ナル地理學者)「武装セル國民」ヲ著ハシ其ノ書廣ク全世界ニ普及シ十數萬部ニ
及ヘリ其ノ内容ハ既ニ讀者ノ知レル如ク獨逸陸軍ノ編制團結ノ良好ナルコ
ト、皇帝及國家ニ對スル軍人ノ忠愛心ノ無比ナルコト、獨軍兵器ノ優勝ナルコ

ト等ニシテ精銳無比何國ト雖決シテ之ニ超越スルコトヲ得ストノ主旨ヲ以テ
骨子トセリ聞ク所ニ依レハ「ヘヂン」博士ハ其ノ功ニ依リテ七萬六千馬克ノ賞
金ヲ受ケタリト是亦爲ニスル所アリテ記セシメタルモノナラム
「クエルレン」博士ノ著或ハ「ヘヂン」博士ノ類ニアラサルナキヤ是書中巧ミニ
英、佛、露國ヲ抑ヘテ獨國ヲ有利ニ記スルノ條項アルト其ノ書ノ特ニ廣ク獨逸
人種中ニ弘マリタルトニ依ル

本書ノ偏獨ハ讀者ノ深ク酌量ヲ要スル所ナリ然レトモ列國ノ趨勢ヲ記スルコ
ト簡約ニシテ叙事亦要ヲ得ルニ依リ初學者ニ研究ノ端緒ヲ與フルコト尠カラ
サルヘシト考フ恐ラクハ翻譯ニ於テ著者ノ全旨ヲ摘出シ能ハサルモノアラム
希クハ只其ノ要點ヲ捕捉セラレムコトヲ

大正六年六月

臨時軍事調査委員長 菅野 尚一

序 言

本書ハ千九百十四年六月即チ歐洲戰勃發前二箇月ニ脱稿シ其ノ後内容ニ於テ
何等ノ増減スル所ナシ而シテ本書ノ目的ハ開戰直前ニ於ケル列強ノ情勢ヲ審
ニスルニ在リ從テ戰爭ノ起因ハ本書ヲ讀ム間自ラ讀者ノ會得スル所ナルヘシ
而シテ本書ノ内容ハ既ニ時勢ノ變轉ニ伴ハスシテ今日ニテハ陳腐ナリトノ批
評アラム然レトモ巨細ニ熟讀セハ其ノ然ラサルヲ認メ得ヘシ勿論開戰以後領
土、位置、勢力均衡ノ關係等ニ變化ヲ生セシト雖各國ノ核心ニ於テハ尙從前ト
異ル所ナシ

是ヲ以テ本書ハ戰爭ノ發現ト否トニ關セス其ノ眞價ヲ有スルモノト信ス
本書ハ前述ノ如ク列強ノ國情ノ真相ヲ究ムルヲ本義トシ國勢ノ統計ノ如キハ
唯之ヲ概括シテ要點ノミヲ掲ケ置ケリ而シテ著者ハ單ニ諸現象ノ記述ノミニ
止メス之カ批評ヲ試ミ尙各強國カ優勢ノ地位ニ立ツニ至リシ經歷ヲ明ニシ各

國ノ缺陷ヲ指摘シ及將來ノ希望ニ言及セリ斯クテ開戦ノ原因ト其ノ目的等ハ
自ラ明ナルニ至ラム
右ノ如キ理由ヲ以テ本書ヲ著ハスニ至リシヲ以テ事物ノ判斷ハ著者ノ主觀的
傾向ニ陷レルハ自然ノ勢ナリト雖所謂生物學觀察法ニ基キカメテ簡人的ノ感
情ヲ避ケ以テ公平ナル見地ヨリ離レサルヲ期セリ

千九百十五年二月

「ストックホルム」ニ於テ

著者

開戦直前ニ於ケル列強ノ情勢

目次

緒言……………一頁

國勢統計表

第一章 奥匈國……………五

第一款 國史梗概……………五

第二款 地理……………七

第三款 國民……………一〇

第四款 民族間ノ軋轢……………一二

第五款 國家……………一五

第六款 對外政策……………一八

目次

第二章 伊國

- 第一款 國史梗概
- 第二款 地理及國民
- 第三款 社會及國家
- 第四款 對外政策

第三章 佛國

- 第一款 國史梗概
- 第二款 地理
- 第三款 國民
- 第四款 社會
- 第五款 國家
- 第六款 對外政策

第四章 獨國

- 第一款 國史梗概
- 第二款 地理
- 第三款 國民
- 第四款 社會
- 第五款 國家
- 第六款 對外政策

第五章 英國

- 第一款 國史梗概
- 第二款 地理
- 第三款 國民
- 第四款 社會
- 第五款 國家
- 第六款 帝國問題
- 第七款 對外政策

目次

三

二

第六章 米國

第一款 地理 一一〇

第二款 國民 一一二

第三款 社會 一一五

第四款 國家 一二八

第五款 對外政策 一三〇

第七章 露國

第一款 國史梗概 一二八

第二款 地理 一三〇

第三款 國民 一三二

第四款 社會 一三七

第五款 國家 一四一

第六款 對外政策 一四五

第八章 日本國

第一款 國史梗概 一五一

第二款 地理及國民 一五四

第三款 社會及政界 一五九

第四款 對外政策 一六二

結論

..... 一六五

備考 一 書中獨、埃句、露國ノ部ノ地名ハ獨逸語ヲ以テ示シ其ノ他ノ部ハ主トシテ英語ニ據レリ

二 本書中ニアル地名ハ卷尾ノ附表及附圖ニ於テ之ヲ示ス

開戦直前ニ於ケル列強ノ情勢

緒言

現代地球上ニ存在スル邦國大凡五十其ノ中列強トシテ嶄然頭角ヲ現ハセルモノハ實ニ八箇國ナリトス而シテ此ノ八箇國ハ爾餘ノ諸國ト何等特異ノ限界及確定ノ特權ヲ有スルモノニアラスト雖世界ノ政交舞臺ノ上ニ立チ大ナル勢力ヲ振ヘリ

然リ而シテ各強國カ其ノ位置ニ到達セルハ實ニ其ノ内部ノ必要ヨリ起リ歴史の経路ヲ踏ミタルモノニシテ形式上權利ヲ得タルモノ(註、國際間ノ條約ニ依リ形式的ニ認メラレタル一國ノ權利ノ意ナリ)ニアラサルナリ

凡ソ實力ニ富ミ強國タラムトノ旺盛ナル意氣ヲ有スル國家ハ世界ニ於ケル重要ナル事件ニ遭遇シテ猛然トシテ自己ノ威力ヲ發揮シ遂ニハ世界ノ輿論ニ依リテ自然ニ強國ノ列ニ加入スルモノナリ

往昔ニ於テハ「アレキサンデル」大帝、「カルル」大帝、成吉思汗、奈翁第一世ノ如キ英雄箇人ノ力量ニ依リ一時的國家勃起シ或ハ古代「アッシリヤ」、「ベルシヤ」、羅馬帝國、「アラビヤ」回教國及中世紀ノ獨逸帝國ノ如ク確乎タル發展ヲ遂ケタル國家發現シタルコトアリシモ上述ノ諸國ハ皆其ノ當時ノ世界ノ全

部ヲ包括スルノ傾向アルヲ常トセリ從テ邦家ノ興廢相次テ行ハレタリ然ルニ歐洲ノ文藝復興期ニ至ル
ヤ始テ數邦同時ニ併立シテ勃興スルノ端緒ヲ開ケリ即チ土耳其、「ホルトガル」、「スペイン」、埃國等
ノ屹立是ナリ

第十七世紀ノ中葉ニ於テ和蘭、瑞典、佛國等ノ盛ナル時代來リ次テ各國ノ興亡起リ第十八世紀ノ初期
ニ於テ英國、其ノ中葉ニ於テ普魯西、又其ノ末葉ニ於テ露國ハ強國ノ列ニ入ルニ至レリ然ルニ最後ノ舊
式國家タル那翁政府ノ沒落後英、普、露ノ三國ハ佛、埃兩國ト共ニ元老格トナリ歐洲ニ於ケル後見職ヲ
以テ之ニ僭臨セリ

其ノ後第十九世紀ノ中葉以後伊太利、第十九世紀、第二十世紀ノ交ニ於テ北米合衆國及日本ハ列強ノ
伍ニ列スルニ至レリ而シテ千八百六十六年以後普國ノ隆興ト同時ニ舊埃國ハ埃匈國ニ變シ而シテ普國
ハ獨逸聯邦ヲ形成シ獨逸帝國ノ盟主トナレリ此等八箇ノ列強ハ皆佛國革命以前ノ專制主義時代ヨリ存
續セシモノナク當時ノ二強國即チ西班牙、和蘭ハ既ニ強國タルヲ得スシテ文藝復興ノ時代ニ於テハ全
然衰微ヲ呈スルニ至レリ現時ノ歐洲ニハ五箇ノ往昔ノ強國ト六箇ノ現在ノ強國アルモ實ニ此等諸國ノ
興廢ハ最近四世紀ノ間ニ行ハレタルモノナリ歐洲以外ノ強國タル日、米兩國列班ノ如キハ一層近時ニ
シテ世界史上ノ新現象ナリ

現代ノ特徴トシテ往時ト著シク異ル所ニアリ一ハ大企業ノ集中即チ商業ノ擴張、大規模ノ工業、航海

業ノ發達、大資本勞働組合等ニシテ他ノ一ハ企業區域ノ擴張即チ其ノ範圍ハ昔時ノ地方的ナルニ代ヘ
テ世界的ナルコト是ナリ

此ノ如キ時代ニ於テハ世界ノ諸國亦自然ニ資本金ノ原則ニ從屬ス（資本金ノ原則トハ資本金ノ大ナル
モノハ利益モ亦大ナルヲ云フ）故ニ「ソースベリ」氏ノ言ヒシ如ク大國ハ益大ニ、小國ハ益小ト爲
ル而シテ吾人ハ今後此ノ原則ノ愈適切ナルヘキヲ主張スルモノナリ

然シテ此ノ原則ハ如何ナル程度マテ明確ナルヤヲ觀察セムニハ先ツ強國ノ國勢ヲ鑑定セサルヘカラス
而シテ國勢ノ鑑定ハ實ニ地理、統計及政治ノ素因ニ由ルニ止マラス主トシテ生活狀態ヲ究メサルヘカ
ラス所謂生活狀態トハ國民素質ノ良否、其ノ活動力ノ大小、思想ノ健否等ニ從テ變化スルモノニシテ實
ニ一國實力ノ根源ヲ成スモノナリ是ニ由リ一國ハ果シテ國際上ノ生存競争ニ於テ適者トシテ生存スル
ヤ或ハ劣敗者トシテ衰頹ニ赴クカノ差別ヲ生ス

實ニ邦國ノ興亡ハ少クトモ一部ハ人生ノ生活ト同原則ニ支配セララルモノニシテ從テ生物學研究ノ材
料トシテ取扱ハルヘキモノナリ抑現代ノ動物學者ハ單ニ諸動物ノ外形ノミヲ觀察記述スルヲ以テ満足
セザルト等シク現代ノ國家學者ハ單ニ一國ノ法制形式及統計的數量ノ多少ニノミ留意スルハ不可ナリ
須ラク尙組織ノ統一及内部ノ情勢如何ニ著眼スルヲ要ス此ノ如クシテ國家ノ活動力ヲ認識スルヲ得ヘ
シ

項目	東國	西國	南國	北國
面積	1,200,000	1,500,000	1,800,000	2,000,000
人口	100,000,000	120,000,000	150,000,000	180,000,000
人口密度	83	80	83	90
自然資源	豊富	豊富	豊富	豊富
産業	農業	工業	商業	工業
交通	不便	不便	不便	不便
政治	専制	専制	専制	専制
教育	低	低	低	低
科学	未発達	未発達	未発達	未発達
外交	孤立	孤立	孤立	孤立
軍事	弱	弱	弱	弱
法	不備	不備	不備	不備
社会	落后	落后	落后	落后

東國 西國 南國 北國

予ハ本書ニ於テハ右ノ主旨ニ從テ列強ノ國勢ヲ研究セムト欲ス而シテ此ノ研究ノ爲地理、國民、社會及國家ノ各項ニ區分シテ論述セムトス而シテ事實上ニ一國ノ外交ハ必ス其ノ素因ヲ上述ノ四箇ノ諸件ヨリ發スルモノトス然リ而シテ外交ハ國民ノ輿論、諸外國人ノ意向、感情、爲政者ノ能力(情況ノ判斷力、時機利用ノ巧拙)ニ依リテ大ナル運庭ヲ生スルモノナリ

果シテ斯ノ如クナルトキハ外交ハ科學ノ境界ヲ脱シ政略技能ノ範圍ニ屬スルニ至ル而シテ政略ハ國家ノ自由意志ニ依リ遂行スルヲ當然トスルモ四國ノ關係上過度ニ常規ヲ逸スルヲ得サルヘキ制限ハ自ラ發生スヘキモノナリ

吾人ハ今列強以外ノ立脚點ニ立チテ冷靜且公平ニ此等諸國ノ特長及缺陷ヲ達觀セムトスルモノナルモ元來一國ノ特長ト缺陷トハ或ハ産業上ニ或ハ商業上ニ或ハ軍事上ニ或ハ人民増殖止ニ或ハ國法上ニ若ハ社會ノ構成上等ニ發現シ從テ千狀萬態ナリ是ヲ以テ徒ニ微ニ入り細ヲ穿テ論述スルハ紙面ノ關係上許サナル所ナルヲ以テ最主眼トスル點ヲ達觀シ以テ現時ノ趨勢ト治亂興亡ノ原因ヲ論述セムトス

國勢統計表

要 摘	日 本 國	露 國	米 國	英 國	獨 逸 國	佛 國	伊 國	埃 國	種 目
内弧括スト位單ヲ米吉方平萬百一 リナ國本ハ 地民植	0.67 ($\frac{0.29}{0.38}$)	2.23 ($\frac{4.9}{17.4}$)	9.7 ($\frac{7.35}{1.85}$)	33.4 ($\frac{0.3}{33}$)	3.2 ($\frac{0.54}{2.66}$)	8.5 ($\frac{0.54}{7.9}$)	1.9 ($\frac{0.29}{1.6}$)	0.68	積 面 總
上同 内弧括スト位單ヲ人萬百一 ス示ヲ分ノ期初年四十百九千	73 ($\frac{53.7}{19.3}$)	179 ($\frac{128}{51}$)	108 ($\frac{98}{10}$)	438 ($\frac{47}{391}$)	81 ($\frac{67.8}{13}$)	88 ($\frac{39.7}{48.5}$)	37 ($\frac{35.3}{1.4}$)	52.7	口 人 總
平ル至ニ年一十同リヨ年二百九千 數均	750,000	2,335,000	1,800,000	375,000	850,000	64,000	220,000	420,000	口人ノ間年一 數 加 増
千シ示テ以ヲ比分千テシニ數產出 數均平ノ間年五後以年六百九		$\frac{45}{29}$		$\frac{25}{15}$	$\frac{31.6}{17.5}$	$\frac{19.9}{19.2}$	$\frac{32.4}{21}$	$\frac{35}{23.5}$	數殖増然自
後以年六百九千スト位單テ以テ 數均平ノ間年五	30,000(?)	95,000	1,000,000	330,000	26,500		400,000	265,000	數民住移外海
ノ年一十百九千シト位單ヲ米吉一 ス示ヲノモ	9,000	61,000	400,000	38,000	62,000	50,000	17,000	45,000	數長延道鐵
位單ヲ克馬億十テシニ額易貿種特 スト出輸シト	2 ($\frac{0.95}{1}$)	5 ($\frac{2.9}{2}$)	14.5 ($\frac{8}{6.5}$)	23 ($\frac{9}{13.8}$)	17.1 ($\frac{7.8}{9.3}$)	9.4 ($\frac{4.3}{5.1}$)	4.35 ($\frac{1.7}{2.65}$)	4.5 ($\frac{2}{2.5}$)	額 易 貿
ノ年一十百九千シト位單ヲ噸萬百 ス示ヲ船帆及船汽	3.25	1.2	7.45	39	9.5	3.93	2.8	1.8	數噸總船商
滿未歲十二齡艦月一年四十百九千 計總ノ艦鐵甲及艦戰ノ	400,000	175,000	700,000	1,640,000	730,000	500,000	240,000	175,000	數噸總艦軍
	600,000(?)	1,400,000	210,000	255,000	790,000	600,000	300,000	425,000	數 兵 總
スト 算豫軍陸 算豫軍海 シト位單ヲ克馬一 ス示ヲ分ノ度年三十百九千	75 ($\frac{3.75}{3.75}$)	11 ($\frac{8}{3.1}$)	10.4 ($\frac{4.3}{6.1}$)	33 ($\frac{12.5}{20.5}$)	22 ($\frac{15}{7}$)	30 ($\frac{19.3}{10.1}$)	15.3 ($\frac{9.5}{5.8}$)	12 ($\frac{8.7}{3}$)	額出支費事軍 割 人 一
スト位單ヲ克馬億十	5	19.2	12.3	13.5	21	26.1	12	16	額 債 國
スト位單ヲ克馬一	98	144	125	293	325	665	345	312	額 債 國 割 人 一

備考

- 一 特ニ示セルモノノ外ハ本國ノミノ數ヲ示ス
- 二 英國ノ總面積及總人口ニハ埃及ヲ算入セス
- 三 露國ノ面積中ニハ芬蘭、波蘭及全高加索地方ヲ除ク
- 四 日本國ノ本國中ニハ北海道ヲ算入セス

第一章 埃匈國

第一款 國史梗概

古代ノ羅馬
帝國トノ關
係

埃匈國ノ始祖ハ實ニ羅馬帝國ニ發シ伊太利半島ヨリ引退シタル以後未タ僅ニ五十年ニ過キス（埃匈國ハ古來ノ傳説上該半島ノ領有ヲ主張ス）

紀元八百年ノ頃「カルル」大帝ニ依リテ再興セル舊羅馬ノ帝威ハ遂ニ九百六十二年ニ至リ獨逸ノ地ヲモ併セ有スルニ至レリ而シテ皇帝ハ即チ基督教ノ元首トシテ總テノ王侯ノ上位ニ立チシカ其ノ帝國タルヤ全然彼ノ舊式ナル特殊國家ノ典型ニ屬スルモノナリ近世ノ當初ニ於テハ「ハブスブルグ」家ノ大帝國ハ世界上特異ノ首長權ヲ保有スルモノナリトノ觀念ヲ有シアリタルモ遂ニ瑞典王「グスタフ、アドルフ」ノ武威ト「リシエリウ」（千五百八十五年ニ佛國ノ外相トナリタル人）ノ外交ノ爲一頓挫ヲ來タシ其ノ後漸次衰微ヲ招キ彼ノ佛國革命（千八百六年）沒落ノ影響ヲ蒙リ多大ノ打撃ヲ受ケタリ然リト雖該國ハ神聖羅馬帝國ナル名稱ノ下ニ次第二國基ヲ堅牢ニシ舊式帝國ヲ繼續シ假令從來ノ傳説的使命即チ伊太利半島ノ領有ノ如キハ之ヲ繼承スルコトヲ得サリシト雖皇帝ノ稱號ヲ新時代ニ迄傳フルコトヲ得タリ而シテ該國ノ地理上中心タル處ハ「ドナウ」河ト「マルヒ」河ノ合流點ニ沿ヘル「ヴキーン」ノ平地ナリ「カルル」大帝及「オットー」大帝ハ共ニ此ノ地ニ於テ「アプアル」人及「マギア

六
埃國ノ起源
ル」人ニ對抗スヘキ「マルク」即チ軍事境界ヲ作レリ第十世紀ノ末期ニ於テ始テ東帝國即チ埃國ナル名
稱起レリ其ノ後封建諸侯ノ統一ニ依リ埃國ハ發展ヲ遂ケ「マギアル」人ハ「タイス」河ニ沿フ地域ニ
居ヲ定メタリ

土耳其物興
ニ對抗セル
埃國
埃國國聯盟
ノ發端
然ルニ千五百二十六年新ニ土耳其物興シ其ノ危險ニ備フルノ必要上遂ニ埃國及匈國ハ合同シ一箇ノ
「マルク」ヲ形成セリ蓋シ「マルク」トハ一國家ニモアラス唯一境界内ニ含マルル境土ノ謂ナリ即チ埃
國及匈國ハ外寇ニ對シテハ一團トナリシモ内部ニ於テハ未タ密接ナル連絡ヲ有セザリキ降テ千八百八
十年代ニ至リ埃國ハ始テ軍事境界ヲ土耳其ニ對シテ撤スルコトヲ得タリ而シテ埃國ハ全歐洲ノ文
化ヲ東方ノ危險ナル敵即チ土耳其ニ對シテ防衛スルノ目的ヲ以テ建設セラレタルモノニシテ此ノ性質
ハ爾後永ク保有セラレタリ史上國家建立上斯ノ如キ明確ナル政略上ノ使命ヲ有スル事實ハ實ニ稀有ノ
コトニ屬ス

埃國ノ君主ハ羅馬帝國ノ帝位ヲ繼承スル間ニ於テ一面ニハ東方ニ對シテ防備ヲ集中スルノ必要ヲ生シ
又他面ニハ歐洲ニ於ケル活舞臺ニ參加シ成シ得ヘクムハ傳說的國是ニ從ヒ優越權ヲモ獲得スルヲ要セ
リ

獨逸帝國ト
ノ關係
尙第十九世ノ前半期(即チ「メツタルニヒ」ノ時代)ニ於テハ歐洲ニ覇權ヲ振フ目的ニ向テ注意ヲ傾注
シ獨逸同盟ヲ形成セリ然ルニ千八百六十六年獨逸帝國ト政治上全然分離ヲ來タシ同時ニ獨、埃兩國相

互間ノ紛糾ヲ解決シ爾後埃國ハ獨立獨歩シテ同國本來ノ國是ニ從テ活動スルコトナレリ

露國ノ勃興
ト埃國
然ルニ此ノ國是モ現時ハ其ノ指向方面ヲ變換スルニ至レリ即チ土耳其膨脹上ノ能力ハ既ニ久シク挫折
シ爲ニ歐洲ノ文明ハ爾後「バルカン」半島方向ヨリ脅威ヲ受ケサルニ至レルモ其ノ代リトシテ直接東
境ナル「スラブ」人ノ強國ヨリ一層大ナル危險ヲ感スルニ至レリ埃國ハ此ノ危險ニ對シテ今ヤ中歐
諸國ヲ掩護セサルヘカラス千八百七十九年以降獨逸トノ同盟ニ依リ國際上益其ノ對露政策ハ意義ヲ重
大ニシ埃國ノ現時ノ重要ナル政局タルニ至レリ歐洲ノ文化ヲ低級ナル露國ノ侵入ニ對シテ防衛シ其
ノ共通ノ利益ヲ保護スルカ爲メ埃國ノ存立ハ極メテ重要ナルモノトナレリ

第二款 地理

埃國ノ歷史的使命ハ歐洲東方諸國ト西方諸國トノ緩衝ノ局ニ立ツニ在リシカ最近ニ於テ西方諸國
(埃國ヲ含ム)ノ領土漸ク東方ニ伸フルノ結果埃國ノ任務ハ一層適切明確トナレリ

埃國ノ影響
ト不利
斯クテ第十八世紀ニ於テハ「シユレジエン」代價トシテ「ガリチエン」及「ブヨヰイナ」ヲ併セ又第十九
世紀ノ後半期ニ於テハ「ヴエネチエン」ノ損失ヲ補フ爲「ボスニヤ」「ヘルゼゴヰイナ」ヲ併合セリ此等ノ
現象ハ「スラブ」人種ノ領有スル各國家ニ對スル攻勢タリト看做スヘク又之ニ伴フ不利トシテハ自國內
ニ於ケル獨逸人ノ勢力ヲ犠牲トシテ「スラブ」人種性狀ノ分子ヲ増大セシムルノ惡結果ヲ生シタリ
然ルニ尙又他面ニ於テ此ノ轉位ハ地理上ノ集中ヲ來タサシメ「ドナウ」帝國トシテノ國家的性質ヲ一層

「ドナウ」河
ノ價值

明確ナラシメタリシナリ實ニ「ドナウ」河ハ全國ヲ貫流シ東方及南方諸國ヘノ通路ヲ開キ國內ノ連絡ヲ利便ニシ其ノ結果内部統一ノ素因ヲ與フルコト尠ナラサルナリ

奧匈國ノ大
陸的性質

奧匈國ハ「アドリヤチック」海ニ僅少ナル海岸面ヲ有スルノミナルヲ以テ世界ノ海洋トノ接觸微少ナリ從テ列強中最大陸的ニシテ海上權及航海業等ハ列強ノ末班ニ位ス又列強中植民地ヲ領有セサルハ奧匈國ノミナルモ特異ノ現象ナリ是國ノ位置及歴史關係上常ニ地方問題ノミニ没頭スルノ結果ナリト謂ハサルヘカラス

奧匈國經濟
界ノ特徵

又奧匈國ハ其ノ位置東洋諸國ニ近キヲ以テ海洋ヘノ通路ニシテ良好ナラムカ商業ノ發展上頗ル好都合ナリシナラムト察ス而シテ若海外貿易ニシテ盛大ナルトキハ國勢上多大ノ利益ヲ得タルナラム同國ノ經濟界ハ二箇ノ相反スル形體ヲ有ス即チ一面東洋諸國ニ對シテハ工業國トシテ他面西歐諸國ニ對シテハ農業國トシテ立ツコト是ナリ其ノ商業上ノ連絡ハ從來ノ文化的傳説ニ依リ多ク西歐諸國トノ間ニ結ハレアルモ市場ニ於テハ實際獨國ハ優勢ヲ占メ居レリ又產業ハ國內ニ於テ幸ニモ「ベーメン」地方ノ工業、匈牙利ノ農業等ハ相互ノ間ニ適當ニ調和ヲ保チツツアリ然レトモ其ノ生産法ハ西歐諸邦ニ比シテ原始的ナリ奧匈國ハ全般ノ生産界ノ狀態ヨリ見ルトキハ稍經濟上ノ自給自足ニ近キモ其ノ反面ニ於テハ其ノ影響ヲ受ケテ國勢發展ノ慾望ニ乏シク列強中唯此ノ國ノミ國外ニ植民地ヲ有セサルカ如キ退嬰情勢ニ陥リ其ノ商業ノ及フ範圍モ亦比較的僅少ナリ

經濟上ノ自
給自足ト其
ノ影響

國境ノ不自
然

奧匈國ノ周邊ヲ觀察セムニ同國ノ總テノ河流ハ皆國境ニ依リテ切斷セラルル例ヘハ「ドナウ」河ハ上流ハ「バツサツ」ニ於テ下流ハ所謂鐵門(Das Eisene Thor)ニ於テ切斷セラレアルカ如シ從テ國境ニ沿フ多クノ地方ハ他國內ニ流通セル河川系ニ屬ス
「ガリチエシ」ハ「ワイクセル」河及「ドニーステル」河ノ流域、「プロヴイナ」ハ「ブルト」河及「セレート」河ノ流域、「ジューペンビュルゲン」ノ一部ハ「アルト」河ノ流域、「チロール」ハ「エツチユ」河及「イシ」河ノ流域、「ベーメン」ハ「エルベ」河ノ流域、「シユレヂエシ」ハ「オーデル」河ノ流域ニ屬ス又上述ノ如ク露國、獨國、伊國等ノ諸強國ニ流ルル諸河ノ源泉ハ奧匈國ニ發スルモノ多シ同國ノ西北ニハ「ベーメン」ノ連山地アリテ諸川ノ國外ニ走ラムトスルヲ支ヘ又東南ニ於テハ「トランシルバニヤ、アルペン」アリ然レトモ東方ニ於ケル國境線ハ地勢上不自然ニシテ「ガリチエシ」ノ如キハ「カルバーテン」山脈ノ外側ニ位置シテ露國ノ平野ト相連リ恰モ帝國ノ脊ニ包ヲ有スルカ如ク又「チロール」ノ伊國ニ接スル國境線ノ如キハ最不自然ナリ即チ「エツチユ」河畔ニ沿フ伊太利民族ノ發展スヘキ通路ヲ國境線ニ依リ切斷ス又「アドリヤチック」海沿岸ニ於ケル伊國トノ國境ノ如キモ自然ノ根據ナシ其ノ他直接南方ニテハ「セルビヤ」ノ「マラヴア」平地ハ「ドナウ」河ニ接ス國境ノ情況斯ノ如クナルヲ以テ奧匈國ハ常ニ國境ニ注目シアルノ必要ヲ生ス
是ニ由テ之ヲ觀ルニ奧匈國ノ國境線ノ位置ハ頗ル不自然ナルヲ確認シ得ヘシ是海岸線ノ僅少ナルト共

ニ該國ノ弱點ナリ

第三款 國民

人種ノ雜多

右ニ述ヘタルカ如キ不自然ナル國境線ハ現實ニ國民ニ影響シ多數河川ノ流域ニハ各別種ノ人種住居シ爲ニ國內ニ多數ノ人種ヲ有ス此ノ如キハ他國ニ於テ見ルヘカラサル現象ナリ今左ニ其ノ主ナルモノヲ

掲ケム

埃匈國內ノ人種分布

甲 「ガリチエン」及「プロヴイナ」ニハ五百萬ノ波蘭人及四百萬ノ「ルターネ」人（小露西亞人種）

乙 「プロヴイナ」及「ジューベンピュルゲン」ニハ三百二十五萬ノ「ルーマニア」人

丙 「バルカン」半島ニ通スル南方ノ國境ニ沿ヒ五百五十萬ノ「セルビヤ」民族

丁 沿海地方及「チロール」ニハ八十萬ノ伊太利人

戊 西方國境線ノ全部ニ住スルモノ及國內全國ニ散在スル千二百萬ノ獨逸人

歐洲的人種ヲ大別スレハ「ゲルマン」種族、「ローマ」種族、「スラブ」種族ナルモ其ノ中間ニ位スル雜多ノ人種アリ其ノ他又國內ニハ別ニ三箇ノ人種アリ即チ中央ニ一千萬ノ「マギアル」人種、同人種ノ住スル地域ノ西方ニ於テ八百五十萬ノ「チエヘン」人、西南地方ニ百三十萬餘ノ「スロヴエネン」人等是ナリ

同國ノ大缺點

以上ノ諸人種ヲ大別スレハ即チ九箇ノ獨立セル民族アリ其ノ他ニ尙八種ノ小民族アリ本來米國及露

各人種ノ性情ト勢力

國ノ如キモ雜多ノ人種ヨリ成レリト雖中心民族アリテ之ヲ統率ス埃匈國ニ於テハ確然タル中心民族ヲ缺ク即チ獨逸人種ハ文化ニ於テ優レルモ獨逸人ニ比シテ獨立獨歩ノ性情ヲ缺キ尙全人口ノ四分ノ一ニ過キス「マギアル」人ハ中心地區ニ存在シ或ル別箇ノ特性ヲ有スル民族ナルモ文化ノ程度低ク且人口不十分ナリ「スラブ」人種ハ數ニ於テハ優レルモ（殆ト全人口ノ半數ニ及フ）其ノ素質粗惡ニシテ且多數ノ小派ニ分離シテ全國ニ散在ス更ニ言フトキハ埃匈國數多民族ニハ米國ニ於ケル「アングロサクソン」民族、露國ニ於ケル大露西亞民族ノ如キ核心民族ノ存在セサルヲ缺點トス

前ニ述ヘタルカ如ク埃匈國ハ諸河流通ノ關係ハ人種分布上ニ多大ノ影響ヲ及ホシアルモトハ留意スベキ所ナリ而シテ今該國ノ人種分布ノ情況ヲ大觀スルニ伊太利人、獨逸人、「マギアル」人、「ルーマニア」人ノ如キ西方國人種ノ一連ノ帶ハ中央ヲ橫斷シ其ノ帶ノ兩側即チ南北ニ「スラブ」人種散在ス而シテ北方ニ在ルモノハ「ルターネ」人、波蘭人、「チエヘン」人等ニシテ南方ニ在ルモノハ「セルビヤ」人、「スロヴエネン」人等ナリ

故ニ埃匈國ハ露國ヨリ西歐ニ延長セムトスルニ箇ノ「スラブ」人種ノ脈ヲ切斷シテ之ヲ自國ノ主權ノ下ニ置ケルモノナルカ故ニ自然ノ結果トシテ埃匈國ニハ確乎不動統一セル國民精神ヲ具有セ

埃匈國ノ國
勢ハ時代錯
誤ナリ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ埃匈國ノ國勢ハ時代錯誤ナリ時勢後レナリ即チ現代世界ノ趨勢ハ各國皆民族主義
ニ傾キ成ルヘク同一民族ヲ以テ國家ヲ建設セムトスルヲ理想トスルニモ拘ラス該國ハ雜多ナル人種ヨ
リ成立セルハ恰モ動物界ニ於テモ未タ第三紀ノ古代動物ノ若干ヲ今尙殘存スルカ如ク實ニ中古大國主
義ノ殘物ナリ

同一民族ヲ以テ國家ヲ建設セムトスル原則一度民族間ニ萌スヤ各民族ハ各其ノ權利ヲ要求ス今ヤ埃匈
國ノ内部ハ益民族主義ノ思潮ニ傾キ各民族ハ各獨立セムトノ希望ヲ有シ從テ國內ノ不統一ヲ來タシ國
力次第ニ弱マラムトス

第四款 民族間ノ軋轢

土耳其ノ衰微ヲ呈シテ「バルカン」半島上ノ諸小邦ヲ現出スルニ至ラシメタル原因ハ初メ國內ニ雜然
タル人種ヲ包含シテ統一不可能ナリシニ在リ最近五十年ニ於ケル埃匈國內ノ現象ハ稍土耳其ノ轍ヲ踏
マムトシツツアルノ傾向アリ

國外ニ於ケ
ル異人種ト
ノ關係

即チ國內ノ「ルーマニヤ」人、「セルビヤ」人、「モンテネグロ」人、伊太利人、獨逸人等ハ國外ノ同一
人種ト相照應シ之ト氣脈ヲ通シツツアリ但シ「ガリシヤ」ノ民族ハ埃匈國ヨリ離レテ一層望マシカラサ
ル露國ノ支配下ニ入ルハ好ム所ニアラス又波蘭人、「ルターネ」人等モ從來ハ露國ノ主權下ニ入ルヲ希望
セス

然リ而シテ從來最騷擾ヲ極メシハ「ルーマニヤ」人及「セルビヤ」人等ニシテ特ニ千九百十二年乃至
千九百十三年ノ「バルカン」戰爭以後各其ノ本國ノ威力ノ増大スルヤ其ノ傾向益顯著タルニ至レリ埃
匈國ノ外交ノ主要問題ハ對「セルビヤ」關係ナルモ對伊太利人ノ問題モ亦重要ノ程度大ナリ埃匈國ノ唯
一ノ主要ナル港灣「トリエヌト」ノ領有上伊太利問題ハ實ニ忽諸ニ附スヘカラサルナリ本問題ハ千八
百八十二年獨、埃、伊ノ三國同盟成立後多少緩和セラレアリ

埃匈國トノ關
係

又獨國ノ關係モ從來頗ル紛糾錯雜シ獨逸ハ初メ聯邦組織ノ際中央權力ヲ普魯西ニ集メテ南獨逸ノ勢力
ヲ小ナラシムル爲埃匈國ヲ聯邦中ニ入ルルヲ好マス又埃匈人中ニハ極端ナル全獨主義ナキニアラサルモ
多クノ者ハ縱令七種ノ人種ヲ統御スルノ困難ヲ嘗ムルモ「ホーヘンツォルレルン」家ノ支配下ニ入ルヨ
リハ優レリトノ思想ヲ抱キツツアリ現時ニ於テハ民族主義ノ主張モ單ニ獨國ト外交上ノ同盟ヲ締結ス
ルノミヲ以テ満足シツツ在ルノ状態ナリ

國內ニ於ケ
ル各人種軋
轢ノ現況

又同國內ノ永年ノ難問ハ獨逸人ト「チエツヘン」人間ノ軋轢ニシテ「チエツヘン」人ハ獨逸人トノ同
權ヲ主張シ屢（千八百四十八年、千八百六十七年及千九百一年）汎「スラブ」主義感情ヲ發露シタリ
而シテ獨逸人ハ國內ノ言語ヲ獨逸語ニ統一スヘキヲ要求セルニ反シ「チエツヘン」人ハ自國語ヲモ併
用スルコトヲ主張セリ國會ニ於テハ三十年以來「チエツヘン」人ノ方獨逸人ヨリ多數ノ議員ヲ有スル
ニ至リ有力ナル形勢ヲ示シツツアリ

「ガリチエン」ニ於ケル波蘭人ト「ルターネ」人間ノ軋轢モ亦激烈ヲ極メ居レリ而シテ波蘭人ハ上級ノ位置ニ位シ議會ニ於テ少數ノ議員ヲ有スルニ願慮セズ意ニ任セテ支配權ヲ振ヒツツアルモ「ルターネ」人ハ自己ノ住スル境域内ニ於ケル自治ヲ渴望シ全然波蘭人ト同權ナルヘキヲ主張シツツアリ

第三ノ大軋轢ハ匈牙利ニ於ケル「マギアル」人ト「クロアチヤ」人間ニ於テ行ハル而シテ「クロアチヤ」人ハ千八百六十八年自治權ヲ擴大セラレタルモ尙埃匈國側ノ「ダルマチエン」ヲモ聯邦ノ形式ニ於テ併合シ全然獨立セムコトヲ希望シツツアリ其ノ他又「ルーマニヤ」人及「スロヴァケン」人「チエツヘン」人ノ一派等ハ激シク「マギアル」人ノ壓迫ニ對抗シアリ

「ケルンテン」「スタイエマルク」地方ニ於テハ獨逸人ト「スロヴエネン」人間ニ、又「チロール」ニ於テハ獨逸人ト「マギアル」人ハ共ニ埃匈國ノ主腦人種ニシテ「スラブ」人種ノ壓迫ニ依リ辛フシテ兩者ハ合同シツツアルモ兩者ノ間ニ於ケル競爭ト紛擾ハ絶ユルトキナシ埃匈國ハ舊式國家トシテ其ノ成立カ民族主義ニ立脚スヘキ近代思想ニ反スルノ結果トシテ實ニ上述ノ如ク多大ノ不利ヲ來タシアリ

國內ノ不調和ヲ察スル傾向アル子

埃匈國內部ノ不調和ヲ察スル分子ナキニアラス即チ社會民主黨ノ如キハ其ノ性質上世界的ナルカ爲能ク異民族間ノ軋轢ヲ緩和シツツアルハ此ノ國特有ノ現象ナリ又匈牙利ト「ガリチエン」間ハ農業上ノ

利益ノ一致點アリテ兩地方ノ農民間ニハ多少情意投合ノ傾向アリ其ノ他總人口ノ約三分ノ二ハ羅馬「カトリック」教徒ニシテ精神上相互融和セリ殊ニ希臘「カトリック」教徒タル國外ノ「セルビヤ」人カ帝國内ノ「クロアチヤ」人ト相接近セムトスルヲ防止スルモノハ羅馬「カトリック」教ノ賜ナリ然ルニ「ルターネ」人ト波蘭人トハ各異ノ宗旨ナル關係上情意ノ疏通圓滑ナラス又埃匈國內ノ一部ニハ激烈ナル排匈牙利思想ヲ抱藏スル者アリテ一層帝國内ノ紛糾ヲ増大ス

第五款 國家

民族主義ナルモノハ政治上自由ノ保證トシテ代議制ノ政體ナル新現象ヲ産出シタル第十九世紀ノ一新現象ナリ

民族主義ハ第十九世紀ノ新現象ナリ

然リ而シテ一國家カ同一民族ヨリ成立スルトキニ於テハ代議制ハ最適當スルモノニシテ人民協同ノ責任ヲ益深カラシムルモノナリ之ニ反シ一國家内ニ各異ノ民族分子ヲ有スルトキハ却テ政争ノ機會ヲ繁カラシメテ國政ヲ滯滞セシムルノ不利アリ埃匈國ノ如キハ即チ是ナリ而シテ同國ノ王室領地内ノ政争ハ地方議會ニ於テ、帝國全體ノ政争ハ帝國議會ニ於テ演セラレ徒ニ議場ノ紛擾ヲナスハ其ノ常態ナリ而シテ其ノ甚シキニ至リテハ國家ノ存立ヲモ否定セムトスルカ如キ程度ニマテ及ヒタルコトアリ各民族混淆スル王室所領ノ地ニ於テモ地方議會ノ機敏ナルトキハ此ノ如キ情勢ナキモ獨逸人對「チエツヘン」人ノ係争ノ如キハ遂ニ議會ノ活動ヲ五箇年間(千八百九十七年—千九百二年)休止セシメタリ埃匈

代議制ノ埃匈國ニ及ボス不利

國ハ即チ斯ノ如キ混亂セル議會ヲ以テ政治ヲ行ハサルヘカラス爲ニ千九百十一年十一月ノ議會ニ於テ政府ハ遂ニ之ニ對スル處置ヲ採ルノ必要ニ達著セリ而シテ國內ノ異分子ノ調和ヲ計ルノ必要ハ一般ニ認メラレツツアル所ナルモ實際ハ支離滅裂ノ狀ヲ呈シ埃國ノ爲政家ハ國家將來ノ死活問題トシテ此ノ趨勢ヲ調和セムト努力シツツアリ

異人種間ノ政爭

千八百六十一年始テ代議政體ヲ採用セルトキニ於テハ之ニ依テ以テ全國ヲ立憲國トシテ統一セムコトヲ計リシモ「マギアル」人及「チエツヘン」人等ノ議場ニ於ケル騷擾ニ依リ其ノ目的ヲ達セス千八百六十七年ニ於テハ二重國家ノ形式ニヨリ匈牙利ノ分立ヲ生シ不統一ノ第一著歩ヲ作レリ續テ千八百七十一年「チエツヘン」人ノ自治問題ヲ生セシモ獨逸人種ノ反抗ニ會ヒテ止ミタリ尙千八百九十九年ニハ獨逸人種ト波蘭人ノ間ニ選舉問題ヲ惹起シ又千九百十二年「クロアチエ」及「ダルマチエ」及「ボスニエン」ニ於ケル南方「スラヴ」人種ノ自治問題ヲ惹起スル等民族間ノ政爭漸々タルモ今日尙二重國家ノ形體ノミハ保存シ來レリ

獨逸人種ト「マギアル」人間ノ軋豫

埃ト匈トノ爭ハ民族ノ軋豫ト云ハムヨリモ寧ロ歴史上兩國ノ競爭ト云フヲ可トス故ニ「マギアル」人ヲ獨逸人種ト同等ノ位置ニ置キシハ望外ノ好遇ナルニモ拘ラス「マギアル」人ハ常ニ政治上ノ要求ヲ放棄セス殊ニ千九百五年ヨリ十年ニ互ル間ハ埃國ノ大ナル危機ニ遭遇セリ即チ軍隊ニ於ケル號令語ノ分離問題ニ起因シ延テ殆ト兩國ノ分離ヲ見ムトスルニ至レリ加之「マギアル」人ハ議場ノ優勢ヲ占メタルノ

結果大臣ノ位置ヲモ要求スルニ至リシモ皇帝ノ盡力ト有力ナル兩國代表委員ノ會合ニ依リ漸ク分裂ヲ免レ舊形體ヲ維持スルヲ得タリ

埃國カ分由セサル理

事情右ノ如キモ相互ノ利害關係ノ一致スル所モ亦存スルカ故ニ國家ノ分離ヲ來タスカ如キコトナカルヘシ若分離セムカ埃國モ共ニ一國家トシテ獨立ヲ維持スルコト能ハサルヘク又埃國自身ヨリ見ルモ「ガリチエ」及「ダルマチエ」ノ兩地方ノ如ク特ニ他民族ノ居住セル地方内ニ分岐突入スルハ國境ノ形狀不自然ニシテ從テ匈牙利ヲ除外スルヲ得ス又匈牙利モ亦獨立スルトキハ一ノ港灣ヲモ有セサルカ如キ不利ヲ來タス當時匈牙利獨立論者ハ獨立セハ「バルカン」諸邦ト連合スヘキコトヲ胸算セリ猶埃、匈ノ兩國ハ一ハ工業、他ハ農業ヲ以テ互ニ相補フノ必要アルト共ニ又同シク露國ノ壓迫下ニ立テラルヲ以テ縱令匈牙利其ノ野心ヲ逞フセムトスルモ同國カ憲法上自由ヲ保有スル間ハ國家ノ分裂ヲ來タスカ如キコトナカルヘシ

實ニ埃國內ノ政治上ノ紛爭ハ複雜ニシテ爲政家ハ選舉法ノ改正其ノ他ノ手段ヲ盡シ國體ヲ維持ニ努メ老帝「フランツヨゼフ」モ大ニ國內ノ統一ト平和トヲ圖レルモ依然二十八箇ノ政黨政派ノ政爭ハ益激烈ニ赴キツツアリ

「マギアル」人ノ政治能カ

「ライタ」河(埃、匈ノ境ニ在ル「ドナウ」河ノ一支流)ノ南方地方ハ「マギアル」人優勢ニシテ他ノ民族ノ影響ヲ受ケス能ク其ノ政界ハ平靜ヲ保持シ彼等ノ政治的素質ヲ備フルコトヲ立證スルモ選舉權ヲ

有スル者ハ匈牙利ノ全人口ノ六「プロセント」ニ過キス從テ選舉法改正ノ問題存スルモ未タ解決セラ
ルルニ至ラス

埃匈國ニ於ケル分離若ハ政争問題ノ囂々タル間ニ於テ能ク連鎖ノ功ヲ爲スモノニアリ行政及帝位是ナ
リ埃匈國ニ於ケル行政ハ古昔ニ比シテ一層ノ複雑ヲ見ルモ兩國ヲ緩徐ニ同一歩調ニ進マシム

又帝位ハ自然國民ヲシテ昔時ノ權威ヲ追想セシム故ニ皇帝ノ實權ハ憲法ニ制定シアル形式以上ニ有力
ナリ實ニ國內ノ亂脈ヲ調和シ國家ノ分裂ヲ防クハ皇帝ノ力ナリ

第六款 對外政策

國內ニ各種ノ反對分子ノ存セサル國家ハ一モアルコトナシ然レトモ是敢テ其ノ國ノ不幸ニアラス却テ
其ノ刺戟ニ依リ國力ノ増大ヲ來タスモノナリ英國ノ愛蘭人、獨國ノ波蘭人、「エルサス」及「シユレ
スウイヒ」ノ如キ然リトス然リト雖埃匈國ノ如キハ全國ヲ舉ケテ英國ニ於ケル愛蘭ノ如キ情態ナルヲ
以テ國內ノ紛糾擾亂絶ユルコトナク國基ノ維持ヲ全フシ國家ノ生存ヲ繼續セムカ爲爲政者ニ對シ至難
ノ問題ヲ提供シツツアリ是ニ於テカ埃匈國ハ國內ノ問題ニ醒醒トシテ遂ニ國外ニ驥足ヲ伸ハスコト能
ハサルナリ

是ヲ以テ埃匈國ハ強國トシテノ發展ヲ永久ニ續ケムコト不可能ナルハ自ラ明ニシテ徒步競争ニ於テ跛
者カ勝利ヲ得ルコト能ハサルト同理ナリ而シテ該國內ノ各民族ノ競争ハ直接國家ノ生存ヲ危フスルニ

國內ニ反對
分子アルハ
不可ナラス
埃匈國ノ國
勢不振ノ主
因

ハアラザルモ其ノ影響ノ及フ所決シテ渺カラス特ニ國力ノ源泉ヲ脆弱ナラシメ且國家トシテ行動ノ自
由ヲ羈束セラル即チ知ル埃匈國ノ弱點ハ當ニ海岸線ノ僅少ナルト海軍力ノ微弱ナルノミナラス實ニ國
家内部ノ構成不堅確ナル點ニ存スルヲ而シテ海岸線ノ僅少ナルト海軍力ノ微弱ナルトハ同國ノ世界政
策ノ退嬰的ナル原因ナリ

伯林會議ノ結果埃匈國ニ「ボスニエン」ノ管理ヲ委任セラレタル以來遂ニハ「マセドニエン」ヲモ該
國ノ利益圈區ト看做スノ習慣ヲ生セリ（「サロニカ」ヲモ之ニ含マセテ）換言スレバ埃匈國ハ他日此ノ
地方ヲ領有スヘキヲ豫想シ手ヲ伊太利半島ニ出タスヲ止メテ「バルカン」半島ニ膨脹方面ヲ移轉シタル
モノト看做サレタリ殊ニ伯林會議ニ於テ埃匈國ハ「セルビヤ」ト「モンテネグロ」ノ間隙地ナル「ノ
ビバーサル」ヲ軍事的ニ占領シ之ト交通連結スルノ權利ヲ容認セラレタルヲ以テ益該國ノ「バルカン」
方面發展ヲ豫測セシムルノ素因ヲ作レリ

然レトモ「ボスニエン」、「ヘルゼゴヰイナ」ヲ貫通スル鐵道ハ狹軌ニ建設セラレタリ而シテ千九百八
年皇帝カ此ノ地方ヲ合併スルト同時ニ「ノビバーサル」ヨリ守備隊ヲ撤退セシカ千九百十二年乃至十
三年ノ「バルカン」ノ危機ニ際シテハ埃匈國ハ靜止觀望シテ遂ニ「マセドニエン」ノ全部カ「バルカ
ン」小邦ニ分配セラルルモ依然其ノ態度ヲ變ヘサリシカ如キハ該國ノ退嬰主義カ一層其ノ程度ヲ加ヘ
タルヲ思ハシメタルト同時ニ唯一ノ發展方面ナル「サロニカ」ニ通スル通路ヲ將來ノ爲ニ保留スルノ

埃匈國ノ退
嬰政策

好機ヲ逸シタリ此ノ如キハ塊匈國カ内ニ強國ノ要素タルカノ自覺ト發展ノ慾望トヲ感セサリシ確實ナル證左ナリ

露國ト「バルカン」中島

若夫レ該國ニシテ眞ニ「マセドニエン」領有ノ意圖ヲ有シタラムニハ國力ノ發展ヲ外部ニ用ウルヲ要セシナラムニ塊匈國ノ「バルカン」政策ハ事實純粹ナル守勢ニ陥リ唯「セルビヤ」ニ對スル危險ニノミ留意セリ而シテ塊匈國ハ「アルバニエン」ヲ特種國トシテ「セルビヤ」ト「アドリアチック」海ノ中間ニ挿入シテ以テ自國ノ自由ナル航路ヲ掩護セリ然レトモ「セルビヤ」カ其ノ親善國タル「モンテネグロ」トノ間ニ陸上ノ連絡ヲ遂ケムトスルヲ妨クル能ハスシテ兩國ハ連盟シ此ノ連盟ニ依リ三百二十萬ノ人口ハ五百萬トナリ延テハ塊匈國內ニ於ケル「セルビヤ」人等ニ多大ナル牽引力ヲ及ホセリ而シテ「バルカン」諸邦カ次第ニ其ノ力ヲ増大セシハ塊匈國等ノ私カニ快シトセサル所ナリシモ實際其ノ背後ニハ露國アリテ陰ニ「バルカン」諸邦ヲ使喚シ「セルビヤ」ヲシテ南方ヨリ手ヲ塊匈國內ニ伸ハサシメムトシ露國自身ハ直接「ガリチエン」ニ向テ壓迫シタリ是ヲ以テ塊匈國對「セルビヤ」ノ問題ハ世界史上ノ範圍ニマテ擴大セリ

是實ニ塊匈國カ歷史上「スラブ」主義ニ對抗セサルヲ得サル特異ノ使命ニ到來セルモノト謂フヲ得ヘク而シテ二箇ノ大國カ千八百九十七年ノ協商後爾來千九百八年ニ亘ル迄「バルカン」半島上ノ平和ノ保證トシテ相對峙セシモ今ヤ遂ニ其ノ假面ヲ剝キ相爭フニ至レリ

獨逸同盟ハ兩國ノ生存上離ルヘカナラサルモノナリ

此ノ急務ニ遭ヒ塊匈國ノ倚賴セル所ノモノハ獨逸トノ忠實ナル同盟關係ナリ五十年以上ニ亘リ兩國ノ同盟ハ外間トノ競争ノ激シキニ從ヒ其ノ基礎ヲ堅メ殊ニ輓近ニ於ケル經驗ニ依リ兩國ノ連結益確實トナレリ而シテ獨逸ノ近東政策上塊匈國ハ缺クヘカラサル國タルト共ニ又塊匈國ノ存否ハ全歐ノ利害特ニ獨逸ノ利害ニ影響ヲ及ホスコト甚大ナリ是ニ於テカ獨逸ト塊匈國間ノ同盟ハ同盟以上ノ價值ヲ生シ兩國生存ノ運命ニ關シ離ルヘカラサルモノトナレリ

伊國トノ關係ハ曖昧ナリ

之ニ反シ伊國トノ同盟關係ハ其ノ色彩頗ル明瞭ヲ缺キ殊ニ「バルカン」半島上ノ競争ト塊匈國內ノ伊國分子トノ紛糾ノ結果兩國ハ敵トモナリ或ハ又味方トモナリ得ルノ情況ニアリ（千九百二年伊國ノ首相「グイカルヂニ」氏ノ言明）而シテ伊國ハ「トリポリ」領有以後佛國トハ一種ノ難關係ヲ生シ從テ三國同盟ハ一層鞏固ヲ加ヘ且伊國ハ塊匈國ニ對シ障屏タルノ實ヲ生セリト一般ニ思考セラレタ

塊匈國ノ將來

塊匈國ノ愛國者ハ他日國內統一シテ異分子ハ互ニ忍ビ難キヲ忍ビテ歩調ヲ共ニスルノ時機來ルヘシトノ望ヲ有スルモ果シテ此ノ如キ時機ノ到來スルヤ否ヤハ疑問ナリ吾人ハ將來同國カ國家トシテ生存ヲ續ケ得ルヤ否ヤヲ敢テ論セサルヘシ又「ブラスコフツビ」氏ノ言ヘルカ如ク汎「スラブ」主義ト汎獨主義ノ中間ノ門或ハ近東諸國ノ鍵鑰トナルヤ否ヤハ別問題ナリ然レトモ最近唱道セラルル如ク舊式帝國タルコトヲ止メ塊、匈、「ガリシヤ」及南部「スラブ」地方等ヲ新ナル方式ニ依リ統一セムニハ該

國ノ將來ハ恐ラク面目ヲ改ムルニ至ラムカ

第二章 伊 國

第一款 國史梗概

前ニハ歐洲現代ノ強國中最古ノ埃國ニ就テ觀察ヲ遂ケタリ今ヤ轉シテ最新ノ伊國ニ及ハムトス然レトモ伊國民ノ祖先ト傳説トヲ考察スルトキハ伊國ハ列強中ノ最古ノ國ニシテ彼ノ威風赫々タリシ羅馬帝國ニ其ノ源ヲ發シタルヲ知り得ヘク而モ伊ト埃トハ共ニ事實上共同ノ古キ歴史ヲ有シ兩國ハ中世紀ニ於テハ久シク再起セル皇位ノ名ノ下ニ合シテ大帝國ヲ形成シタリシナリ而シテ現時兩國ハ共ニ三國同盟ニ加入シ歩調ヲ整ヘツツアルカ如キモ相互間ノ感情ハ必スシモ融合セリト云フヲ得ス埃國人ナル名稱ハ伊太利人ノ最嫌惡シタル時代スラアリタリ

伊太利人ノ埃國人ニ對スル反感

而シテ伊太利人ノ尊重スル國民ノ自由、國民ノ統一及政治上ノ自由ハ全然埃國ニ缺如セリトナス觀念ハ深ク國民ノ腦裡ニ浸潤シ埃國ナル名稱ヲ耳ニスルヤ直ニ此ノ事ニ想到ス而シテ第十九世紀ニ於テ埃國ノ勢力ガ猶直接或ハ間接ニ「アペンニン」半島ニ及セアリタルヲ以テ伊國ノ獨立ト統一ノ事業ハ先ツ埃國ニ對抗シテ開カレ伊太利ナル一強國ハ埃國ヨリ解放セラレテ始テ建立セラルルニ至レリ伊國ハ「クリミヤ」戰爭當時佛國ノ政策ト歩調ヲ一ニシタル結果大ニ佛國ノ好感ヲ買ヒ獨立ノ成功ハ

伊太利ノ獨立ト佛國ノ援助

其ノ友情ニ基因スルコト尠カラス其ノ第一著ノ恩惠トシテ千八百五十六年「ベルサイユ」ノ外交談判ニ於テ「サルヂニヤ」王國ハ其ノ地位ヲ認メラレ爾來伊國ハ第六ノ強國トシテ列強ノ伍伴ニ加入スルニ至レリ

伊太利建國

然レトモ爾後尙大ナル變革ヲ經テ漸ク千八百六十一年「ヴィクトル、エマニエル」第一世ニ至リ始テ伊太利ノ王冠ヲ戴クコトヲ得タリ續テ十箇年經過ノ後遂ニ全國ニ王權ヲ擴張シ統一ノ目的ヲ達成セ

伊國統一ノ事業ト他國ノ援助

伊國ノ統一事業ニ關シ吾人ノ注意ヲ惹ケル二箇ノ特徴アリ即チ

(一) 此ノ事業ハ眞ニ自己ノ力ニ依リテ貫徹セラレタルニアラス往年ノ伊太利ノ獨立運動ハ千八百四十九年ニ於テ挫折シ又現今ノ伊國ノ統一モ獨、佛兩國ノ援助ニ俟ツコト尠カラサルナリ而シテ伊國カ現今強國トシテノ地位ハ實ニ自國ノ敗北ト同盟國ノ勝利ノ結果漸ク贏チ得タル所ニシテ右ノ如キ史實ハ此ノ新興國ノ建國當初ヨリノ弱點タルヲ免レサルナリ

伊太利建國ニ伴ヒ政、教衝突ノ端緒ヲ開ケリ

(二) 國家ノ統一ニ依リ必然ノ結果トシテ政府ト寺院トノ分離ヲ來タセリ即チ王國建設ノ爲ニハ歴史上首都タル羅馬(羅馬法王ノ居所)ヲ占領シ且法王權ノ支配下ニ立チアリシ其ノ屬領地ヲ沒收セサルヘカラサルハ實ニ已ムヲ得サリシナリ然レトモ伊太利ハ古來舊教ノ盛ニ行ハレタル國ナルカ故ニ爾來全部ノ寺院ハ國民ヲ統一スル國家生活ニ向テ自覺的且猛烈ニ反對ノ機鋒ヲ向ケタリ之カ

爲同國ハ統一事業ノ當初ヨリ多大ナル支障ニ遭遇シタリ

第二款 地理及國民

千八百六十六年「マツシモ、ダセグリオ」民ハ曰ク伊太利ハ成レルモ未タ伊太利人ハ完成セスト而シテ建國以來既ニ半世紀、果シテ同氏ノ言ノ如キ状態カ今日猶依然トシテ存在セルヤ否ヤハ問題ナリ地理上及人種上ヨリ見ルトキハ外觀ヨリ見タル伊國ノ統一ハ他ノ多クノ國家ヨリモ能ク實施セラレアリ特ニ「アルプス」山脈ト地中海トノ間ニ位シ最自然ナル國境ヲ有スルノ特長ヲ有スルモ其ノ國境線上ノ弱點ト看做スヘキハ「エディジ」河谷及「チチノ」河谷ト國境線ノ交會セルニ地方ナリトス

伊國國境線上ノ弱點

又世界ノ交通線路タルニ條ノ鐵道線ハ右ノ二河谷ニ沿ヒテ走リ一ハ「ブレンネル」峠ヲ（千八百六十七年開通）他ハ「セント、ゴットハート」ノ峠（千八百八十二年開通）ヲ通過シテ國內ニ入レリ而シテ伊太利民族ハ右ノ二通路ヲ經テ埃國ノ「トレンチノ」及瑞西ノ「チチノ」地方ニ膨脹シ從テ兩地點ハ國民統一ノ爲弱點ヲ形成ス其ノ他尙東方ノ國境線カ「アドリアチック」海ニ接スル埃國ノ「イストリヤ」地方及西方佛國ノ「ニース」地方並南方海ヲ隔テタル佛領「コルシカ」島及英領「マルタ」島ノ如キハ伊太利人ノ移住シアル地ニシテ伊國ノ爲顧慮ヲ要スヘキ地點ナリ而シテ國外ニ移住シタル伊太利人ノ總數ハ百七十萬人内外ニシテ全人口ノ五「プロセント」ニ達セス而モ其ノ移住セル伊太利人間ノ結合

伊國外ニ在ル伊太利人

ハ緊密ニシテ依然本國ノ伊太利人ト同様ノ思想感情ヲ有シ眞ニ伊太利人タル精神ノ消滅シタル者ハ其ノ數僅ニ一「プロセント」ニモ及バサルナリ

民族主義思潮ノ發生以來世界史上ニ於テ大ナル國家建設ノ最初ノ活劇ハ伊國統一事業ニシテ而モ比較的満足スヘキ程度ノ成果ヲ擧クルヲ得タリ而シテ伊國カ地理上自然ノ國境ヲ以テ四隣ト隔絶シ國民一

伊國ノ天與ノ好位置

致能ク現代ノ國家思想ニ適應セル景況ハ到底埃國ニ於テ見ルヲ得サル長所ナリ
伊國ハ強國トシテ特ニ具有スヘキ諸條件ヲ完備セルヤ否ヤヲ考察スルトキハ其ノ缺クル所亦決シテ少カラサルヲ認ムルヲ得ヘシ然レトモ同國ハ天與ノ長所アリ即チ其ノ位置宜シキヲ得タルト海國タルニ適スルトノ二點是ナリ之カ爲既ニ古代ニ於ケル羅馬ノ發展及中古ニ於ケル「ウエニス」ノ商權力能ク地中海ヲ風靡スルコトヲ得タリ實ニ伊國ハ「ジブラルタル」ト「ボスボラス」ト「スキエス」トノ中間ニ位シ恰モ地中海ノ防波堤ノ如ク近東諸國ノ文化ヲ受ケテ歐洲ノ内部ニ傳播スヘキ仲介國タルノ使命ヲ全フスルコトヲ得又埃國ノ陸路ヨリスル文化傳播ニ對シ伊國ハ海上ニ由リ之ト競争スルヲ得タリ土耳其カ文藝復興ノ時代ニ於テ東洋ト西洋トノ中間ヲ阻絶セシ結果一時「ウエニス」マ「ジエノア」マ「ピサ」等ノ商權ハ没落セシモ伊國統一事業ノ完成セルト殆ト同時船舶ノ通路トシテ「スキエス」運河開通シ又「アルプス」山脈ニ隧道ヲ穿チテ鐵道ヲ通スルヲ得ルニ至ルヤ再ヒ順調ニ向ヒ爲ニ伊國ノ良好ナル特種位置ハ再ニ其ノ價值ヲ發揮スルニ至レリ而シテ同國カ日、英兩國ノ如ク海ヲ以テ繞ラシ

國境延長ノ四分ノ三以上ノ海岸線ヲ有スルコトハ實ニ海軍力ト商船數ノ近時激増ヲ來タシタル主因ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ伊國ハ恰モ英國ノ如ク將來商業國トシテ發展スヘキ型式ヲ有スヘキモノナリト雖實際其ノ商業發展ノ程度ハ大ナラスシテ埃國等ヨリモ振ハサルニハ何人モ一驚ヲ喫スル所ナルモ是決シテ發展セサルカ故ニアラスシテ建國以來ノ年月未タ長カラサルニ起因ス事實上該國ノ商業ノ發展速度ハ最近二十年間ニ於テ頗ル増大シ歐洲ノ他ノ諸強國ニ比スルモ遜色ナシ然リト雖更ニ一層深キ觀察ヲ遂ケムカ伊國カ世界市場ニ於テ雄飛シ得サルノ真因ハ實ニ國內產物ノ貧弱ナルト海岸ノ情況不適當(港灣ノ不足、麻刺里亞病ノ流行)ナルトニ關聯セルコトヲ發見スヘシ其ノ産業ノ不振ハ又國內ニ於ケル石炭及鑛物等ノ產額僅少ナルニ職由スルモノナリ右ノ點ハ英國ノ情況ニ比スレハ大ナル缺點ニシテ北部伊太利ニ於ケル富饒ナル水力モ此ノ缺點ヲ補フヲ得サルナリ

然レトモ尙茲ニ伊國カ世界ノ經濟界ニ雄飛シ得サル一原因アリ何ソヤ是即チ伊國ノ社會ト國家カ未タ完備セサルカ爲ナリ

第三款 社會及國家

「フレスクラ」氏曰ク伊國ハ移民ヲ海外ニ送り出タス古キ邦國ニシテ勞働力ノ大輸出國ナリト統計ニ徴スルモ同國以上ニ大ナル移民數ヲ示ス國ナシ「カラブリア」及其ノ他若干ノ地方ノ如キハ之カ

爲愛蘭ト等シク人民ノ減少ヲ來タシツアリ是實ニ國民の病態ノ眞面目ナル標識ナリ

伊國ノ病態ハ社會問題就中農業問題ニ於テ著シ而シテ其ノ病根ハ所有地ノ分配宜シキヲ得サル點ニ存ス即チ南部伊太利ニ於テハ賃貸制度ノ各種ノ弊害ヲ具有スル所謂巨大農場ノ多クヲ存シ北部伊太利ハ過少ナル土地ニ分割セラレ小地主ハ已ムヲ得ス特種ノ收入ヲ配慮セサルヘカラス加之重稅ハ更ニ農民ヲ窮境ニ陥ラシム而シテ其ノ重稅ハ同國カ統一事業ヲ行ヘルト強國トシテノ地位ヲ保持セムト努力スルノ結果ナリ其ノ他尙留意スヘキハ地震ト驟雨トノ被害甚シク農業者ヲ苦ムルコト是ナリ此ノ如キ災害ニ對シテハ同國下層國民ノ勤勉ト質素トヲ以テスルモ之ヲ如何トモスヘカラス是ヲ以テ農業ハ既ニ他ノ多クノ諸國ノ如ク保守の要素ニアラスシテ却テ禍亂ノ根元ヲナシ社會主義者、虛無主義者ノ不平ヲ發芽セシム實ニ國內ノ平和ヲ擾亂スル禍源ハ農民ニ在リテ存ス

危險思想ヲ有スル農民

財政ノ難

主要ナル生産機關タル農業ノ現狀右ノ如クナルカ故ニ延テハ又各般ノ經濟界ノ發展ヲ阻止シ爲ニ外國漫遊客ノ消費スル莫大ナル正貨及他國ニ出稼セル國人ノ多額ノ送金國內ニ流入スルニモ拘ラス同國カ依然トシテ歐洲ノ最貧國ノ一タル所以實ニ此ニ在リ
遮莫情況斯ノ如シト雖本世紀間多クノ事物ハ改善セラレ千九百八年「ギオリツチ」氏ノ言明スル所ニ依レハ伊國ハ最近三十年間ニ於テハ百年ニ匹敵スル進歩ヲ見タリト然レトモ外國ノ觀察者ハ同國爲政治家カ經濟上ノ發展ニ關シ證言セル我田引水の言辭ヲ認容スル者ナシ新公債ヲ募集スルコトナクシテ

財政ノ順調「トリポリ」戰役ヲ行フヲ得タルカ如キハ國家財政ノ順調ナルヲ示スカ如シト雖道ハ單ニ巧妙ナル政策ニ依リテ僅ニ達成シ得タルニ過キス然レトモ該國カ今ヤ健全ナル國家ト成ルヘキ道途ニ在ルハ疑フノ餘地ナシト雖伊國民カ何レノ時國家生活ノ完成ヲ得ヘキヤハ今尙疑問ニ屬ス

永年ニ亘レル政治上ノ分裂ハ國民ヲシテ一朝ニ之ヲ忘却セシムルコト不可能ナルヘク殊ニ伊國ノ如ク南北ノ延長大ナルノ結果縱令同一人種ヨリ成立スト雖國民ノ性狀及思想全然相反シ其ノ融和一層困難ナリ

國家觀念ノ
缺乏

其ノ他多年國家經濟ノ紊亂セシ爲特ニ南部地方ノ國民ハ國家的觀念ニ關シテ誤マレル思想ヲ抱懷シ殊ニ若干ノ地方ニ於テ國家ヲ敵視シテ無政府思潮蔓延スルニ至レリ而シテ此ノ無政府主義者ハ政府ニ對シ自己ヲ防衛スルカ爲ニハ秘密結社ニ依ルノ外他ニ適當ノ手段ナキモノト思惟セリ「カモルラ」黨、「マフィヤ」黨ノ如キハ之ニ屬ス新伊太利ハ一面ニハ寺院ト政府トノ衝突ヲ緩和シ他面ニ於テハ國民ニ

無政府主義

國家統一事
業ヲ二段ノ
時期ニ分ツ
ナリトスル
ノ説

國家思想ヲ注入セサルヘガラサルノ任務ヲ有ス恐ラクハ「カブール」氏ノ考案ニ依リテ統一事業ヲ完成セシテ最可トモシナラム而シテ同氏ノ所説ニ依レハ該事業ヲ二段ノ時期ニ分チ第一段ノ時期ハ南部地方ニ於テ自然ノ間ニ統一思想ヲ成熟セルマテハ北部伊太利ニ於テ自由ヲ認容スルコトナク徐ニ機ヲ到ルヲ待テ第二段ノ時期ハ統一事業完成後直ニ立憲政治ヲ布カシ國民ノ腦裡ニ國家思想ノ浸潤スル迄ハ強力ナル專制政治ノ下ニ置カムトスルニ在リタリ千八百七十六年急進主義ノ勃發以後始テ議

院政治ヲ採用シ之ト同時ニ國家ノ重心モ南部伊太利ニ移リ從テ箇人の利害關係ノ急激ナル發達ノ結果諸般ノ公共事業ハ多大ノ痛傷ヲ蒙ルニ至レリ

英國ノ如ク權利ノ井然タルモノナク又佛國ノ如ク行政ノ整備セルモノナク而モ其ノ政界ニハ各種ノ偉大ナル理想缺如セル伊國ノ如キ國ニ於テハ到底眞摯ナル政派ノ現出ヲ望ムコト能ハサルナリ現ニ伊國下院ハ能ク惡現象ヲ暴露セルニアラスヤ實ニ伊國下院ノ墮落ハ殆ト塊國ノ議院ニ劣ラス而モ強大ナル

伊國下院ノ
墮落

權能ヲ有スルカ故ニ國家ノ爲ニハ一層危險ヲ包藏ス而シテ大ナル發達ヲナセル社會民主黨ハ他ノ政黨政派ニ比シテ純然タル箇人問題ニ没頭スルコト少キヲ以テ今日マテハ專口忠實ナル政黨ト見ルヲ可トセム

伊國政界平
進ノ機運

然レトモ此ノ暗澹渾沌タル政界モ漸次發達ノ機運ニ向ヒ一暁ノ光明ヲ認メ得ルニ至リタルモノノ如シ即チ從來國家ノ外ニ超然タリシ尊僧主義カ議院ニ參加シ始メタルハ確實ナル黨派結合ノ徵候ナルト共ニ千九百十二年普通選舉權ノ採用セララルニ至リ國民ノ尊王心益發達セリ又輓近ニ於ケル政府ノ對外政策ハ一般ニ國民ノ感情ヲ激發セシメ從テ大ニ人民ノ義務心ヲ喚起シ國家ノ利スル所大ナルモノアリ

第四款 對外政策

伊國ノ各種ノ對外問題ハ同國ノ國民性ト地理的事情トニ其ノ根據ヲ置クモノナリ而シテ同國民ノ美

全伊太利ノ
ニ大政綱ノ

術心及其ノ強度ナル表面ノ功名心(有識階級ノ者カ實利アル仕事ニ代ヘテ却テ勝手ナル仕事ヲ好ム風アルカ如キコトヲ云フ)等ハ即チ伊國ニ流行スル強硬ナル對外政策ノ語原ヲナスモノナリ右ノ如キ事情上伊國ハ先ツ第一ノ努力ヲ統一事業ニ向ケタリ千八百七十八年伯林會議ニ於テ伊國ハ何物ヲモ獲得セズ却テ其ノ讎敵ハ「ボスニヤ」ヲ併有シタリシトキニ於テ伊國ノ政策ハ一步ヲ進メテ全伊太利人種結合政策トナリ同時ニ同國ノ位置形狀及古來ヨリノ傳説ニ從ヒ地中海ニ國威ヲ伸張スル政策ヲ植立シ先ツ第一著ニ「フイアミンゴ」氏ノ言ノ如ク「シシリ」島ノ一種ノ延長ヲ「トリポリ」ニ向テ行ヒ伊土戰爭ヲ惹起スルニ至レリ伊國最高政策ノ二大目的ハ即チ是ナリ

一千八百八十
一年以降對
佛關係險惡
トナリ三國
同盟ノ勝因
ト成ル

伊國ニ於テ二十年間ニ亘リ一定ノ對外政策ノ方針ヲ採ルニ至ラシメタル一事件アリ即チ千八百八十一年佛國ハ伊國ノ面前ニ在リシ所謂精選セラレシ所領「チユニス」ヲ「アルゼリヤ」ノ附加物トシテ掌中ニ收メタリ此ノ事タル管ニ伊國ニ取リテハ國民ノ希望ヲ失墜セシメタルノミナラス同國ノ爲絶大ナル危險ヲ醸シタリ即チ伊國ハ以前ヨリ其ノ「ラテン」民族ノ兄弟國(佛國)ニ依リテ「ツローン」及「コルシカ」等ヨリ側面ノ脅威ヲ受ケアリシニ今ヤ又「ビセルタ」河口ヨリ脚部ニ對シ脅威セララルニ至レリ而シテ佛國ハ之ニ依リテ特ニ有利ナル戰略的地位ヲ占メシニ反シ伊國ハ前部地中海(同國西方ノ地中海ノ意)ニ面スル沿海地方ニ沿ヒテ走レル主要ナル鐵道線カ開戦ノ曉ニ於テ佛海軍ノ砲撃ニ暴露スルノ不利ヲ

三國同盟

招クニ至レリ四國ノ情勢右ノ如クナリシヲ以テ伊國ノ通商支配權ニ對スル希望モ頓ニ消沈シ殊ニ英國カ伯林會議ニ於テ「サイプラス」島ヲ獲得シ續テ埃及ニ對スル行動ヲ始メ内部地中海ニ優勢ナル地歩ヲ建設スルニ至リ悲境其ノ極ニ達セリ右ニ掲ケタル事情ハ實ニ伊國カ千八百八十二年獨、埃ト三國同盟ヲ締結スルニ至リシ原因タリシナリ然レトモ伊國ノ同盟加入ハ決シテ國民ノ意思ヨリ起リタルニアラスシテ單ニ政策上ノ必要ニ迫ラレ締結セルモノナリシカカ爲能ク希望セル守勢及攻勢ノ爲保障ヲ得タリ爾後佛國トノ國交險惡トナリ千八百八十八年ニ於テ遂ニ爾後十箇年間繼續セル關稅戰爭ヲ開始セシモ從來伊國內ノ商業市場ハ佛國ノ支配スル所ナリシヲ以テ伊國ハ反テ重大ナル國內ノ危機ニ瀕スルニ至レリ而シテ「ビリオ」氏ノ言ヘルカ如ク佛國ハ伊國ヲ饑餓ニ由リテ征服セムコトヲ企圖シタリシカ伊國ハ乃チ其ノ商業ノ方向ヲ同盟國側ニ變更シ同盟國側ハ伊國ニ全然新ナル經濟組織ノ力ヲ供給シ遂ニハ「フイアミンゴ」氏ノ言ヘルカ如ク現代ノ全伊太利ヲ舉ケテ獨國ノ傀儡トナルニ至レリ而シテ伊國ハ一時休止セル全伊太利人結合政策及地中海政策ノ代價トシテ國民的或ハ地理上權利ヲ有セサル純然タル植民政策ヲ立テ紅海ニ瀕スル植民地及其ノ他東部阿弗利加ニ於ケル現有ノ諸植民地ヲ獲得セリ然ルニ「アビシニヤ」ニ垂涎シ之ヲ領有セムトシテ千八百九十六年同地ノ「アヅア」ニ於テ土人ト戰ヒ伊軍ノ無能力ヲ暴露シテ敗北スル結果ヲ生シ其ノ他尙第十九世紀ト第二十世紀ノ交支那ニ於ケル列強ノ利權獲得ニ際シテモ伊國ハ何

支那ニ於ケ
ル失敗

第二章 伊國

伊土戰爭開始

物モ掌中ニ收ムルコトヲ得シテ止ミヌ是ニ於テカ再ヒ地中海政策ニ逆轉スルノ好機トシテ佛國ノ同意ヲ經テ伊土戰爭ヲ惹起シ其ノ結果トシテ三國同盟ニ對スル誠意ニ一ノ陰翳ヲ生スルニ至レリ當時獨國宰相「ブエロー」氏ノ如キハ伊國ノ「トリポリ」征服ヲ目シテ特別ノ遠足ト稱シテ嗤笑セリ而シテ恰モ建國以來五十年目即チ千九百十一年ニ於テ漸ク佛領「チユニス」ト英ノ埃及ノ中間地ニシテ阿弗利加ノ北岸ナル「リビヤ」ヲ獲得スルヲ得タリ

土領亞細亞ニ利權獲得

伊國ハ初メ「チユニス」ニ垂涎シ今ヤ「リビヤ」ヲ得ムトノ野心ヲ生セリ該地ハ地中海沿岸ニ於テ伊國ノ野心ヲ滿タヌ唯一ノ地域ニシテ他ハ皆列強ノ確實ナル領有ニ屬セリ而シテ伊國カ「トリポリ」ヲ占領スルヤ國民ノ自負心頓ニ揚リシモ他國ノ觀察者ノ眼ニ映スル所ニ依レハ該地ノ眞價ハ決シテ伊國カ執心スル程度ノモノニアラサルナリ伊國ハ此ノ自負心ノ高潮ニ乘シテ更ニ土領亞細亞ニ於テ利權ノ獲得ヲ計リ千九百十三年「アダリヤ」(「アダリヤ」灣ハ「サイプラス」島ノ西北小亞細亞ニ在リ)鐵道ノ敷設權ヲ收メ尙豫テ渴望セシ新「アルバニヤ」ヲ同國ノ勢力範圍トナセリ然ルニ該地ノ利害ナルモノハ埃國ト共同ノ保護權ナル形式ノ下ニ在ルヲ以テ伊國ノ狡黠ニシテ且變轉自在ナル外交政策ハ再ヒ三國同盟ヲ尊重スルニ至リ新ナル地中海政策カ佛國ノ反擊ヲ受ケ且其ノ壓迫ヲ受クルニ至ルヤ更ニ結合ヲ堅クセリ

輕僑ナル民

現今ノ伊國ヲ觀察スルニ當リ特ニ注意ヲ喚起セシムル點ハ同國民ノ生存セムトスル意志ト膨脹發展

セムトスル努力ノ旺盛ナルコトニシテ同國ノ社會主義者モ平和主義者モ共ニ此ノ趨勢ニ反抗スルヲ得サルナリ而シテ此ノ趨勢ハ彼ノ埃國ノ保守的典型トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ然レトモ吾人ハ伊國ノ極度ナル發展の性質ヲ看過スヘキニアラスト雖枝葉ノミヲ繁茂セシムルニ汲々トシテ根ヲ地下ニ深く入ルルヲ思ハサルカ如キ樹木ヲ見ルノ感ナクムハアラス

第六ノ強國タル伊國カ國內ヲ整備スルコトナク徒ニ國力ヲ海外ニ伸ハサムトスルハ同國ヲ觀察スル者ノ特ニ著目スヘキ點ニシテ同國ノ弱點亦茲ニ存ス建國後直ニ國民ノ最貴重ナル財寶タル獨立、統一、自治等各其ノ成熟ヲ待タスシテ一時ニ獲得シ國基ヲ堅固ニスルニ先チ直ニ強國ノ地位ヲ建設シテ其ノ效果ヲ收メムトシタリ爲ニ反テ國家ノ完成ヲ阻害スルニ至リ之ニ必要ナル國力ト犧牲トヲ徒費シタルコトモ亦決シテ尠少ニアラサルナリ

國內ノ改良ヲ要スヘキ點

伊國ノ最力ヲ傾注スルヲ要スル點ハ麻刺利亞病ノ絶滅、沼澤地ノ埋立、社會缺陷ノ驅除、農業上ノ弊習改善、減稅及議院ノ廓清等ノ如キ國內ノ諸問題ナラサルヘカラス勿論此ノ點ニ於テ進步ノ跡ナキニアラサルモ動モスレハ國政上豫想外ノ急轉直下ヲ見ルコトアリ實ニ伊國ハ内ニ幾多ノ改革ヲ要シ外ニハ列強間ノ生存競争ニ堪ヘサルヘカラサルナリ勿論同國モ漸次進步ノ跡ヲ示シ其ノ國力ハ不知不識ノ裡ニ向上シツツアルモ世界ノ競争場裡ニ立タムカ爲ニハ不十分ナル所甚タ多キヲ認メスムハアラ

第三章 佛 國

第一款 國史梗概

古キ國柄

古キ「ハブスブルグ」皇國ニ次キテ現在列強中ノ最古ノ國ハ佛國ナリ同國ハ今ヨリ千四百年前「クロ
ドグイヒ」王(西曆紀元四百六十六年生、同五百十一年死)ノ建設セル以後繼續シ來リ第十五世紀ノ前
半期ノ頃「オルレアン」ノ少女ニ依リ英軍ニ打チ克チタル後國民的自覺ヲ得同世紀ノ後半期ニ於テ
「ルイ」第十一世カ貴族政治ヲ滅亡スルニ至リ國家トシテ集結ヲ完フスルニ至レリ是ヲ以テ佛國ハ歐
洲各國中最早ク完成ノ域ニ到達セリ(獨、伊ニ先タツコト、四世紀)而シテ「ハブスブルグ」家ノ統一帝國
建設ヲ阻害セシメタル最初ノ國ハ實ニ佛國ニシテ佛國ハ此ノ事業ニ依リ「ウエストフアリヤ」ノ平和
條約ニ於テ強國ノ地位ヲ獲得セリ

然レトモ其ノ結果トシテ其ノ後前ニハ「ルイ」第十四世時代ニ於テ後ニハ「ナポレオン」第一世ノ時代
ニ於テ佛國ノ優勢ニ對立シテ世界ノ均衡ヲ保ツ爲メ國ハ自然英國ト同盟セリ伊國ハ又佛、埃間ノ罅隙
ニ乘シテ強國タルノ理想ヲ實現スルノ機會ヲ捉ヘ而シテ互ニ角逐ヲ事トセル佛、埃兩國國力ノ自然損
耗スルニ及テ遂ニ伊國ハ勃興セリ

佛國ハ由來進歩ト退歩ノ變轉劇シク順調ト逆境ト相次テ起レルモ依然國家制度ノ第一流ノ位置ヲ占

佛國ノ勃興

メタリ而シテ國家制度カ世界制度ニ擴大セムトスル時代ニ於テ佛國亦土地ノ探險及植民地獲得ノ事業
ニ關與シ其ノ際ニ於ケル佛ノ植民地ハ大西洋ヲ挾ミテ北亞米利加ニ及ヒ尙前印度ニ達シタリ佛國ノ最

盛ナリシハ第十七世紀ノ後半期ニシテ爾來第十九世紀初期以前ノ舊式政治ニ至ルマテ繼續セリ
佛國ハ第十六世紀以後土耳其ト結ヒ又同々教徒ニ對シ基督教ノ掩護者トシテ一般基督教國ヨリ承認セ
ラレタル地位ヲ占メタル爲メ地中海沿岸一帯ノ地ニ於テ一新勢力ヲ得ルノ素地ヲ得タリ而シテ其ノ支配
權ハ歐洲ノ復古(註、歐洲ニ於テ宗教的羈絆ヲ脱シテ希臘古代ノ思想ニ復歸セムトスル)ノ傾向ヲ示セル
所謂文藝復興期ノ頃ノ謂ヒナリ)ノ時代ニ於テ確立セラレ千八百三十年「アルゼリヤ」ヲ領有セリ

露佛同盟
ト其ノ影響

千八百八十年代(第三次共和國ノ時代)ニ於テハ一層順調ヲ呈シ(此ノ頃後印度ヲ領有ス)特ニ千八百九
十一年露國ト同盟ヲ締結スルヤ益好況ニ赴ケリ實ニ露、佛同盟ハ歐洲ニ於ケル佛國本國ノ防衛ヲ完フ
現代ノ地位 シ再ヒ佛國人ノ自信力ヲ高メタリ爾後佛國ハ益發展シ三色旗ノ下ニ立テル阿弗利加ノ大植民地ヲ實現
スルニ至レリ而シテ全面積ハ同國ノ歷史上未會有ノ大ヲ示シ燦然タル現代式文化ハ全盛ヲ極メ前ニ記
載セル埃、伊諸國ヨリハ一層高級ナル強國ノ典型ヲ有スルニ至レリ

第二款 地 理

經濟上ノ自
給自足

佛國ハ各種ノ天産物ニ富ミ而モ各種物産ノ産額ハ彼此適宜ノ調和ヲ保チテ自給自足ノ要素ヲ有スルコ
ト恰モ埃、匈國ニ類シ大規模生産ノ素質ヲ有スルコト伊國ニ比シ遙ニ大ナリ加之佛國ハ海陸交通ノ要點

第三章 佛 國

國土ノ位置
絶好

ヲ占メ四通八達ノ便ヲ得實ニ西歐ノ中心地ヲ形成ス同國文明ノ大ニ發展セシ蓋シ所以ナキニアラサルナリ之ニ反シ埃國ハ大陸中ニ閉鎖セラレテ單ニ地中海ノ一端ニ向テ一開口ヲ備ケルノミ又伊國ハ主トシテ海上ノ雄國ナルモ其ノ國威ノ及フ範圍ハ地中海以外ニ出テス然ルニ佛國ハ廣大ナル規模ノ上ニ立チ三箇ノ海正面即チ大西洋、北海等ノ方面ト地中海ノ方面ヲ有シ「マルセイユ」及「ツローン」等ヨリハ亞弗利加及東洋ニ、「ポルドー」及「ル、ハーブル」ヨリハ米國及英國ニ、「ダンキルク」ヨリハ「スカンヂナビヤ」半島ニ通ス地理學上ニ於ケル此ノ景況ノ外尙氣候温和ナルハ實ニ世界ニ於ケル好箇ノ地位トモ稱スヘキナリ好箇ノ地位ト海岸ノ特長ニ加フルニ佛國ノ國形亦適當ナリ即チ國土ハ略四角形ヲ爲スヲ以テ伊國ノ狹長ナルニ比スレハ國家ノ統一容易ナリ又佛國ハ海國トシテモ亦大陸國トシテモ能ク均衡ヲ得ルヲ以テ埃、伊ノ二國ニ比シ國家ノ基礎確實ナリ

海陸軍國

第三ニ佛國ヲ評スレバ同國ハ水陸兩棲種ニ屬スルヲ以テ海軍ニ偏スルヲ得ス又陸軍ニ偏スルヲ得ス加之南北兩海面カ未タ運河ヲ以テ連絡シアラサルハ海防ノ困難ヲ生セシムル所以ナリ
國境ノ大部分ハ國防上有利ノ位置ニ在リ即チ伊國ニ對シテハ「アルプス」山脈アリ西班牙ニ對シテハ「ピレネエ」山脈アリ英國ニ對シテハ英佛海峡ナル最良ノ國境線ヲ有ス又千八百七十一年以後ハ「ウオージユ」山脈ヲ以テ獨國ニ對シ好箇ノ國境トナシタリ「ライン」河ヲ國境ニスルヨリ優レリ而シテ「ウオージユ」山脈ト佛、瑞國境ノ「ジュラ」山地トノ間隙地帯ハ佛人之ヲ「ベルフォール」ノ穴ト稱

シ自然國境地間ノ缺陷ヲ形成シ鞏固ナル築城設備ヲ要ス此ヨリ南方ニ於テハ「ローネ」河瑞西ニ楔入ス

國防上ノ大
弱點ハ佛國
ノ東北部

「ウオージユ」山脈以北ノ國境ハ天然ノ掩護ヲ有セス且北部地方全部ノ河流「モーセル」河、「マース」河、「サンブル」河、「シエルト」河及「リス」河ヲ切斷シ全自耳義ハ恰モ帽子ノ如ク佛國頭部ニ冠ス國ノ東北部ハ自然ニ中欧(獨、埃國等ヲ指ス)ニ通スル門戸ヲ開放シ最痛痒ヲ感スル方面ナリ
實ニ佛國ハ南方ニ於テ同種族タル「ローマ」人種ノ邦國ニ面シテハ堅固ナル國境線ヲ有スルニ反シ東方異種族タル「ジェルマン」人種ノ諸國ニ面シテハ自然ノ國境ヲ有セス是特ニ注意スヘキ所ナリ
此ノ自然ノ配劑ハ既ニ佛國ノ國史ニ對シテモ深刻ナル影響ヲ及ホシタリ即チ同種族ヨリハ分離セラレ主ニ獨逸人種ト爭鬪ヲ行ヒ歐洲中ノ最激烈ナル戰鬥モ亦此ノ方面ノ戰場ニ於テ實施セラレタリ然リト雖大國民ニ對シテハ斯ノ如キ國境ノ弱點ノ如キハ必スシモ絶對ニ不利益ニハアラサルナリ何トナレハ流血ヲ以テ此ノ傳來ノ使命ヲ果タサムカ爲ニハ自然國民ハ鍛鍊セラレ且絶エス舉國結合ノ刺戟ヲ與ヘラルヘケレハナリ

第三款 國民

佛國東境地方ノ人種
全體ノ地勢ヨリ案スレハ直ニ觀取シ得ル如ク佛國ノ東境地方ハ他ト比スルトキハ國民ノ種族混合セルノミナラス國外ニモ約四百萬ノ佛語ヲ語ル種族存在ス(自耳義ニ三百萬、「ローレン」ニ二十萬、瑞西ニ

集結セル國

八十萬)是佛蘭西全民族ノ十分ノ一ニ相當スルモ彼等國外ノ佛蘭西分子ハ全般ニ於テハ必スシモ強度ノ同情ヲ佛國ニ寄スル者ノミトハ限ラザルナリ而シテ佛國內ニ在ル外國分子ノ數(「ブレターニユ」地方人ノ如キ強度ノ愛國心ヲ有スル者及各都市ニ在住スル他國人ヲモ合算シ)ハ國民全部ノ九「プロセント」ニモ及ハス即チ佛國民ハ世界上最集結セル國民ノ一ニシテ自國民ノ郷土ヲ現實ス此ノ點ニ於テ伊國モ同様ナルハ「ローマ」種族ノ特長トモ見ルヘク而シテ此ノ點ハ埃匈國ヲ凌駕スル所ナリ而モ佛國ハ伊國ニ比シテ數百年前ヨリ統一及自由ニ於テ共同生活ヲナセルヲ以テ結合力ハ一層鞏固ナリ

人口ノ遞減

然ルニ此ノ如キ優良ナル國民モ現代ニ於テハ其ノ裡面ニ潜メル陰影ノ存スルアリ即チ生理上ノ現象ヨリシテ同國ハ將來永ク強國トシテ生存シ得ルノ要素ニ缺點ヲ示シアリト認ム即チ統計ノ示ス所ニ依レハ佛國全體ノ人民増加率ハ〇・一六「プロセント」ナルモ他ノ諸國ノ平均増加率ハ一「プロセント」ナリ而シテ佛國ノ出產剩餘(出產者數ヨリ死亡者數ヲ減シタルモノ)ニ依ル自然増殖ハ歐洲各國ノ平均自然増殖數一・二「プロセント」ニ對シ僅ニ全人口數ノ〇・一「プロセント」以下ナリ然ルニ死亡率ニ於テハ佛國ハ一般平均ノ如ク百分ノ二ニ達シアリ之ヲ數字上ヨリ見ルトキハ人口三千五百萬ニ達セサル伊國ハ人口三千九百萬ヲ有スル佛國ヨリ毎年人口ノ増加スルコト實ニ三十五萬人ナリ而シテ最近ニ於テハ佛國ノ出產者ト死亡者トノ統計上ニ現ハル所ニ依レハ死亡ノ數ハ出產者ノ數

ヨリ多シ

二兒制度

尙仔細ニ統計ヲ調査スルトキハ結婚ノ件數ハ普通他ノ諸國ト大差ナク又全然子ナキ夫妻ノ數ヲ他國ト比較スルモ亦普通ナリ然ラハ人口ノ増加セサル原因ハ奈邊ニ存スルヤノ眞因ヲ攻究セムニ佛人種ハ既ニ繁殖スル素質ヲ失ヘルモノナリトノ斷定ハ至當ナラス何トナレハ右ニ述フル如ク全然子女ナキ夫妻ノ數ノ比例ハ他國ト大差ナク又加奈陀ニ在ル佛人種ノ出產率ハ大ナレハナリ要スルニ全國ノ出產數ノ微少ナルノ原因ハ自ラ子女ノ數ヲ制限スル點ニ存ス即チ所謂二兒制度ノ罪ナリ特ニ研究セラレタル所ニ依ルモ富有ノ家庭ニ於テハ殊ニ其ノ甚シキ現象ヲ呈ス而シテ其ノ口實トスル所ハ子女ノ數僅少ナルニ從ヒ益教養周到ニシテ家族ノ財產ヲ維持スヘキ保證トナリ同時ニ兩親ノ勞苦亦僅少ナリト云フニ在リ然レトモ斯ノ如キ純乎タル箇人主義ハ國民全體ノ致命傷ナリト云フヘシ二兒制度ノ如キハ數理上ヨリ論スルモ漸次國民ノ數量ヲ遞減シ去ルヘキハ視易キノ理ニシテ又國民過少ノ國ハ其ノ過大ナル隣國ヨリ過剩人民ノ侵入シ來ルヘキハ自然ノ勢ナリ

將來ノ禍源

佛國ハ現ニ隣接諸國ヨリ移住スル者ニ依リテ辛フシテ國民ノ數ヲ維持シツツアルモ元來純一人種ヨリ成レル佛國ニ於テ他民族ヨリ轉入シ來ル者ヲ能ク同化シテ何等ノ害毒ヲ國內ニ流ササルヲ得ヘシト爲スハ無稽ナル希望ニシテ將來縱令外部ヨリ強制ノ干涉ナシトスルモ必スヤ内部ヨリ國家ノ獨立ヲ危マスルニ至ルヘキハ明ナリ古代ノ羅馬帝國カ衰運ニ向ヒシモ亦之ト同一原因ニ依ル即チ當時多クノ蠻族

カ羅馬帝國内部ニ滲入シ遂ニ羅馬カ内部ヨリ瓦解スルノ基ヲナセリ「ロイツ」氏ハ曰ク國民ノ増殖スルハ多クノ場合其ノ國ノ生活力アルヲ示スモ國民ノ漸次減少スルハ常ニ其ノ國ノ衰降ヲ意味スト左シモ隆々タリシ佛國モ其ノ發展ノ状態ヲ測定スルトキハ前途頗ル憂慮スヘキナリ

人口遷滅及
列強トノ比

今ヨリ百年以前佛國民ハ其ノ數ニ於テハ歐洲中ノ第二位(世界ノ全人口ノ一四・五「プロセント」)ナリシカ千八百四十年代ニ於テ獨國ノ人口數ニ一籌ヲ輸シ續テ千八百六十年代ニ於テ埃匈國及北米合衆國ニ、千八百七十年代ニ於テ日本ニ、千八百九十三年ニ於テ英國ニ超越セラレ人口數下位トナレリ而シテ現今ハ佛國ハ歐洲ニ於テ第五位、世界列強ノ本國ノミノ人口數ニ於テ第七位ニ在リテ世界人口ノ九「プロセント」ヲ有スルニ過キス即チ佛國ハ百年間ニ於テ歐洲全部ノ人口七分ノ一ヨリ十一分ノ一二降下シ八箇ノ列強中ニテ言ヘハ第二位ヨリ第七位ニ下落シ若伊國ニシテ今日ノ増殖率ニテ進マムカ佛國ハ終ニ最下位ニ墜ツヘキナリ

國防上ノ缺

佛國人口ノ減少ハ獨國ト比較シテ國防上多大ノ意義ヲ有ス千八百七十年佛國カ獨國ニ敗北セシ當時兩國人口ノ比例ハ百對百一ナリシモ現時ハ百對百六十八ナリ而シテ佛國ハ毎年平均一萬二千人ノ新ナル兵力(即チ毎年男子ノ自然増殖數)ヲ得ルモ既ニ千九百年ニ於テ獨國ハ三十六萬五千ヲ得タリ換言スレハ獨國一日間ノ兵力増加ハ佛國ノ一箇月間ニ匹敵ス

箇人主義ノ
惡影響

箇人主義ノ蔓延ハ一方ニ於テ國家ニ對シテ斯ノ如キ惡結果ヲ齎ラシタルノミナラス他面ニ於テ箇人自

國勢ノ衰運

ラニ對シテ報復ス「ベルチヨン」氏曰ク質ヲ維持セムトセハ量ヲ有セサルヘカラストニ兒制度ノ如キハ結局國民ヲ保存スヘキ爲當然負擔スヘキ義務ニ對スル反抗ヲ意味スルモノニシテ國家發展ニ關スル責任觀念ノ弛緩ヲ示スモノナリト管ニ右ノ事實アルノミナラス現代ニ於テハ社會各般ノ事物例ヘハ文學上ニ於テ將タ又公私生活上ニ於テ天才ニ富メル佛國民ノ精神ノ根柢ハ最早過去ノ如ク健全ナルモノニアラスシテ徳性ノ墮落ヲ示セルコトヲ認メサルヲ得ス

「メルグソン」氏ノ哲

流石輕佻ナル佛人モ今ヤ自己ノ命數ノ斷末機ニ瀕スルニ臨テハ遂ニ晏然タルヲ得サルニ至リ人口調査ヲ行フ毎ニ新聞紙ハ盛ニ瀕死ノ祖國ニ關シテ論述シ國會ニ於テハ之カ豫防策ノ議案ヲ提出セラレ民間ニモ亦當該問題ヲ研究スル團體組織セラレタリ然レトモ病既ニ膏盲ニ入レリ而シテ其ノ病態ハ單ニ經濟及社會組織等ノ上ニ存スルノミナラス深ク人心内ニ根サセルモノニシテ容易ニ醫治シ得ヘキモノニアラス故ニ先ツ人心ノ改良ヲ以テ先トセサルヘカラス實ニ佛國ノ大革命ト同時ニ佛人ノ胸裡ニ知足安分ノ思想發芽シ爾後文化ノ熱スルニ從ヒ時ノ經過ト共ニ心性ニ惡變化ヲ與ヘタルモノナリ「メルグソン」氏ノ現代哲學ノ如キハ一種ノ反動ヲ示スモノニシテ恐ラク議會ニ於ケル姑息手段ニ優ルコト萬々ナルヘシ

第四款 社會

實業ナル農
民社會
由來佛國ノ農民ハ質素ニシテ節儉ナルハ有名ナル所ナリ唯巴里ノ豪華華美ヲ見テ一般ヲトスヘキニ
ラス

然ルニ近代ニ於テハ社會ノ墮落ハ漸次蔓延シ酒精飲料ノ消費額亦地方ニ於テ激増ス勿論古來ノ勤儉ノ
餘澤ヲ受ケテ一般ノ幸福ハ伊國ノ貧窮ニ比シテ逕庭アリ佛國ニ於テハ第一革命以來農民ハ適宜ニ分配
セラレタル土地ト獨立セル地位ヲ有ス是伊國ニ於テ見サル所ナリ之カ爲農民ハ次第ニ蓄財シテ小資本
家ノ地位ニ昇レリ此ノ小資本家ノ地位ニ達スルモノニハ別ニ多數ノ勤儉ナル官吏社會アリ佛國ハ此ハ
健實ナル中流社會ヲ有セルカ故ニ千八百七十一年戰役ニ於テモ容易ニ五十億法ノ支出ヲ行ヒ高額ナル
國債ヲ負擔シ得タリ

佛國政府ハ國民全部ノ勤儉ニ依リテ貯蓄セル財貨ヲ國家事業ノ爲ニ利用ス即チ人民ハ好テ其ノ貯金ヲ
有價證券ニ換ヘ正貨ヲ金融市場ニ移ス但シ該市場ニ於テ外國ノ公債ニ應募スルニ際シテハ必ス政府ノ
許可ヲ經ルモノトス政府ハ國債ヲ要求スル國ニ對シテ必ス當該國內ニ於ケル特權ヲ得ルカ若ハ其ノ國
ニ對シテ物資ノ供給ヲ爲スヘキ條件ヲ附スルモノトス

右ノ如キ機能アル資本ハ佛國ノ發展ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタルハ何人モ了解スル所ナリ是ヲ以テ同國ノ
資本ヲ稱シテ佛國ノ第五ノ武器ト云フ蓋シ步兵、砲兵、騎兵及飛行機ニ次ク武器ナルノ謂ナリ然レト

佛國財界ノ
衰運

モ現時ニ在リテハ第一ノ武器ニハアラスヤト疑ハルルニ至レリ
此ノ如キ光輝アル佛國ノ財界モ亦其ノ裡面ナキヲ得ヌ即チ其ノ經濟狀態ヲ詳細ニ觀察セハ衰微ヲ示セ
ルコトヲ發見シ得ヘシ由來佛國ハ永年ニ亘リ其ノ貿易額世界中ノ第二位ニ立チシモ千八百九十一年貿
易統計ノ示ス所ニ依レハ北米合衆國ニ一籌ヲ輸シ千八百九十二年ノ輸入額及千八百九十六年ノ輸出額
ニ於テ獨國ニ一步ヲ讓リタリ

退歩的ナル
經濟界

實ニ佛國ノ世界市場ニ於ケル勢力モ遞減ヲ示シ工業界亦同様ノ景況ナリ即チ工業ハ漸次發展スト雖他
ノ諸國ノ工業ノ進歩ト歩調ヲ保ツコトヲ得ヌ從テ此等諸國ト比較スルトキハ退歩ヲ示ス加之資本金蓄
積ノ速度モ千八百九十年頃ヨリ漸ク遲緩トナレリ是ニ於テカ佛國カ歐洲ノ最大資本國タル名聲ハ一種
ノ沒意義ナルヲ識ルヲ得ヘシ而シテ其所謂沒意義トハ大部分ノ資本金カ國民ニ必要ナル事業ヨリ分離
シテ國外ニ放散スルニ在リ是亦佛國箇人經濟法式ノ進歩セサルヲ證スルモノナリ
佛國ノ勤儉ハ事實ノ證スルカ如ク消極且不生産的ナル吝嗇家ノ射利心ト相類スル所アリテ財産ヲ積極
且有益ニ活用スルコトヲ爲サスシテ唯僅少ノ利息ヲ目途トスル凡庸ノ點ニ著眼シ老後ノ隱居生活ニ資
スヘキ財貨ノ蓄積ニノミ汲々タルノ有様ナリ即チ國家ノ老衰セルト等シク國民モ亦衰運ニ向ヘリ
純然タル社會學上ヨリ見ルトキハ現代ノ佛國ハ他ノ中歐諸國ノ如ク尊僧主義ト社會主義ノ兩極端ヲ左
右ニ具備シ其ノ間ノ平衡ヲ保持シツツアル情況ナリ然レトモ其ノ經路伊國ニ於ケルモノト其ノ趣ヲ異

第三章 佛國

ニス伊國ニテハ永年尊僧主義ハ政界ニ遠サカリ又帝國主義ニ反スル政綱ヲ標榜セル社會主義ハ政權ニ近ツクコトヲ得サリキ佛國ニテハ既ニ千八百九十二年佛共和國ト共ニ僧侶黨ハ事實活動ヲ起シ又社會黨ハ現共和政府ノ成立上ニ其ノ理想ヲ實現セリ今ヤ爾主義者ノ罅隙ハ尙深カラスト雖社會ハ是等危險ナル傾向ヲ除クノ必要ヲ切實ニ認知セリ

政教ノ衝突

宗教心衰退ノ反映

最近ニ於ケル僧侶黨ト政府トノ衝突ハ千八百七十七年ニ演セラレ「ガンベツタ」民モ同黨員ヲ目シテ敵トナセリ其ノ後引キ續キ政教上ノ軋轢ヲ生シ（千九百一年—千九百六年）遂ニハ政教分離ノ結果ヲ生スルニ至レルモ其ノ反映トシテハ社會全般ノ基督教ノ信仰心ヲ薄弱ナラシメ宗教心ノ衰退ハ人々箇々ノ自由思想ヲ生ムニ至レリ由來佛國ノ國民性ハ文藝「アサトール」フランスマノ作品ニ在ルカ如ク懷疑ノ素質ヲ有ス然ルニ今又自由思想ノ激増ヲ加ヘタル爲國民精神ノ根本ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ而シテ其ノ結果政治上ニ現ハレタル二箇ノ變向アリ即チ一ハ伊國ノ如ク羅馬法王廳トノ破綻ヲ生シタルコト又一ハ東洋方面ニ對シ基督教徒代表者ナル地位ヲ自然ニ失墜スルニ至リシコト是ナリ僧侶黨ヲ壓倒スルカ爲ニハ一般社會（政府内ニテモ然リ）ハ社會主義ト相結托スルニ至リ千九百六年ニ於テ社會主義ノ首領者「ジョーレー」ハ壯語シテ曰ク佛國ハ今ヤ急速度ヲ以テ社會主義ノ國家ニ化シツツアリト事實第二十世紀ニ於テハ佛國ニハ危險思想瀰漫シ國家ノ秩序ハ益危機ニ瀕シ斯クテ當初僧侶黨ノ撲滅ノ爲ニ利用セシ社會主義ハ遂ニ增長シテ百般ノ事物ヲ倒壞スルノ勢トナレリ千九百五年以後勞働

社會黨ノ増長

同盟罷業ノ額發

者社會ニ依テ組織セラルル無政府主義發生シ公然社會、國家及祖國ニ對シ宣戰シ殊ニ千九百九年及千九百十年ノ交通機關ニ關係スル勞働者ノ大規模ナル同盟罷業ノ如キハ最其ノ著シキモノナリ其ノ他各地ニ多數ノ同盟罷業行ハレタルヲ以テ爲政者ハ先ツ國內ノ危險分子ニ對シテ國家ノ存立ヲ防衛セサルヘカラサルニ至レリ而シテ之ニ關シ議會内ニ於ケル從來ノ社會主義者沈黙シアリシヲ以テ終ニ國民側ノ急進主義者ト社會主義者トノ間ニ確執ヲ生シ國內ハ亂調ヲ呈スルニ至レリ

第五款 國家

伊、埃ノ政界トノ比較

前ニ論述セル如ク埃、伊兩國ノ主ナル病態ハ代議政體カ惡化シテ議場ヲ以テ單ニ箇人ノ名譽及利益ヲ獲得スヘキ競争場ト爲スニ至リシ點ニ在ルモ新時代ノ佛國ハ既ニ其ノ時代ヲ經過シ彼ノ埃國カ國民ノ結合ニ力ヲ費シ伊國カ國家統一ニ苦慮セサルヘカラサルカ如キ困難ハ既ニ中世紀ニ於テ解決ヲ告ケタリ然ルニ佛國ノ現代ニ於ケル難題ハ政治上及社會上ノ自由ニ關スル諸件ナリトス而シテ茲ニ附記スヘキハ佛國行政ノ鞏固ニシテ秩序アルコト是ナリ此ノ行政法ハ公共生活ノ骨幹トシテ專制政治以來今日迄繼續シ憲法上ノ危機ニ於テモ影響ヲ受クルコトナカリキ然リト雖伊、埃ト略同シク佛國ノ政界ハ惡化シ始メ確乎タル黨制ナク英國流ノ前例ヲモ有セスシテ徒ニ政府ヲ弄シ政府ハ恰モ遊戯用ノ球ノ如ク轉々シ内閣ノ更迭頻繁ナリ即チ第三次佛共和國ハ過去四十年間ニ五十ノ内閣ヲ見ルニ至レリ而モ此ノ間多數ノ出來事アリ即チ千八百九十二年—九十三年ノ「バナマ」事件、千八百九十四年ヨリ千九百

徒ニ政爭ニ没頭ス

政界ノ缺陷

六年ノ「ドントフス」事件、千九百七年及千九百十一年ノ戰艦艦爆破事件等其ノ主ナルモノニシテ議會及司法ノ威信ヲ動搖セシメタリ實ニ佛國ノ海軍力ハ獨國及米國ノ下風ニ落テ漸ク第四位ヲ保持又陸軍力ニ於テハ獨國ト僅ニ同一步調ヲ保タムカ爲ニハ國民ニ三年兵役ヲ課セサルヘカラサルノ時機ナルニモ拘ラス政界ニハ無政府主義蔓延シ延テ國力ヲ阻碍セムトスルノ情況ヲ呈スルニ至レリ巨細ニ強國トシテノ佛國ヲ判斷スルニ其ノ人口ハ益減少シ僑人主義ノ思潮ハ蔓延シ其ノ基礎危シト謂ハサルヘカラス而シテ多クノ缺陷ノ發スル原因ハ實ニ政體其ノモノノ不備ナルニ基クモノナリ佛國今日ノ憲法ハ千八百七十五年制定セラレタルモノニシテ共和制ナレトモ政界ノ中心勢力ハ漸次中央部ニ集中セリ而シテ下人民ニ自由思想ノ發達スルニ從ヒ上爲政者ノ管理監督モ亦愈嚴格ナルヲ要ス是佛國行政ノ鞏固ニシテ秩序ヲ有スル所以ナリ故ニ佛國ハ表面共和國ニシテ其ノ實質ハ帝政國ナリ

官僚主義ト共和主義ノ衝突

「フアールベック」氏曰ク同一憲法ノ下ニ異リタル國體ヲ見ムコトハ不可能ナリト然ルニ現代佛國ニ於テハ一方民主主義者ハ益共和ノ精神ヲ深クシ一般ニ自治ヲ鼓吹セルニ拘ラス他方ニハ帝國黨ノ分子ハ依然同國古來ノ歴史ヲ理想トシ以テ共和主義ニ對抗ス是ニ於テ民主主義ト官僚主義トノ衝突行ハレ目下ハ一見前者ノ勝利ヲ占ムルカ如キモ其ノ勝利タルヤ必スシモ決定的タルニアラスシテ政界ノ内面ハ渾沌タリ徒ニ永年ニ亘リ政界ノ不穩ナリシニ僥ニ社會ノ平和ヲ得ムト欲スル多數ノ者ハ有力強勢ナ

第三次佛國共和政府ノ永ク繼續スル理由

ル司政者ヲ渴望スルニ至リ「モーリスパレ」氏ノ著書ノ如キハ能ク其ノ思想ヲ表明シタリ千九百十三年ノ大統領ノ改選ニ「ボアンカロー」氏ヲ舉ケタルハ蓋シ政治上ニ於ケル同思想ノ實現ト謂フヘシ然レトモ果シテ以上ノ要求カ永久ニ亘リテ現在ノ政體ノ範圍内ニ於テ充足セラルヘキヤ否ヤ尙將來ノ問題ナリ然リ而シテ第三次佛國共和政府カ有ラユル困難ニ際會シ且失敗ヲ重ネタルニモ拘ラス既ニ殆ト半世紀ニ亘リ繼續シタルノ眞因ハ政府カ他面ニ於テハ國民ノ欲望ヲ満足セシムル方法ニ通達セルニ在リ即チ政府ハ外部ニ對スル光彩ヲ以テ内部ノ紛亂ヲ巧ニ修飾シアルコト是ナリ實ニ政府ハ對外政策ヲ大規模ニ斷行シ其ノ結果トシテ遂ニ世界第二位ノ植民國タルニ至レリ

第六款 對外政策

對獨復讐政

第三次ノ共和政府ノ成立以來今日ニ至ル迄對外政策ノ主眼點トナスモノハ獨國ニ對スル復讐ニ在リ然ルニ茲ニ留意スヘキハ歴史ヨリ見ルモ地理上及人種上ヨリ觀察スルモ「アルサス」ハ却テ獨逸ニ近キコト是ナリ是ヲ以テ復讐政策ノ欲望モ其ノ基礎ハ甚シク鞏固ナラス從テ時代ノ經過ニ伴ヒ聲ノミ大ニシテ實性ヲ失ヒタルノ觀アリ其ノ證據トシテハ「ハント」氏ノ外交政策ニ從ヒ千八百九十四年阿弗利加「コンゴ」ニ於テ獨國ト提携シテ英國ニ當リ千八百九十五年日本ニ對スル三國干涉ノ際獨露ト合同シタリ固ヨリ露國ト同盟ヲ結ヒテ全國民ノ同情ヲ得タルハ確ニ復讐心ノ發露ナルコトハ言フ

俟タサル所ナリ然ルニ社會主義ヲ抱持スル有力者ノ一部ハ公然獨國ニ對スル復讐觀念ヲ有セサルヲ表
明シタリ

千九百九十
年以後伊國
トノ關係

親英カ親獨
カ

佛國ハ千八百年初期ヨリ領土問題ヨリシテ英、伊兩國トノ間親善ノ度漸ク薄ク(伊國ニ對シテハ)ト
リポリー」事件、英國ニ對シテハ埃及事件以來)其ノ他佛國人勞苦ノ賜物タル「スエス」運河ノ如キモ途
ニ政治上並經濟上ニ於テ競争者タル英國ノ手ニ歸シ爲ニ佛人ハ皆憤懣セリ實際第十九世紀ト第二十世
紀ノ交、佛國ニ於テハ次ノ問題發生セリ即チ「アルサス」ヲ犧牲ニ供シテ獨國ト結フヘキヤ或ハ埃及ヲ
捨テテ英國ニ近ツクヘキヤ是ナリ而シテ千八百九十八年英、佛間ニ「フアシヨダ」事件起リ遂ニ佛國
ノ讓歩ニ依リテ解決ヲ告ケタルモ此ノ間佛國ハ暗ニ獨國ト接近ノ意ヲ有シタルモノノ如ク思ハレタ
リ

「デルカッ
セ」氏ノ親
英政策

然ルニ獨國トノ接近ヲ妨ケテ全然他ノ軌道ニ外交方針ヲ轉シタル者アリ外相「デルカッセ」氏はナリ既
ニ英國カ南阿戰爭ノ爲困難ヲ感シアリタルトキ之ヲ佛國ノ爲利用シテ英國ト衝突ヲ醸ササリシハ同氏
カ以前ヨリ英、佛ノ接近ヲ豫期シアリタル證左ナリ而シテ親英ノ傾向ハ千九百四年ノ英佛協商トナリ
テ現ハレ同協商ニ依テ埃及ト「モロッコ」ニ關スル一切ノ懸案ハ解決シ其ノ他全世界上ノ英、佛間ノ聲
隙ヲ除去シタリ佛國ハ他日「ナイル」河ヲ渡リテ斜ニ紅海ノ沿岸ニ通スル大植民地ヲ造ルヘキ理想ハ
「フアシヨダ」事件ニ依テ破壞セラレタルモ其ノ代價トシテ阿弗利加北岸ノ現在ノ富有ニシテ好位置

ヲ占ムル領土ヲ得ムトスル新膨脹政策ヲ採用スルニ至レリ

「モロッコ」
問題

然ルニ右ノ新政策ヲ實現スルニ際シ獨國ノ妨害ニ遭遇セリ(千九百五年「タンジエー」事件、千九百十
一年「アガデル」事件)之カ爲佛國ハ頗ル難境ニ立チシモ千九百十二年遂ニ目的ヲ達スルヲ得タリ而シ
テ「ミレー」氏ノ所謂償還政策ハ英國トノ協約以前ニ於テ伊國ノ爲「トリポリー」ニ對スル野心ヲ破
壞セラレ續テ阿弗利加北岸ナル選定セル地域モ西班牙ノ爲損失ヲ蒙リシカ最後ニ至リ「モロッコ」事件
ノ結末ニ及テ「コンゴ」國ノ大部ヲ獨國ニ與ヘサルヘカラサルニ至レリ殊ニ千九百五年及千九百十
一年ニ於テ獨國ニ對シ戦争準備ヲ行フニ際シ支出セル費用モ亦莫大ナリキ

右ノ「モロッコ」事件以後佛國ハ獨國ノ妨害ヲ深ク遺恨トシ茲ニ新キ獨國ニ對スル熾烈ナル復讐心ヲ
勃發シタリ是ニ於テカ益「アルサス、ローレン」ノ故事ヲ回想スルト同時ニ千九百十一年ノ危機以來
國民ノ意思ハ強度ノ高潮ヲ示シ從來沈滞セシ意氣ハ再ヒ活氣ヲ呈シ軍事上ノ自信力亦加ハリ軍隊ノ威
信ハ舊時ト等シク増大シタリ而シテ露國ノ同盟、英國ノ友情及第四ノ武器(航空機)ノ優勢トニ信賴
シ佛國ハ恰モ千八百七十年昔、佛開戦前ト等シキ狀況ヲ見ルニ至レリ

利權擴張

國民ノ自信力ノ高マルト同時ニ近東方面ニ於ケル佛國最近ノ外交亦活氣ヲ呈シタリ由來佛國ハ第五ノ
武器タル海外投資ヲ利用シ千九百十四年「シリヤ」ニ於ケル鐵道敷設權ヲ獲得シタルノミナラス其ノ
利益圈區ヲ遠ク黒海ノ小亞細亞沿岸迄擴大セムト企テテ遂ニ成功シタリ又露佛同盟ハ第十九世紀ト第

五〇
二十世紀ノ交ニ於テ一時其ノ結束ヲ緩メタリシカ佛國カ上述ノ發展ヲ遂クルノ間再ヒ露、佛兩國ノ關係ハ緊要トナリ英國トノ協商モ其ノ效果空シカラス千九百十三年西班牙モ亦英、佛側ニ傾キ始メタリ之ニ反シ佛國ノ地中海ニ於ケル活躍甚シキヲ加フルヤ(是伊國ノ「トリポリ」)遠征ニ對スル反動的作用ナリ)佛、伊兩國ノ關係漸次險惡トナレリ

内部ノ不確
實
佛國ノ全政局ヲ微細ニ觀察スルトキハ内部ノ不確實ナル徵候ヲ認メ得ヘシトハ千九百三年新ナル危機ニ迫リシトキ「シーマン」氏ノ確言セル所ナリ元來露佛同盟ノ如キハ其ノ根柢單ニ外交上特種ノ目的ノ爲ニ締結セルモノニ過キスシテ當時佛國內ニテハ露國ノ舊式政治ヲ批難シタルモノアリタリ又英國トノ協商ノ如キモ其ノ實英國ハ佛國ノ阿弗利加及亞細亞ニ於ケル發展ヲ喜ハサルナリ而シテ「モロツゴ」問題ニ對シテハ協商ノ目的ヲ達セルモ獨國ニ對スル復讐ヲ實行スルニ際シ果シテ英國ヨリ援助ヲ受クルヲ得ヘキヤ否ヤハ疑問ニシテ佛國ノ不安ナラサルヲ得サル所ナリ
多クノ徵候ニ依ルモ佛國ニハ依然復讐政策現在ス即チ國民一般ノ間ニ復活セル自信力、英國トノ協商ヲ同盟ニ變スヘキ提議(最後ハ千九百十四年「ラヴィス」氏ノ發言)、獨國ニ對スル戰備ヲ完フスル爲ニ三年兵役採用(千九百十三年)等ハ其ノ實證ナリ然レトモ茲ニ又看過スヘカラサルコトハ一部ノ青年者間ニ親獨主義思潮ノ暗流アルコト是ナリ千九百十三年「マルセルセンバ」氏絶叫シテ曰ク王ヲ作ルカ然ラスムハ平和ト是一ノ通牒ニシテ同時ニ平和ノ保障ト見ルヘキナリ共和政府ノ爲政者ハ縱令戰勝ヲ

不自然ナル
海外發展政
策

博スルモ國民ノ民主的精神弛緩スルトキハ却テ共和政體ニ大ナル危機ヲ激成スルコト恰モ敗戦ノトキト等シキ結果ニ陥ルヘキヲ憂ヒツツアリ
是ニ由テ之ヲ觀ルモ共和政治ト復讐トハ根柢ニ於テモ事實ニ於テモ相一致スヘキモノニアラサルヘシ現代ノ佛國ヲ達觀スル者ノ等シク驚異ヲ感スル所ハ大々的規模ノ發展政策ヲ標榜スル國家カ其ノ實人口ノ減少スル社會ヨリ成立セル點ナリ
凡ソ或ル國家カ大ナル植民地ヲ領有スルニハ明確ナル理由ヲ有セサルヘカラス而シテ植民地ヲ領有セサルヘカラサル理由トハ即チ過剩ノ人民ノ住地或ハ過剩ナル生産物ヲ賣却スル市場若ハ過剩ノ資本ヲ投スル土地ヲ求ムルカ爲ナリ然ルニ佛國ハ人民モ生産物モ過剩ヲ示サス資本ハ直接他國ニ投セラレツツアリ是ヲ以テ物質主義ニ觀察スレハ佛國ノ發展政策ハ拙劣ナル商賣ナリ而シテ佛國ノ本國ハ唯纒ニ嚴密ナル關稅制度ニ依リ植民地市場ノ利益ノ一部ヲ掌裡ニ收メ得テ満足スルノミ然ラスムハ發展政策ノ利益ハ僅ニ植民地ノ土民兵ヲ以テ母國ノ軍備ノ不足ヲ補ヒ得ルヲ以テ満足スル程度ノモノニ過キス

佛國ノ將來
佛國ハ人民ノ遞減スル結果遂ニ大規模ノ發展政策ノ爲十分ノ財源モ人員モ供給スルヲ得サルニ至ルヘキ情勢ニ在ルニモ拘ラス徒ニ弱者タルノ空名ヲ追ヒ外觀上ノ繁榮ヲ繼續スルニ汲々タルモノナリ

第四章 獨 國

第一款 國史梗概

現代式國家ヲ造リタル以後ノ獨逸帝國ノ年輪ハ伊太利ヨリモ若シテ而シテ埃國ト等シク中世ノ獨逸大帝國ノ配下ニテ發展シタル普魯西ハ其ノ發芽地ナリ

中世ノ獨逸大帝國ハ其ノ國會ハ「レーゲンスブルグ」ニ、政府ハ「ウキーン」ニ在リテ國家ノ重點ハ南方及東南方地方ニ存セリ

「フランドル」
「ブルグ」
ノ結合

「フリードリヒ」
大王
ノ事業

獨逸同盟

中世紀ノ末期「フランドンブルク」ノ結合漸ク鞏固トナルニ至ルヤ北方ニ新中心地ヲ實現セリ第十七世紀ノ中葉「フランドンブルク」ハ波蘭ヨリ獨立シ爾後五十年ニシテ普魯西王國ヲ建設シ更ニ爾後五十年間ニ於テ散在セル領土ヲ逐次「ホーヘンツォルレルン」王家ノ支配下ニ糾合シ第十八世紀ノ中葉「フリードリヒ」大王ノ治世トナルヤ普魯西ハ大ナル發展ヲ遂ケテ歐洲ノ一大強國タルニ至レリ時ニ「グスターフ、アドルフ」ノ建設セル瑞典ノ勃興ニ後ルルコト百年餘ナリ

奈翁カ西南方獨逸ニ構成セシ「ライン」同盟瓦解シ普魯西ハ赫々タル武威ニ依テ遂ニ其ノ沒落ノ狀態ヨリ崛起スルヤ即チ「ウキーン」會議ニ於テ二箇ノ強國即チ普、埃兩國ハ新ニ獨逸同盟ナル名稱ノ下ニ結合セラレタリ此ノ獨逸聯邦ノ總人口ノ六分ノ五ハ獨逸民族ヨリ成立シ其ノ南北地方ハ稍平衡ヲ保

持シ地理上ノ中心地ハ「フイヒタル」山地ノ中部ニ、政治上ノ中心地ハ國民ノ中心ニ近キ「フランクフルト、アム、マイン」ニ存シタリ尙茲ニ注意スヘキ一事ハ此ノ聯邦ノ國境線ノ殆ト四分ノ一カ海ニ面セルコト是ナリ

北獨逸聯邦

南獨逸ノ併合

然レトモ獨逸民族ハ今ヤ普魯西王室ヲ中心トシテ其ノ結合ヲ固クセリ即チ千八百四十八年ヨリ千八百五十年ニ亘ル間革命亂アリシモ其ノ不成功ニ終ルヤ普魯西ノ王室ハ國民ノ集結事業ヲ完成シ先ツ千八百六十七年北獨逸聯邦ヲ建設シ「マイン」河ノ線ヲ劃シテ獨逸民族ヲ南北兩部ニ分割セリ千八百七十年普魯西戰爭ノ終局ヲ告クルヤ最後ノ解決ヲ行ヒ爾後同聯邦ハ南獨逸ノ西半部ヲ併合シタルモ其ノ東半部ハ依然埃國ノ領域トシテ存置セリ

現今ノ獨逸帝國ニ於テハ南獨逸地方ハ全體ノ四分ノ一ヲ成スニ過キスシテ地理上ノ中心點ハ「マグデブルグ」ニ、政治上ノ中心ハ伯林ニ移轉シ又同時ニ「シユレスヴヒ」ヲ併合セルヲ以テ海岸線ハ延長シテ全國境線ノ約三分ノ一ヲ占ムルニ至レリ此ノ獨逸ノ發展ニ於テ吾人ハ二箇ノ特長ヲ發見セリ北方ニ向テスル移動及海事能力ノ増加是ナリ

佛國全部ノ河川ハ國內ニ於テ四方八方ニ放線狀ニ貫流シアルニ反シ中歐諸國ニ於テハ一方「ドナウ」河ノ水系ニ屬スル河川ハ東南方ニ流レ北海及東海ニ注ク諸河川ハ北方ニ向テ走レリ從テ獨、埃兩國ノ地勢モ亦其ノ方向相反ス即チ全部ノ河川ハ二方面ニ限定セラレ水流ノ反スル所獨、埃兩國地勢ノ反ヲ

地勢上ノ弱點ハ國力統一上不利ヲ來タセリ

第四章 獨 國

愛郷心

來タシ地勢ノ反ハ兩國ノ情勢ニ影響ス實ニ此ノ水系ノ狀況ハ獨國國力ノ集結ニ裨益スル所頗ル大ナルモノアリト云フヲ得ヘク獨國ノ統一ニ際シ埃國在住ノ獨逸人ヲ聯邦ニ加入セシメサリシ原因モ亦實ニ此ニアリ然ルニ後ニ至リ南獨逸ノ西半部ヲ獨逸聯邦内ニ入レタリト雖一ニ北方ニ流ルル「ライン」河ノ流域カ聯合ヲ容易ニスルノ狀況ニ在リタルカ爲ニシテ「ライン」水系ノ十分ニ到達セサル「バイエルン」地方ニ於テハ今モ尙愛郷心(即チ大局ニ著眼セス只管自己ノ郷國ノ利害ニノミニ留意スル思想)ノ蔓延セルヲ認ムルナリ

重點ハ北獨逸ニ在リ

是ニ由テ之ヲ觀レハ獨國ハ常ニ北方ニ向テ發展スルノ傾向ニアルヲ知り得ヘシ而シテ北部ニハ國內ノ核心ヲナス平地低地連互シ更ニ北方ニハ大西洋ニ通スル海洋ヲ控ヘ世界ノ演劇場ニ進出スヘキコトヲ德逸セルニ似タリ是獨國カ從來大ナル陸軍ヲ擁シタルニ係ラス世界第二位ノ海軍國タルヲ得ルニ至リシ所以ナリ

詩人及思索家ノ國

獨國ニ於ケル一般義務兵役ノ採用ハ其ノ統一事業ノ重大ナル素因ニシテ嘗テハ詩人及思索家ノ國民タリシ獨國モ一變シテ民族主義ノ名目ノ下ニ武裝セル國民トナレリ

軍國皆兵

其ノ戰勝ヲ得ルヤ一般義務兵役ノ採用ハ寧ロ平和ノ恩惠ヲ享有セムカ爲ノ先決手段ナルコトヲ覺知スルニ至レリ而シテ又戰場ニ於テ熟練ナル指揮ニ依リ軍隊ノ團結ヲ維持シ得タル嚴肅ナル軍紀ハ今ヤ一轉シテ労働者組織ノ上ニ及ヒ此ノ組織ノ完成ハ工業、生産品ノ増大ニ裨益スル所尠カラス又五十億法

生産過剩

ノ價金ハ之ヲ事業ノ資本ニ活用セラレ國內ノ生産品ハ漸次過剩ヲ生シ國外ニ販路ヲ求メサルヘカラサルニ至リ斯クテ獨國ノ海外貿易ハ世界市場ノ占有ヲ目的トスルニ至レリ然ルニ貿易發展ノ爲ニハ生産原料ノ自給ト確實ナル販路ノ保證トヲ必要トシ從テ植民地領有ノ希望ヲ起シ次ノ三時期ヲ劃シテ其ノ目的ヲ達成セリ

植民地獲得

- 一 千八百八十年代ノ中葉阿弗利加及南洋諸島ノ領有
- 二 千八百九十年代ノ末期南洋諸島及膠州灣ノ領有
- 三 千九百十一年ニ於テ再ヒ阿弗利加ノ領有

此等海外ニ植民地ヲ有スルニ至リタル結果大ナル艦隊ノ必要ヲ感シ十九世紀ノ末葉ヨリ漸次之カ擴張ヲ企圖スルニ至レリ

斯ノ如クシテ獨國ハ漸次獨逸帝國トシテ世界ノ強國タル形態ヲ具有セシメムコトヲ努メタリ而シテ伊國ノ如キハ國家統一以來各般ノ事業同時ニ起リ殆ト應接ニ暇ナカリシニ反シ獨國ハ一事件ノ落著スルヤ他ノ新ナル事件序ヲ追フテ發生シ逐次之ヲ完成スルヲ得タリ而シテ普佛戰爭ノ結果ハ遂ニ能ク今日ノ大工業及世界貿易並偉大ナル陸海軍ノ發達ヲ來タスニ至レリ然レトモ此等發展ノ背後ニハ形而上形而下ニ大ナル勢力統一セラレ必然起リ來ルヘキ雄圖ノ潜在ヲ認メスムハアラス

第二款 地理

第四章 獨國

四洲皆強國
ト其ノ影響

軍國主義ノ
必要ト對外
政策ノ特徴

國境線ノ自
然

獨國ハ歐洲ノ中央國ニシテ四方皆列強ノ包圍スル所タリ是ヲ以テ外部へ膨脹スルコト容易ナラス之カ
爲最初ヨリ世界政策上ノ利益ト歐洲大陸政策上トノ間ノ二重體ニ陥リアルハ獨國狀態ノ特徴ナリトス
斯ク同國ハ四圍ヨリ壓迫セラレアルカ故ニ歐洲全般ノ形勢ニ最密接ナル關係ヲ有スルコト到底他國
ノ比ニアラス若夫レ獨國ニシテ世界ノ競争ニ參加セムト欲セハ歐洲諸國ニ於テ成立シ得ヘキ各種ノ同
盟ニ對抗シ得ル十分ナル國力ヲ具備セサルヘカラス而シテ獨國カ諸強國ノ中央ニ位シアルノ關係ハ同
國カ軍國主義ニ傾キ又其ノ外交政策カ一見不確定ノ如キ觀ヲ呈スル所以ナリ而シテ國內ニハ鐵、石炭
ノ産額多キモ不毛ノ地亦少カラス實ニ地理學上ノ觀察ヲ以テスレハ獨國ハ佛國ニ比シ大ナル弱點ヲ有
ス西方ニ存在スル「ライン」河ハ塊國ノ「ドナウ」河、露國ノ「ワイクセル」河ト等シク單ニ其ノ中流ヲ領
有スルニ過キスシテ海上發展ノ爲ノ門戸ハ悉ク閉塞セラレ其ノ他同方面ノ國境ハ瑞西「ルクセンブル
ク」、白耳義、和蘭等ニヨリテ阻絶セラレ僅ニ「エルザス」ノ一門戸開放スルノミ東方ニ於テハ獨國ノ
「ワイクセル」河ニ對スル關係ハ和蘭カ「ライン」河口ヲ閉塞セルニ等シク更ニ其ノ東方「メーメル」河モ
其ノ關係同一ナリ斯ノ如キヲ以テ獨國ハ地勢上「スラブ」民族トノ接觸ヲ絶ツコトナシ難ク北方ヲ見
ルニ丁抹ノ存在ハ全然東海ト北海トヲ分斷シ千八百九十五年「キール」運河ノ開通ニヨリ幾分カ其ノ
不利ヲ輕減シ得タリト雖尙獨逸ノ爲不利ナルコト甚シク特ニ丁抹國カ大「ベルト」海峡即チ東海ヨリ
北海へノ外門ヲ扼セルコトハ頗ル獨國ノ痛痒ヲ感スル所ナリ是英、獨開戰ノ曉ヲ想到スルトキハ決シ

テ無意味ナル配慮ニアラサルナリ更ニ南方ニ就テ考察スルトキハ一弱點ノ存在スルヲ認ムヘシ即チ瑞
西ハ「ペーゼルスタット」及「シヤフハウゼン」ニ於テ「ライン」河ノ北岸ヲ領シ「バイエルン」ノ國
境ハ更ニ數箇ノ河川ニ依リ切斷セラレ塊領「ペーメン」トノ國境ハ「エルベ」河ヲ橫斷シ而モ「エル
ツ」山脈ノ北麓ニ亘レリ此等ハ皆隣邦ニ利ニシテ獨國ノ不利タラスムハアラス獨國國境ノ景況ノ不利
ナルコトハ列強中實ニ塊國國境ノ不自然ナルニ相次ケリ
之ヲ要スルニ伊、佛兩國ハ地勢上一國ノ完成ヲ認ムルモ獨國ハ全般ノ形體未成品タルヲ免レサルナリ

第三款 國民

獨國モ亦伊國ト等シク國外ニ獨逸人ノ分子ヲ有ス而シテ現今世界ニ於ケル獨逸種族ニ屬スル者ノ總數
ハ和蘭人ヲ合スレハ一億萬人ニ達シ其ノ内獨逸帝國内ニ住スル者ハ六十「プロセント」ヲ占メ塊國內
ノ獨逸人ハ一千萬、瑞西内ノ獨逸人ハ二百六十萬人ニシテ兩者ヲ合スレハ全部ノ十七「プロセント」
ヲ算ス瑞西ノ獨逸人ハ全ク獨國ニ心ヲ寄セス塊國ハ單ニ政治上一定ノ條件ノ下ニ於テノミ獨國ト結合
セムトシツツアリ然レトモ若塊國內ノ獨逸人ニシテ全獨逸民族統一ノ冀望ヲ實現スルニ至ラムカ即チ
獨逸種族ハ合同シテ地中海ニ向テ突出シ始メ先ツ中途ニ存在セル弱點ナル「スラブ」人種ノ「スロヴ
エネン」人ヲ排シテ「アドリヤチック」海ヲ門戸トスルニ至ルヘシ「ビスマルク」モ「トリエスト」
ヲ名ケテ曰ク獨國ノ自然ナル外港ニシテ地中海方面ニ面スル窓ナリト以テ其ノ意ヲ察スルニ足ラ

全獨同盟

獨逸種族ノ
總數ト其ノ
細別

種族ノ結合
状態

獨國內ニ於ケル種族全部ノ結合ハ先ツ可良ニシテ其ノ異種族ニ屬スル者ハ僅ニ七・五「プロセント」ニ過キス而シテ獨逸同盟ノ時代ニ於ケル獨逸民族ノ數ハ全國民ノ八十三「プロセント」ナリシカ現今ノ獨逸帝國ハ一躍シテ九十二「プロセント」ニ達シタリ其ノ異種族ニ屬スル者ヲ舉クレハ「デンマーク」人約十五萬、佛國人二十萬アリ又「スラブ」人種ハ其ノ數最多ク之ヲ細別スレハ「リタウネン」人十萬、波蘭人約四百萬人ニ達ス

「デンマーク」人ノ反
獨思想

「シユレスヴツヒ」ニ於ケル「デンマーク」人種ハ「デンマーク」國カ外交上ノ同情ヲ獨國ニ向ケスシテ却テ英國ニ向ケタルニ與テ盡力セリ蓋シ「シユレスヴツヒ」ノ運命ハ國民ノ投票ヲ參酌シテ決スヘキコトヲ「ブラーグ」ノ平和條約ニ於テ定メラレタルニ拘ラス此ノ制定カ千八百七十八年撤回セラ
ルルニ至リ益「シユレスヴツヒ」ニ於ケル「デンマーク」人種ノ反獨思想ヲ助長セリ

對「エルザ
ス」政策

「エルザス」ニ關スル佛國ノ復讐觀念ハ年來ノ難問ニシテ終始獨國ノ對外政策ニ累ヲ及ホセリ而シテ獨國內ノ佛國人種カ既ニ久シク佛國ニ復歸セムコトヲ希望スルモノアルニ於テ益然ルヲ覺エルナリ最近ニ於テ千九百七年「デンマーク」ト條約ヲ締結シテ國籍不明ノ「デンマーク」人ヲ處置シ又千九百二年及千九百十一年ニ於テ「エルザス、ロートリンゲン」ニ關スル法規ヲ改正シテ同地ニ他ノ獨逸聯邦諸國ト同一ノ資格ヲ與ヘ以テ此等ノ紛糾ヲ緩和スルノ處置ヲ講シタリ而シテ將來「エルザス」人ニ

「エルザス」
人ハ早晚獨
逸ニ同化ス
ル傾向ヲ有
ス

獨逸ニ對スル愛國心ヲ抱持スルニ至ラシメムコトハ單ニ時日ノ問題ニ過キス何トナレハ統計上獨國內ノ佛國人種ハ獨逸人ニ比シテ人口増殖率少キカ故ニ早晚彼等ノ人口ハ減スルニ至ルヘク遂ニハ獨逸人ニ同化セラルヘキヲ以テナリ

對波蘭人間

是ニ由テ之ヲ觀レハ西方及北方ニ對シテハ大ナル考慮ヲ要セサルモ之ニ反シ東方地方ニ於ケル獨逸民族ノ大ナル減少ハ大ニ注意ヲ拂ハサルヘカラス即チ一度眼ヲ東方國境ニ向ケムカ露、獨互ニ變入シ「スラブ」、「ゲルマン」兩民族ノ混淆錯綜甚シキモノアルヘキヲ想見スヘシ而シテ「ベーメン」地方ニ於テハ未タ「スラブ」民族カ獨國國境ヲ越エテ侵入スルニ至ラスト雖東部地方ニ於テハ大ニ之ト趣ヲ異ニシ夥シキ多數ノ波蘭人ハ上部「シユレジュン」、「ポーゼン」、西普魯西ニ侵入シ殊ニ東普魯西ニ於テ甚シク此地ニ於ケル獨逸民族ハ「スラブ」人ヨリ成ル海上ノ島ノ如ク點々散在セルヲ見ルヘシ但シ其ノ狀況ハ露領波蘭ニ於テモ同様ナリ實ニ獨逸人モ亦遠ク露領波蘭及其ノ東方ニ侵入シ殊ニ該地ノ都市ニ於テハ獨逸人ノ勢力又決シテ侮ルヘカラサルモノアリ此等ハ自然ナラサル國境ニ存スル普通ノ状態ト云フヘシ又「メーメル」河ニ沿フ地方ニ於テモ「リタウネン」人流入シアレトモ此ノ少許ナル農民種族ハ大ナル顧慮ヲ要セス之ニ反シ獨國領内ノ波蘭人ハ文化開ケ其ノ社會狀態發達シ練磨ヲ經タル新聞雜誌ヲ有シ其ノ他獨立時代ヨリノ傳説ヲ繼承シアリ是ニ於テカ對波蘭人間問題ハ獨國內治上最配慮ヲ要シ且重大ナル案件タルヲ失ハス

露國內ノ波蘭人ハ其ノ政府ノ強壓ヲ蒙リ何等活動ノ餘地ナク埃甸國內ノ波蘭人ハ之ト反對ニ稍好遇ヲ受ケテ比較的穩健トナリ居レルモ獨國內ニ在住セル千五百萬ノ故郷ナキ波蘭人ハ常ニ獨立運動ヲ企圖シ不穩ノ情勢ヲ激成シツツアルハ獨國ノ最困却シアル所ナリ是ヲ以テ獨國ハ曩ニ其ノ防衛手段ヲ講シ千八百八十六年以來移民委員ヲシテ獨國ノ移民及官有地ノ爲ニ波蘭人ノ所有スル土地ノ買収ヲ行ハシメ政府ハ多額ノ補助金ヲ之ニ支給シタリ又千八百九十四年以來波蘭ノ獨立主義ノ宣傳ニ反抗スル遊説ヲ行ヒシモ成果ハ其ノ努力ヲ償フニ足ラス波蘭人ノ潛勢力ハ終始不斷増大シツツアリ「ポーゼン」ニ於テハ今日ヨリ五十年前ニハ獨逸人ト波蘭人トノ勢力ハ相均衡セシモ二十世紀ノ當初ニ於テハ獨逸人ハ既ニ「ベーメン」ト均シク少數者ノ地位ニ墜テ爾後益其ノ地位ハ下降スルノ傾向アリ以上ノ如キ現狀ノ爲多少程度ノ差異コソアレ獨國內ニ於テモ亦埃甸ト等シク異分子間ノ軋轢ヲ免レサルナリ是主トシテ東方國境線ノ位地不自然ナルニ基因セルモノト云フヘシ

獨逸民族ノ出生率ト死亡率トノ比較ヲ對照スルトキハ前者ハ後者ヨリ一・四「プロセント」多ク西部歐洲諸國ヨリハ好況ヲ呈ス而シテ特ニ注目スヘキハ獨國ハ其ノ國內ニ於テ増殖スル人民ヲ巧ニ利用シツツアル事實是ナリ千八百八十年代ニ於テ其ノ國外移民數ハ莫大ナリシモ現今ハ比較的頗ル少數ノ移民ヲ國外ニ出タスニ過キス此ノ狀態ハ多クハ健全且強勢ナル社會ヲ有スルコトヲ立證セルモノト謂フヘシ

第四款 社會

獨國ノ農業家ハ銳意活動スルモ既ニ多年國民所要ノ食料ヲ完全ニ供給スルコト能ハサルハ年々莫大ナル穀類ヲ露國ヨリ輸入スルヲ以テモ之ヲ推知スルニ難カラス獨國カ此ノ困難アルニモ拘ラス能ク過剩ノ民衆ヲ保持シツツアル所以ノモノハ主トシテ工業ノ發展ニ歸セサルヘカラス

同國內ノ農業ノ狀態ハ大別スレハ二アリ即チ東部地方ニ於テハ巨大ナル封建式農場アリテ幾多ノ豪族之ヲ領有ス是等ノ豪族ハ保守黨ノ核心ニシテ國家ノ膨脹政策ニ對シテハ同情ヲ有セス之ニ反シ西部地方ハ土地ヲ多數ノ小ナル耕地ニ區分セラル然レトモ西部地方ノ重點ハ農業ニアラスシテ寧ロ大規模ナル工業ニ存ス而シテ該工業ハ東南地方「シユレジエン」及南部地方「ザクセン」等ノ石炭ノ供給ヲ仰キツツアリ即チ獨國ノ莫大ナル工場製作品ヲ產出スル地方ハ主トシテ西部地方ナリ而シテ千八百七十六年米國「フイラデルフィア」ノ萬國博覽會ニ於テ獨國製品ハ粗惡ニシテ安價ノ評ヲ受ケシモ其ノ後漸次改良ニ努メ現時ハ獨國ノ製品ハ世界市場ニ益販路ヲ擴大スルニ至レリ最近ノ工業ニ關スル理想ハ頗ル進歩的ノモノニシテ獨國ノ世界政策植民及製鐵計畫ニ資スル所頗ル大ナルモノアルノミナラス能ク時代ノ要求即チ人口過多ニヨリテ生スル困難ヲ融和スルニ適應ス

獨國ノ經濟界ハ農工業兩者ノ間ニ立チテ能ク活動ス而シテ各種ノ利害關係ハ重要ナル問題ニ達著スル工業立國カ 毎ニ彼此衝突ヲ起シ關稅政策、交通政策、財政政策（千九百九年帝國財政ノ改革ヲ行ヘリ）等ニ於テモ

第四章 獨國

或ハ農業立
國カ

論難ヲ極メタリ二十世紀ノ當初ニ於テ獨國ハ將來農業國トナルヘキヤ將タ又工業國ニ變スヘキヤ國民
經濟ヲ繼續スヘキカ或ハ世界經濟ニ移ルヘキヤノ岐路ニ立チシカ實際ニ於テ爲政者ハ中庸主義ヲ執リ
情勢ニ從テ巧ニ處理シ其ノ結果ハ經濟上ノ統計ニ現ハルル所ト對照スルモ當事者カ能ク其ノ任ニ堪エ
適宜ナル處置ニ出テシコトヲ認ムルヲ得ヘシ

獨國人ノ富
ノ活用法ノ
佛國人ト相
異スル點

獨國ノ社會モ佛國ト等シク能ク繁榮シ且富裕ナリト雖佛、獨兩社會ノ富ノ活用法ニ逕庭アリ即チ佛國
民ハ其ノ貯蓄金ヲ以テ國債ニ應スルモ獨國人ハ之ヲ新ナル企業ニ轉用ス是實ニ停滯セル社會ト活躍セ
ル社會トノ差別ヨリ生スル現象ナリ獨國ノ社會ハ未タ貯金ノ利息ニ依テ安穩ニ生計ヲ立ツルカ如キ
老衰期ニ達セス然ルニ千九百十一年(即チ「モロツコ」事件ノ際)佛國カ突然獨國內ニ投シアリタル全資
金ヲ回收セムトスルヤ當時獨國ハ諸種ノ企業ニ向テ投資シ盡セル結果トシテ遊動資金缺乏シ爲ニ獨國
ノ銀行業界ニ大恐慌ヲ來タシ莫大ノ損害ヲ蒙リ獨國經濟界ノ弱點ハ此ノ危機ニ際會シテ痛切ニ暴露セ
リ
獨國ハ今ヤ益海外ノ投資ニ努力シ奮闘活躍ヲ續行シ將來一層ノ進運ニ向フナルヘシ而シテ毎年人口ノ
増殖數ハ殆ト百萬、貿易額及國家ノ富ノ増加亦毎年十億馬克ヲ有シ尙盛ニ最高ノ目的ニ向テ向上セム
ト努メツツアリ

社會黨ノ勃
興

現時ノ獨國ハ大農業家ト大工業家トノ間ニ利害關係ノ相反スルモノアリテ之カ調停ニハ多大ノ願慮ヲ

政府ノ不
成ニ終リタ
ル社會黨
減策

要スルモ更ニ重大ナル故障ハ右兩者ニ取リテモ亦共同ノ敵タル社會民主黨ノ發展セルコト是ナリ由來
同國ハ社會主義發生ノ根元地ニシテ既ニ千八百七十五年社會主義勞動黨組織セラレタルカ是全ク佛國
ヨリ五十億法ノ債金ヲ得テ刺戟セラレタル工業界ノ惡シキ反面ナリシナリ政府ハ當初社會黨ノ發展ヲ
防遏スル爲左ノ二箇ノ手段ヲ用キタリ

- (一) 千八百七十八年ヨリ千八百九十年ニ亘リ發布セル法律ニヨリ直接ニ勞動者ニ對シテ壓迫ヲ行
フ
- (二) 政府自ラ進テ社會政策上ノ諸改革ヲ行ヒ之ニ依テ社會ニ於ケル不滿ノ各種原因ヲ除去セムト
ス

獨國ハ列國ニ先ムシテ勞動者法律ヲ制定セシ國ナリ然ルニ政府カ右ノ法律ニ依テ國家ニ反スル運動ヲ
抑壓セムトセル希望ハ遂ニ水泡ニ歸シタルノミナラス却テ有害トナリ例外法律ヲ撤廢セル以後社會民
主黨ハ間斷ナク發達シ千九百七年帝國議會議員選舉ニ際シ不注意ニモ獨國民ノ國家發展ニ對スル輿望
ニ乖違シ其ノ反動トシテ一度蹉跌ヲ來タセシカ千九百十二年改選以後現今ニ及ヒテハ同黨ハ最大ナル
政黨タルニ至リ議員三百九十七名ノ中社會民主黨議員百十一名ヲ算シ全國民ノ中社會民主黨員ヲ選舉
シタル者實ニ四百二十五萬人ノ多キニ及ヘリ
現在ノ社會制度ニ對シ公然敵タルコトヲ標榜シテ起テタル社會民主黨カ優勢ナル地位ヲ占ムルニ至ルコ

獨國ノ社會
黨ノ性質ハ
比較的危險
ナラス

トハ將來ノ爲獨國ノ深憂トスル所ナリト雖茲ニ又必スシモ大ナル憂慮ヲ要セサル點ナキニシモアラヌ
即チ

六四

(一) 社會民主黨員選舉者ノ數ハ莫大ナリト雖彼等ヲ以テ直ニ眞ニ同黨ニ忠實ナルモノト断定スルハ
當ラサルナリ彼等ノ多數ハ各種ノ原因ヨリシテ不滿ヲ感シ殊ニ目下獨國ノ社會生活及往時ヨリ傳
承セル偏狹ナル同族間ノ團結心ニ對シ嫌厭タル徒輩ナルヲ以テ故意ニ社會民主黨員ヲ選舉セル者
多シ

(二) 社會民主黨自身モ漸次革命思想ヲ脱却シテ穩健ナル傾向ヲ帶ヒ來リ殊ニ千九百七年ノ苦キ經驗
以後ハ國家主義ニ對シ甚シク反對ノ態度ニ出テス國民トシテノ連帶義務ヲ守リ伊國ノモノニ似テ
國民社會主義ヲ標榜ス是佛國ノ同主義者ト全然性質ヲ異ニスル所ナリ

社會主義ニ關スル内憂ト共ニ又同國ノ朝野ノ問題トナレルハ宗教上ノ軋轢ナリ由來獨國ニ於テハ舊教
主義ハ一般ノ寺院問題ニアラスシテ一箇ノ政黨政派ナリ而シテ舊教徒ノ數ハ國民全部ノ五分ノ二ナル
モ塊國ノ舊教徒ヲ合計スルトキハ新舊兩教徒ノ數ハ互ニ相匹敵ス

獨國ニ於テ舊教ノ行ハルル地方ハ西部、南部及東部ノ國境ニ沿ヘル地域ニシテ彼ノ波蘭問題ハ波蘭人
ノ舊教徒ナルカ爲益險惡ノ度ヲ加フ而シテ舊教主義ハ國民ノ結合ヲ度外トシ國內ニ於テ大ニ政治界ニ
關與シタリ本來獨逸帝國ノ建設カ舊教國ナル佛、埃兩國ニ打擊ヲ加ヘタルニ起リ其ノ結果延テ羅馬法

舊教徒ヲ代
表スル中央
黨

王ト覺醒ヲ生スルニ至リシ原因トナリシモ亦新、舊兩教衝突自然ノ勢ト見ルヘキナリ實ニ帝國議會ニ
於テ中央黨ハ舊教徒ノ利權ヲ代表シ偏狹ナル黨派心ヲ以テ激シク最初ヨリ政府ニ反對シタリ是千八百
七十二年ヨリ同七十九年ニ至ル政教問題ノ端緒ナリ即チ政教問題ハ佛國ニ先タツ三十年ニシテ此ノ政
争ハ獨國統一戰ノ繼續トモ見ルヲ得ヘシ故ニ此ノ政争モ時アリテカ終リテ告ケ遂ニ千八百七十九年舊
教徒ハ關稅問題ニ就テ國家ニ忠實ナルノ保證ヲ提供シタリ斯クテ舊教徒ハ此ノ政争ノ結果漸次其ノ勢
力ヲ増大シ千八百九十年以來舊教徒ノ中央黨ハ最優勢ナル政黨(百名ノ議員ヲ有シタリ)トナリ千九
百十二年遂ニ社會黨ノ爲其ノ位置ヲ奪ハレタリト雖未タ必スシモ其ノ勢力ヲ失墜セリト云フヲ得ス是
ニ於テカ吾人ハ獨國ニ於テモ亦他ノ列強ノ通有性タル二箇ノ主義カ議院ニ於テ大ナル勢力ヲ有スルヲ
認ムルナリ而シテ帝國議會ノ議員全部一致シテ國家ノ大事ニ當リシハ千九百六年ヨリ千九百七年ニ亘
レル植民問題ノ危機ニ際シ僅ニ一回之ヲ見ルヲ得タルノミニシテ他ハ黑黨(僧侶黨ヲ含ム)赤黨(社
會黨)ト相對抗ス佛、伊兩國ニ於テハ僧侶黨ノ橫暴ヲ制セムカ爲政府ハ社會黨ヲ利用シタルモ獨國ニ
テハ之ニ反シ社會黨ヲ制セムカ爲政府ハ右黨ノ方ニ僧侶黨ヲ接近セシメタリ
政界ノ事固ヨリ其ノ變化豫メ測ルヘカラスト雖獨國議會ニ於テ社會主義者ノ漸次増加スルハ注意スヘ
キコトナリ

第五款 國家

第四章 獨國

六五

獨逸佛蘭西ノ政體上ノ差異

普魯西ノ特權

國家結束上ノ障礙

憲法上ノ型式ニ於テモ亦獨逸ハ佛蘭西トハ正反對ナリ即チ佛蘭西ノ中央集權ニ反シテ獨逸ハ各聯邦毎ニ箇々分離セリ又佛蘭西ハ議院政治ニ依リテ國政ヲ左右セラルルモ獨逸ハ國家ノ主權ハ皇帝ノ掌裡ニ把持セラル獨逸ノ政體ハ埃國及北米合衆國ト等シク一ノ聯邦組織ナルモ其ノ中心勢力タル普魯西ハ事實支配權ヲ有セリ而シテ普魯西ハ法制上ノ特權(特ニ軍政及商業政策ニ於ケル)ヲ有シ各聯邦中殊ニ「バイエルン」ハ獨行ノ地位ヲ容認セラル即チ伊國ハ國家思想未タ確立セサルカ故ニ先ツ之ヲ鞏固ニスル必要アルモ獨逸ニ於テハ國家思想ハ既ニ存在スト雖各異ノ聯邦ヲ結束シ且之ヲ融合セサルヘカラスル特種ノ運命ヲ有ス由來同國ニハ中央集權ト自郷心或ハ特權尊重主義トノ間ノ不調和存在セリ而シテ後者ニシテ漸次其ノ勢力減少セムカ獨逸ノ國家ハ其ノ鞏固ノ度ヲ加フルニ至ラム殊ニ「バイエルン」及「ハンノーフェル」ノ如キハ歷史上自郷心強ク「エルザス」「ロートリンゲン」ハ所謂分離主義ノ鮮明ナルモノアリ是ヲ以テ現今ト雖帝國議會ニ於ケル政府反對黨ハ南獨逸民黨及「ウエルフ」黨(「ハンノーフェル」ノ王室ト氣脈ヲ通ス往時ハ羅馬法王ノ配下ナリシナリ)等之ニ屬セルモ其ノ黨員ノ數ハ多カラサルカ故ニ其ノ勢力ハ微々タリ千九百十三年普魯西王室ト「ハンノーフェル」王家トノ間ニ婚姻ヲ結ビ又千九百十一年「エルザス」ニ關スル法制ヲ改正セラレタルヲ以テ將來ハ相互間ノ軋轢多少減少スヘシ元來右ノ兩黨ノ思想ノ如キハ往時ヨリ傳承セル舊思想ニシテ今ヤ事實ニ於テ漸次消滅シ之ト反對ニ中央集權益其ノ度ヲ高メ帝國政府ノ監督ト官僚主義ノ下ニ國內ノ立法ヲ統一シ又財政政策、

政界ノ趨勢

交通制度等ニ於テ著々其ノ實ヲ表現スルニ至レリ

又聯邦參議院ノ如キ各聯邦ノ特權ヲ尊重スル機關ハ次第ニ其ノ價值ヲ失ヘルニ反シ國家ノ中心機關タル皇帝ト帝國議會トノ權能ハ益増大シツツアリ

哲學者「トライチケ」ハ千八百七十四年次ノ豫言ヲ爲セリ曰ク聯邦組織ハ單一國家ヲ造ル迄ノ間ノ過渡時代ノ國家形式ナリト現代ノ獨逸ハ今ヤ統一國家タル伊國ヨリモ事實上統一國家ニ近キカ如キ觀アルモ國境ニ就テ述ヘタル如ク未タ完全ノ城ニ達セスト評スヘシ獨逸ノ統一ト強大ハ實ニ普魯西ノ支配權及其ノ強力ナル君主ニ負フ所大ナリ若聯邦内ニ埃國ノ獨逸人ヲ加入シアルトキハ國家ノ統一ト上大ノ故障ヲ來タセシナルヘシ實ニ軍國タル普魯西ハ獨逸ノ鞏固ナル核心ヲ形成シ皇室ヲ中心トシテ他ノ聯邦ヲ糾合シ其ノ統一ヲ堅カラシム即チ知ル普魯西ノ歴史ハ普魯西王ノ歴史ニシテ普魯西王ノ歴史ハ又獨逸帝國ノ歴史タラサルヘカラス獨逸ハ議院政治ノ爲ニ種ノ機關ヲ構成シ一體ニシテ二箇ノ精神ヲ具有スルカ如キ憲法上ノ特質ヲ見ル即チ普魯西國會ハ選舉權ト選舉區ヲ制限スルノ結果社會主義ノ分子ヲ含マヌ全ク農業主義ノ地方貴族ノ型式ト過去警察國ノ形影ヲ存ス之ニ反シ普通選舉權ニ依リ選出セル議員ヲ以テ成立セル獨逸帝國議會ハ常ニ現代ノ民主主義及箇人主義化セル社會ノ代表機關タルノ色彩ヲ現ハシ來レリ獨逸ニ於テハ經濟上工業家ト農業家ト利害相反スルモノアルカ故ニ茲ニ帝國ト普魯西トノ間ニ問題ヲ生ス畢竟此ノ問題ノ生スルハ歷史上普魯西ノ有スル自郷心ニ基クモノナル

獨逸帝國議會

普魯西國會

カ故ニ若帝國主義ノ思想ヲ鼓吹スルトキハ帝國ト普魯西間ノ相背馳スル情勢ヲ緩和シ得ヘシ何トナレハ完全ナル獨逸國民主義ニシテ熟スルトキハ自然各聯邦ノ自郷主義ヲ排除スルヲ得ヘケレハナリ是ニ於テ帝國ハ普魯西ノ小範圍ヲ超エテ發達シ聯邦ニ對スル普魯西ノ支配權モ自然不用ニ歸シ聯邦内ノ論争モ消滅スルニ至ルヘシ而シテ普魯西内ノ民主黨モ亦選舉權ヲ得ルノ時機到來スヘシ然レトモ普魯西ノ主權ハ之ヲ除去シ得ヘシトスルモ其ノ王室ニ對スル思想ハ之ヲ存續セサルヘカラス而シテ其ノ王室ハ獨逸皇帝トシテ普魯西ノ利害範圍ヲ超越シ一意獨逸帝國ト運命ヲ共ニスルニ至ラサルヘカラス是ニ於テカ獨逸帝國ノ歴史ハ即チ獨逸皇室ノ歴史ト一致スルニ至ルヘシ

皇帝ノ權能

獨逸ニ於テハ政黨ノ勢力消長ヲ以テ直ニ内閣ヲ更迭セシムルカ如キコトハ現今既ニ同國憲法ノ許サザル所ニシテ其ノ社會組織ヨリ云フモ到底不可能ノ事實ナリ而シテ獨逸ノ國體ハ嚴格ナル議院政治ノ性狀ヲ具有スルト共ニ皇帝ノ偉大ナル權力ヲ認メスムハアラス然ラスムハ統一の國家ノ發展ハ到底之ヲ期待スヘカラス即チ埃尙國ニ於テ見ルカ如ク國內ニ於テハ民族、法制、社會、歴史、政治ノ相異等ノ結果帝國議會ハ徒ニ紛糾擾亂ヲ極メ延テハ國家全體カ確乎タル方針ノ下ニ活動スルコト能ハサルニ至ルヘケレハナリ又獨逸ハ其ノ民主主義者ノ活動ヲ唯社會事業ノ範圍内ノミニ制限シテ政治ノ範圍ニ容喙スルヲ許サザルハ獨逸帝國議會ノ英、佛、伊諸國ノ議會ニ比シ特色アル所以ナリ而シテ古來獨逸ノ皇室ハ政争ノ閣外ニ立チテ能ク國家ノ進運ヲ圖リ殊ニ皇帝「ウキルヘルム」二世ノ如キハ嶄然頭角ヲ現ハセ

「ウキルヘルム」二世ノ活動

リ然ルニ「ウキルヘルム」二世ハ其ノ獨特ノ性格ト君主政治ノ理想上ノ發露トハ往々ニシテ現代ノ事物ト衝突ス其ノ皇帝ノ政略ニ關スル批判ハ各種各様ナルモ超然第三者ノ位置ニ立チテ觀察スルトキハ皇帝ノ衝動性ニ富ミ往々國民ノ感情ヲ無視セル政策モ其ノ實ハ熱慮確信アル大目的ニ向テ進行シツツアルコトヲ認メ得ヘシ而シテ其ノ目的トスル所ハ即チ獨逸ヲシテ世界ノ強國ノ權威ヲ保有セシメムトスルニ外ナラス

第六款 對外政策

「ビスマルク」時代(千八百九十年迄)ハ「ウキルヘルム」皇帝ノ將來ノ活動力ヲ養成スル時期ナリキ「ビスマルク」ハ國家ノ結合ト内政トニ全力ヲ費シ從テ國外ニ力ヲ伸ハス餘裕ヲ有セザリキ「ビスマルク」ノ眼界ハ唯歐洲ニ限定セラレ普佛戰役後ニ於ケル彼ノ興味ハ專ラ國軍ノ擴張ト改善及農業ノ改良ト刷新トニ指向シ又彼ノ外交ハ國防ト既得ノ利益ヲ鞏固ニスルコトヲ主眼トセリ伯林會議ノ結果ニ不滿ヲ有スル露國ハ獨逸ノ結束ヲ堅カラシメ遂ニ三國同盟ヲ形成スルニ至ラシメタリ而シテ獨逸ハ此ノ三國同盟ヲ完成セムカ爲千八百七十九年先ツ露國ニ對抗シテ第一段ノ目的ヲ達シ次テ千八百八十二年西方佛國ニ對抗シテ完全ニ自己ノ希望ヲ達成セリ然レトモ其ノ目的ハ純然タル守勢ニ過キザリキ千八百八十四年獨逸ハ好機ヲ利用シテ露國ニ慰懃ヲ通シテ其ノ壓迫ヲ輕減シ之ト同時ニ又西方「ライシ」河上ノ壓迫ヲ輕減スル爲佛國ヲ使喚シテ植民地ノ獲得ニ國力ヲ指向セシメタリ當時獨逸ハ東洋間

第四章 獨逸

題ニ對シテハ何等ノ野心ヲモ有セザリキ

「カプリフ
イ」時代

三國干涉

近代ニ於ケ
ル最初ノ反
英的對度

膠州灣ノ租
借

宰相「ビユ
ロー」ノ聲
明

北清事變
獨帝ノ同教
徒懷柔

然リト雖次第ニ集積セル懣懣タル國力ハ遂ニ國外發展ニ轉用セラレ所謂一層大ナル獨國ヲ造ラムトシ
テ或ハ大海軍ノ建設ニ或ハ大市場ノ獲得ニ其ノ力ヲ傾倒スルニ至レリ然レトモ初ハ獨國ノ旗色鮮明
ヲ缺キ左顧右眎斷乎タル態度ニ出テサリシ時代アリタリ此ノ時代(千八百九十年乃至千八百九十四年
間)ヲ稱シテ「カプリフイ」時代ト稱ス然ルニ全國民ハ此ノ優柔政策ヲ忍フヲ得ス一致シテ反對ノ氣勢
ヲ示シ遂ニ千八百九十五年俄然獨國外交ノ態度ハ一變セリ即チ獨國ハ佛、露ト合シテ日本ニ對シ所謂
三國ノ干涉ヲ行ヒ其ノ後直ニ南阿戰爭ニ乘シ英國ニ反對ノ姿勢ヲ採レリ(千八百九十六年一月獨帝ハ
「トランスヴァール」大統領「クリューゲル」氏ニ宛テ同情的ノ親電ヲ發シタリ)然レトモ愈斷乎タル步
調ニ出テタルハ千八百九十六年膠州灣ヲ租借シ山東省ヲ以テ獨國ノ利益圈區トスヘキコトヲ要求シタ
ルトキニ起レリ獨國ハ強國タルノ基礎確立スルト共ニ益外部ニ對スル要求ヲ増大シ千八百九十九年十
二月十一日宰相「ビユロー」ハ帝國議會ニ於テ爾後地球ヲ新ニ分配スルノ機會ニ際會セハ獨國ハ何レノ
他ノ強國ニモ我カ足ヲ踏マシメス又我ヲ除外セシムルコトナカルヘシト聲明シタリ此ノ聲明ハ實ニ獨
國ハ今ヤ英、露ト肩ヲ併ヘ一新強國トシテ活躍スルコトヲ宣言セシモノナリト云フヲ得ヘシ而シテ其
ノ翌年支那ニ於テ團匪ノ亂勃發スルヤ獨國ハ聯合軍ノ先頭ニ立チテ事實上ニ活動ヲ開始セリ
此ノ事件ト同時ニ獨帝ハ又別箇ノ發展策ヲ講シタリ即チ千八百九十八年「ダマスカス」土耳其領小亞

「バクダツ
ト」鐵道敷
設

細亞ニ在リ)ニ於テ獨帝ハ獨國ハ全回教徒國ノ同盟國ニシテ且其ノ保護者タリト宣言セリ而シテ實際
政略上ノ斷案トシテ現ハレタルモノハ「バクダツト」鐵道ナリトス該鐵道ノ臨時敷設權ヲ得タルハ千
八百九十九年ニシテ千九百二年ニ至リ確定ノモノトナレリ是獨國カ亞細亞土耳其ニ於ケル遠大ナル意
義ヲ有スル行動ノ序幕ナリ
二十世紀ノ當初以來獨國ハ近東ニ或ハ極東ニ將タ又南洋ニ地歩ヲ伸ハシ尙著々トシテ大海軍ノ建設ニ
努ムルヲ以テ見ルモ獨國外交ノ地平線ハ「ビスマルク」時代ヨリモ著シク擴大セシハ明確ナル事實ナ
リ

三國協商成
立

獨國ノ雄飛ヲ開始スルヤ自國ノ要求カ直ニ他ノ列強ノ承認スル所トナルヤ否ヤヲ考慮スル餘裕スラ有
セザリキ特ニ歐洲ヨリ印度及大亞細亞ニ至ル新通路タルヘキ「バクダツト」鐵道ハ英國ノ「スエス」
運河及露國ノ「シベリヤ」鐵道ニ對シテ競争ノ位置ニ在ルノミナラス他日土耳其ヲ分配セムトセル列
強ノ計畫ヲ齟齬セシメ獨國ト露、佛、英等ノ諸強國トノ間ノ確執ヲ繁クシ露佛同盟ヲ擴大シテ遂ニ三
國協商ニ至ラシメタル(千九百四年及千九百七年ノ二時期ヲ以テ)素因ヲナセリ而シテ三國協商ノ政
略上ノ目的ハ獨國ノ封鎖ニシテ三列強ハ百五十年以前多數ノ敵國カ四方ヨリ普國ヲ攻圍セシト同法ニ
則リ獨國ノ地理上ノ弱點タル中央位置ヲ利用シテ獨國ヲ制壓セムトスルニ在リ

第一回「モ
ロッコ」問
題

第四章 獨國

ルヤ獨國ハ其ノ東境ニ對スル露國ノ壓迫輕減シ其ノ結果トシテ一層大ナル行動ノ自由ヲ獲得シ即チ千五百五年獨國ハ「モロッコ」問題ニモ關與スヘシト聲言セリ又是「ビスマルク」カ獨逸本國ヲ安泰ナラシメムカ爲却テ佛國ノ阿弗利加政策ヲ援助シタル政略ニ比較スレハ急激ナル變轉ナリト云フヘシ是實ニ獨國ノ世界政策カ多クノ困難ヲ招致セシ基因ニシテ爾來幾度カ戰亂ノ危機ニ瀕シタルモ辛フシテ平和ヲ維持スルコトヲ得タリ

而シテ伊國ハ「トリポリ」政策ノ願慮上三國協商側ニ向テ懇懇ヲ通セサルヘカラサリシヲ以テ三國同盟側ノ西境ハ脆弱トナリ此ノ際若獨國ニシテ開戦セムカ其ノ勝利ハ到底之ヲ期待スルヲ得サリキ即チ遂ニ千九百九年獨國ハ「モロッコ」ニ於ケル佛國ノ特殊利益ヲ承認シ爲ニ風雲稍緩徐ナルニ至レ

千九百十年獨、露ノ代表者ハ「ポツダム」ニ會見シテ協約ヲ結ヒ之ニ依テ露國ハ北部波斯ニ於ケル特權ヲ、獨國ハ「バクダット」鐵道ノ特權ヲ確保セリ是ニ於テカ獨國ハ再ヒ佛國ノ「モロッコ」ニ關スル最後ノ行動ニ對シテ反抗スルノ餘力ヲ生シ冗長ナル商議ト陸海軍ノ戰備ヲ整ヘテ漸ク確實ナル報償トシテ阿弗利加ノ新「カメルン」ヲ獲得シテ該事件ノ落著ヲ見ルヲ得タリ

然ルニ霸氣勃々タル獨國民ハ祖國カ其ノ行動ヲ英、佛等ヨリ束縛セラレタルヲ視ルヤ盛ニ輿論ヲ起シ「モロッコ」問題ノ結果ニ慷慨タラス事「モロッコ」ノ一部ノ獲得ヲ期待セリ之ニ反シ「モロッコ」事

第二回「モ
ロッコ」問
題
新「カメル
ン」獲得

獨國ノ阿弗
利加政策

件ニ關スル干渉ハ事實上冒險ナリシコトヲ熟知セル獨國政府ハ今更「モロッコ」ニ孤立セル一植民地ヲ得テ外交上ノ重荷ヲ増スカ如キコトハ決シテ有利ナル處置ニアラスシテ却テ從來所有セル他ノ植民地ヲ擴大スルヲ有利ト認メタルモノノ如シ今千九百十一年ニ於テ獨國カ佛國ヨリ獲得セル新植民地ノ形狀ヲ地圖上ニ照シテ觀察スルニ將來「コンゴ」河ノ流域ヲ占領スル爲其ノ兩突出部ヲ「コンゴ」方

近東政策

南北ニ延長セル植民地トシテ現出スルヤハ未タ確定セス
獨國近東政策ノ目的ハ「ベルリン」ト「バグダット」「エルベ」河ト「ユーフラット」河ヲ連結スル地域ヲ獨國ノ掌裡ニ收メトスルニ在リテ一ニハ露國ト西歐諸國トノ間ノ緩衝地ヲ形成シ一ニハ北海ヨリ波斯灣ニ達スル橋梁ヲ架設セムトスルニ在リ其ノ希望ニシテ實現セラレムカ其ノ地域ノ面積ハ實ニ二百五十萬平方吉米ニ達シ人口ハ約一億五千萬ヲ算スヘシ
右ノ如キ獨國ノ野心ハ千九百三年始テ英人「ハリ、ジョンストン」氏ニ依リテ明瞭ニ發表セラレ同年又獨國ノ「バツル、ロールバツハ」氏ハ自國ノ立脚點ヨリ其ノ近東政策ヲ論述セリ而シテ「ジョン

ストン」氏ハ獨國ハ此等諸國ヲ政略上合併スルモノナリトシ「ロールバツハ」氏ハ經濟上ノ聯合ニ外ナラスト看做シ（恐ラクハ軍事上ノ同盟モ目的トセルモノナラム）獨國ノ勢力ノ及フ地域ヲ名附ケテ自治的生產及消費ノ結合地域ト稱セリ換言スレハ經濟上ノ自給自足ノ目的ヲ以テ結合スル地域高等政策ノ性質ヲ帶ヒサル獨國ノ市場タルニ過キストセリ

中歐連衡主義

右ノ近東發展政策ニ反對シテ立テル別箇ノ古キ中歐連衡政策ナルモノアリ此ノ政策ニ從ヘハ和蘭、白耳義、瑞西ヲ獨、埃ト聯盟セシメ別ニ「バルカン」諸邦ヲ獨國ノ衛星ト看做シ此ノ中歐連衡諸國ハ軍事及商業ノ政策ニ於テ同一歩調ヲ取ラムコトヲ企畫セシモノナリ（千九百一年「ユリウス、ウオルフ」氏ニ依リテ唱道セラル

是ニ由テ之ヲ觀レハ獨國ノ國外發展策ニ關シテハ未タ國民間ニハ確乎タル定案ナキモ現時ハ近東方面ノ企圖ニ關シ當初以上ニ論議行ハレ加之「バルカン」半島上ノ最近ノ變化ハ殊ニ獨國ノ將來ノ方針ニ大ナル影響ヲ及ホシタルコトハ爭フヘカラサル事實ナリ之ヲ要スルニ獨國ハ世界上ニ活動スル爲確乎タル地步ヲ領有セムト苦慮シツツアリト謂フヘシ

英、獨間ノ關係

獨國ハ既ニ人口ニ比シテ土地狹少ヲ告クルニ至リ國外ニ植民地ヲ求メムト欲シタルトキハ最早世界ノ大部分ハ他ノ列強ノ分割スル所トナリ殊ニ英國ハ最大ナル競爭國トシテ獨國ニ對抗セリ獨國ニ取テ之ヲ見レハ獨國ハ英國カ將來南阿ト「カイロ」間ヲ通スル鐵道及「カイロ」(埃及)ト「カルカッ

タ」(印度)トヲ連絡セムトスル企圖ヲ破壞セムトスル妨害者タリ英、獨國間ニハ上述ノ如キ政略上ノ衝突アリシ以外ニ兩國ハ今ヤ全世界ニ於ケル市場及海洋上ノ兩箇ノ大競爭國トシテ對抗スルコトナレリ是ニ於テカ英國ハ率先シテ反獨政策ヲ執リ所謂獨國ヲ圍繞スル鐵環ヲ鍛造セリ千九百十一年「モロツコ」問題ノ危機ニ際會スルヤ獨國民ハ將來世界ノ強國トナラムカ爲ニハ必スヤ英國ト輸贏ヲ決スヘキノ必要ヲ痛切ニ感知シ益眞面目ニ對英問題ヲ平和手段ヲ以テ解決スヘキヤ或ハ斷乎タル鐵血手段ニ出ツルヲ必要トスルヤノ論議ヲ開始セリ

主戰論ノ勃興

千九百十二年ニ於テ出版セル主戰論者「ベルンハルヂー」氏ノ著書「獨逸及次ノ戰爭」及「ロールバツハ」氏ノ著書「世界ニ於ケル獨逸ノ思想」ノ二書ノ如キハ大ニ洛陽ノ紙價ヲ高カラシメタリ其ノ内容ニ曰ク今ヤ戰爭ハ切迫セリ而モ其ノ主ナル敵國ハ英國ナリト千九百十三年「バルカン」ノ危機ノ結果從來三國同盟側ニ立チシ土耳其カ衰微シテ却テ「スラヴ」人種優勢ノ地步ヲ占メ事端ハ一層紛糾シ大擾亂ノ時機ヲ益早メタルノ觀ヲ呈セリ而シテ獨國ハ巴爾幹方面ニ意ヲ用ウルニ至リシ結果英、獨間ノ緊張ハ一時稍弛マリ互ニ利益圈區ノ限定ニ關スル協定ノ歩ヲ進メ英國ハ爾後中央亞非利加ニ於ケル獨國ノ計畫ヲ妨礙セサルカ如キ外觀ヲ現ハスニ至リ獨國モ亦千九百十一年以來英國ニ對シ密接ナル利害關係ヲ有セル「バグダット」以東ノ「バグダット」鐵道ハ萬國共通トスヘキコトヲ承認セリ而シテ獨國ニ於テ世界政策ハ之ヲ實行スヘシト雖戰爭ハ行フヘカラストノ議論モ見ルニ至リ又獨國ハ近東方面

千九百十一年以來英國ノ獨逸ノ緊張ノ狀態一時弛メリ

ニ斷念シ須ラク亞弗利加ニ發展スルヲ要ストノ說モ亦唱道セラレタリ
然ルニ現時汎「スラフ」主義益高潮ヲ呈スルニ至リシヲ以テ獨、露間ノ平和ハ今ヤ何時破裂スルヤモ計
ルヘカラサルノ情勢トナリ外交上ノ雲行ハ刻々險惡ノ程度ヲ増加セリ

獨國建國以來ノ發達ノ經路及現下ノ窮迫セル情勢ニ關シテハ既ニ客觀的ノ論述ヲ試ミタリ而シテ獨國
ハ國內ニ於テ多クノ弱點ヲ有シ特ニ國內ニ非統一論ノ分子存在シ獨國ノ爲政者ハ危機ノ益接近セルヲ

感知シ竊ニ不安ヲ感シツツアルコトモ之ヲ想像スルニ難カラス
事實獨國ハ「ベルンハルヂ」氏ノ言ヘルカ如ク勃興シテ世界ノ強國トナルカ或ハ衰滅スルカノ二途ニ

出テサルヘカラス獨國ノ愛國者ハ右ノ難問ヲ抱テ悶々ノ情ニ堪ヘサル所ナルト共ニ彼等ノ心裡ニ深ク銘
スル所ノモノハ獨逸ノ文化ヲ世界ニ廣メ獨逸思想ヲ全人類ニ注入セムトノ大ナル抱負ナリトス然ルニ右
ノ高遠ナル理想カ國民ノ全般ニ亘リテ十分ナル響應ヲ有スルヤハ大ナル疑問ニシテ帝國主義者モ大ニ之

ヲ懸念シアルモノノ如ク既ニ千九百八年「アルンド」氏ハ獨國ノ最惡ノ敵ハ他國人ニアラスト云ヒ有識
者モ國民ノ理想ノ貧弱、眼界ノ狹少、思想ノ凡庸或ハ新聞雜誌ノ冷淡、植民地投資ニ對スル恐怖等ヲ激シ

ク攻撃シツツアリ事實幾百年間ニ亘リ支離滅裂ノ状態ニテ生活セシ國民ニハ未タ世界ノ活舞臺ニテ優勢
ヲ占メムトノ慾望カ十分ニ發達セリト云フヘカラス加フルニ北獨逸ノ地勢ハ到底露西亞、北米等ノ大平原

或ハ英國沿岸ノ海洋ノ如ク國民ニ對シ氣宇ヲ壯大ニシテ自ラ鴻鶴ノ志ヲ抱カシムルカ如キ威化ヲ與ヘ

ス從テ獨國ハ強國トシテ立ツヘキ心理的要素ニ於テ稍間然スル所ナキニアラサルナリ而シテ最近ニ於
テハ國民精神ノ根柢ヨリ變化ヲ生シタルハ否ムヘカラス事實ニシテ千九百七年社會民主黨員及僧侶

黨員等カ政府ノ發展政策ヲ抑制セムト欲セル際帝國議會ノ議員選舉ニ當リ其ノ反對黨タル國民黨派カ
大勝ヲ博シタルカ如キモ其ノ反映ナリ殊ニ「モロツコ」問題ノ當時及其ノ以後ハ國民ノ國外發展熱ハ

益高潮ヲ示スニ至レリ加之國民ハ概シテ身體及精神健全ニシテ文化亦開ケ生々潑刺ノ氣充滿シアルカ
故ニ一旦緩急アラハ大獨逸國ハ其ノ具備セル全力ヲ擧ケテ十分ナル成果ヲ得ヘキコト信シテ疑ハサル

ナリ

第五章 英國

第一款 國史梗概

「アングロ
サクソン」
人種ノ世界
上ニ於ケル
膨脹

大凡基督教傳播ノ大規模ナルニ次テ人類ノ歷史上世界ニ於テ最著シキ膨脹ヲ遂ケタル種族ハ「アング
ロサクソン」ナリ然レトモ今ヨリ三世紀前ニ於テハ英國ノ發展ハ未タ微々タルモノニシテ「ベーコン」
氏ノ如キハ自己ノ著書カ英語ノ如キ世界ニ未タ十分ニ識レ渡リ居ラサル言語ヲ以テ記サレアルヲ遺憾
トスト稱セシニ現代ニ於テハ英語ヲ國語トシテ使用スル國民ノ數ハ一億二千五百萬ニ達シ英語ヲ公然
ノ用語トシテ使用スル者ノ數ハ無慮五億五千萬ニ及ヒ英語ハ今ヤ全世界ニ於ケル思想交換上緊要無二
ノ要具タルニ至レリ而シテ英語ヲ國語トスル種族ヲ大別スレハ英國及北米合衆國ニシテ双方共強國ニ

シテ且歴史上母子ノ關係ヲ有ス

英國種族第一次ノ發展ハ英佛海峡ヲ渡リテ歐洲大陸ニ指向セラレシカ千五百五十八年ニ至リ遂ニ大陸
發展ヲ斷念セリ爾後三十年ヲ經テ西班牙ノ必勝艦隊ヲ殲滅スルヤ全然新規ナル歴史ノ端緒ヲ開ケリ即
チ右ノ勝利ハ英人ニ世界ノ強國タラムトノ意志ヲ起サシメ大海軍國タルノ理想ヲ抱クニ至ラシメタリ
而シテ第一回ノ海外植民ヲ行ヒシハ殆トト同時代ナリシモ世界ノ大洋ヲ渡テ大々的發展ノ實ヲ示ス
ニ至リシハ其ノ本國ノ諸島嶼ヲ全然領有(第十七世紀ノ初期)シタル以後ノコトニ屬ス

第十七世紀ノ中葉ヨリ末期ニ亘リ英國ノ旗幟漸ク鮮明トナリ最初ノ純然タル帝國主義者「クロムウェ
ル」ハ保護法律ヲ制定シ(千六百五十一年ノ航海條例)以テ世界上ニ於ケル發展ヲ獎勵セリ第十七世
紀ノ末期英國ハ海洋上ノ雄國タリシ和蘭ヲ政治上ニ於テ壓倒シタリ但シ其ノ後約半世紀間和蘭ハ依然
經濟上ノ優越ヲ示セリ又之ト同時ニ國內ニ於テ絕對ノ中央集權ヲ行ヒテ國力ヲ養ヒ埃國ト提携シテ強
大ナル佛國ト輸贏ヲ決セムトスルニ至レリ

英、佛兩國間ニ於テハ千六百八十八年ヨリ千八百十五年ニ亘ル間ニ數次ノ戰爭行ハレタリ而シテ英國
ハ世界ノ大洋ヲ超エテ大發展ヲ開始セリ然レトモ其ノ第一ノ好機ハ實ニ亞米利加ノ發見以後第十八世
紀ニ入ルト同時ニ到來セリ其ノ好機トハ即チ歐洲大陸上ノ戰亂是ナリ即チ同戰亂終局ヲ告ケ佛國ハ戰
亂ノ結果最高優越ナル地位ヲ失墜スルヤ英國ハ米大陸ニアル佛國領土ニ對シ野心ヲ逞フシ又西班牙ノ

同大陸ニ於テ有セル商業權ヲ奪取シ尙地中海ニ通スル鎖鑰地タル「ジブラルタル」ヲ獲得シ葡萄牙ヲ
殆ト屬邦ノ如キ地位ニ陥レ以テ英國ハ歐洲ノ強國タルニ至レリ其ノ後半世紀即チ千七百六十二年巴里
平和會議後ニ至ルヤ亞米利加及印度ニ於ケル佛國ノ植民地ヲ全然崩壞シ全ク佛國ニ代リテ世界ニ覇權
ヲ振フニ至レリ(和蘭、葡萄牙、西班牙、佛國ノ順序ニ世界ノ覇權ヲ繼承シ來リシナリ)而シテ英國
ノ勢力ノ増大スルニ伴ヒ世界貿易ノ中心地モ亦「アムステルダム」ヲ去リテ倫敦ニ移轉セリ
斯ノ如ク赫々タル勢ヲ振ヒ居タリシ英國ハ唯一ノ挫折ニ遭遇セリ即チ北米合衆國ノ獨立ヲ忍ハサルヘ
カラサリシコト是ナリ然レトモ英國ハ北米ノ地ヲ失ヒ多大ナル損失ヲ蒙レリト雖其ノ反面ニ於テハ此
ノ損失ヲ償フテ餘リアル次ノ如キ利益ヲ獲得セリ

- (一) 以前ノ強制貿易ヲ捨テ米國ニ向テ自由貿易及自由航行ノ制ヲ立テ其ノ結果英國ノ海外貿易ハ大
發展ヲ來タセリ
- (二) 將來ハ自國ノ植民地ニ在住スル英人ノ自由ニ關スル要求ヲ顧慮シ以テ其ノ獨立思想ノ勃發ヲ未
然ニ防遏スヘキ教訓ヲ得タリ

英國ハ亞米利加大陸ノ代價トシテ「ニューサウスウエールズ」(千七百八十八年)及南阿ノ希望峰(千
七百九十五年)ヲ獲得シ以テ海外發展ノ確乎タル地步ヲ造リタリ佛國革命ノ勃發スルヤ英國ハ再ヒ第
十八世紀當初ニ於ケルト等シキ好機會ニ際會セリ即チ英國ハ歐洲大陸上ノ戰亂ニ際シテ佛國艦隊及之

富ノ蓄積

ヲ援助セル爾餘ノ邦國ノ艦隊ヲ全然殲滅シ世界ノ海上權ヲ獲得シタルカ爲歐洲諸國ノ海外領土ヲ自己ノ自由意志ニ從テ處理シ得ルニ至レリ而シテ「ナポレオン」戰爭ニ依リ疲勞困憊セシ歐洲大陸カ漸ク靜穩ニ歸セシ際ハ英國ハ管ニ該戰爭ニ於テ何等戰禍ヲ蒙ラサリシノミナラス既ニ世界各地ノ通商上ノ要路ヲ占メ歐洲ノ爲植民地ノ產物ヲ供給スル大倉庫タルノ狀態トナリ從テ莫大ナル富ハ英人ノ囊中ニ集積シ世界史上唯一ノ大規模ナル商權壟斷ヲ擅ニセリ

而モ此ノ商權ノ壟斷ハ他國ヨリ何等ノ故障ヲ受クルコトナクシテ半世紀間繼續シ英國ニ蓄積セシ資金ハ實ニ計ルヘカラサル多額ニ上レリ而シテ爾他ノ列強ハ自國ノ窮境ヲ改善スル爲英國ニ於テ國債ヲ募リシカハ英國ノ資本ハ世界ノ各地ニ向テ投下セラレ英國ハ遂ニ債權國ト全歐洲ヲ相手トスル富裕ナル商業國トヲ兼有スルニ至レリ

又殆ト之ト同時ニ（第十八世紀後半期ノ當初）蒸氣力發見セラレ且其ノ應用法發明セラルルヤ其ノ影響ニ依リ産業上ノ革命ヲ來タシ英國ハ特ニ蒸氣機關ノ恩澤ヲ蒙リタリ即チ英國ハ其ノ領土内ヨリ莫大ナル石炭ヲ產出スレハナリ

同國ハ其ノ紡績工業ノ技術完成ヲ告ケタル後ハ唯商業上ノ仲介國タルノミニ満足セス進テ自ラ生産國トナリ工商兩者ノ收益ヲ増大シ英國ノ銀行業者ハ其ノ結果益繁榮ニ赴ケリ斯クシテ其ノ工業及海運業ノ基礎定マリタルヲ以テ爾後縱令他國ノ工業發達スルモ優ニ之ト競争スルニ堪フルニ至リ十九世紀ノ

英本國ハ世界交通ノ中心點トナル

中葉ニ至リ貿易上及海運上ニ於テ最早英國ト拮抗スルモノナキニ至レリ加之英國ハ世界交通ノ衝ニ當リ地球上ノ各地ニ通スル海底電信ノ輻輳點トナリ到ル處ノ海洋ニ英國艦隊ノ雄姿ヲ見サルコトナクテ本國ト其ノ領土トノ連絡ヲ確實ニシテ同國ハ全世界ニ跨レル未曾有ノ強國ヲ建設シ尙其ノ後新植民地ヲ各地ニ占領シ益優勢トナレリ殊ニ千八百七十五年株券買収ニ依リ「スエス」運河ヲ其ノ有ニ歸シタルカ如キハ同國ノ爲最強味ヲ加ヘ全世界交通界ノ特權國トシテ頭角ヲ現ハスニ至レリ

斯クテ第十八世紀當初歐洲ノ強國タリシ英國ハ第十九世紀ノ中葉ニ於テ一躍シテ世界ノ強國トナレリ尙又英國ノ地理及國民ノ特種ナル性狀ハ同國ヲ富強國タラシメタル素因ナリト云フヲ得ヘシ

第二款 地理

英國ヲ強國タラシメタル地理上ノ要素ニニアリ即チ島國ナルコト及英本國ノ位置宜シキヲ得タルコト是ナリ

島國タルノ利益

今ヨリ三百年以前「スコットランド」ト合シテ一邦國ヲ建立セシ以來英本國ハ世界中ノ最自然ナル國家トナレリ即チ同島ハ四面環海ニシテ他國トノ衝突ヲ緩和シ國境線ニ關スル爭亂ナク戰時國防上利スル處尠少ナラス故ニ英國ハ他ノ列國カ國境問題ニ因ル戰爭ノ爲國力ヲ消耗セシニ反シ能ク其ノ國力ヲ他方面ニ伸展スルノ餘力ヲ蓄フルヲ得タリ英國カ現代ニ於テストラ一般兵役義務ヲ要セスト信セル所以モ亦此ニ基因ス之ニ反シ海上ノ防禦ニハ多大ノ力ヲ傾注シ以テ世界ニ散在セル植民地ノ連絡ヲ確保セ

位置良好

ムコトニ努力セリ而モ海洋ハ雷ニ英國ヲシテ海上ノ雄國タラシムル素因タルノミナラス海洋トシテ際限ナク國民ノ精神ニ海外發展ノ刺戟ヲ與ヘ世界ヲ占有セムトスルノ冀望ヲ誘起セシメタリ
 海洋ハ又最有利ナル交通路ニシテ英國ヲシテ常ニ大經濟國トシテ立タシメタル所以亦茲ニアリ其ノ位置ノ良好ナルコトハ更ニ其ノ利益ヲ助長セリ而シテ英國ハ其ノ海岸線長ク良港ニ富ミ對岸ニハ歐洲大陸諸大河(「セイヌ」河ヨリ「エルベ」河ニ亘ル間)ノ河口ヲ控ヘ從テ大陸ト緊要ナル連絡ヲ保ツヲ得ルノミナラス歐洲ヨリ大西洋ニ至ル通路トナリ世界交通ノ輻輳點タリ倫敦ヲ稱シテ陸半球ノ中心點ト爲スモ過言ニアラスト謂フヘシ

初メ英國ハ農業國ナリ

然レトモ英國カ陸半球ノ中心トナラムカ爲ニハ米國カ文明國ノ伍ニ列シ大西洋ヲ以前ノ地中海ト等シキ關係ニ形成スルヲ必要トス實ニ米國ノ發見ハ英國歴史ニ新紀元ヲ劃スルモノナリ米大陸發見以前ハ英國ハ歐洲ノ外端角ヲ形成シ政治上ノ主方向ハ歐洲大陸ニノミ向ケラレタリ而シテ元來英國ハ他ノ列強ト等シク經濟上ノ基礎ヲ農業ニ置キ海國志願ハ大ニ缺如シアリタルノミナラス海面ヲ以テ侵略者ノ唯一ノ通過路ナリト思考セリ第十六世紀ニ入ルモ獨國ノ「ハンザ」同盟ハ猶久シク英國ノ貿易ヲ全ク支配シアリタリ現今ノ「バオンド」「スターリング」ノ如キ英國貨幣ノ單位ノ如キハ本來東方ヨリ來ルル男等ノ齋ラス磅ヲ意味スル其ノ時代ノ遺跡ナリ其ノ後亞米利加大陸ノ發見ニ續キテ米國カ文明國トナルヤ英國ハ忽チ世界ノ中心ニ位スルニ至リ西班牙ノ必勝艦隊絶滅後ハ遂ニ海上ニ覇ヲ唱フルノ機

運ニ向ヒ既ニ千六百十二年「ペーコン」氏ハ海上ノ支配權ヲ以テ祖國ノ最價値アル婚費ナリト稱セリ斯クシテ英國ハ陸ノ本尊ヲ海ニ伴ヒ從來榮ヘタル歐大陸ハ今ヤ其ノ後國タルノ觀ヲ呈セリ實ニ英國ノ優越ナル位置ハ大規模ノ企業ヲ爲スニ適ス之ヲ獨國ニ比スレハ獨國ハ大陸ノ中央ニ位置スルモ四面ヨリ絶エス壓迫ヲ受ク英國ハ此ノ境遇ヲ免カル是獨國ハ歐洲ノ陸軍國タルニ止マリシモ英國ハ世界ノ海軍國トシテ立ツニ至リシ所以ナリ

大工業勃興

英國ハ濕潤ナル氣候ト戰ハサルヘカラス濕潤ナル氣候ハ耕作物ニ對シ良好ナラサル影響ヲ與フ然ルニ英國ハ比較的農産物ノ少キニ反シ近代ニ於ケル鑛物ノ産出ハ莫大ノ額ニ上リ前者ノ不利ヲ補ヘリ殊ニ「ランカッシャー」地方ノ現代式採鑛冶金ノ設備ヲ有スル鐵鑛及石炭鑛ノ如キハ其ノ最著シキモノナリ斯クテ最初ノ農業國ハ遂ニ一變シテ鑛業ヲ主トシ農業ヲ次位ニ置クニ至レリ此ノ變化ニ依リ英國ハ現代ノ經濟状態ニ適應シ海上ノ雄國トナリ今ヤ英國ノ領土ハ世界ノ陸面積及人口ノ四分ノ一ヲ包容シ殊ニ濠洲、加奈陀、印度ノ如キ大ナル屬邦ヲ有スルニ至リ雷ニ其ノ領土ノ大ナルノミナラス經濟上及政治上古今ヲ通シ英國ト肩ヲ比フルモノナキ好況ニ逢著セリ而シテ其ノ植民地ノ一半ハ歐亞兩大陸以外ノ温帶内ノ稍大ナル部分ヲ占メ歐洲ノ人民ノ爲少クモ四百萬平方吉米ノ移民地ヲ提供シ他ノ一半ハ熱帶及熱帶附近ニ存在スル高價値ヲ有スル栽植地ヲ形成ス
 以上兩種ノ廣大ナル植民地内ニハ又繁榮セル商業地ヲ兼ヌルモノ多クアリ尙右ノ主要ナル植民地ノ他ニ

植民地

五十箇所以上ノ根據地(貯炭地、海底電線ノ仲繼所、戰略要地)ヲ有ス其ノ最著名ナルモノヲ擧クレバ「バ
 ルムダ」、「セントヘレナ」、「セイチエレス」群島、「フアンシング」群島、香港、「サンジバル」、「ジブラルタ
 ル」、「マルタ」島、「スエス」運河、「アデン」及「ペリム」、「バーレーン」群島、「シンガポール」、「威海衛等是ナ
 リ而シテ此等散在錯綜セルカ如キ領土モ相連繫シテ英國ノ爲其ノ世界雄飛ノ有利ナル據點ヲ形成ス
 英國ノ人口ハ世界ニ於ケル英國ノ支配下ニ立テル者ノ總數ノ十「プロセント」ニシテ其ノ面積ハ全
 面積ノ百分ノ一ニモ及ハサルナリ英國カ全世界ニ領土ヲ有スルニ至リシ結果英國カ其ノ位置及形狀
 上具備セル特殊ノ利益モ殆ト其ノ大部ハ消滅シ國境ニ關スル爭鬭ノ絶ユルコトナク全帝國ノ結合モ亦
 容易ナラサルニ至レリ此ノ全世界ニ跨レル全領土ノ分裂ヲ豫防シ其ノ結束ヲ堅フスルハ實ニ現代英國
 ノ政策上ノ主要ナル難問題ナリ

第三款 國民

英國ノ其ノ國土ノ情況ヨリモ國民ノ景況ニ於テ遙ニ有利ナル統一ノ傾向ヲ有セリ即チ本國及植民地ニ
 於ケル全部ノ人口ノ十二「プロセント」ハ純粹ナル英人ニシテ一千萬ノ英人ハ國外ノ植民地(主トシテ
 加奈陀及「ニューウオンドランド」、「南阿弗利加」、「濠洲」及「ニューゼーランド」ニ在住ス又英國民ノ内ニ
 ハ四百萬ノ他種族ノ白種人種(愛蘭人、加奈陀ニ於ケル佛人種、南阿ニ於ケル「ボーア」人等)アリ
 而シテ英國以外ノ地ニ永住スル英人種ノ「イレデンタ」(他國ニ歸化スルモノニシテ母國主義ヲ奉ス
 ル者)ナルモノ殆ト之ヲ認メス北米合衆國ニ同化セラレタル數百萬ノ英人ハ英人種ノ「イレデンタ」ト
 稱スヘキモノニアラス而シテ英國ノ植民地ニ移住セル多クノ英人ハ依然英人タルヲ失ハサルモ植民地
 英人ノ數ハ英國ノ英人ニ比シテ漸次増大シツアルノ趨勢ニ在リ

四「プロセント」ノミ)アルモ其ノ大部ハ英語ヲ能ク理解ス然レトモ舊教徒ノ愛蘭人ノミハ他ノ英人ヨリ
 英本國ハ歐洲ニ於テハ最堅確ナル民族國家ナリ獨特ノ言語ヲ有スル「ケルト」人種ノ殘存スル者(全部ノ
 分離セムトスル傾向ヲ有スルハ注意スヘキコトナリ愛蘭人ハ其ノ住居スル土地カ獨立セル島嶼ナルト
 其ノ社會情態及宗教ノ著シク他ト異レルトニ依リ自ラ英本國ヨリ離脱セムトスルノ精神ヲ有スルカ故
 ニ愛蘭問題ハ英國ノ最古ク且最困難ナル苦痛ナリ但シ其ノ愛蘭人ハ英國ノ總人口ノ七・五「プロセント」
 ニモ達セス又特異ナル言語ヲ有スル「ケルト」人種ト愛蘭人トヲ合算スルモ全人口ノ十二「プロセント」
 ヲ越エス從テ愛蘭人及「ケルト」人ハ英國全體ノ大勢ニ對シテハ大ナル影響ヲ與フルモノニアラス
 「アングロサクソン」種族ヲ細別スレバ「ケルト」人種、「ローマ」人種、「アングロ」人種及「サクソン」人
 種、「スカンデナヴィア」人種、半ハ佛人種ナル「ノルマン」人種ナルモ之ヲ大別スレバ西歐ノ三箇ノ基礎
 人種タル「ケルト」人種、「ローマ」人種及「ゲルマン」人種等ニ屬セリ即チ英國人ハ「アリアン」人種中ノ
 最優秀ナル各種族ノ粹ヲ披キタルモノヨリ成立セル國民ナリト云フヲ得ヘシ實驗ニ徴スルモ同一人種
 ニ屬スル異種族ノ混合セル民族ハ最有能ナルモノナリ英國人ノ如キハ即チ此ノ混合種族ニシテ永ク同
 英人ハ有能
 ナル所以
 族ヲ

一島嶼上ニ共同シテ生存シ互ニ同化シ遂ニ合シテ一團ト成リ能ク現時ノ英國ノ團結ヲシテ頗ル堅固ナルモノタラシメタリ

國民性

而シテ英國ノ國民精神ハ第十七世紀ノ前半期ニ於テ清淨教徒ノ感化ヲ受クルコト甚ク大ニシテ其ノ感化ハ現時モ依然殘存セリ此ノ思想ハ健全ニシテ活氣ト節制ヲ有シ生存ニ於ケル堅確ナル根據ト直覺トヲ備フ

(註、清淨教徒トハ英國ニ於テ第十七世紀ノ頃盛ナリシ宗教ニシテ從來ノ國教ニ反シテ單純主義ヲ唱道シ遂ニ該教徒ノ大部分ハ米國ニ移住セサルヲ得サルニ至レリ)

現實實利主義

此ノ思想ハ「ルードルフアー」氏ノ云ヘルカ如ク確ニ政治上最有用ナリ英人ハ極端ナル現實主義者ニシテ苟モ空想ニ亘ルモノニ對シテハ何等ノ感興ヲ有セス事ニ從フ正確ニ決斷迅速且處理緻巧ナリ

英人ノ特長

是英人カ植民地ヲ經營シ且之ヲ維持スル術ニ長スル所以ニシテ彼等ハ佛人ノ如ク徒ニ形式ニ拘泥セス各種ノ場合ニ適應スル策ヲ講ス而シテ英人ハ一舉ニ大目的ニ到達セムコトヲ努メテ徐々トシテ進歩ヲ計ルモ若其ノ目前ノ目的ヲ妨害セムトスルモノアラムカ恰モ「ブルドック」ノ如ク其ノ全精力ヲ振テ執拗ニ之ニ敵對ス

「シユルツエ、ゲウエルニツツ」氏ハ英人ヲ評シテ英國ノ優越ハ資本上、性上(男女)及國民並社會上ノ紀律宜シキヲ得ルニ在リ是其ノ源皆宗教心ニ發スト實ニ英國ノ理想ハ基礎ヲ義務ニ置クヲ以テ極メ

英人ノ抱負

テ調和的ナリ加之英國國民ハ其ノ心中ニ神ヨリ選定セラレタル國民ハ他日地球ヲ保有スヘシトノ宗教上ノ確信ヲ有ス現ニ千八百九十四年「カーソン」氏曰ク英國ハ世界ニ善ヲ爲スヘク神ヨリ指定セラレタル國ナリト之ヲ以テ見ルモ英人ノ事業カ世界的ナルヲ識ルニ難カラサルヘシ即チ彼等ハ地球ヲ統率スヘキ使命ヲ有スル國家ナリトノ信念ニ厚ク眼界廣大ニシテ曾ニ自國內ノミニ制限セラレス識見亦高邁ニシテ進取ノ氣象ニ富ミ飽充スル所ヲ知ラサルナリ而モ世界上到ル處散在スル英人ハ皆齊シク同等ナル文明ノ理想ト世界統率國タルノ意志ヲ有シ彼此能ク氣脈相通セリ「ルードルフアー」氏ノ如キハ縱令全艦隊ニシテ殲滅セララルモ英國ノ文明氣脈ハ海上ヲ通シテ保持スルコトヲ得ムトマテ極論セリ然リト雖移住セル英人モ自然界ノ感化ト年代ノ經過及他種族トノ混血トノ結果在來ノ傳説ニ反シテ漸次ニ獨特ノ氣質ヲ養成セリ現ニ濠洲及加奈陀ノ如キハ其ノ跡ヲ認ムルコトヲ得ヘシ換言スレハ英帝國分離ヲ助長セムトスルノ傾向ハ既ニ此ニ其ノ一端ヲ現ハセリ

不良思想ノ傾向

尙更ニ緊急ナル一問題アリ即チ英人本來ノ性狀ニ變化ヲ來タシ始メタルコト是ナリ彼ノ故ラニ不道德ノ思想ヲ現ハセル「ワイルド」氏及「シヨウ」氏等ノ著書ノ如キヲ通シテ觀察スルモ英人中ニハ在來ノ事物ノ價值ヲ倒壞スルノミニ止マラス有ラユルモノノ價值ヲ破壞セサレハ已マサルカ如キ危險思想ヲ發生セリ

其ノ他英人中ニハ弛廢セル現象既ニ長キ以前ヨリ發生シ驕奢華美ノ風益甚シク勞動ヲ厭フノ風亦流行

シ遊戯、賭博、賭事等盛ニ行ハレアルノミナラス彼ノ佛國民ノ如ク有ラユル階級ヲ通シテ出産率モ亦減少シ始メタリ此ノ如キ状態ニシテ繼續セムカ七、八十年ノ後ニハ増殖停滯ノ時期ニ達スヘシト計算セル者スラアリ若此ノ説ニシテ眞實トナル曉ニ於テハ英國國民ハ自發的ニ自己ノ世界ニ於ケル支配權ヲ倒壞シテ其ノ國基ヲ危フスルニ至ルヘシ

第四款 社會

英國ノ富 英國ハ巨富ヲ有ス毎年ノ貿易額ハ四十億乃至五十億馬克ノ輸入超過ヲ示セトモ他ノ方面ヨリ莫大ノ收入アリテ結局數十億馬克ノ增收ヲ得ツツアリ而シテ其ノ他ノ方面ノ收入トハ航海業者ノ利得、外國ニ投セラレタル資本ヨリ得ル利益金、銀行業ノ直接利得、印度ヨリ輸入セラルル金額(舊印度官吏ノ恩給)等是ナリ斯ノ如クシテ收得スル資金ハ總テ英帝國全體ノ結束ト發展トニ利用セラル即チ各植民地ハ英國ニ於テ他ノ列國ニ比スレハ半額ノ低利子ニテ募債スルヲ許サルルカ故ニ植民地ト本國ノ結束ハ利害上ヨリ打算スルモ鞏固ナラサルヲ得サルヘク其ノ結果植民地ノ本國ニ對スル忠誠ヲ維持シ得ヘシ其ノ他英國ノ資金ハ佛國ト等シク第五ノ武器トシテ政略上ノ用途ニ充當セラレ他國ニ於ケル利權獲得ニ應用セラル支那及「アルゼンチン」等ニ於テ莫大ナル投資ヲ行ヘルカ如キハ即チ之ニ屬ス

英國カ世界經濟界ニ活躍シ得ルノ素因ハ國內ノ社會組織堅確ニシテ宗教上、社會上ノ紛糾比較的少キニ歸セサルヘカラス本國ノ人民中僅ニ十三「プロセント」ノミナル舊教徒ハ平素ハ靜謐ナルモ唯愛蘭ノ

勞働組合

人種問題及農圃問題等ニ逢著スルトキハ屢社會ノ平和ヲ擾亂ス而シテ愛蘭ニ於ケル宗教上ノ騷亂ハ既ニ早ク終局ヲ告ケタリ(千八百二十九年ニ於ケル宗教解放、千八百六十九年ニ於ケル自由寺院制度)又由來英國人ハ現實ナル國民性ヲ有スルト共ニ勞働組合ノ如キ確實ナル勞働者ノ保護團體存在スルカ故ニ從前ハ社會主義ノ如キハ餘リ發展セズ又工業ノ發展ニ伴ヒ上級社會ト下層者トノ間ニテ發生セル扞格ハ賢明細心ナル爲政者ノ力ニ依リテ巧ニ料理セラレアリ

富ノ分配不平均

然レトモ英國社會ノ惡シキ反面中殊ニ著シキ事實ハ英國ノ富ノ少數者間ニ蓄積セラレテ大多數ノ下層社會ハ貧窮ノ淵ニ呻吟シツツアル點ナリ(貧困者ノ状態ハ概シテ伊太利ニ於ケルモノト等シキモ其ノ程度ハ一層甚シ)斯クテ英國ニハ巨大農場即チ大地主ノミ存在シ殆ト獨立セル小規模ナル農民ナキカ

農業上ノ弱點

如キ有様ナリ此ノ如キ情況ハ特ニ愛蘭ニ於テ著シク其ノ結果人民中離散スル者甚タ多シ(千八百四十年代ニ於テ愛蘭人ハ英國全國人口ノ三十「プロセント」ナリシカ現今ハ僅ニ十「プロセント」ニ減少シタリ)

愛蘭土地法案ノ目的

此ノ惡傾向ヲ挽回スル爲爲政者ハ屢耕地整理ノ條例(千八百八十一年—千九百九年ノ間ニ屢發布セル土地法案)ニ依テ愛蘭ノ土地ヲ購買シ之ヲ小地區ニ區分シ以下層民ノ窮境ヲ救ヒ一見稍良好ナル成果ヲ擧ケタリ而シテ英國ニ於テハ小地主保護運動(千九百七年沒收法案)ノ效果ハ擧カラサリシモ國家社會政策ニ基ケル租稅法ハ即チ前記ノ弊害除去ノ第一歩ヲナセリ此ノ租稅法ハ貴族ノ不當ナル所得

ヲ減削スルヲ目的トスルモノニシテ地價ノ自然騰貴竝放棄セラレアル土地ニ對シ課税セムトスルモノナリ

労働黨

同盟罷業ノ額發ハ社會ノ缺陷

自由黨内閣ハ國家社會政策ニ基キ多少ノ改革ヲナセシモ此ノ間純粹ナル社會主義一般ニ普及シ殊ニ企業者間ニ此ノ風蔓延シ小農保護ノ土地法案モ完全ナル行政モ最早之ヲ控制スル能ハサルノ情況ニ至レリ千九百六年ノ選舉ニ於テ労働黨下院ニ於テ稍優勢ヲ占ムルニ至ルヤ労働者ハ議場以外ニ於ケル其ノ勢力ヲ示サムコトヲ企テ政府ハ之カ爲勢カラス苦慮シダリ而シテ千九百二年終ニ大規模ナル炭坑夫同盟罷業ヲ見ルニ至レリ此ノ如キハ英國ノ將來ニ取リテ危險ナル情況ト謂ハサルヘカラス

食料不足

工業ノ股盛

近年履行ハレタル各種ノ大ナル同盟罷業ノ如キハ現代ノ英國社會ノ缺陷ヲ明瞭ニ暴露セルモノナリ而シテ英國ハ從來工業立國ノ方針ヲ取り農業ヲ輕視スルノ風潮アリテ土地ハ主トシテ大地主ノ獵場或ハ遊園地ト化シ去リ從テ本國內ノ農産物ハ全部ノ國民ヲ養フヲ得ス僅ニ一千五百萬人即チ現時ノ總人口ノ三分ノ一ヲ給養シ得ルニ過キス是ヲ以テ大多數ノ國民ハ其ノ食料ヲ海外ニ仰カサルヘカラス自由貿易ノ採用ハ實ニ此ノ缺陷ヲ補填セムカ爲ナリ英國ノ工業ハ獨國以上ニ發展シ實ニ工業立國ノ典型ヲ示セルモノニシテ既ニ第十九世紀ノ中葉ニ於テ英國古來ノ農業團體ハ全然破壊セラレ労働者組織ヲ有スル工業家ハ小作人ヲ有スル大地主ニ代テ勢力ヲ振フニ至レリ此ノ如キ社會組織ニ於テハ例ヘハ交通機關ニ對スル同盟罷業ニ依ルモ甚大ナル打撃ヲ被ルカ如ク各種ノ機關ニ對スル感受性頗ル大ナルヲ以テ

英國ノ死活

米國ニ對スル關係

社會主義ノ行動ヲ容易ニスルコト勢カラス即チ工業立國ノ結果ハ國民ノ生存條件ヲシテ動モスレハ危機ニ瀕セシムルニ至ル而シテ英國現時ノ狀態ヲ見ルニ第一ニ原料(殊ニ棉花)ヲ購入シテ之ヲ工場ニ於テ製品トナシ然ル後再ヒ之ヲ海外ニ輸出シテ利得ヲ手ニ入レ最後ニ此ノ金額ヲ以テ海外ヨリ食料ヲ購ハサルヘカラス更ニ言フトキハ英國ノ生存條件ハ原料ノ輸入、製品ノ輸出、食料ノ購買ノ三段共皆國外ニ對シ從屬關係ヲ有ス從テ他國ノ商業及労働市場ニ於ケル景氣不景氣ハ深刻且直接ニ英國ニ感應スルカ故ニ海外ノ事情ニ顧慮ヲ拂フノ必要ハ他ノ列國ニ比レ頗ル大ナリ一例ヲ舉ケレハ英國ハ北米合衆國ノ如キ原料ヲ供給スル邦國ニ對シテハ從來外交上屢強硬ナル態度ニ出テラルルモ戰爭ヲ避ケサルヘカラサル事情ニ制セラレテ隱忍セサルヲ得サル立場ニ在リタリ斯ノ如キハ經濟上自給自足ノ完全ナラサル國家ノ當然蒙ルヘキ打撃ニシテ寔ニ自給自足ハ眞實ナル獨立ノ基礎ヲ形成スルモノト云フヘシ英國ハ前述ノ如ク多數ノ工業品ヲ輸出スルノミナラス多額ノ資金ヲ海外ニ投下シ以テ富ノ増大ヲ計レルカ故漸次資本投下ニ依ル収入ヲ以テ生計セル佛國ノ社會狀態ニ近遜スルニ至レリ斯ノ如キ社會狀態ノ變化ハ國家ノ獨立自營ヲ薄弱ナラシムルモノト云フヘク又海外ノ事情ニ從屬的關係ヲ有スルノ害ヲ増大ス其ノ他尙富ヲ蓄積スル範圍ハ唯資金ヲ有スル者ノ間ノミナルヲ以テ貧富ノ懸隔ハ益増大シ此ノ資金ヲ以テ企業シ増殖スル人民ニ就職ノ機會ヲ與ヘ生計ノ道ヲ得セシメムト努力スルモ及ハサルナリ

英國ノ競爭

英國ノ經濟界ハ工業品輸出ニ負フ所尠カラサルニ當今ハ米國及獨國ノ如キ競爭國現出シ益英國ノ地位ヲ危クスルニ至レリ而シテ此等競爭國ハ先ツ保護貿易ノ制度ヲ以テ自國ノ市場ヲ關稅障壁ノ裡ニ防衛シタル後世界ノ市場ニ活躍シテ英國ノ商權ヲ侵略シ遂ニハ自由貿易ノ美名ノ下ニ門戸ヲ開放シアル英本國ノ市場内迄モ侵入シテ勢力ヲ伸張スルニ至レリ

經濟界ノ衰微

經濟統計ニ依ルモ英國ノ經濟界ハ漸次膨脹シツツアルハ勿論ナルモ他國ノ經濟界ノ發展ト比較スルトキハ相關的衰降ヲ示シツツアルコトヲ認ムヘシ是ヲ以テ眞ニ英國カ世界經濟界ニ於ケル最高位置ニアリシ時代ハ「クリミヤ」戰爭ヨリ露土戰爭ニ至ル迄ノ期間ナリト云フヲ得ヘシ

第十九世紀ノ末期米國ノ鐵及石炭ノ產額ハ英國ヲ凌駕シ千八百九十年代ニ於ケル獨國ノ鐵鑛採掘額及製鋼額、千九百四年獨國ノ製鐵總噸數ハ遂ニ英國ヲ凌駕セリ是蒸氣全盛ノ時代ノ終末ト共ニ英國ノ全盛期ハ過キ去リ電氣全盛期ノ開始ト共ニ米、獨ハ英ニ代ラムトスルノ大勢ヲ示セルモノナリ

今英、米、獨ノ三國ノ競爭ヲ見ルモノトセハ英ノ速度ハ最遲シ縱令英國ハ現今或ル方面ニ於テハ優勢ナルモ其ノ方面スラ漸次米、獨等ノ競爭國ヨリ追及セララルカ故ニ優越ノ程度ハ益減少ヲ呈シツツアリ重要ナル英國ノ產業タル「ランカッシャ」ノ紡績工業ノ如キモ既ニ久シク進歩ヲ示ササル狀態ニ在リテ唯比較的發展ヲ見ツツアルハ造船業ノミナリ

千九百三年以來現時ニ及ヒテハ英國ノ商工業ハ再ヒ活氣ヲ呈スルニ至リシモ依然自由貿易ノ制度ヲ

墨守セルカ爲競爭國ニ比スレハ不利ナル位置ニ在ルヲ免レス然レトモ近來競爭國ヨリ左ノ二點ニ就キ學ヲ所アリ即チ企業ノ集中(大規模組織ノ企業)及工藝ニ於テ科學上ノ研究ヲ盛ニ行ヒ實地ニ之ヲ應用スルコト是ナリ然レトモ英國ノ產業界ニハ商權壟斷時代ノ餘弊依然トシテ存在セルカ故ニ將來果シテ

英國ノ將來ハ不安

競爭場裡ニ立チテ勝者ノ地位ヲ保持シ得ルヤ否ヤ疑ナキヲ得サルナリ
自負心ト保守ノ精神トヲ有スル英國人ハ到底獨逸人ノ敏活ニ世界各地ノ市場ニ適應シ得ル能力ニ匹敵スルコト能ハサルヘシ而モ現代ノ生產業ニ於テハ合理的ナル經營法ト製造法ヲ必要トシ此ノ點ニ於テ獨逸人ハ經驗主義ヲ尊重スル英人ニ一步ノ長ヲ示セルノミナラス又米國ハ富裕ナル原料ヲ有スル點ニ於テ英國ニ比シ遙ニ有利ナル情況ニ在リテ將來大ナル發展ヲ遂クルコトヲ得ヘシ右ノ事情ヲ考量スルトキハ英國ハ將來依然トシテ現在ノ優勢ノ地位ヲ失墜スルコトナク大國家ヲ維持スルコトハ不可能ナルヘシ

第五款 國家

英國憲法

英國ノ植民地支配法ト等シク永ク歐洲ノ各國民ニ對シテ模範トナリシハ英國ノ憲法ナリ由來此ノ憲法ノ調和カ國外發展ノ一因タリシコトハ論ヲ俟タサル所ナリ而シテ英國ノ歴史ヲ案スルモ其ノ政體ハ幾多ノ經歷ノ後(千八百三十二年、千八百六十七年、千八百八十四年ノ法制改革等)遂ニ憲法上ノ難問題ヲ解決シテ議院政治ニ歸著スルニ至レリ而モ其ノ議院政治ハ基礎ヲ國民ニ置クコト他ノ列國ト稍其ノ

趣ヲ異ニス而シテ市町村等ニバ自治制ヲ布キ最上ノ政治機關トシテ下院ヲ基礎トスル政黨内閣ヲ設ケ
國家ト社會トハ一體トナレリ

二大政黨對立

凡ソ各般ノ事物ノ發達ハ反對分子間ノ健實ナル爭ニ依リテ始テ完キヲ得ルモノナリ即チ英國ニ於テハ
國家ト社會トノ對立ヲ見サルニ至リシヲ以テ政界ニ自由黨、保守黨ノ二大政黨對立シテ角逐シ交互ニ
一ハ政府黨トナリ一ハ反對黨トナリ各自黨ヨリ閣員ヲ出タシテ内閣ヲ組織スルニ至レリ其ノ結果國民
ハ其ノ選舉權ノ行使ニ依リ自己ノ望ム主義ヲ有スル政黨ヲシテ政治ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク從テ政
府ヲ監視シテ常規ヲ逸セサラシムルコトヲ得ヘシ

英獨政體上ノ差異

英國ハ外觀ハ君主國ナルモ其ノ實獨國ノ國體トハ全然相反ス即チ獨國ノ政府ハ恰モ國民ノ後見者ノ如
キ觀アリテ極端ナル官僚主義ヲ基礎トセル強力ナル王權ハ實ニ其ノ政策ヲ左右ス而シテ其ノ政黨カ多
數ニ分裂シアルコトモ亦此ノ傾向ヲ助長スル所大ナリ然ルニ英國ニ於テハ國王ト人民トノ中間ニ政治
上ノ全權ヲ有スル獨逸政府ノ如キ中間機關ナク其ノ代リニ自治制度ヲ以テ之ヲ補ヒ而モ國王ハ人民ノ
決議權ニ對シテ何等ノ壓迫ヲ加フルコトナシ從テ英國ノ歴史ハ國王ノ歴史ニアラスシテ國民ノ歴史ナ
リ然レトモ國民ハ君主ヲ以テ天與ノ聖象トシテ忠誠ヲ誓ヒ居レルヲ以テ縱令政治上ニ衰微アルモ王位
ハ依然其ノ尊嚴ヲ失ハス

民主的政治

英國民ハ各人皆國家觀念ヲ維持スルモノナリ英人ノ民主的政治トハ古代羅馬人ノ民主政治ト同意義ナ
リ即チ全體ノ利益ト一箇人ノ利益ト能ク一致シ從テ利己心ハ即チ愛國心ニシテ其ノ間兩者ノ境界ヲ辨
別シ難シ

別シ難シ

過去ノ健全ナル英國議院政治

現在ノ墮落セル議院政治

由來過去ノ英國議院政治ハ一種ノ貴族的性質ヲ有ス上院下院共ニ然リ而シテ議院政治ヲ主宰セル者ハ
既ニ國內自治制ノ事務ニ慣熟シ高度ノ才能ヲ有シ且政治ノ經驗ニ富メル者ノミナリ
然ルニ英國ノ政界ハ今ヤ根本ニ變態ヲ來タシ千八百九十七年英國ヲ去リタル「ステッフエン」氏ノ如キ
ハ千九百八年再ヒ英國ニ歸還シタルトキハ政界ノ情況ハ全然一變シテ毫モ以前ノ形影ノ存スルヲ認メ
得サリシト謂ヘリ現代ノ英國ハ善惡兩面ヲ有スル民主主義ト化シ往時トハ全然外觀ヲ異ニス而シテ
民主主義ノ影響ハ自然憲法ニ及ヒ自治制ト鞏固ナル二大政黨對立ノ制度ヲ有セル有名ナル議院政治ハ
今ヤ解體セムトシツツアリ自治制ハ千八百八十八年ノ州治法令及千八百九十四年發布ノ町村法ニヨリ
全然破壞セラレ議院政治ハ千八百七十九年ニ於テ愛蘭ノ國民黨ノ現出及特ニ千九百六年勞働黨ノ勃興
ニ依テ其ノ本色ヲ失ヒ最早純然タル政黨内閣ヲ認メ得サルニ至レリ加之政黨關係ハ社會ノ各方面ニ深
ク浸潤シ特ニ千八百八十四年ノ改革以來米國式ノ政治紛爭ハ國內全般ニ流行スルニ至リ遂ニ選舉者團
體ハ議會以上ノ勢力ヲ得テ彼ノ所謂街上布衣ノ者(高等遊民ノ如キモノ)政治ニ干涉ヲ行ヒ與ヘラレ
タル選舉權ノ行使ニ依リ間接ニ或ハ過大ナル勢力ヲ有スル政黨ノ領袖ヲ表面ニ立テテ直接ニ議院ニ對
シテ壓迫ヲ加フルニ至レリ而シテ政府ト選舉者トノ中間ニ位スル議會ノ勢力ハ漸ク減少シ且其ノ議會

政黨ノ敗

過大ナル權
力ヲ有スル
宰相

政黨内閣モ
事實上黨頭
政治ヲ行フ

ハ腐敗シ始メ「シドニー、ロー」氏ノ説ノ如ク議場ハ墮落シテ唯政治家カ政治上ノ競技(二大政黨間ノ)ヲ演スル一種ノ遊戯場タルニ過キサルニ至レリ内閣ノ頭首タル首相ハ英國實際ノ支配者トシテ在リ「バロー」氏ハ首相ヲ以テ間接ナル普通選舉ニヨリ期間ヲ定メスシテ置カレタル執政官ナリト稱セリ(註、執政官トハ古代羅馬ノ共和政治ノ時代ニ於テ唯國家ノ危難ニ際シ六箇月ヲ期間トシテ國政ノ全部ヲ依託シタル絕對權力ヲ有セル支配者ヲ謂フナリ)而シテ首相ハ下院ノ過半数ノ議員ヲ擁スルヲ必要トスルモ是等ノ議員ハ敢テ勢力ナク恰モ傀儡ノ如ク首相ノ掌中ニ翻弄セラレツツアリ此ノ情況ハ恰モ議院ノ用人カ其ノ主人トナリタルニ均シクテ有名ナル議院政治ノ標榜モ民主主義ノ變形形式ヲ表現シ而モ其ノ民主主義ナルモノモ事實ニ於テハ寡頭政治ニ過キサルナリ此ノ如キ政體ハ到底以前ノ如ク調和セル發達ヲ期待スルコト不可能ニシテ現時英國ニ於テハ古代羅馬ニ於テ貴族ト平民トノ間ニ存_在セル軋轢ト等シキ狀態ヲ現出セリ之カ爲政界ノ前途ニ對シ以前ノ政黨政治ノ光輝時代ニ於テ見ルコトヲ得サリシ忌ハシキ風潮ヲ與ヘ民主主義者ハ財産ノ平等ヲ唱ヘ貧富ノ懸隔甚シクナリタル現時ニ於テハ更ニ紛争ヲ激成シ社會上ノ危機ヲ惹起セリ

右ニ述ヘタル事項ハ千九百六年自由黨ノ突破以後一層激烈ノ度ヲ増シタル英國政争ノ狀態ト相關聯セリ而シテ上院ハ封建時代ノ形體ヲ保有スル如キ觀ヲ呈セルカ故ニ社會問題ハ直ニ政治上ノ範圍ニ移轉シ之カ爲ニ千九百七年ヨリ千九百十一年ニ亘ル間ニ於テ憲法上ノ争闘ヲ惹起シ上下兩院多數議員

上院ノ勢力

減退

ハ兩箇ノ大ナル黨派タル傾向ヲ表現セリ然ルニ遂ニ千九百十一年八月十八日ノ議會制定法ニ於テ上院ハ其ノ拒否權ヲ奪ヒ去ラレ現時英國憲政主義ノ勝利ヲ明瞭ニ表出セリ將來ニ於テハ憲法上、下院ノ獨裁權、否多數ノ配下ヲ有スル政黨首領ノ獨裁權ニ對シテハ何等ノ妨害存在セサルニ至レリ此ノ如キ情況ノ下ニ將來ハ空論政治ノ傾向ヲ馴致シ國家ニ對スル責任極メテ薄弱トナルヘシ從テ政府ハ現代ノ無政府主義ノ兆候(同盟罷業、婦人參政權運動、「アルスター」解放)ニ對シテ其ノ威信ヲ失墜セルコト明トナレリ以上ヲ綜合スルニ英國内ニハ其ノ特色トセル克己心(自制心)ト保守主義ハ遂ニ見ルヲ得サルニ至ラムカ

植民地ノ權
力過大

英帝國ノ國家ノ組織ニ關シ特ニ注意スヘキハ植民地カ他國ノ君主直屬植民地ニ比スレハ大ナル特權ヲ有スルコト是ナリ而シテ平常ニ於テハ英國ノ自治植民地ハ事實上獨立國ノ如キ觀アリテ各自己ノ議會ヲ有スル政府ヲ備ヘ總督ハ單ニ政務ノ進行ヲ圖ル程度ノ國王ノ如キ職務ヲ有スルノミ而シテ英國國王カ拒否權ヲ適用スルハ稀ナル場合ナルモ國王ハ一般外交政策ニ關スル後見役ニシテ或ル種ノモノニ對シ最高判決ヲ行フ

植民地對本
國ノ商業關

植民地政府ハ又其ノ商業政策上ノ支配權ヲ有スルハ注意ニ價スル所ニシテ千八百七十年以來植民地ハ一般ニ此ノ權利ヲ要求スルニ至リ既ニ母國及他ノ諸國ニ對シ關稅ノ墻壁ヲ設ケタリ此ノ如クシテ英國植民地支配權ハ他ノ國ノモノト全然相違シ帝國全體ヨリ見ルトキハ英本國ハ一家ニ

於ケル家長權ノ全部ヲ有セサルノ觀アリ

第六款 帝國問題

自治植民地ニ責任ナキ自由ヲ許シタルニ他ナラス
自由ヲ許シタル原因

英國ハ其ノ自治植民地ニ母國ノ保護ノ下ニ責任ナキ自由ヲ許シタルノ真意ハ植民地カ他日本國ヨリ獨立運動ヲ開始スルヲ防遏セムトスル安全瓣ヲラシメムトスルニ他ナラス（千八百三十九年「ダーハム」氏ノ報告ニ依ル）又英本國ニ於テハ第十九世紀ノ中葉及其ノ以後ニ亘リ英國ハ世界ノ市場ヲ全然支配セリトノ自負心ヲ有シ全世界特ニ自己ノ全植民地ヨリ拱手シテ利益ヲ收得シ得ルカ故ニ最早外方ニ膨脹ヲ行フハ不要ナリトノ樂觀亦植民地ニ責任ナキ自由ヲ與ヘタル一因ナリ

右ノ如キ簡單ナル原因ヨリ自由貿易ノ制度ヲ布キ遂ニハ自國ノ市場ヲ競爭國ノ蹂躪ニ委スルニ至レリ殊ニ極端ナル論者「コブデン」氏ノ如キハ自由貿易ヲ以テ純然タル教理トナシ植民地ノ統率ノ如キハ唯不必要ナル國防上ノ煩累ヲ増スニ過キサルカ故ニ須ラク此ノ煩累ヲ斷ツヘントサヘ唱道セリ然ルニ第十九世紀ノ末期（千八百七十年代）ニ於テ上述ノ所謂小英國的時代ハ動搖ヲ始メタリ即チ他ノ諸國ハ皆保護關稅ヲ以テ自國ノ市場ヲ防衛シ續々世界ノ市場ニ勢力ヲ伸張シ世界的商戰ノ端緒ヲ開ケ

列強ト經濟
競爭ヲ行フ
必要上取ル
ヘキ處置

是ニ於テカ英國ハ之ニ對抗スヘキ爲一方ニハ從來ノ態度ヲ一變シテ益侵略主義ニヨリ世界ノ市場ヲ領有スヘントノ說ヲ生シ他ノ一方ニハ英本國ト各植民地ヲ全然合同シテ關稅及商業上經濟界ノ合一ヲ期スヘントノ說ヲナス者アルニ至ル而シテ先ツ企圖セラレシ所ノモノハ經濟上及政治上ニ於ケル英帝國全部ノ結合ニシテ以テ全領土ヲ一團トナシタル大帝國ヲ建設シ自給自足ノ目的ヲ達成セムトスルニ在リ

英國ノ經濟界ハ他國ノ情況ニ從屬スルヲ以テ此ノ弱點ヲ除去セムカ爲ニハ其ノ植民地トノ連繫ヲ密ニシテ他列強トノ競爭場裡ニ立ツモ毅然トシテ經濟上ノ獨立ヲ全フスルコトヲ要スルハ論ナキ所ナリ而シテ其ノ植民地ノ狀態ヲ見ルニ從來本國輸入額ノ四分ノ一ヲ供給シ其ノ輸出額ノ三分ノ一ヲ收容ス（貿易收入額ハ加奈陀ハ三億、濠洲ハ二億五千萬、南阿ハ一億三千万、新西蘭ハ七千萬馬克ナリ）而シテ此等ノ植民地ハ其ノ指導ニシテ當ヲ得ムカ更ニ大ナル發展ヲ期シ得ヘキハ明ナリ即チ其ノ包藏スル工業及食料品等ノ大ナル資源ハ能ク北米合衆國及「アルゼンチン」ヲ英國ノ市場ヨリ驅逐スルコトヲ得ヘク此ノ如クニシテ能ク自給自足ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ヘシ

獨逸ニ於テ關稅同盟カ其ノ帝國建設ノ一因ヲナシタルト等シク大英帝國ノ經濟上ノ聯合ハ延テ其ノ政治上ノ範圍ニマテモ影響スヘキハ當然ナリ即チ從來本國ト植民地トノ主從關係ヲ撤廢シテ同等ノ資格トナシ「カプール」ノ伊國ニ於ケルカ如ク又「ビスマーク」ノ獨逸ニ於ケルカ如ク英帝國ノ統一ヲ期セサルヘカラサルハ自然ナリ千九百三年十月「チャンバレン」氏ハ述ヘテ曰ク英國ハ既ニ老イタリ從來ノ名譽及重荷ヲ負擔スルニ堪ヘス吾人ハ再ヒ往時ノ如キ其ノ繁盛ヲ望ムコト能ハス然レトモ英帝國

第五章 英國

ハ猶若年ナリ此ノ新帝國ニ於テ吾人ハ大ナル未來ヲ期待シ得ヘシト言理ニ汎英主義ノ活躍セルヲ認ム
 ヘシ若彼ノ主義ニシテ貫徹セラレムカ假令英本國ハ在來ノ特殊ノ地位ヲ失フトモ各植民地ト融合シテ
 能ク獨逸帝國ニ於ケル普魯西ト等シク帝國ノ發展ト共ニ益其ノ光輝ヲ放ツニ至ラム
 更ニ統計上ヨリ英帝國ノ觀察ヲナサムニ現時英國ノ自治植民地全部ノ總面積ハ百九十萬平方吉米其ノ
 總人口ハ一千九百萬ナリ又本國ト全部ノ植民地トノ比例ハ

面積ニ於テ 1 : 100
 人口ニ於テ 10.1 : 100

ニシテ核心タルヘキ英本國ト植民地トノ關係ハ頗ル危險ナル狀態ヲ呈ス然レトモ大英帝國(本國ト自
 治植民地トヲ合體セルモノナリ自治植民地以外ノ植民地ハ依然大英帝國ニ從屬ス)ヲ建設スルトキハ
 右ノ比較ハ次ノ如ク變化ス

面積ニ於テハ 61 : 100
 人口ニ於テハ 15 : 100

是ニ由テ之ヲ觀レハ人口ト面積トノ關係ヲ大ニ調和シ植民地ハ政治上ノ高上及強國タルノ地位ヲ獲得
 シ英本國ノ爲ニハ他國殊ニ米國ヨリ經濟上獨立スルヲ得テ本國、植民地共ニ大ナル利益ヲ享有シ大英
 帝國ハ眞箇ナル獨立國トナリ將來ヲ危フマレタル國家基礎ハ再ヒ鞏固トナルニ至ラム

加奈陀及深
 洲ノ國家的
 觀念勃興
 題 稅率改正問

而シテ殊ニ加奈陀及深洲人ノ國家的觀念ハ近年益勃興シ千八百八十七年、千八百九十七年、千九百二
 年、千九百三年等數回ニ亘リ本國ト植民地トノ代表者會合シテ稅率改正問題ヲ議シ第一著ニ加奈陀
 ハ其ノ市場ニ於テ母國ニ特惠ヲ與フルコトヲ決シ千九百八年ニ至リ遂ニ全部ノ植民地ハ本國ニ握手ヲ
 求メタリ然ルニ英本國ハ之ニ應セザリキ其ノ理由ハ千九百六年ノ選舉ニ於テ大英帝國建設ノ主張者タ
 ル「チャンバレーン」氏ノ率キル政黨ハ敗北ニ終リ其ノ以後自由黨内閣成立シ稅率改正ニ對シテ絶對
 ニ反對ナルコトヲ宣言セルヲ以テナリ而シテ自由黨内閣ハ外國ヨリ經濟上ノ危險ヲ蒙ルコトナシト信
 セルモノニシテ殊ニ近年ノ好景氣ニ鑑ミ益其ノ所信ヲ強クシ從テ自由貿易ノ制度ヲ改ムルノ要ナシト
 シ只管食料ノ價格ヲ始メ諸物價ノ騰貴セムコトノミヲ憂ヒタリ若自由貿易ノ制ヲ廢止スルトキハ新ナ
 ル情況ニ適應シ得ル迄ノ間ハ經濟界ノ恐慌ヲ來タシ英本國ハ物價騰貴ヲ生スルモ植民地ハ之ニ反シ好
 景氣ヲ呈スルニ至ルヘシ自由黨内閣ハ英本國ノ經濟界ヲ擾亂スル政綱ヲ以テ選舉者ニ臨ムヲ欲セザリ
 シナリ唯少數黨ナリシ保守黨ハ自由黨政府ニ反對セリ
 然リト雖植民地自身モ亦漸次工業發達スルニ從ヒ高價ナル英本國品ヲ要セサルニ至リ遂ニ植民地内ニ
 於ケル經濟上自給自足ノ實ヲ現ハシ來タラハ「チャンバレーン」氏ノ大企圖モ遂ニ水泡ニ歸シ去ルヘシ
 帝國國防問 次ニ發生スヘキ難問ハ帝國國防ト帝國憲法ニ關スル二件ナリ英國ノ植民地ハ近來益本國ト國防上團結
 スルノ必要ヲ感シタルモノノ如ク千九百十三年加奈陀下院ノ大多數ハ本國ニ軍艦三隻ヲ獻スル議案ニ

贊同シタリ現時ニ於テハ英國常設國防委員設立セラレ尙本國及植民地協同ノ參謀本部ノ設立ニ關シ論議ヲ戰ハセ居レリ然レトモ此ニ考フヘキハ植民地力其ノ獻金ニ依リ宣戰其ノ他ニ容喙スルニ至ルヘキコト是ナリ

帝國建設問題

又植民地ノ發達ハ愛蘭問題ト共ニ英國ノ組織ニ關シ大ナル問題ヲ惹起セリ即チ一ハ愛蘭ノ自治ニシテ一ハ自治植民地ノ合同是ナリ而シテ純粹ナル愛蘭議會ノ成立ハ英帝國ノ核心タル英本國ノ弛解ヲ意味スルカ故ニ千八百八十六年及千八百九十三年自由黨ニ依リ議會ニ提出セラレシト雖大多數ヲ以テ否決セラレタリ而シテ又蘇格蘭「ウエールス」及英蘭ノ各地即チ「ランカシー」「ミッドランド」「ロンドン」等ニモ自治制ヲ擴張セムトスルモノ即チ英本國ヲシテ恰モ合衆國又ハ獨逸聯邦ト同一ノ形式ヲ具セシメムトスル意見ヲモ見ルニ至リ之ト同時ニ各植民地ヲ聯合シ帝國聯邦ヲ組織セムトスルノ意見モ現出セリ即チ合衆英國ノ成立ハ英本國ノ弛緩ニ依ルモノト自治植民地ノ聯合ニ依ルモノトノ二箇ノ經路ヲ有セリ更ニ此ニ附記スヘキコトハ各植民地モ亦既ニ合同ノ形態ヲ有セルコト是ナリ即チ加奈陀ハ千八百六十七年以來、濠洲ハ千九百年以來、南阿ハ千九百年合同式ヲ採用セリ此ノ如キ國家解體ノ傾向ハ將來益其ノ度ヲ高ムルヤ必セリト云フヘシ
千九百十二年當時ノ政府カ三度愛蘭自治問題ニ關スル勸議ヲ提出セシカ其ノ理由ハ單ニ平和政策トシテ又英國議會ノ重荷ヲ輕減セムトセシ止マラス議院ノ解體及全帝國合同ノ第一歩ヲシメムトスル

ニアリタリ更ニ吾人ハ植民地問題ニ關シ此ニ附言スヘキ事アリ「チアンメレーン」氏主唱ノ大英帝國(英本國及五箇ノ自治植民地ヲ合スルモノ)ニテハ核心人民此ノ全帝國ノ七十二「プロセント」ヲ占ムルモ自由黨主義ノ帝國(英蘭及他ノ八箇ノ友邦ヲ合スルモノ)ニテハ核心人民ハ此ノ全帝國ノ五十三「プロセント」ヲ占ムルニ過キス獨逸ニ於ケル普魯西(六十二「プロセント」)ヨリ遙ニ寡少ナルコト是ナリ即チ國家ノ集結ニ依ル建設ト分散ニ依ル建設トハ其ノ結果ノ大ニ差異アルハ吾人ノ學フヘキ所ナルヘシ
英國ノ將來 上述ノ如キ國家解體ノ傾向ハ將來益其ノ度ヲ進ムルヤ明ナリ殊ニ愛蘭ノ自治問題ハ年來ノ懸案ニシテ「アルスター」ノ内亂ノ如キモ英國ノ痛痒ヲ感スル所ニシテ將來英國カ確乎タル國家ノ基礎ヲ樹立シ得ルヤ否ヤハ吾人ノ疑問トスル所ナリ

第七款 對外政策

上述ノ如キ國家ノ難問題ハ純然タル對外政策ニ影響ヲ及ホスヘキコトハ勿論ナリ各植民地ハ本國ト合シテ一團タラムトスルノ宏量ヲ示セル現象ハ主トシテ外界ヨリノ壓迫ニ對スル反應ナリ加奈陀ハ合衆國ヨリ、濠洲ハ日本ヨリ、英領南阿ハ「ボーア」人及獨逸人等ヨリ脅威セラレツツアリ他面ニ於テハ英國以外ノ諸國ハ英國カ門戸ヲ閉鎖スルニ對シテ恐ラク默視スルヲ得サルヘシ

遮莫英國ハ人口ト食料トノ關係上徒ニ退嬰的ナルヲ得ス必スヤ進取的行動ニ出ツルハ國家ノ維持上必

然ノ措置ナリ從テ其ノ戰略ハ攻勢防禦ナラサルヘカラス英國ハ須ラク既得ノ支配權ハ之ヲ保持シ一ハ以テ國內分離ノ傾向ヲ押ヘ一ハ以テ國外ノ競爭國ニ當ラサルヘカラス然レトモ他ヨリノ危險ヲ豫防スル最善ノ策ハ他ナシ唯散在スル領土ヲ益擴大シテ彼此互ニ連關セシムルノ舉ニ出ツルアルノミ換言スレハ領土ノ間隙地ヲ侵略スルヲ要ス然ルトキハ各領土ノ間隙ニ存在セル戰略上ノ危險物ヲ除去シ得テ幾分カ領土ヲ安固ナラシムルヲ得ヘシ

從前退嬰的ナリシ對外政策ハ右ノ理由ノ下ニ其ノ態度ヲ一變シ先ツ千八百七十四年「ビーコンスフィールト」内閣ノ成立セルトキニ其ノ旗幟稍鮮明トナリ續テ千八百八十六年ノ選舉ニ際シ自由黨分裂スルヤ全然進取的對外政策ニ移轉セリ是ニ於テカ民間ニ於テモ希望峰ヨリ「カイロ」ニ達スル大植民地ヲ阿弗利加ニ建設スヘキヲ唱フルモノ多ク尙同大陸ヲ南北ニ直通スル大鐵道ヲ敷設スル計畫ヲ立テタリ續テ「ロデシア」及其ノ南方地域ヲ英領トナシ（千八百八十五年—九十一年）「ボア」人ノ國家ヲ孤立セシメテ英國ノ支配權ヲ「ニアツサ」湖ニ至ルマテ擴張セリ又千八百九十六年—九十八年ノ頃埃及「スーダン」地方ヲ占領シ續テ佛國ノ勢力ヲ「ナイル」河谷（「フアシヨダ」）地方ヨリ驅逐シ千八百九十七年—千九百二年ノ頃「ボア」人ノ建設セル國家ヲ破壞シ英領南亞弗利加ヲ結合シ第二十世紀ノ當初ニ於テ左ノ二箇ノ英領地帯ヲ建造セリ

英國ノ亞弗利加政策發展

- (一) 「カイロ」ヨリ南方印度洋ニ亘ル地帯

總面積 四百五十萬平方吉米

總人口 二千萬以上

- (二) 希望峰ヨリ北方獨領東阿弗利加「ニアツサ」湖ニ亘ル地帯

總面積 三百三十三萬平方吉米餘

總人口 一千萬

其ノ他英國ハ第二世紀ノ當初ニ於テ其ノ膨脹ノ方向ヲ亞細亞方面ニ變更シ印度「カルカッタ」ヨリ埃及「カイロ」ニ亘ル勢力地帯ヲ建設スルカ爲「アラビヤ」及「メソポタミヤ」ニ利益圈區ヲ伸張シ灌溉及鐵道ノ敷設ヲ行ヒ又千九百七年露國ト協定シテ南部波斯ヲ自己ノ勢力範圍下ニ置ケリ右ノ勢力地帯ハ五百萬平方吉米ノ面積、三千二百萬人ノ人口（印度以外ニ）ヲ有ス

右ニ述ヘタル英國ノ亞細亞大陸及阿弗利加大陸上ノ兩箇ノ勢力地帯ノ接合部ハ埃及ニシテ「スエズ」ハ兩大陸間ノ橋頭堡タルノ觀ヲ呈ス別ニ又印度洋ノ東南方ニ面積八百萬平方吉米、人口五百萬ヲ有スル濠洲アリ

所謂印度洋帝國

以上ノ全部ヲ合スルトキハ印度洋帝國ヲ現出シ往昔ニ於テ羅馬帝國カ地中海ヲ挾メル大帝國ナリシト同一ノ觀ヲ呈ス

ハ英國版圖ノ偉大ナルハ實ニ驚クヘキナリ加之西班牙、佛蘭西、葡萄牙、諾威、日本、露西亞、米國等ノ友邦ヲ有ス

右ノ如ク世界ニ擴張セル全領土ノ連繫ヲ確保シ殊ニ食料運輸ノ航路ヲ安全ナラシメムカ爲ニハ優勢ナル海軍ヲ要スルハ自ラ明ナルノ理ニシテ海上ノ勢力ニ於テ他ノ列強ニ劣ルコトヲ許ササルナリ

然リ而シテ英國カ永遠ニ亘リテ國家ノ基礎ヲ安泰ナラシメムカ爲ニハ歐洲ニ於ケル強大ナル競爭國ヲ壓倒スルノ必要ヲ生ス若此ノ際自由ノ爲及小國ノ權利ノ爲戰フニ至ラハ則チ自國ノ維持及勢力擴張ノ爲利スル所抄カラサルナリ由來歐洲大陸ニ於テ多數ノ小弱國ヲ連衡シテ自國ノ強大ナル敵國ニ當ルハ

往時ヨリ英國ノ傳統政策ニシテ其ノ目的トスル所ハ他國ノ力ヲ利用シテ歐洲ノ均衡ヲ維持シ自己ノ安固ヲ計ルニアリ其ノ事實ハ最近二世紀間ニ於テ屢吾人ノ認知スル所ナリ

第二世紀ノ當初ニ於テハ英國ハ露、佛ヲ敵視シ此ノ兩國ノ勢力ヲ殺カムコトニ全力ヲ傾注シタルモ「フアショダ」事件以後佛國ノ甚シク恐ルルノ價値ナキヲ悟ルヤ殘ル所ハ獨リ露國ノミニシテ印度ニ對スル願慮上其ノ舞臺ハ亞細亞方面ニ轉セリ然ルニ南阿ニ於テ「ボーア」人ト戰フヤ自國ノ力(殊ニ兵力)ノ不十分ヲ痛切ニ自覺シ先ツ同盟國ノ必要ヲ感シタリ是ニ於テカ露國ヲ壓迫スルカ爲ニハ先ツ獨

國ト結ブノ必要ヲ生シタルモ獨國ノ拒絕スル所トナレリ即チ英國ハ千九百二年遂ニ日本ト同盟ヲ締結シ千九百五年ノ日露戰爭ニ於テ英國ノ目的ハ豫期以上ニ達成シタルモ爾後再ヒ歐洲ノ權衡破壞セラレ

ルニ至レルヲ見ルヤ千九百四年往時ヨリノ敵國ナリシ佛國ト先ツ協商ヲ結ビ又千九百七年露國ト提携シテ獨國ヲ封鎖シタリ尙之カ爲「ロシイス」(「ファイルス、オフ、フオルス」内)ニ新ニ軍港ヲ設置シ從來ノ二國標準主義ヲ變更シ「ドレッドノート」級ノ軍艦ヲ獨國ノ一ニ對スルニ二ノ比例ヲ以テ建造シ又「ロバート」元帥ハ一般兵役法ヲ採用シテ獨國ニ備ヘムトセリ又獨國海軍ノ漸次増大スルヤ其ノ侵入ヲ敢テスル程度ニ至ラサル以前ニ於テ之ヲ撲滅セムコトハ英國一般ノ期待シタル所ナリ此ノ見地ヨリシテ英國ハ歐洲ノ同盟政策ヲ鞏固ニシ以テ獨國ヲ弱ラシメムト企圖セリ此ノ結果千九百五年及千九百十一年ノ「モロッコ」問題、千九百八年埃國「ボスニヤ」合併、千九百十二年ノ「バルカン」戰爭等ノトキニ於テ既ニ歐洲ノ大戰ヲ勃發セムトスルノ形勢ヲ示セリ而シテ英國ト獨國ノ間ハ一時中央

阿弗利加、「メソポタミヤ」ノ問題ニ於テ比較的和解スルカ如キ傾向ヲ示セルモ是露、佛兩國カ英國ニ代リテ對獨政策ヲ緊張スルニ至リシ結果ニシテ爲ニ英國ハ聊カ小康ヲ得タリト認ムヘキ節ナキニアラス

千九百三年「ローザンダース」氏ハ英國ノ歴史ヲ述ヘ其ノ將來ニ關シ意見ヲ附加シテ曰ク英國ハ其ノ植民地住民ノ勢力擴張ニ基ク國民的復活及財産平等分配ニ依ル社會ノ改善トノ二道ニ向テ發展スヘシト而シテ此ノ兩者ハ政府黨及反對黨ノ主要ナル政綱トスル所ナリ而シテ自由黨ハ英帝國ノ商業同盟ニ對シ好感ヲ有セサルカ故ニ英國從來ノ侵略政策ヲ復活セシムルニ至リシモ之ニ反シ保守黨ハ新ナル平

第五卷 英國

一〇七

結 論

第五卷 英國

一〇七

第五卷 英國

一〇七

第五卷 英國

一〇七

第五卷 英國

一〇七

和的手段ニ依リ英國膨脹ノ目的ヲ達成セムトセリ
前世紀及前々世紀ノ初ニ於テ英國ノ同盟政策ハ遂ニ歐洲戰爭ヲ誘起シ爲ニ英國ハ未曾有ノ好況ニ際會
セリ然レトモ今ヤ再ヒ此ノ如キ好機到來シ獨國ノ勢力ヲ挫折スルヲ得タリトスルモ果シテ能ク國內ニ
鬱積セル各種ノ弊風ヲ一掃シ得ルヤハ疑ナキ能ハサルナリ

英國ノ興廢ハ實ニ海上權ノ掌握ト否トニ關ス其ノ世界ノ覇者タラムトスルノ希望ハ英國國民傳來ノ理想
ニシテ大陸上ニテ行ハレシ過去ノ大帝國建設ノ理想ト果シテ如何ナル差異アリヤ全文明界ヲ一國ノ掌
中ニ把握シ他國ヲシテ崛起スルコトヲ得サラムル點ニ於テハ同一ナラム大陸ニ於ケル強國ノ興隆ハ
文藝ノ復興ニ負フ所尠カラサリシモ一度其ノ傾向ニシテ大陸上ヨリ驅逐セラルルヤ前記ノ理想ハ海洋
ヲ基礎トスルニ至リ「ヴェニス」、葡萄牙、和蘭等ハ相次テ隆盛ヲ極メタリ然レトモ最後ニ興リシ英國
ハ實ニ未曾有ノ發展ヲ遂ゲ今ヤ全海洋ハ一國ノ手ニ依リ支配セラレサルヘカラサルカ如キ光景ヲ呈ス
ルニ至レリ

世界ノ情勢ハ變移シ獨、米、日等ノ海國カ勃興スルニ至リシ結果難クハ英國モ衰微ノ徵ヲ來タスハ自然
ノ勢ナリ英國ハ今ヤ他ノ強國全部ニ對抗シテ同様に歩調ヲ保ツコトハ不可能トナレリ獨國海軍ノ建設
者タル獨逸皇帝ノ所謂冒險思想ト稱スヘキモノモ必スヤ他日英國ノ世界支配ノ壘ヲ摩スルニ至ルヤ必
セリ而モ獨逸皇帝ハ辯明シテ曰ク獨國海軍ノ建設ハ英國侵略ヲ目的トスルニアラス歐洲ニ對スル攻勢

所謂歐洲均
衡ノ意義

ヲ意味スルモノニアラス實ニ平和ノ保證ニアリト

未來ニ於ケ
ル英國

二世紀來英國ニ依リテ宣言セラレシ歐洲ノ均勢モ今ヤ漸ク過去ノ時機到來セリ元來英國ノ唱道スル歐
洲ノ均勢ナルモノハ其ノ美名ノ下ニ隱レ巧ニ歐洲各國ヲ籠絡シ其ノ間世界上ニ自國ノ領土ヲ作ラムコ
トヲ圖リタルモノナリ即チ歐洲ノ均勢ハ英國ノ海上及世界ニ於ケル優勢ヲ意味ス今ヤ國際ノ關係ハ歐
洲ニノミ極限セラレスシテ全世界ニ擴大シ、歐洲ノ均衡ハ變シテ世界ノ均衡トナリ英國ヲシテ此ノ間ニ
乘スル宣言ノ餘地ナカラシムルニ至レリ曩ニ英國ニ於テハ其ノ全植民地合同ノ主義ノミナラス全「ア
ングロサクソン」民族統一ノ思想ニ因リ米國ヲモ聯合セムトスルノ思想現出セルヲ認ム若此ノ理想ニ
シテ實現セラレムカ其ノ國民ハ全世界ノ人口ノ三分ノ一ヲ占メ其ノ廣大ナル帝國ハ能ク他ノ邦國相合
同セルモノニ對抗シ得ヘシ然レトモ此ノ如キ情況ニ至ラムカ英本國ハ從來保有セシ中心勢力タル能ハ
スシテ獨逸ニ於ケル「バイエルン」ノ如キ地位ニ低下スルハ免レサル所ナリ此ノ如キ大ナル理想ハ紙上
ノ空論ニ過キスシテ果シテ將來實現セラルヘキヤハ疑問ナリ加之現時ノ英帝國ニ於テスラ英人ハ果シ
テ能ク將來之ヲ統御シ得ヘキヤ否ヤ疑ナキ能ハサルナリ見ヨ埃及、印度、南阿、濠洲等ニシテ更ニ大ニ
發達セムカ英國ニ對シテハ反テ米、獨、佛、露等ノ諸國以上ノ危險ナル分子タルニ至ラムモ知ルヘカ
ラス假令英國ハ植民地ノ崛起ヲ阻止スルコトニ成功スルトモ印度及埃及ノ民族精神ハ最危險ナル破壊
分子タルヲ免レス特ニ埃及カ帝國ノ特種ナル「アキレス」踵ノ性質(強者ノ弱點)ヲ取ルニ至ラムカ

益其ノ然ルヲ認ムルナリ
 以上ノ如ク論スルトキハ各國ノ爲政者ハ少クモ我カ演繹ニ就テ迷ヲ生スルナラム素ヨリ憎惡モナク偏見モナク又迷心モナキ純粹ナル學者スラモ英國ノ將來ニ暗雲ノ横ハルヲ認ムルモ英國カ從來能ク此ノ如キ大規模ノ國家ヲ建設シタル偉大ナル功業ハ決シテ無視スルモノニアラサルナリ實ニ英帝國ノ建設ト共ニ人類ノ意義ハ世界的ニ認メラレ政治機關ノ運用ニヨリ全世界民族ノ共同生活ヲナシ得ルノ動力之ニ依リテ與ヘラレタリ將來ニ於テモ此ノ動力ハ決シテ消滅セサルヘシ斯クテ英國ハ假令世界ヲ支配スルカ如キコトハナカルヘキモ世界史編纂ノ爲大ナル任務ヲ果セルモノト云フヘシ

第六章 米 國

國史大略

合衆國ハ最新シキ強國ナリ而シテ同國ノ獨立セルハ千七百七十六年ナリ獨立以前ハ現時印度カ英國ノ總督ノ下ニ立チアルト等シク英國ノ屬邦ニシテ現時ノ加奈陀ニ於ケル英人數ト略同數ノ英人在住シタリ
 東部ニ於ケル人民ハ第十九世紀ノ初期漸次「ミシシッピ」河谷ヲ經テ西方ニ膨脹シ第十九世紀ノ中期ニ於テハ太平洋ニ達セリ其ノ後千八百六十七年「アラスカ」ヲ併セ第十九世紀ノ末期ヨリ海外ニ領土ヲ擴張シ始メ「ポルト、リコ」、布哇、「フイリッピン」群島、「ツツイラ」等ヲ次第ニ獲得セリ右ノ新領地「ア

ラスカ」ヲ合シテノ總面積ト本國ノ面積トノ比例ハ二十七ニ對スル百ニシテ本國ノ方遙ニ廣大ナリ合衆國カ海外發展ヲ行フニ至リシヨリ以來同國ハ世界ノ列強ニ伍スルニ至レリ

第一款 地理

天與ノ富國
 世界地圖ヲ披見セハ一目直ニ此ノ國土ノ廣大ナルヲ知ルヲ得ヘシ而シテ其ノ面積ハ塊匈國ノ如キ大國ノ十倍ナリ而シテ其ノ緯度ハ大體地中海ト同等ナルガ故ニ溫帶及熱帶附近ノ氣候及地理上ノ特長ヲ併有ス從テ食料、工業用ノ原料等富饒ナルノミナラス工場用ノ原動力ヲ得ルコト容易ナリ實ニ合衆國ハ自給自足ノ天與ノ富國ニシテ「エマーツン」氏ハ米國ヲ以テ神カ人類ノ爲與ヘタル最後ノ最大ナル贈物ナリト評シタリ歐洲ノ狹隘ナルニ反シ米國ノ國土ハ茫漠タリ而シテ歐洲ノ鐵道延長數ノ總計ヨリモ長大ナル鐵道網ハ之ニ貫通ス勿論面積ノ過大ナルハ其ノ反面ニ於テ各地方毎ニ經濟上及社會上ノ不一致ヲ生シ國內ノ統一ヲ困難ニスルノ不利アリ千八百六十年代ノ南北戰爭ノ如キハ之ヲ證明セリ然ルニ漸次交通機關ノ發達スルニ從ヒ經濟上及精神上彼此融合スル傾向顯著トナリ現今南部地方ノ栽培地、東北部地方ノ工業地及西部ノ鑛産及牧畜地トハ彼是互ニ組織的連絡ヲ保テリ又以上ノ各地方ノ中間ニハ二萬七千吉米ノ水路ヲ有スル「ミシシッピ」大河流通シ各地ノ調和ヲ助ク唯「カリフォルニア」地方ノミハ格段ニ分離セルモ「パシフィック」鐵道ニ依リテ確實ニ他ノ地方ト連繫ス國境ハ大體ニ於テ自然ノ地物ニ一致セサルノ不利アリテ從來屢國境上ノ爭亂（殊ニ加奈陀ト）アリシモ是北米合衆國ノ危險ニア

位置

ラスシテ却テ隣國ノ爲危険トスル所ナリ
 米國ハ又東西ニ大洋アルカ爲獨國ノ如ク四圍ヨリ壓迫ヲ受タルノ虞ナキヲ以テ一般兵役義務ヲ採用
 セス從テ軍事費ヲ節約シテ他ノ生産上ノ事業ニ轉用スルヲ得又英國ノ如ク他ノ列強ト接近シアラサル
 カ故ニ同國ニ比シ大ナル海軍力ヲ要セス又海岸線ノ延長割合ニ短ク國土ノ面積大ナルカ故ニ普通船舶
 ノ航行ハ期待セル如ク發達セス主トシテ大陸的性質ニ傾ケリ海岸カ大西洋岸ト太平洋岸トニ區分セラ
 レアルハ米國ノ不利トスル所ニシテ千八百九十八年ノ米西戰爭當時ノ如キハ著シク此ノ不利ヲ感セリ
 即チ戰艦「オレゴン」號ハ海戰場ニ到達セムカ爲南米ヲ迂回セサルヘカラサリキ是ヲ以テ獨國カ「キー
 ル」運河ヲ開通セルト同目的ヲ以テ「パナマ」運河ヲ穿テ此ノ不利ヲ除去セリ而シテ同運河ヲ確實ニ
 自國ノ領土内ニ入ルルカ爲ニハ中央亞米利加及「メキシコ」等ニ對シテ壓迫ヲ加フルノ必要ヲ生セリ
 「パナマ」運河ニヨリ東西ノ海洋ヲ連絡セルヨリ以來米國ハ益強國タルノ要素ヲ増加シ將來實ニ計リ
 知ラレサル發展ノ餘地ヲ有スル富強國トナリタリ

第二款 國民

加移民ノ増
 米國國民ハ元來歐洲ヨリ移住セシモノニシテ近年ニ於テハ人口ノ自然増殖數(出産ニヨル増加)ヨリ
 モ遙ニ多數ノ歐洲移民入國スル情況ナリ即チ五、六十年以來年々ノ移民數一百萬ヲ下ラス殊ニ最近十
 年ニ於テハ百五十萬以上ニ及セ七十九世紀中ニ於ケル移民總數實ニ七千一百萬ニ達セリ是ニ於テカ

中心種族
「アングロ
サクソン」
人

全然米國化
セル國民ハ
全體ノ四分
ノ三

所謂「ヤン
キー」種族

強國トシテノ要素タル民族ノ統一ニ於テ缺陷ヲ生スルノ觀ヲ呈スルト共ニ基督教ノ宗派ハ百五十以上
 ニ達シ特ニ舊教ハ移民ノ増加ト正比例シテ其ノ勢力ヲ加ヘツツアリ
 而シテ米國ニ於ケル純粹ノ白人種ハ全人口ノ五十四「プロセント」ニシテ「アングロサクソン」人種
 ハ其ノ中心種族ナルモ同人種ハ佛國人ト等シク出産數逐次減少シテ死亡數ト略同等ナルノ状態ニ在リ
 然レトモ他ノ移民ニ比スルトキハ同化力頗ル強ク且氣候風土ニ順應スルノ能力ニ富メルカ故ニ他種族
 移民ノ第二代目ノ者ハ時ノ經過ト共ニ全然米國化セラル而シテ「アングロサクソン」人ノ爲米國化セ
 ラレタル者ノ數ハ全人口ノ二〇・五「プロセント」ニ相當スルカ故ニ結局全體ノ四分ノ三ハ純粹ナル
 米國民ナリ而シテ人種ノ如何ヲ問ハス往時ヨリ米國ニ在住スル者ノ心裡ニハ共同ノ愛國心ノ存スルハ
 否ムヘカラザル事實ナリ是頃獨國ト比スルトキハ大ナル差異アル點ナリトス中古時代ニ於テモ英本
 國ノ「アングロサクソン」人ハ多クノ他種族ヲ混合同化セルコトアリシカ北米ニ於テモ亦之ト同様ノ
 現象ヲ生シタルハ頗ル注意ニ價スル所ナリ斯クテ米國ニハ英國式要素ヲ基礎トスル一種米國獨特ノ人
 種發生セリ「ルーズベルト」氏曰ク「ヤンキー」種族ノ純粹文化ナルモノハ今ヤ成立シツツアリト唱
 ヘタリ「ヤンキー」式典型ハ清新潑刺ノ氣象ニ富ミ頗ル樂天的、進取的ノ性質ヲ有スルノ特質ヲ有
 ス

開國當初ヨリノ米國人ハ自由ト自治トヲ得ムトシテ切瑣瑣磨シ現今ノ移民ノ間ニモ自然淘汰行ハレア

米國文明

ルヲ以テ米國ノ文化ハ即チ歐洲各民族ノ有スル文明ノ要素ヲ融合セルモノナリ「カーネギー」氏ハ之ヲ稱シテ英國人ノ精力ト獨逸人ノ學術ノ平均ナリト言ヘリ又純然タル生物學上ヨリ觀察スルトキハ米國人ハ頑強ナル實地的國民ニシテ好テ事業ヲ企ツルモ世界中最利己主義ナル國民ナリ

移民中ノ劣種ナル白哲人種

第十九世紀ニ入ルヤ歐洲ノ東部及東南部(露國、埃匈國、伊國)ヨリ下等ナル移民著シク多數入國セルヲ以テ米國民全體ノ素質ハ下落シ始メタリ而シテ是等下等白哲人種ハ全人口ノ一四・五「プロセント」ナリ

米國內ノ有色人種

右ノ外、國內ニ在ル有色人種ハ全人口ノ一「プロセント」ニシテ其ノ内赤色人種ト黄色人種トヲ合シテ僅ニ〇・五「プロセント」ヲナスニ過キサルナリ而シテ赤色人種ノ問題ハ既ニ解決セシモ黄色人種ノ問題ハ今尙懸案トナリ居レリ即チ千八百八十二年始テ「カリフォルニア」州ニテ特殊法律ヲ發布シテ歡迎セサル移民ノ入國ヲ制限セムト圖レリ「カリフォルニア」州等ニ在住スル一團ノ日本人及支那人ハ自然ノ境界タル「ロッキート」大山脈ノ西側地域ニ次第ニ地歩ヲ固メツツアリテ恰モ亞細亞民族ノ前衛タルカ如キモノナレハ必ス之ヲ米國ノ地ヨリ排斥シ去ルヲ要スルモノト一般ヨリ認メラレアリ彼等ハ決シテ米國人ニ同化スルヲ欲セサルト白人勞働者ニ取リテハ恐ルヘキ競争者タルノ二點ニ於テ米人ノ反感ヲ買ヒ居レリ

黑人問題

然レトモ米國ノ爲眞乎ノ危險ヲ懷スモノハ一千萬人ノ黑人種ナリ彼等ハ一地方(所謂色線以內)ニ局限シテ住居スルコトヲ許セリ是ヲ以テ南カ「ロリナ」州及「ミッシシッピ」州等ニ於テハ黑人ハ住民ノ大多數ヲ占メ米國ノ總人口ノ一九「プロセント」ニ達シタルコトアリ然レトモ白人ノ移民數ノ激増スルカ故ニ其ノ百分比ハ逐年減少シツツアリ

黑人問題ハ之ヲ放置シテ自然ノ間ニ決著セシムヘキモノニアラス然レトモ黑人ハ千八百二十一年ノ先例ニ從ヒ(黑人ヲ阿弗利加ニ解放シテ「リベリア」共和國ヲ造ラシメタルコトアリ)阿弗利加ニ追放スルカ或ハ「インヂアン」人ノ如クニ全然隔離スル等ノ手段ニヨリテ之ヲ驅除シ得ヘクモアラス(黑人ハ勞働者トシテ重用セラレアルカ故ニ之ヲ驅除スルトキハ米人ハ爲ニ困却ヲ來タスコト大ナリ)而シテ黑人ヲ解放シテヨリ以來政治上ノ危險ハ益増大セリ即チ白人モ黑人モ共ニ法律上同資格ナルヲ以テ白人ハ自己ノ社會ヨリ黑人ヲ追放シテ辛クシテ彼等ニ迫害ヲ加ヘ黑人モ亦之ニ對抗シテ徐々ニ發展シツツアリ是ニ於テカ黑人問題ヲ解決スヘキ手段ハ白、黒兩人種ヲ全然混血融合セシムルカ或ハ黑人ヲ壓迫シテ遂ニ起ツ能ハサルニ至ラシムルカニ途何レニカ出ラサルヘカラス「ヂエボ」氏ハ黑人三人中一人ハ白黒混血兒ナルコトヲ觀察セリ將來黑人問題ハ如何ニ解決セラルヘキヤハ吾人ノ注意ニ値ス

第三款 社會

富源 米國ノ如ク大規模ナル自給自足ノ經濟國ハ他ニ之ヲ見ス同國ガ穀類、肉類、棉花、鐵及石炭ニ富ムコト世界隨一ニシテ西歐諸國ニ向テ其ノ過剩ヲ輸出ス第十九世紀ト第二十世紀ト變ニ於テ米國ノ輸出品中

四分ノ三以上ハ原料品(食品及工業上ノ製品等)ニシテ現時ニテモ輸出超過ハ少クモ二十億馬克ナリ而シテ米國ハ管ニ原料品ノミナラス工業上ノ製作品モ逐年増加シテ歐洲諸國ト競争ヲ行ヒ本世紀ノ初ニハ輸出總額中工業製品價格ハ四分ノ一ニモ足ラサリシニ現今ハ其ノ半ニ達セリ

經濟界ノ大發展

實ニ米國ハ歐洲ノ長所ト植民地ノ長所ト併有スル國ニシテ從來本書ニテ論述セル諸國中最大ナル經濟上ノ強味ヲ有ス而モ刻々發展ノ歩ヲ止メス英國ノ如キモ目下米國以上ノ優勢ヲ示スモ早晚ハ米國ノ爲凌駕セラレヘキ趨向ヲ示シツツアリ蓋シ米國人ハ獨國人ト等シク奮闘的生活ヲ好ムニ拘ラス英國人ノ一部ニハ既ニ佛人ノ轍ヲ踏ミ大金ヲ擁シテ唯其ノ金利ノミニ依リ悠々トシテ生活セムトノ思想蔓延シツツアルヲ以テナリ

此ノ如キ情況ノ下ニ於テハ工業主義全盛ノ歐洲爲政家カ益不安ノ念慮ヲ以テ米國ヲ觀察シツツアルハ自然ノ道理ナリ彼等ハ他日米國ヨリ危險ヲ蒙ル機アルヲ感知シ既ニ千八百六十九年「トライチケ」氏ハ英國ニ代テ將來海上ノ雄國タルヘキモノハ米國ナリト云ヒシカ一般ニ米國ヲ以テ最恐ルヘキモノト看做シツツアリ

米國ハ工業國ト同時ニ農業國ニシテ現ニ尙盛ニ荒蕪地ヲ開拓シ灌溉ヲ通シ人民ヲ移住シテ農耕ニ從事セシメツツアリ(千九百二年及千八百六十二年ノ居住法令)而シテ原料豐富、企業心熾烈ニシテ能率ニ富メル多數ノ労働者アルヲ以テ大規模ノ工業ヲ發展セシムルニ好都合ナリ加之國民ノ資性樂天的ナ

ルト共ニ極端ナル箇人主義ニ傾ケルヲ以テ社會主義ノ如キハ著シク蔓延セス労働者ノ經濟關係ハ歐洲ノ労働者ニ比スレハ二倍ノ好況ニ在リ

經濟界ノ惡シキ半面

然レトモ米國經濟界ノ反面ニ於テハ殆ト他ノ文明國ニ於テ見ルヲ得サルカ如キ富ノ分配ノ不調和ヲ生シ又労働者保護及労働者保險等ノ事業モ十分ナラス其ノ惡影響ハ漸次甚シキヲ加ヘ來タラムトス現今ノ民主黨政府ハ殊ニ責任ヲ感シ千九百十三年大統領「ウイilson」氏ハ吾人ニハ從來人間ノ價值ヲ十分ニ尊重セサリシノ罪アリト言明セリ

金權跋扈

資本家ト労働者トノ衝突ハ歐洲ニ於ケル程激甚ナラサルモ決シテ不問ニ附シ去ルヘキ現狀ニアラス而シテ資本家ト労働者ノ衝突以上ニ甚シキハ實ニ民主政治ト金力政治トノ衝突ナリトス即チ米國ハ大規模ナル集中企業ヲ行フ結果商權壟斷ノ目的ヲ有スル「トラスト」現出セリ是米國ノ如ク箇人主義旺盛ニシテ競争自由ナルノ結果強者ハ飽クマテ弱者ヲ虐ケ得ル國ニ於テ發生スル獨特ナル現象ナリ勿論「トラスト」ノ組織ハ國外ノ競争國ニ對シテハ甚タ有利ナルモ國內ニ向テハ惡影響ヲ及ホシ延テハ内政上最困難ノ問題トナレリ而シテ民衆ハ唯「トラスト」カ意ノ儘ニ日常品ノ物價ヲ上下スルモ如何トモスヘカラス官僚主義モ封建主義モ存在セサル同國ノコトナレハ資本家ノ組織立チタル優勢ナル團體ハ實ニ横暴ヲ極メツツアリ

「トラスト」ノ勞者及征伐

是ヲ以テ一方ニハ巨富ヲ擁セル「ロックフェラー」「モルガン」「ウアンダービルト」「カーネギー」等在

「トラスト」
征伐

ルモ又一方ニハ饑餓ニ瀕シツツアル貧窮者一千萬ヲ算スルノ情況ナリ
右ノ如キ情勢ハ徒ニ放置シテ其ノ成行ノ儘ニ任セ置クヘキモノニアラス公衆ハ益熱烈ニ「トラスト」團
體ニ對抗シ共和黨ノ如キハ法律ノ制定ヲ以テ之ヲ抑壓セムトシツツアリ（千八百九十年「シエールマン」
法）又「ルーズベルト」氏モ「トラスト」ヲ以テ營業上ノ發達セル形式ナルコトヲ認ムルモ政府ノ監
督ヲ一層嚴ニスルノ必要ナルヲ唱ヘタリ（千九百零六年鐵道ニ對スル監督）「ブライアン」氏モ民主黨
トシテ大資本家ニ對シテ肉薄セリ而シテ千八百九十年制定セラレタル「トラスト」ノ母ナリト稱セラ
レタル關稅率ハ千九百十三年改正ヲ施シ大資本家ニ對スル保護ヲ減少セリ

「トラスト」ノ征伐ハ一面ニ於テ社會ノ惡分子ノ除去ヲ意味スルモ他面ニ於テハ他國トノ經濟戰爭ニ
於ケル米國ノ強味ヲ失フコトナルヘシ

第四款 國家

米國憲法

多數ノ民衆ヲ有スル廣大ナル國家カ共和國トシテ存立シ得ルヤ否ヤノ難問ハ米國ノ實例ニ照シテ解決
セラレタリ即チ同國ハ四十八州ノ合同國家ヨリ成立ス千七百八十七年制定セラレタル米國憲法ハ今尙
米國人ノ誇トスル所ナリ初メ僅ニ十三州ヨリ成立セル共和國ノ制度ヲ現今ノ龐大ナル國家ニ適用シ得
ルノ原因ハ地理上ノ統一ト建國以來ノ歴史新シク各種ノ情弊ナキトニ在リ又最大州タル「ニューヨーク
州」州ノ如キモ全國ノ十分ノ一ニ達セサルヲ以テ普魯西對獨逸ノ如キ憲法上ノ難問存セサルナリ而シ

國家主義ノ
勃興

テ憲法上ノ重點ハ州ヨリ國家ニ徐々ニ移動シ各州ハ政治上、社會上益國家全體ノ權威ノ下ニ其ノ價值
ヲ失ヒ「ルーズベルト」氏ノ如キモ新國家主義ヲ標榜シテ地方團結主義、箇人主義ニ對抗シ盛ニ國家統
一思想ヲ助長セリ

共和黨及民
主黨ノ對立

米國ノ政界ハ共和黨ト民主黨ノ二大政黨ニ分ル然ルニ現時ニ於テハ兩黨ハ其ノ主義主張ノ大部分ヲ失
ヒ徒ニ政爭ヲ行フ爲メ團結タルヤノ感ヲ呈スルニ至レリ元來右ノ二政黨ヲ對立セシメタル原因ハ官僚
政治ヲ發生セシメタル爲メ方策ナリシナラムモ其ノ弊實ニ甚シキモノアリ而シテ其ノ弊害ノ最著シ
キモノハ市政及立法團體（所謂「ボス」ト稱スルモノ）ニシテ國民ノ自治ヲ害シ「トラスト」ヲシテ漁
夫ノ利ヲ得セシムルモ亦之カ爲ナリ是ヲ以テ國民ノ自由ハ「トラスト」ト「ボス」トノ爲甚ク制限
セラレ

米國ハ事實
上憲頭政治
ノ民主政治
英國首相ト
米國大統領
ノ比較

經濟ノ自由、社會平等及政治獨立ノ如キモノモ事實上其ノ反對ノ現象ヲ示シ所謂寡頭政治ノ民主政體
ニ變態セリ往時ノ英國政界ハ米國政界ノ現狀ト正反對ニシテ純然タル議院政治ナリシモ現時ハ外觀ノ
ミ議院政治ニシテ其ノ實ハ首相政治上ノ全權ヲ獨占シアリ斯ク觀シ來ルトキハ英、米兩國政治上ノ狀
態ハ往時程ノ逕庭ヲ示ササルニ至レリ即チ現時ノ英國首相ノ政權ト米國大統領ノ政權ハ相似點ヲ有
ス殊ニ「トラスト」ノ監督權ヲ政府ノ手ニ收ムルニ至リタルト對外關係ニ於テ地方ノ特殊利害（「カリ
フォルニア」州ノ排日問題ノ如キ）ニ對抗シテ統一機關ヲ確定スルノ必要ヲ生セシ結果大統領ノ權力ハ

益増大シ自治機關ニ於テモ官吏ノ特權増大セリ
新興國タル米國ハ今ヤ過渡期ニ際會シ各般ノ弊害モ亦存ス然レトモ其ノ弊害タルヤ未タ國民ノ間ニ深

ク根サセルモノニアラス他日健實ナル國家ヲ建設シ得ヘキハ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ

第五款 對外政策

「ジョージ、ワシントン」ハ米國ノ地理上ノ狀態ヲ遠觀シ千七百九十六年他國ニ對シテハ主トシテ通商
貿易ニ重キヲ置キ政治關係ニ於テハ成ルヘク之ト離隔スヘシトノ遺訓ヲ國民ニ與ヘタリ其ノ後百年

間ハ米國外交上ノ方針ハ之ニ範リシモノニシテ千八百二十三年十二月二日發表セラレタル有名ナル

「モンロー」主義ハ此ノ方針ヨリ出テシモノナリ「モンロー」主義ハ歐洲ノ邦國カ南米ヲ覬覦シ亞米

主義

利加ニ政略上ノ干涉ヲ試ミ若ハ新植民ヲ行ハムトスル（其ノ當時「アラスカ」ヨリ「オレゴン」州ヲ覬覦

シタル露國ニ著目セルナリ）ニ對シテ備フル目的ヲ有スルモノニシテ歐洲ト亞米利加ハ共ニ其ノ間ニ

事端ヲ起ササルヲ冀望シタルモノナリ而シテ當時人口ニ於テ現時ノ十分ノ一ニモ達セス國土ノ大サモ

現時ノ半ニ過キサリシ米國ハ亞米利加大陸ノ代表者トシテ立チタルナリ米國カ歐洲ノ世界征服ニ對シ

テ先ツ絶對ニ自覺的ナル反動ヲ與ヘタルハ「モンロー」主義ナルト同時ニ米國ハ之ニ依テ亞米利加大陸

ニ在リテハ米國カ支配權ヲ振フヘキヲ要望セルモノナリ然レトモ其ノ立脚點ハ全ク消極且守勢ニシテ

當時亞米利加大陸ニ現存セル歐洲ノ植民地及屬領地等ニ對シテハ今更何等ノ干涉ヲ爲ササルヘキヲ聲

明シタリ

第十九世紀ノ中葉歐洲ノ各國ガ世界的發展ヲ企ツルヤ米國ハ國防上益「モンロー」主義ニ傾キ其ノ防

禦策ヲ講セリ即チ

一 歐洲諸國ノ覬覦セル數地ヲ自國ノ領有ニ歸シ（千八百四十八年「ユカタン」問題

ニ）國家ヲ結束スルノ必要上中央亞米利加ニ運河ヲ開通スヘキ意圖ヲ抱クニ至レリ

南北戰爭ノ終局後勢力漸ク加ハリ「モンロー」主義ノ精神ニ準據シテ墨國ニ於ケル佛國兵ノ撤回ヲ求

メ遂ニ「ナポレオン」三世ニ對シテ最後通牒ヲ與ヘ其ノ建設セシ墨帝國ヲ倒シ遂ニハ「モンロー」主

義ニ從ヒ亞米利加大陸ニ在ル從前ヨリノ歐洲各國植民地ハ他ノ歐洲ノ一國ニ割讓スルヲ許サストノ禁

令ヲ發セリ

續テ千八百六十七年「アラスカ」ヲ買收シ始テ本國外ニ離隔セル領土ヲ有スルニ至レリ千八百九

十五年ニ及フヤ米國ハ正ニ舊來ノ態度ヲ一變シテ孤立ノ狀態ヨリ脱出シ列強ノ角逐ニ參與シ始メタ

リ

米國カ將來列強ト競争ノ位置ニ立ツヘキコトヲ始テ聲明セシハ「クローブランド」大統領ナリ同氏ハ

米國勃興ノ

「ウエネジユラ」問題ニ關シ英國ニ對シテ抗議シ吾人ハ事實上此ノ大陸ノ主權者ナリトノ意義ヲ表明セ

リ其ノ翌年「マツキンレー」大統領ハ布哇ノ併合「キニューバ」ニ對スル干涉、運河問題ノ繼承ナル政

網ヲ標榜シテ當選セリ而シテ此ノ目的ハ同氏ノ在職中悉皆達成シ玆馬ノ干渉ニ引續キ千八百九十九年「フイリッピン」群島ヲ領有ニ歸セシ亞米利加以外迄事端ヲ伸張セリ斯クテ帝國主義ノ爲ニ「ワシントン」ノ遺訓ハ全然顧ミラレサルニ至レリ

「パナマ」運河問題

米國ノ重要ナル對外問題ハ「パナマ」運河ニ向テ傾注セラレ千九百年ヨリ千九百四年ニ至ル間ハ外交上ノ準備ヲ行ヒ遂ニ千九百六年ヨリ千九百十四年ニ至ル期間ニ於テ開鑿工事ヲ實施シタリ而シテ同運河ハ英國ノ提議ヲ排シテ米國ノ企業ト爲シ之ニ築城設備ヲ施シ尙最初ハ同運河ヲ中立航路トナスヘキコトヲ標榜セシニ千九百十二年「パナマ」運河法令ヲ發行シテ米國ノ沿岸航通船舶ニ對シテノミ特權ヲ賦與セリ然レトモ此ノ借越ナル處置ハ英國ノ抗議ノ結果民主黨政府ニヨリテ撤回セラレタリ依テ「パナマ」運河ハ名義上萬國共通ノ性質ヲ有スルモノナレトモ其ノ實ハ米國ノ「キール」運河タルヲ失ハス米國ハ該運河ノ開通ニヨリ政治上及經濟上多大ノ利益ヲ收メ亞米利加大陸ノ後見者トナリ太平洋ノ支配權ヲ獲得スルニ好都合ヲ得タリ

中米及南米ニ對スル政策

第二十世紀ニ入ルヤ米國ハ益進運ニ赴キタリ千九百三年「パナマ」共和國ハ米國ノ力ニヨリ「コロンビヤ」共和國ヨリ分離シテ米國ノ保護國トナレリ又千九百一年玖馬モ亦右ト同様ノ方法ニヨリ獨立ヲ保證セラレタリ其ノ後米國ノ監督權ハ諸種ノ形式ノ下ニ「サントミンゴ」(千九百二年)、「ニカラガ」(千九百十年)ニ及フニ至リ千九百十一年以來墨國ニ對スル干渉ヲ開始シ千九百十四年ニ於テ其ノ干

渉ハ益甚シキヲ加ヘタリ又西印度諸島ハ歐洲諸國ノ掌裡ニ在ルヲ以テ亞米利加地中海ノ出入口ヲ制セルノミナラス「パナマ」運河ヲ脅威シ且南北亞米利加ノ中央ニ蟠踞シテ政治上ノ柵門ヲ形成セルヲ以テ米國ハ歐洲諸國ノ西印度諸島支配權ヲ奪取シ以テ「パナマ」運河ヲ掩護シ且南米ニ自國ノ勢力ヲ擴張セムト企圖ス

汎亞米利加主義

由來南米ニハ無盡藏ナル天產物アリテ人口未ダ十分ナラス米國ハ輒チ遠大ノ企畫ヲ立テテ歐洲ノ各國ト競争ヲ開始シ南米諸國代表者ト時々會合シテ汎亞米利加主義ニ關シテ合議セリ(千八百八十九年「ワシントン」、千九百一年墨國、千九百六年「リオ、ド、ジャネイロ」、千九百十年「ベノスアイレス」ニ於テ)別ニ千八百九十二年汎亞米利加主義常設中央機關ヲ「ワシントン」ニ置キ又「ニューヨーク」ヨリ「ベノスアイレス」ニ通スル世界最長ノ鐵道ヲ設計セリ而シテ米國及伯刺西爾兩國間ニハ既ニ以前ヨリ特別稅率ヲ設ケ又南亞米利加東岸ニ米國ヨリ特別補助ノ航路ヲ開始シテ歐洲ノ商業ニ對抗セリ

「ラテン」民族ノ米國ニ對スル反對

汎亞米利加主義ヨリシテ西班牙、「コロンビヤ」、墨國ニ對スル米國ノ無遠慮ナル政略ハ大ニ「ラテン」民族ノ諸國ニ人種自覺心ヲ喚起シ南米ノ「ラテン」民族ト暗々ノ裡ニ氣脈ヲ通スルニ至レリ然レトモ米國ノ威力ハ依然旺盛ニシテ千九百四年「ルーズベルト」大統領ハ歐洲諸國カ亞米利加大陸ノ諸國ノ財務行政ヲ監督スルヲ拒絶セリ(「ルーズベルト」主義)

「ルーズベルト」主義

汎亞米利加主義政綱ノ主眼點ハ米國ト加奈陀ノ結合ナリ米國內ノ純然タル帝國主義者ハ加奈陀カ米國ヨリ離レテ英國ニ屬スルヲ以テ全ク時代錯誤ナリト看做セリ千八百九十六年ノ選舉ニ際スル共和黨ノ政見發表ニ吾人ハ米大陸ニ於ケル全部ノ英語國カ他日自由ナル契約ニ依テ彼此連絡スルノ機アルヲ確信シテ期待ストアリタリ然ルニ第二十世紀ニ於ケル加奈陀ノ發達速度ハ恰モ第十九世紀間ノ米國ノ其レト匹敵スヘキモノ(加奈陀爲政家「ローリア」氏等ノ言)ナルヲ以テ米國ハ却テ加奈陀ハ將來ノ大ナル競爭國トナラムコトヲ憂フルニ至レリ左ハ云ヘ米國ノ商權ハ大ニ進展シ税關ノ柵門ヲ越エ加奈陀ニ侵入シテ其ノ市場ノ半部以上ヲ支配シ移民ハ盛ニ加奈陀ノ西部地方ニ入り込ミ米國ノ資金ハ續々流入シ始メタリ而シテ此ノ趨勢ヲ馴致シタルハ全ク地理上ノ關係ナリ是ニ於テ遂ニ千九百十一年ニ至リ「ダフト」大統領ハ加奈陀ヲ米國ノ附屬地ニ化セムト企ツルニ至レリ然ルニ加奈陀ノ國民ハ選舉ニ當テ能ク英國ニ忠實ヲ守リ從テ英、米間ノ關係ハ加奈陀問題ノ爲冷却シタルハ明ナルモ「アラスカ」、加奈陀間ノ境界決定上ノ紛争(千九百三年)ニ際シ英國ハ能ク隱忍ノ態度ヲ示シ致馬戰爭後モ依然野心滿々タル米國ト親善關係ヲ繼續シタリ

合衆國ノ太平洋上ノ發展ハ第十九世紀ノ終結ト共ニ中止シ布哇及「フィリッピン」等(日本ハ地理上ノ關係ヨリ觀ルトキハ此ノ兩地ヲ領有スルヲ當然トスルニ似タリ)ニ於テハ既ニ以前ヨリ日本トノ間ニ紛争ノ潜伏セル徵候アリシモ此ノ紛争タルヤ纔ニ他日ノ日、米間ノ重大ナル衝突ノ前驅タルニ過キサルナリ元來日、米兩國ハ人種ト文明ヲ根柢ヨリ異ニス而シテ千九百五年米國ノ日、露間ノ平和仲介以後日、米衝突ノ徵候益歷然トナリ遂ニ千九百六年「カリフォルニア」州カ日本學童除外令ヲ制定セル結果突然日米問題ハ火ノ手ヲ揚ケ千九百八年現狀維持ノ協約ニ依テ稍下火トナレリ然ルニ千九百十年米國カ滿州鐵道中立問題ニ容喙シ續テ千九百十三年「カリフォルニア」州カ日本人土地獲得禁令ヲ發布セシニ由リ日、米間ノ確執ハ俄然再燃セリ千九百十一年墨國ニ於ケル日本ノ某種陰謀ハ嫌疑及支那外交界ニ於ケル米國ノ大活動等ハ日、米國間ノ軋轢ヲ一層盛ナラシメタリ是ヲ以テ日本ニ對スル關係ハ現時米國ノ最重大ナル問題タルヲ失ハス

歐洲ニ對シテハ米國ハ慎重ノ態度ヲ保チ猶千九百六年「アルジエシラス」ノ萬國會議ニ際シ純然タル歐洲ノ事件ニハ容喙セサルヘキ傳統的外交政策ヲ依然保有スル如キ觀アリシカ其ノ實ハ歐洲ノ問題ニ干渉スルノ興味ヲ感シ來リタルナリ(千九百三年及千九百十一年露國ニ於ケル猶太人問題ニ對スル米國ノ態度參照)事實上歐洲ノ要素ヲ多量ニ包含スル米國カ永久ニ互リ歐洲問題ニ興味ヲ有セサル筈ナシトハ斷言シテ憚ラサル所ナリ

米國ハ歐洲ノ經來リタルト同様ノ軌道上ヲ續行ス殊ニ其ノ膨脹ノ跡ハ英國ノ發展ト其ノ經歷酷似ス而シテ米國ハ既ニ布哇、「ポルトリコ」、「グアム」(太平洋中「マリアナ」群島中ニ在リ)「フィリッピン」群島、「ツツイラ」(布哇ト新西蘭ノ中間小島)等ヲ屬地トシ玳馬、「サントミンゴ」、「ニガラガ」、墨國等モ

亦他日純然タル屬國ニ化スルノトキアルヘシ

猶米國ト古代「カルセイジ」國トノ間ニ經濟及領土上同種ノ型ヲ有ス

米國ノ帝國主義熱

英國ノ如キハ國外發展ハ實ニ該國ノ死活問題ニ關スル程重大ナルモ米、佛等ヲ觀察スルトキハ其ノ必要左迄ノ程度ニ達セス殊ニ米國ノ如キハ英國ノ渴望スル所ノモノハ既ニ自國內ニ之ヲ求ムルコトヲ得從テ米國ノ國外發展政策ハ秩序整然タル性質ヲ示ササルナリ

米國ハ實ニ其ノ國境內ニ其ノ植民地ヲ所有セルヲ以テ帝國主義ニ驅ラレテ國外ニ力ヲ展ハスヘキ政略上ノ必要ヲ有セサルノ觀アリ同國ハ事實上強國タルノ基礎ヲ有シ不知不識ノ裡ニ國力ヲ發展セルモ其ノ都度平和及自由ヲ好愛スル所以ヲ聲明スルハ敢テ訝シムニ足ラス又偽善ナリト認ムヘキニアラサルヘキモ事實上合衆國ハ眼ヲ覆ヒテ帝國主義ノ道ヲ歩ミ來レルナリ

將來米國ノ

米國ハ高ク標榜セル「モンロー」主義ノ影ニ隠レテ國家ノ膨脹ヲ目途トセルモノニシテ同國カ歐洲諸國ノ對外政策及軍國主義ヲ以テ罪惡ナリト認ムル時代ハ既ニ過キ去レリ民主黨ハ久シク傳統セル言詞ヲ保有シアリタルモ勃々タル新機運ノ根據ハ深クシテ到底空虚ナル理想論等ニ依テ抑制シ得ラルヘキモノニアラス而シテ米國カ自ラ進テ孤立ノ保留ヲ捨テテ起テ以後唯純然タル經濟上ノ活動ニノミ没頭スルヲ止メテ大ニ軍備ヲ強大ニスルノ必要ヲ生セリ尙又今後ノ方針上國家ノ諸力ヲ鞏固ニ集中スヘキカ爲ニハ現時ノ憲法否共和政府以上ニ有力ナル中央集權ノ國家統率機關ヲ要セサルヤノ問題ヲ生ス吾

政體ニ大變
化ナキヲ保
セス

人ハ既ニ此ノ點ニ於テ米國ハ變調ヲ表ハシアルヲ看取スルモノナリ恐ラク將來帝國主義ノ發達ニ伴ヒ

亞米利加大
陸ニ於ケル
米國版圖擴
大

又從來ノ趨向ヨリ推セバ西印度及中央亞米利加ノ諸小邦ヲ併合シテ「カリビアン」海ヲ以テ米國ノ地

加奈陀ノ運

命
南米問題
トノ間ヲ巧妙ニ調和スルモノタラスムハアラス加奈陀ノ運命モ亦早晚墨國ト類似或ハ同様ノ手段ニ

依リテ決セラルヘキハ大多數ノ觀測者ノ意見ナリ南米問題ニ關シテハ見解區々タリ彼ノ多クノ小遊

星カ其ノ附近ノ一大遊星ニ吸引セラルト等シク小邦ハ大國ニ合併セラルヘキヲ說ケル政略上ノ重

ABC同盟

シテ汎米思想ハ「ゲルマン」種族ト「ローマ」種族間ニ逕庭ヲ存スルヲ以テ自然解體ノ要素ヲ抱藏ス

米國ノ將來

近來理想トシテ所謂ABC同盟（即チ同シク「ラテン」種族系統ニ屬セル亞爾然丁、伯刺西爾、智

「ラテン」民族ノ米國ニ反抗スル點ヨリ推論スルトキハ將來米國カ歐洲諸國ニ對シテ所謂米禍ヲ及ホシ得ヘシトノ見解ハ之ヲ信憑スルニ困難ナリ而シテ米國ノ他國ニ及ホスヘキ經濟上ノ危險ハ將來米國ノ人口増殖セルトキ從來過剩ヲ生シタル天産物ヲ自國內ニテ消費スルノ必要發生スルト共ニ某程度マテハ自然ニ減少スヘシ

又同國ハ支那ノ未開ナルト歐洲諸國ノ箇々分立スルトニ乘シテ東洋方面ニ於テ大々的活躍ノ機會ヲ捉ヘ居レリ然レトモ世界ノ大勢ヨリ推算スルモ米國ハ未來ニ於テ世界ニ驥足ヲ展ハシテ之ヲ統率シ得ヘシト考フルヲ得ス結局亞米利加大陸ノ支配權ヲ獲得スルヲ最大極限トスルニ過キサルヘシ

第七章 露 國

第一款 國史梗概

東羅馬帝國トノ關係

露國ニ於ケル「ゲルマン」文明ノ種子ハ第九世紀ノ頃一時瑞典ヨリ「ゲルマン」種族露國ニ移住セルニヨリテ萌芽ヲ出タセシモ恰モ其ノ當時露國ハ東羅馬帝國ト始テ交通ヲ開キ其ノ文化ヲ輸入セルヲ以テ茲ニ一挫折ヲ來タシ續テ第十三世紀ニ於テ蒙古人種ノ侵入ニ遇ヒ全然絶滅セラレタリ

右ノ如キ事情ナルヲ以テ露國ハ既ニ往昔ヨリ西歐諸國ト異レル別箇ノ方向ニ發達セリ即チ露國ハ西歐諸國ト異リ歷史上東羅馬帝國ノ末流ヲ汲メリ是ヲ以テ露國民ハ「ビサンツ」ノ半異教寺院ト韃靼人ノ

統率ノ下ニ立チ西歐ノ初代文明ニ對シテハ毫モ接觸スル所ナカリキ

露國ノ獨立 第十五世紀ノ末葉「モスコウ」太公厥起シテ他民族ノ羈絆ヲ脱シ茲ニ始テ露國ハ國民トシテノ使命ヲ得ルニ至レリ爾後百年ヲ經テ亞細亞ニ對スル報復ヲ行ハムカ爲侵略ヲ開始シ爾後露國領土ノ擴張ハ頗ル顯著ニシテ史上之ニ匹敵スルモノハ僅ニ英國ノ膨脹アルノミ「ペーター」大帝時代始テ西歐ノ文化

ニ接近シタリシカ當時露西亞帝國ハ西ニ瑞典東ニ土耳其アリテ東海及黒海ニ通スル自然ノ門戸ハ閉鎖セラレアリタリ其ノ後第十八世紀ニ至リ右兩箇ノ柵門ハ破壞セラレ始テ海岸ニ出ツルコトヲ得タリシモ其ノ海タルヤ内海ニシテ「スカンデナヴィア」民族ノ領有セル「エレ、ズンド」海峡及土耳其ノ掌裡ニ在ル「ダーダネルス」海峡等ノ關門ヲ經サレハ大海ニ出ツルヲ得サリキ故ニ露國ハ依然侵略ノ歩ヲ休メス第十九世紀ニ於テハ其ノ國境ヲ西ハ「トルネ」河、「ワイクセル」河及「ブルート」河迄推進セシモ地中海ニ出ツルノ企圖ハ「クリミヤ」戰爭後ノ巴里會議（千八百五十六年）及「バルカン」戰後ノ伯林會議（千八百七十八年）ニ依テ阻止セラレタリ亞細亞ニ於テハ第十八世紀ノ中葉以前ニハ既ニ太平洋ニ達シ尙亞米利加海岸「アラスカ」マテ突出シ千八百五十八年「アムール」地方ヲ獲得シ續テ千八百八十一年ヨリ千八百八十七年ニ互ル間ニ「トランスカスピエン」地方、千八百九十一年ヨリ千八百九十五年ノ間ニ「バミール」地方ヲ併セ千八百九十六年ヨリ千九百年ノ間ニ滿洲ニ勢力ヲ伸張セリ然レトモ最後ニ朝鮮ヲ領有ニ歸セムト圖ルヤ日本ノ爲大ナル反撃ヲ受クルノ餘儀ナキニ至レ

西歐文明ノ領土發展ノ間ニ於テ露國ハ文化ノ基礎ヲ固メ「クリミヤ」戰爭ニ於テハ西歐文明ノ理想ニ從ヘル一新
 採用 改革期ニ入り農奴ノ解放、一種ノ自治制ノ採用、鐵道ノ構築等ノ結果ヲ生メリ第十九世紀ノ終ニ臨ミ
 社界制度上 現代式工業發展ノ端緒ヲ開キ新世紀ノ初期國外膨脹ニ一頓挫ヲ來タセシ後憲法ヲ採用シ農業ヲ改革シ
 ノ變化 外觀上西歐文化ノ形式ヲ現ハスニ至レリ然ルニ全般ニ於テハ依然希臘舊教ノ國教ヲ奉シ君主專制政治
 思想ヲ抱懷シ其ノ世界觀、風俗、文字、曆日等ハ西歐ト趣ヲ異ニスルモノアリテ所謂半歐半亞ノ實ヲ現
 ハシ特異ノ國家タルヲ失ハサルナリ

第二款 地理

面積擴大 露國ハ稍米國ニ似テ一團トナレル廣大ナル國土ヲ有シ千八百六十七年「アラスカ」ヲ米國ニ讓リタル
 以後ハ孤立セル領土皆無トナレリ西部歐羅巴カ多數ノ國家ニ分裂セルニ反シ露國ハ此ノ如ク龐大ナル
 國土ヲ合シテ一國家ヲ形成セル原因ハ北米合衆國ニ於テ見ルカ如ク國內ヲ小分スル爲境界線タルニ適
 當ノ天然物少キニ在リ而シテ國內ニハ恰モ佛國ニ於テ見ルカ如ク河流四通八達シ絶大ナル自然ノ水
 路網ヲ形成セルハ他ニ比スヘキ國ナク之ヲ中斷スルモノハ單ニ「ウラル」山脈アルノミ而モ米國ノ
 「ロッキ」及「アンデス」山脈ノ如ク交通ノ爲大ナル障害ヲ呈セス「ウラル」山脈ノ兩側ハ廣漠タル
 平原相連リ哥薩克カ馬背ニ在リテ四方ヲ望見スルトキハ双眸ニ入ルモノハ唯一條ノ地平線ノミ其ノ大

米國ノ地勢
ト露國ノ地勢

ナル膨脹ヲ遂ケテ大帝國タルニ至リシ所以ハ實ニ此ノ平原及水路ノ交通容易ナルニ起因スル所多シ
 米國ニハ國內ニ山地、平原、鑛山地其ノ他各種各樣ノ地部錯綜セルモ露國ハ之ニ反シ「ツンドラ」ト稱ス
 ル荒地及森林、草原等廣ク連亘シ茫茫々漠々タル風景ハ自然ノ間ニ民心ニ感化ヲ及ホシ悠々トシテ迫ラ
 サル國民性ヲ生シ各種ノ進歩モ遲々タルヲ免レス尙全國ノ四分ノ三ヲ占ムル亞細亞分子ヲ有スル地方
 ノミナラス其ノ本國ニ於テモ文化ノ比較的低位状態ニ在ルコトハ看過スヘカラサルコトナリ而シテ露
 國ノ文化地帯トモ稱スヘキハ北ハ「ツンドラ」ノ荒地ニ境シ南ハ草原「ステッペ」ニ接シ漸次東方ニ狹窄
 セル一條ノ地域ナリ地勢右ノ如キヲ以テ露國ハ縱令大規模ナル自給自足ノ要素ナキニシモアラサルモ
 到底米國ニ於ケルト等シキ經濟上ノ發達ヲ遂クルコトハ之ヲ期スヘカラサルナリ

國境線ノ景況

露國ノ地勢上最米國ト異ル所ハ國境ノ景況特ニ海岸線ノ延長比較的僅少ナルコト是ナリ其ノ結果ハ即
 チ經濟界ノ不振ヲ來タセリ即チ北ハ北氷洋ニ閉サレ唯東海、黑海及日本海ニ於テ海上ヘノ出口ヲ有
 スルモ而モ悉ク他國ニ依リ殆ト閉塞セラレアルカ如キ海洋ナリ此ノ點ニ於テハ英國ト全然相反ス由來
 大陸的ナル地勢
 海ハ人類ニ自由進取ノ活動力ヲ與フルモノナレトモ露國ハ大陸的ナルヲ以テ其ノ進歩ノ情況遲々タル
 ヲ免レス殊ニ海運業及海軍力等ニ於テ然リトス又一般ニ國境ノ位置不自然ナリ即チ最北端ノ突角ヲ以
 テ諾威ト接シ瑞典トノ國境ハ比較的開拓セル流域ヲ有スル河流ニシテ獨國トノ境界ハ平地及分斷セル
 國境線ノ位 置不自然
 河流ヲ有シ(其ノ長サ千二百吉米)埃國トノ國境線ハ自然ノ境界タルヘキ「カルバートン」山脈ノ北方平

野上ニ存在シ(其ノ長サ千五百吉米)「ペルシヤ」トノ間ノ境界ハ「コーカサス」山脈ノ彼方ナル不自
然ノ位置ニ在リ又亞細亞ニ於ケル露國ノ政略ハ實ニ國境線ノ追求ヲ主眼トセリ

國境ノ不自然ナルヲ醫シ以テ數千哩ノ國境ノ防護ヲ完全ナラシメムカ爲ニハ必スヤ海岸迄國境ヲ進メ
サルヘカラス其ノ結果ハ露國陸軍力ヲ高上シ經濟上有利ナル發展ヲ期待スルコトヲ得ヘシ而シテ茲ニ
一言附加スヘキコトアリ歐洲方面ニ對スル露國境ハ攻勢ノ爲ヨリモ守勢ノ爲鞏固ナルコト是ナリ蓋シ
「カール」十二世及「ナポレオン」一世ノ攻勢ヲ無効ナラシメタルモノハ其ノ地域廣大ナルニ存セシモ
同時ニ西方ニ攻勢ヲ取ラムカ爲ニハ自己ノ兵力ノ集結ニモ尠カラサル不便ヲ感スルノ不利アリ上ニ揭
クルカ如キ各種ノ弱點アルモ露國ハ歐亞兩大陸ノ仲介國タルヲ失ハス而シテ米國ハ其ノ兵力ハ微弱ナ
ルモ經濟界ハ發達ス露國ハ全然之ニ反スルハ兩國ノ地理上ノ位置、地勢等ノ差異ニ基ク所尠カラサル
ナリ

第三款 國民

露國全般ノ地勢ハ單調ニシテ天然ノ障礙物ニ依リ國內ヲ分離シアラサルヲ以テ露國人ノ大規模ナル霸
權ヲ掌握シテ四邊ノ小民族ヲ征服スル上ニ於テ頗ル好都合ナリ而モ同國人ノ増殖數ハ絶大ニシテ佛國
民ノ増殖停滯カ其ノ文明ノ爛熟ト老成トヲ表現セルト反對ノ現象ヲ呈ス而シテ國土ノ廣大ナル結果地
方毎ニ氣候、植物等ヲ異ニシ從テ國民ハ多數相異セル種族ヲ包含スルコトヲ免レサルナリ尙西部歐洲

大露西亞人

トノ境界宜シキヲ得サルカ爲其ノ附近ニハ各種ノ人種混淆セリ露帝國內ニハ由來百種ノ民族ヲ制御ス
ヘシトノ傳説存在ス事實上所謂大露西亞人ヲ中心トシテ其ノ四周ニ幾多ノ民族生存シ特ニ西歐トノ中

種多ナル人

間ニ各種民族ノ分布地帯ヲ挿入セルハ大露西亞人ト西歐人トノ間ノ接觸ヲ緩和スルト共ニ他面ニ於テ
ハ露國ノ團結ヲ微弱ナラシメツツアリ即チ瑞典人、芬蘭人、獨逸人、「エスト」人、「レット」人、「リタウ
エン」人、波蘭人、「ルターネ」人、「ルーマニヤ」人等其ノ大部ハ國境ニ跨リテ在セリ而シテ瑞典人、

大露西亞人
ト小露西亞
人トノ關係

獨逸人及「ルーマニヤ」人ノ外ハ多クハ其ノ種族ノ本源ハ露國ニ在リ茲ニハ「ルターネ」人(一名小
露西亞人)ヲ他國民中ニ算入セリ然レトモ小露西亞人ハ往昔ノ「ウクライネ」國ヲ形成セシ「ステッ
ペ」地方ヨリ起レル民族ナリ千八百七十六年以後露國政府カ「ルターネ」語ノ使用ヲ禁止セルハ大露
西亞人(森林地帯ヨリ移住シ芬蘭人ト雜糅人ト混血セルモノ)ト小露西亞人トノ人種上ノ相異ヲ自覺
シ居ルコトヲ證明ス「ヘットネル」及「セーリンク」民等ノ所説ニ從ヘハ大小露西亞人ノ相異ハ唯言語

露國內ノ
「スラブ」人
トノ關係

ノ相異ヨリ生スルノミトノコトナルカ若此ノ所説ニシテ眞ナラムカ埃國國內ニモ多數ノ「ルターネ」
人在住セルヲ以テ露國ハ埃國國內ニ「イレデンタ」即チ露國ノ同人種合同主義者ヲ有スルモノト云フ
ヘシ而シテ「ルターネ」人ノ總數ハ少クモ三千萬人ニシテ其ノ内四百萬人ハ埃國國內「ガリチエン」ニ

波蘭人トノ
關係

在住セルヲ以テ露、埃ノ國境線ノ不自然ナルハ此ノ點ヨリ見ルモ首肯シ得ヘキナリ況「スラブ」主義ノ
立脚點ヨリ觀察スルトキハ露國ハ「ガリチエン」及「ポーゼン」ニ於ケル九百萬ノ波蘭人及國內ニ於

ケル九百萬ノ波蘭人ニ對シ同様ニ同人種ノ要求ヲ謀シ得ヘキ筈ナリ然ルニ國外ニ於テハ此ノ主義ニ反
對スルノ傾向アリテ寧ロ露國ノ波蘭問題、「ウクライネ」問題ヨリ離隔セムトシ殊ニ波蘭問題ニ於テ
然リトス唯露國ト遠隔セル埃國國內ノ「チエツヘン」人、「グロアータン」人、「バルカン」半島ノ「ブ
ルガリヤ」人及「セルビヤ」人等總計二千五百萬人ノ「スラブ」人種ノミハ人種上ノ見地ヨリ汎「ス
ラブ」主義ヲ遵奉シ西歐諸國ヲシテ露國ヲ恐レシムルノ勢アリ千八百七十六年ノ「バルカン」戦争ハ
汎「スラブ」主義ノ發現セルモノナリシカ千九百八年埃國太利カ「ボスニエン」ヲ合併セシ以來一層此ノ
思想勃興シ所謂新「スラブ」主義ナルモノヲ生シ千九百十三年ニ於ケル埃、塞國間ノ軋轢ニ際シ露國

所謂新「ス
ラブ」主義
ノ發現

一因タルニ至ルヘシ尙茲ニ留意スヘキハ露國內部ニハ「ルーマニヤ」人、瑞典人及獨逸人等ノ「イレゲン
タ」(同人種合同主義)アリテ所謂「ルーマニヤ」問題、芬蘭問題、「バルチック」問題等ノ素因ヲ形成セ
ルコト是ナリ其ノ他又北部ニハ太平洋ニ亘ル間ニ芬蘭及北極地方種族アリ蒙古人及韃靼人ハ南方ノ一
帶ニ在住シ「カウカサス」ニハ雜多ノ人種在住セリ斯ク觀シ來レハ結局露國ノ核心ヲ成ス種族ハ歐露
全人口ノ半數ニ足ラサルナリ

露國內ノ大露西亞人ノ地理上、統計上及政治上ノ位置ハ恰モ匈牙利内ノ「マギアル」人ニ匹敵セルニ想
到セサルヲ得ス唯其ノ差異ハ規模ノ大小アルノミ而シテ米國ノ核心人種タル「アングロサクセン」人

核心的種族

政壓
策迫

ハ他民族ヲ自然ノ間ニ同化スルニ反シ大露西亞人ハ系統的壓迫政策ヲ以テ他種族ヲ不自然ニ同化セム
トシ殊ニ西歐トノ境界ニ住居スル露人以上ニ進歩セル各民族ヲ制壓シ以テ西歐トノ間ノ緩衝部ヲ除去
シ直接ニ全露國ヲ傾注シテ西境ノ諸國ヲ壓迫セムコトヲ圖レリ而シテ露國人ノ企圖ヲ約言スレハ言
語、法律及信教ノ統一是ナリ從テ宗教ノ傳播ハ露西亞民族ノ發展ト一致ス此ノ關係ヲ念頭ニ置キテ觀
察スルトキハ希臘舊教ニ屬スル者ハ小露西亞人ヲ合算セハ全人口ノ六十七「プロセント」ヲナス從テ宗
教上ノ統一ハ民族上ノ統一ニ比シテ一層鞏固ナリト云フヲ得ヘシ

希臘舊教

國內異民族
ノ反抗機運

然ルニ他面ニ於テハ波蘭問題、芬蘭問題及「バルチック」問題ハ宗教上是等民族ニ差別ヲ附シアルヲ
以テ益險惡ノ度ヲ増加シ又猶太人及「アルメニヤ」人其ノ他ノ異教徒ノ處分モ亦露國ノ爲重大ナル問
題ナリ

然ルニ現代西歐ニ於ケルニ箇ノ理想即チ國民主義及良心ノ自由ナル思潮ハ露國內ニモ蔓延シ露國ハ之
カ壓迫排除ニ努力セシモ前回ノ波蘭人ノ叛亂以來爾後今日ニ至ルマテ露化主義ノ政策ハ一層激烈ノ度
ヲ増加シ千九百五年各民族ノ自治ニ對スル要求ヲ動機トシテ勃發セル革命ハ遂ニ大本營ニ於テ之ニ關
スル聽許ヲ得タリ又其ノ反動トシテ國民主義ノ思想ハ政府部内及帝國議會内ニ於テモ一層旺盛トナリ
タリ其ノ結果波蘭ニ於テハ千九百十一年及千九百十二年州政ノ區分ヲ變更シテ露國人ノ勢力ヲ伸張シ
又芬蘭ハ從來一國ノ體裁ヲ有セシヲ總督政治ノ下ニ立ツ一地方タル地位ニ低下セラレ(千九百十年帝

國民主義ノ
反動ト其ノ

國立法及千九百十二年同權法律ニ依テ、尙千九百十一年以來「ウキボルグ」縣ノ如キハ將ニ破壊セラ
ルヘク脅威セラレタリ而シテ特ニ芬蘭ハ露國內ニ於ケル西歐文明ノ代表者ナリシヲ以テ西歐諸國ハ露
國カ嘗テ嚴肅ナル誓言ヲナセシニ拘ラス之ヲ無視セル政策ヲ執リシニ因リ甚ク激昂シタリ

露國人ノ信

由來露國ノ壓迫政策ハ露國人本來ノ見解及大露西亞人ノ心理ニ起因シテ樹立セラレタルモノナルカ
「ポプイエドノスチエフ」氏ノ所説ニ從ヘハ舊式露國人ハ露國ハ歐洲ニ比スレハ格段善良ナル國柄ヲ
有ストノ確信ヲ有シ西歐文明ノ惡シキ半面即チ工業立國ノ拜金主義、風教ヲ害スル箇人主義、國家ヲ倒
壞スル議院政治等ノミニ著眼シ只管神聖ナル露國ニ右ノ惡風ノ傳播セサラムコトヲノミ冀ヘリ彼等ハ
英、米國人等カ其ノ母國ニ對スルヨリモ更ニ堅確ナル信念ヲ露國ニ對シ抱懷ス又露國人ハ希臘舊教ヲ
世界ニ廣メムカ爲ニハ國家ヲ膨脹シテ遂ニハ世界ヲ征服セサルヘカラストノ信念頗ル深ク民心ニ浸潤
シ此ノ熾烈ナル原始的宗教心ハ曩テ國民性ニ影響ヲ與ヘ耐久力ノ大ナル殆ト無限ナルモ創造ニ對スル
衝動力ハ頗ル微弱ナルヲ見ルニ至ル「ルエドルフェル」氏ハ之ヲ露國式懶惰ト稱セリ是ヲ以テ露國ノ
農民ノ如キハ運命ニ對シテ全然受動的ナリ露國人ノ所謂「ニチエヅオ」ナル語ハ米國人ノ有スル邁進
主義ト正反對ノ意義ヲ有ス
米國人ノ自由ノ要求ト露國人ノ主權ニ對スル信念トノ間ニハ實ニ大ナル逕庭ノ存スルモノアリ從テ米
國國民社會ノ通性ナル箇人主義ノ如キハ露國人ノ永ク識ラサリシ所ナリ

國民性

露國人ノ腦裡ニハ尙中世紀ノ分子アリ又東洋流アリト云ハレ所謂其ノ草原生活性ナルモノハ徹底的ノ
モノナラスシテ茫漠ヲ意味ス此ノ茫漠タル性狀ハ一般露國人ノ通有性ナルハ特ニ注意スヘキコトナリ
トス是ヲ以テ國民中改革ニ關スル要求發芽スルヤ俄然政府ノ方針ハ虐政ニ、宗教ハ急激ナル非認ト變
スルニ至レルハ自然ノ趨向ナリ

虛無主義及「トルストイ」伯ノ思想、宗務大臣「ポプイエドノスツエヴ」氏（千八百八十年—千九百五十年）
職）ノ政體及宗務不變更ノ所説交互續出スル情況ハ皆純露國式ノ現象ナリ

西歐思想ノ
侵入

以上ハ目下過渡時代ノ露國ヲ正解スル上ニ於テ特ニ重要視スヘキ著眼點ナリ然リ而シテ現代ノ如ク交
通ノ開ケタル時代ニ於テハ露國民ニ何等カノ變化ナキ能ハサルハ當然ニシテ近隣ニ繁榮スル西歐ノ思
想ハ刻々浸潤シ來リ露國文明ノ退歩ヲ促進セムト冀ヘル新進分子ハ却テ從來嫌惡セル西歐ノ文化ヲ歡
迎シ始メ又各種ノ世界觀ニ關スル爭論亦露國人ノ心機ヲ擾亂スルニ至レリ由來歐亞ノ仲介者タル露國
ハ即チ亞細亞思想ト歐洲思想トノ戰場ニ化セリ然レトモ佛國革命ニヨリ變態セル西歐ノ事情ヨリモ露
國ノ變動ノ情況ハ稍其ノ趣ヲ異ニセルコトハ明ニシテ恐ラク將來モ亦同一ナラム

第四款 社會

原始的ナル
産業界
國土ノ單調ナルト人民ノ低級ナルトノ爲露國ノ産業ハ原始的性質ヲ有ス又米國ニ於テ見ルカ如ク多數
ノ外來移住民ニ依リテ勞働力ヲ大ナラシムルコトナク從テ産業ノ改革ヲ來タスガ如キコトナシ而シテ

農業立國 少クモ總人口ノ四分ノ三ハ農業ニ依テ生活シツアルカ故ニ國家經濟ハ農業ノ振否ニヨリテ變動ス干
「ウキツテ」 八百九十年代ニ於テ「ウキツテ」氏等ハ「ウラル」山脈ノ鐵礦、「ドネツパツシン」ノ石炭、「フエルガ
馬ノ政策 ナ」(土耳其斯坦ノ一地方ナリ)ノ棉花ヲ基礎トシテ大規模ノ工業ヲ起サムト試ミタルモ農業國タル

ノ體裁ハ僅ニ變態ヲ來タセシニ過キサリキ

不自然ナル
輸出超過

同國ノ貿易ハ輸出超過ナルモ貿易全般ノ進歩ハ遲々トシテ依然原始的典型ヲ存セリ而シテ歐洲諸國ノ
如ク工業製品ヲ以テ主要ナル輸出品目ト爲サスシテ却テ食料品ヲ主要輸出品トナスノ結果辛フシテ輸
出超過ヲ示シ居ルニ過キス由來露國ハ米國ニ次ク富饒ナル農産國ナルト共ニ世界ノ牧畜國ナリ而シテ
其ノ黒土地帯ノ如キハ實ニ米國ノ「ミツシッビー」河ノ流域ト比較シ得ルカ如キ大發展ノ素地ヲ有ス然
レトモ生産界ヲ仔細ニ觀察スルトキハ明瞭ニ悲觀スヘキ現象ノ存スルヲ認メ得ヘシ即チ千九百五年
「エツケルト」氏ハ文明國中露國ノ土地ノ如ク耕耘ノ粗惡ナル國ナシト云ヘルカ如ク農家組合或ハ地主
會ノ共同耕地ニ依レル舊式ノ耕作法ハ生産上ノ彈性ヲ失ヒ一度不作ニ際セムカ忽チ饑饉ニ襲ハルル
ノ状態ナリ是ヲ以テ莫大ナル其ノ穀類ノ輸出モ眞實ニ於テハ唯外觀ノ眩惑ニ過キスシテ歐洲ニ於テ最
肥沃ナル土地即チ露國ニ於テ其ノ人民ハ反テ麵粉ノ缺乏ニ苦メルカ如キ奇ナル現象ヲ呈セリ千九百年
「レーマン、バルフス」氏ハ光明赫々タル露西亞大帝國ノ裏ニハ饑饉ニ苦メル幽靈ノ潜在ヲ認ムト評シタリ
然ラハ何故ニ露國ノ農民ハ自己ノ食料ヲ節シテ迄モ農産物ヲ輸出スルヤノ問題ノ解決ハ頗ル簡單ナリ

即チ政府ハ收穫時ノ最中ニ租稅徵收執行吏ヲ農民ノ許ニ派遣シテ之ヲ壓迫シ農民カ農産物ヲ輸出シテ
貨幣ヲ得スムハ生活シ得サラシムルナリ

政府ノ誤マ
レル財政政
策

印度ノ饑饉ハ英國政府ノ苛斂誅求ノ結果ナリト稱セラルルカ露國ノ饑饉モ實ニ之ト其ノ景況ヲ一ニス
政府ハ對外貿易ニ於テ輸出超過ヲ生セシメムカ爲過度ニ穀類ヲ輸出セシムルヲ要ス若此ノ事ナカリセ
ハ貿易ハ恐ラク輸入超過ニ陥ルナラム然リ而シテ此ノ如キ手段ヲ弄シテ輸出超過ヲ求ムルノ眞意ハ世
界經濟界ニ於テ動搖セムトスル露國ノ信用ヲ維持セムトスルニ外ナラサルナリ此ノ方策ヲ採用セシ者
ハ實ニ藏相「ウキツテ」氏(千八百九十三年—千九百三年在職)ナリ

斯クテ同國ノ富源ハ皆政府ノ財政ヲ豐ナラシムル爲徐々ニ奪ヒ去ラレ(殊ニ千八百九十五年以來政府
カ火酒ノ專賣權ヲ收メタルハ最著シキモノナリ)從テ同國ノ富力社會ヨリ政府ノ手ニ移轉スルモ國家
全體ノ富ノ度ハ事實上増大セサルヲ認ムルヲ得ヘシ露國政府ノ財政ハ恰モ伊國ノ財政ニ於ケルカ如ク
頗ル順調ヲ示セルニ反シ社會ノ下層ニハ多大ナル暗黒面ノ存スルモノアリ

露國ノ工業ハ政府ノ注文品ニ依リ漸ク維持スルコトヲ得鐵道ハ又政府ノ補助ニ依リ始テ其ノ業務ヲ實
施スルコトヲ得ヘク此ノ如キ状態ハ獨リ國債ノ募集ニ依テ遂行シ得ルニ過キササルナリ故ニ外國ニ於ケ
ル自國國債ノ信用ヲ維持セムカ爲穀物ノ輸出ヲ行フヲ必要トスルニ至ル

「ポテムキン」氏ノ如キ舊時代ノ精神カ今尙露國ニ現存スルコトハ實ニ驚クニ堪ヘタリ農業上ノ難問

農民ノ革命
農運

ハ他國觀察者ノ容易ニ解決スル能ハサル財政上ノ問題ニ密著ス從來屢露國財界ノ破産期ヲ豫言セラレタルコトアルモ所以ナキニアラサルナリ然ルニ流石ノ農民モ政府ヨリ徒ニ永久經濟上ノ試驗ノ爲取扱ハルルハ忍フヘカラサル所ナルカ故ニ遂ニハ土地ヲ與ヘヨト絶叫シテ革命ヲ起スニ至リタリ是同國ノ耕地全面積ノ半部ハ貴族及皇室ノ領有ニ歸シ全然其ノ管理ト濫用ニ委セラレアルヲ以テナリ

政府ノ農業
政策ニ對ス
ル議會ノ反
對

農民カ耕地ヲ要求スル革命運動ハ露化主義ニ對スル被征服民族ノ抵抗及西歐思想ヲ有スル國民分子ノ反抗以上ニ大勢力ヲ有スルモノニシテ實ニ農業問題ノ解決ハ同國ノ辯論ノ主題タリ斯クテ第一回帝國議會ハ農民ノ爲ニ土地強制徵收案ヲ提出シテ倒レタリ當時政府ハ同提出案ニ對シテ冷淡ナリシモ其ノ代リトシテ西比利ニ於ケル新ナル耕地ヲ求メテ移住スルコトヲ慫慂セリ而シテ西比利ニハ以前多數ノ移民ヲ送リタルコトアリシモ今又政府ノ慫慂ニ從ヒ多數ノ移民ハ西比利ノ廣範圍ニ亘リテ住居ヲ求ムルニ至レリ然レトモ政府ハ其ノ實際ノ解決法ヲ百年以前普魯西及瑞典ノ專制政府カ取リタルト同様ノ方策即チ土地分配ニ求メタリ是首相「ストロピン」氏ノ千九百六年ヨリ千九百十年ニ亘ル間ノ農制大改革ノ主眼點ナリシナリ

首相「スト
ロピン」氏
ノ農制改革
ト其ノ反動

此ノ農制改革ハ豫期以上ニ驚クヘキ急速度ヲ以テ進捗シタリシカ其ノ目的ハ不規律ナル耕作ヲ廢シテ收穫多キ土地ヲ造リ同時ニ之ニ依テ經濟界ヲ鞏固ニシテ工業ノ基礎ヲ定ムルニ在リタリ然レトモ此ノ農制改革ハ生産業ヲ刺戟スル以上ニ別箇ノ影響ヲ與ヘタリ即チ農民ニ簡人主義ノ思想ヲ注入セルコト

是ナリ從テ農民ハ獨立自營ノ精神ヲ有スルニ至リ延テハ同國社界ノ變態ヲ來タシ國民ノ心理ニ著シキ反響ヲ與ヘタリ

是ニ於テカ「ストロピン」氏ノ農制改革事業ニ對シテハ不安ト反抗トヲ以テ望ミタルモノ多ク殊ニ農民階級ヨリ浮浪者ヲ發生スルコトヲ恐レタル自由黨ノ反對ハ激烈ナリキ然リト雖露國カ一層進歩セル社會狀態ニ到達セムカ爲ニハ必スヤ一度ハ此ノ試練ヲ經サルヘカラサルハ確實ナル事實ナリトス

「ココフツオフ」氏ノ新政府カ財政上ノ難問ヲ解決シ尙其ノ上千九百九年以後國債ニ對シ分額辨濟ヲ行フヲ得タルハ此ノ大帝國內ニハ實ニ打算以外ノ潛勢力ヲ藏スルコトヲ立證スルモノナリ

第五款 國家

露帝國ノ龐大ナルト其ノ國民カ東洋流ノ性狀ヲ有スルトハ君主專制政治ヲ以テ自然ノ政體タルヲ思ハシム此ノ狀態ハ延テハ西歐ノ民族移轉ヲシテ隣接セル露領ニ向ハシメス却テ大西洋ヲ渡テ米國ニ指向スルニ至ラシメタリ「ラーセル」氏曰ク東方露國ニ於テハ人ヲシテ恰モ寒風ニ曝サレアルノ感ヲ有セシムト

露帝國ノ國基ヲ確立セシハ「ペーター」大帝ナリシカ大帝ノ國家經綸ノ根本主義ハ政教一致ニシテ農民階級カ皇帝ニ能ク絶對ノ服從ヲナシ露國ヲ以テ神聖ナル國家ナリト確信スルハ明ニ宗教上ノ意識ニ起因ス「ペーター」大帝ハ宗務ヲ政府ノ司宰ニ歸スルト同時ニ其ノ他ノ政治上ノ機關ヲモ確立シ茲ニ

「ペーター」
大帝ノ經綸

露帝國ヲ建設セシカ此ノ政治機關コソハ他日皇帝ト國民トノ中間ニ存在スル官僚政治ノ端緒ヲ開ケルモノナリ其ノ後百年「アレキサンダー」一世カ始テ内閣組織ヲ行フヤ(千八百二年)官僚政治ハ益促進セラレ遂ニ官吏萬能ト化シ事實上露國ノ中堅ハ官僚ノミトナリ國法上ノ理論ヨリ云ヘハ露國ハ君主國ナルモ事實ハ露帝ノ名ヲ利用シテ同國ヲ最殘忍ナル警察國ニ化セシメタル官僚政治ノ國家ニ他ナラサルナリ是第十八世紀ニ於ケル威勢赫々タリシ中央集權ノ國家典型ナリ然レトモ上ニハ嚴然タル專制政治ノ確立セルモ下層ナル村落ノ農民間ニハ既ニ民主的傾向ノ存在ナキニシモアラス從テ米國トハ一見正反對ナル國狀ノ如キモ事實ハ案外ニモ類似點ノ潜在セルヲ認ムヘシ「アレキサンダー」一世ノ時代ニ於テハ露國ハ纔ニ暗殺ニヨリテ橫暴ニ陥ラサル君主國ナリト評スルモノアリシカ爾來變化シテ今ヤ全ク腐敗セル官僚國ト化シヌ

而シテ茲ニ注意スヘキハ露國社會ノ最下層者カ機ヲ得テ官僚仲間ニ入ルコトヲ得ルニ至レハ從來ノ官僚主義モ民主主義ノ如キ觀ヲ呈スヘキコト是ナリ即チ同國ニハ佛國ニ於テ革命ノ中心タリシ中流階級者ハ社會ニ於テ勢力振ハス是吾人ノ露國ノ社會研究上忘ルヘカラサル事實ナリトス故ニ西歐ノ政治思想ハ侵入シ政界ノ紛亂ヲ惹起セシモ其ノ性質ハ千七百八十九年佛國ニ於ケル革命亂ノ如ク下層民對上流者或ハ庶民對貴族ノ爭鬪ニアラスシテ有識階級對官僚ノ軌轢ニシテ其ノ有識階級ニハ學生、工場労働者及零落セル貴族等之ニ屬セリ第十九世紀ノ末期右ノ有識階級者ニヨリ革命ノ機運ヲ發シ續テ暗々

理ニ他日ノ革命事業ヲ實現スヘキ陰謀企畫セラレアリ而シテ政治上此等ノ危機ヲ救フモノハ一ニ憲法ヲ制定ストノ聲言ナリ

國境地方ニ在セル被征服民族ノ國民トシテノ獨立及農民ノ農制改革ノ要求ハ亦露國革命ノ根源タルモノトス然ルニ波蘭ノ叛亂スルヤ政府ハ被征服民族ニ對シテ斷然益強固ナル態度ニ出ツルニ至リ又地方議會ノ自治ニ對シテモ千八百九十年及千九百年ノ勅令ヲ以テ之ヲ制限セムト試ミタリ是歷大ナル國土ヲ統轄セムカ爲ニハ代表政治ノ途ヲ塞クヲ以テ最良手段ト思惟セシカ爲ナリ殷鑑ハ近ク埃國國ニアリ露國政府ハ爲ニ一層戒心ヲ加ヘタリ國民ノ自由及大國家ノ統轄ノ二難問題ハ實ニ同國ニ於テハ紛糾錯綜シテ其ノ解決ハ真ニ容易ノコトニアラサルナリ

然ルニ千九百五年日本ニ對スル政策ニ依テ官僚ハ大願挫テ來タシ延テハ革命ノ機運ヲ助長シ遂ニ政府ヲシテ憲政上ノ要求ニ耳ヲ傾ケルニ至ラシメタリ千九百五年ノ十月宣言ニ依テ露國ハ大憲章ヲ出タシ續テ千九百六年五月完全ナル憲法ヲ發布シ帝國議會ヲ開設スルニ至レリ斯クテ千七百八十九年佛國革命ニヨリテ勃發セル憲法政治ノ運動ハ第十九世紀ノ中期中歐ノ專制王國ヲ風靡シ千八百八十年ヨリ千八百九十年ニ亘ル間ニ「ハブスブルグ」王家ノ專制政治ヲ倒シテ露國ニ侵入シ命令ヤ其ノ專制政治ヲモ倒壊シ終レリ然ルニ露國政府ハ唯外觀上自ラ進テ憲政ヲ採用セルカ如ク裝ハムカ爲格モ千八百六十年ヨリ同六十年ニ亘ル間ニ埃國國ニ於ケルカ如ク欽定憲法ヲ發布シ露帝ハ依然國政ヲ總攬スルノ形式

ヲ保持セリ此ノ點コソハ實ニ將來革命發展ノ一大原因ヲナスニ至レリ(千八百四十八年—五十年普國ニ於ケル經過ト大ニ類似ス)

政府ト議會トノ衝突

新選舉法

第一回議會ノ開催セラレルヤ即チ議會ハ政府ト提携スルコト不可能ナルヲ立證シ政府ハ千九百六年(五月ヨリ七月迄)及千九百七年(三月ヨリ六月迄)ノ短期ノ會期後議會ノ解散ヲ命セリ而シテ政府ハ議會ニ問フコトナク唯露帝ハ傳統セル特權ヲ以テ千九百七年六月一箇ノ新選舉法ヲ制定シ之ニ依テ革命分子ノ勢力ヲ減少シタリ此ノ事タル千八百三十年佛國ニ於ケル七月法令ト等シク一ノ非常違憲行為ナリ然ルニ佛國ニハ七月革命ヲ勃發セシモ露國ニハ何等革命ヲ惹起スルコトナカリキ是國民性ノ無感覺ナルト從來ノ政爭ニ疲レタルノ結果ナリ其ノ後千九百七年十一月以後政府ト議會ハ普通ノ協同動作ヲ取ルニ至レリ

革命ヲ未然ニ防遏シテ平和ニ改革ノ途ヲ開キシ名譽ハ主トシテ千九百六年ヨリ千九百十一年ニ亘ル間首相タリシ「ストリピン」氏ニ歸スヘキモノナリ而シテ同首相ハ新國民主義ト相結ヒテ新勢力ヲ得タリ芬蘭ニ於ケル法律上ノ自由ヲ奪ヒタルハ露國カ其ノ政界ヲ完全ニシ回復セムカ爲犧牲ニ供シタルナリ

未來ノ革命運動ハ展開

「ストリピン」氏ハ再ヒ官僚政治ト警察政府トヲ復活シタリ然レトモ議會モ漸次憲政上ノ議府タルノ位置ニ到達セリ然リ而シテ革命運動ハ全部終熄シタルカ或ハ暗々裡ニ其ノ機運ヲ存スルヤハ未解決ノ

ニ屬ス

將來政體上ノ大變動アラ

問題ナリ從來ノ經驗ニ照ストキハ廣大ナル邦國ヲ統轄スルニハ古代羅馬ノ典型ナル君主專制政治力或ハ近世式ノ聯邦主義カニ依ラサルヘカラス現時ノ露國ハ右ノ兩箇ノ政體ノ中間物タル立憲君主制ヲ有ス是ヲ以テ將來或ハ國民主義ニ從テ國家ヲ自治團ニ區分セル聯邦ニ變化スル時期アルヘキモノナルカ故ニ今ハ唯過渡時代ニ在ルナラムトノ說ヲ立ツルモノアリ然レトモ此ノ問題ニ對シテ斷案ノ解決ヲ得ルハ國內ノ情況大ニ變更ヲ來タシタル曉ナルヘシ殊ニ現時ノ國家ノ骨幹タル官僚政治力根柢的ニ破壊シタルトキハ即チ憲法上ノ難問ハ一段ヲ告クルモノト云フヲ得ヘシ

第六款 對外政策

國是

「ドストイエヴスキ」氏曰ク大船ハ深キ航路ヲ要スト露國ノ外交政策ハ次ノ二箇ノ著眼點ニ依リテ決定ス即チ龐大ナル國土及閉塞セラレタル地位是ナリ而シテ同國カ世界ノ大洋ニ通スル出口ハ地中海方面カ大西洋方面カ印度洋方面カ或ハ太平洋方面カナルヲ以テ其ノ膨脹政策モ之ニ準シテ決定セラル千九百五年春「ノールウエツレミヤ」紙ハ自國ヲ以テ恰モ袖ヲ縫ヒ閉チタル小ナル衣服ヲ著セル大男ニ喩ヘタリ而シテ同國ノ國是ハ最小抵抗ノ法則ニ準シテ最他國ノ勢力ノ微弱ナル方面ニ向テ發展ス

地中海方面突出政策

膨脹政策地中海方面ニ突出スル政綱ハ其ノ最古キモノナリ露國ノ傳説ニハ「コンスタンチノール」ヲ露帝ノ都ト稱シ同地ニ在ル聖「ソフイヤ」寺院(元國教ノ總本山)ヲ奪回スルハ實ニ同國民ノ宿願ナリ之カ爲ニハ第十八世紀ヨリ第十九世紀ニ亘リ土耳其ト八回ノ戰爭ヲ行ヒシヲ以テモ如何ニ同問題

カ真面目ナルヲ窺知スルニ足ルヘシ
露國ハ「クリミヤ」戦争ニ於テ打撃ヲ蒙リ列國ヨリ黒海ヲ以テ不可侵ナリト宣言セラレタルモ遂ニ千八百七十一年ニ至リ此ノ義務ヲ撤回シテ黒海上ニ「コンスタンチノーブル」攻撃用ノ艦隊ヲ浮ヘ尙同國ノ南側「コーカサス」方面ヨリ陸路土耳其ニ進軍スルノ計畫ヲ立テタリ唯千八百四十一年制定ノ「ダーダネルス」海峡通航禁止ノミハ犯スコトナカリキ從テ地中海ヘノ突出ハ依然閉鎖セラレ千七百七十八年以來ハ此ノ方面ニハ直接行動ヲ爲ササルニ至レリ

大西洋方面
突出政策

地中海突出ノ企圖ニ次キテ古キハ大西洋方面突出ノ政策ニシテ第十八世紀ニ於テ益甚シク千八百九年ノ國境線推移ニ依テ「マラングル」及特ニ「フアラングル」ヲ威嚇シ千八百五十六年露國ガ「アーラント」ニ築城ヲ設クヘカラサルノ義務ヲ負擔セシメラレタル以後此ノ方面ノ壓迫ハ漸ク減少セリ而シテ「クリミヤ」戦争以後露國ノ發展政策ハ遠ク亞細亞方面ニ向ヒタリ

所謂露國ノ
把要

由來歐洲ニハ奈翁沒落ノ後約百年露國ハ全歐ヲ風靡スヘク歐洲ハ哥薩克ノ馬蹄ニ蹂躪セララルルノ機到來スヘシトノ迷信ヲ存セシカ西歐ニ於ケル二月革命後ノ露國ノ態度ニヨリ益其ノ憂慮ハ深キヲ加ヘタリ從テ露國皇室ニハ「ベーター」大帝ノ秘密ナル遺訓アリテ系統的ノ侵略政策ハ既ニ決定セラレアルカ如キ風説ヲ生シ千八百三十六年巴里ニ於テ其ノ文面發表セラレタリ曰ク健新ナル露國ハ老朽ニ瀕セル西歐ヲ羈絆ノ下ニ置クヘシ云々ト千八百七十九年「プレスラウ」ニ於テ學術上研究ノ結果此ノ遺訓ハ

印度洋方面
突出政策

奈翁ノ露國遠征ヲ辯護スル目的ヲ以テ作ラレタル偽書ナルコト明トナレリ然レトモ全歐洲人ノ腦裡ニハ依然露國ナルモノ存在セシカ「クリミヤ」戦争ノ結果ニ依テ漸ク其ノ思想減退スルニ至レリ千八百五十年代ニ於テ一箇ノ偶然ナル原因ヨリ印度洋方面突出ノ政綱ヲ主眼點トスルニ至レリ是土耳其方面突出ヲ妨害セル英國ニ對スル直接ノ復讐ナリ而シテ印度洋突出計畫ハ二箇ノ方面ヲ取レリ即チ一ハ直接印度ヲ衝クヘキ方面ニシテ他ハ海面獲得ノ企圖ニシテ「ベルシヤ」灣ハ其ノ主ナル目標ナリ而シテ前者ニ對シテハ「トランスカスピエン」及「バミール」ノ兩地ニ、又「ベルシヤ」ニ對シテハ高加索ニ強固ナル策源地ヲ造リタリ此ノ期間ハ英、露國ノ確執時代ニシテ競争ノ目的地ハ實ニ印度ナリ露國ハ一方直接印度ニ向テ前進スルト共ニ印度洋ノ門戶タル「ベンゲルアッバス」港ヲモ獲得セムトシ同地ニ通スル「ベルシヤ」貫通鐵道ノ敷設ヲ計畫シタリ

太平洋方面
突出政策

然ルニ千八百九十五年ニ至ルヤ印度洋突出計畫ヲ廢シテ太平洋方面侵略ニ變更セリ（所謂「ベーター」大帝ノ遺訓ナルモノニハ此ノ方面侵略ニ就テハ何等記述スル所ナカリシナリ）然レトモ事實ニ於テ太平洋方面突出ノ歩ヲ進メタルハ千八百五十年代以後ニシテ太平洋ニ通スル「アムール」河ノ價值ヲ十分認メタル後ノコトニ屬ス即チ露國ハ歩々所謂溫キ海ニ向テ前進シ千八百六十年迄ニ「ウラジホス」トツク」ニ到達セリ是ニ於テカ西比利鐵道ヲ生シ千八百九十一年之ヲ起シタルカ日本海ハ世界市場ニ離隔シ冬期氷結スルノミカラス他國ノ爲航路ヲ遮斷セララルルノ不利アルカ故ニ同鐵道ノ終點ヲ旅順

ニ置カムト欲シ道ヲ滿洲ニ取ルニ至レリ然ルニ千八百九十五年日清戰爭ノ終局ニ際シ日本ハ自衛上將
タ又大陸發展ノ必要上旅順ヲ掌中ニ收ムルニ至リ露國ノ企圖ニ齟齬ヲ來タセリ是ニ於テカ相互ノ利害
相反シ日、露兩國間ニハ避クヘカラサル紛擾ヲ生シタリ當初ニ於テハ露國ハ優勢ヲ示シ獨、佛兩國ノ
援助ヲ以テ日本ヲ旅順ヨリ驅逐シ千八百九十八年支那ヨリ同地ヲ租借シ千九百年北清事變ニ乘シテ滿
洲ニ於ケル地歩ヲ堅メ殆ト永久ニ亘リ滿洲ハ露國ノ領有ニ歸スルカ如キ觀ヲ呈セリ

日露役ニヨ
リテ發シタ
ル革命ト其
ノ影響

第二十世紀ニ入ルヤ益同國ノ威力伸張シタルモ千九百四年ヨリ五年ニ亘ル日露戰爭ニ於テハ革命亂ヲ
塗レ遂ニ太平洋ヘノ通路ハ恐ラク永久ニ閉塞セラレタリ其ノ直接ノ反映トシテ本國ニ於テハ革命亂ヲ
勃發シタリ官僚ハ極東政策ヲ辯解シテ露國ノ地理上ノ弱點ヲ矯正スルニ在リ若ハ亞細亞ニ於ケル文明
ノ活動ナリト云ヒシモ何等其ノ失策ヲ匡正スルヲ得ザリキ露國ハ從來既ニ十分ノ土地ヲ有シ其ノ工業
ハ自給自足ノ目的ニ達スル程度ニアラス國內ニ於テ解決ヲ要スヘキ重要問題カヲササルヲ以テ決シテ
侵略政策ノ如キニ没頭スルヲ要セザリシナリ故ニ日露戰爭ノ結果勃發シタル革命ハ實ニ從來飽ク所ヲ
知ラザリシ侵略政策ノ結末ヲ告ケシメタルニ似タリ然レトモ東洋ノ平和ヲ愛好スル思想カ現今露國ニ
萌芽シタルヤ否ヤハ疑問ナリ

日露戰後ノ
侵略政策

是ニ於テカ露國ハ第一著歩トシテ千九百七年英國ト協商ヲ締結シテ「ベルシヤ」灣突出ノ企圖ヲ撤回
シ同年又諾威保存協約ニ參加シ千九百八年東海協約ニ依テ大西洋突進ノ企圖ヲ撤退セルコトヲ示セ

「バルカン」
同盟ト露國ノ
政策

然ルニ其ノ後直ニ露國ノ官僚ハ恰モ佛國ノ「ブルボン」王統ノ如ク何等革命ニ就キ學ヲ所ナカリシヨ
ト明トナレリ即チ辛フシテ革命ヲ終熄セシムルヤ又モヤ侵略政策ヲ開始シ千九百十年「ホッダム」ニ於
ケル皇帝會見ニヨリ波斯ニ於ケル獨國ノ利益ト「バクダット」鐵道沿線ノ露國ノ利益ヲ均等ニシ兩國ノ
紛糾ヲ除去シタル後千九百十一年以後波斯ニ於ケル露國ノ勢力範圍ヲ全然占領シ尙支那ノ革命ノ好機
ヲ利用シテ千九百十二年外蒙古ノ保護權ヲ掌中ニ收メ續テ千九百十二年「バルカン」同盟ヲ結ヒテ露
國ノ保護ノ下ニ立テテ諸邦ヲシテ土耳其及埃匈國ノ兩方面ニ機鋒ヲ向ケシメタリ最近「バルカン」ノ
諸邦カ土耳其ニ對シテ行ヘル戰爭ハ事實露國ノ使嗾ニ依リテ起レルモノナリ而シテ其ノ結果露國ハ從
來ヨリモ「コンスタンチノープル」及地中海ヨリ離隔スルノ景況トナレリ

對芬蘭政策
ノ激變

其ノ他露國ハ又モヤ大西洋突出ノ企圖ニ著手シ「レフエントローフ」民ハ之ヲ千九百十三年ニ於ケル
最注目スヘキ現象ト稱セリ芬蘭ヲ以テ暫ニ獨國ノ露都ニ對スル突破攻撃ニ抵抗セムカ爲ノミナラス
又露國カ西方ニ對スル戰略開進ヲ行フ爲ノ作戰根據地ト爲サムトセリ(千九百十二年「フアールベッ
ク」民所論)而シテ從來ノ芬蘭ノ法制ヲ破壞セルハ露國ノ大々的作戰計畫ノ一部ヲ爲スモノニシテ之
カ爲「スカンデナヴィヤ」諸國ニ不安ノ念ヲ起サシムルノミナラス全西歐諸國ニ對シ一ノ危險ヲ意味
スルモノトナレリ

結論

近年ニ於ケル露國ノ内部及外政ノ歴史ヲ達觀スルトキハ徹底セサル大變動ナリト稱セサルヲ得ス即チ官僚ハ革命ニ際シテ却テ自己ノ地歩ヲ固メ「ニコラス」二世ハ依然大權ヲ掌握シ千九百十三年ニハ「ロマノフ」皇室ノ三百年祭ヲ祝賀セリ而シテ露國政府ノ主要ナル財源ハ國民ノ飲酒癖ヲ基礎トスル火酒專賣ニヨリテ之ヲ求メ國外ニ於ケル露國國債ノ信用ヲ維持セムカ爲ニハ徒ニ國民ノ食料ヲ強奪スルノ方策(穀類輸出強制)ニ出テツツアリ又他民族ノ壓制ト侵略政策ノ意思ハ依然其ノ跡ヲ斷タサルナリ

官僚ハ永年ニ亘ル財政上ノ失策ニ關スル各種ノ攻撃ニ對シテ自己ノ地位ヲ維持スルカ爲近年國民ノ各階級ノ間ニ廣マリ來レル國民主義ノ思潮ニ迎合セリ而シテ國民主義者ハ事實上政府當局者以上ニ侵略的方針ニ傾ケリ

革命運動ノ中軸

露國內ノ專制主義者ト民主主義者ハ對外政策ニ關シテモ鬭争紛擾ヲ續ケツツアリ後者ノ議會ニ於ケル代表機關ハ左黨(立憲民主黨ト稱ス)ニシテ革命運動ノ中軸ナリ而シテ同黨政綱ノ主ナルモノハ内治ノ改良ニ在ルヲ以テ全ク平和的ニシテ壓制政策及侵略的外交ニ反對ス從テ國防費(殊ニ海軍ニ關スル)ノ支出ニ當テハ慎重ナリ

立憲民主黨ニ對抗スルモノハ上院(帝國參議院)及下院ニ於ケル右黨等ニ於ケル多數ノ舊時代ノ軍國主義、侵略主義及極端ナル國民主義ノ思想ヲ有スル議員ニシテ彼等ハ政府ニ接近スルノ優先權ヲ有セ

露國ノ運命

露國ノ運命ハ近キ將來ニ於テ專制主義者ト民主主義者トノ何レカ終局ノ勝利ヲ獲得スルヤニ依テ決定スヘシ

露國

「ペーター」大帝ノ遺訓ナルモノノ中ニハ露國ハ他日總テ文明ヲ抱括スル強國タルヘキヲ説ケルモ西歐諸國ハ日露戰爭及其ノ以後ノ經驗上其ノ杞憂ヲ一掃シ甚シキハ露國ノ瓦解ヲ豫言スルモノスラ起リタルモ將來縱令政局ノ變動アリトスルモ露國ハ容易ニ崩壊スヘキモノニハアラサルヘシ而シテ勿論現時トモ西歐諸國カ露國ヨリ危害ヲ蒙ルノ虞ナキニシモアラサルモ五十年前「ヘンリー・マルチン」氏カ西歐ハ西歐人ノモノナリト絶叫セル頃ニ比スレハ更ニ甚シキモノアラム西歐ノ諸國ハ此ノ如キ警醒ノ語ニ耳ヲ傾ケ一致團結シテ抵抗力ヲ強ムルヲ可トスルハ疑ヲ容レサル所ナルモ若將來東亞ノ諸邦カ國家組織ヲ完備シ露國ヲ壓迫スルノ機ニ際會セムカ乃チ露國ノ西歐ニ對スル壓迫ハ減少スヘキト共ニ露國ハ歐亞ノ中間ニ介シテ黃色人種ト白色人種トノ衝突ヲ緩和スヘキ國家タルニ至ルヘキナリ

第八章 日本國

第一款 國史梗概

日本道徳ノ
意義

日本民族ハ第七世紀中ニ始テ支那ノ文化ニ接觸セリ然レトモ他國ノ理想ハ全然之ヲ受入ルコトヲ爲
サス藝術及文學等ニ於テモ自國ハ本來ノモノヲ保存シ孔子及釋迦ノ教ヲ採用セルモ祖先崇拜教タル神
道ヲ捨テサリキ由來支那ノ道徳ノ根本義ハ孝ト友愛ナルモ日本ハ支那ノ此ノ道義觀ト其ノ趣ヲ異ニシ
君國ニ對スル忠ヲ以テ道徳ノ第一義トナセリ

四歐文明ト
最初ノ接觸

其ノ後千年始テ葡萄牙及和蘭等ノ西歐諸國ト接觸スルニ至レリ時正ニ歐洲ニ於ケル文藝復興期ニ當リ
右ノ諸國ノ如キハ恰モ全世界ニ勇躍濶歩セル時期ナリ若此ノ際日本ニシテ恰モ蝸牛カ危險ヲ感知シテ
穀中ニ身ヲ沒スルカ如ク西歐諸國ノ異心ヲ察知シ俄然國ヲ擧ケテ閉塞スルコトナカリセハ其ノ侵略ヲ
蒙リシヤ必セリ而シテ鎖國ノ政策ヲ取リシ者ハ將軍家康ニシテ時恰モ第十七世紀ノ初期ナリ日本ハ家
康ノ鎖國政策ト嚴格ナル封建的社會秩序ノ掩護ノ下ニ於テ當時世界ノ各地カ歐洲ノ霸權ニ入レラレタ
ル際纔ニ内部ノ集結ニ餘裕ヲ得テ其ノ獨立ヲ保全スルヲ得タリ

鎖國政策

日本ヲ孤立状態ヨリ呼び起シタルハ米國ナリシモ其ノ手段ハ稍強制ナリキ(千八百五十四年)續テ歐
洲ノ諸國ハ米國ノ轍ヲ踏メリ而シテ日本ハ強制ニヨリ締結セル通商條約ヲ以テ侵入商業者ニ對シ門戶
ヲ半ハ開放シタリシモ列國ハ領事裁判權及關稅率ノ改正ニ對スル拒否權ヲ保留シタリ是ニ於テカ歐米
各國ハ部分的ニハ日本ノ後見者タルカ如キ位置ニ立チシヲ以テ日本國民ハ先ツ從屬關係ヲ廢シテ歐米
ト對等ノ地位ニ上ルヲ以テ國家事業ノ第一著歩ト爲シタリ

日本ノ改革

是ニ於テカ他ニ類例ナキ活劇ハ演セラレタリ即チ維新ノ事業始マリ六、七百年間ノ政權ハ武家ノ掌裡
ニ在リテ皇室ハ其ノ形ヲ存スルノミナリシモ今ヤ幕府倒レテ再ヒ政治上ノ實權ハ 天皇ニ復歸セリ
(千八百六十七年)而シテ將軍職ノ沒落ト共ニ舊式ノ封建制度ヲ全部廢止セリ斯クテ侍ノ手ニ依テ王政
復古ト維新ノ改革ヲ遂行シ(千八百六十九年—七十一年)爾來支那ノ思想ト斷絶シテ歐洲ノ文物ヲ採用
シ服裝等モ變更セリ

維新

世界史上ニ國民カ日本人ノ如ク二度其ノ理想ヲ變換セシ類例ハ未ダ曾テ有ラサルナリ(日本ハ第七世
紀ニ於テ支那ノ文物ヲ入レ今又歐洲ノ文明ヲ採用ス)又僅々數十年間ニシテ斯ク大々的ナル改革ヲ遂
行セシ國亦存スルコトナシ然レトモ其ノ改革ハ如何ナル程度迄徹底セルヤハ茲ニ一考ヲ要スル所ナリ
日本ハ歐洲ト同等ナル資格ヲ有スルヲ表明シ以テ歐米ト對等ノ地位ニ就カムコトヲ企テタリシカ日清
戰爭ニ於テ日本ハ國威ヲ宣揚シ其ノ結果條約改正(千八百九十四年—九十九年)ニ依リ完全ナル司法
權ト通商上ノ權利ヲ獲得スルト共ニ外國人ニ對シテ國土ヲ全ク開放セリ是ニ於テカ日本ハ始テ歐米ト
同格ノ位置ニ立ツニ至リ第一著歩ノ目的ヲ達シタリ

條約改正

右ノ消極的目的ヲ遂クルヤ忽チ強國タル地位ニ上リ始メ維新ノ餘勢ハ自ラ發シテ國家ノ膨脹ニ向ヒ既
ニ千八百七十年代ニ於テ附近ノ島嶼ヲ領有シ清國トノ戰爭(千八百九十四年—九十五年)ノ結果臺灣及
遼東半島ヲ得タリ(遼東半島ハ後ニ三國干涉ニ依リテ支那ニ還附セリ)千九百年團匪ノ亂ニ際シテハ日

一躍シテ強
國トナル

一躍シテ強國トナル

本ハ列強ト同列ニ立チテ活動シ千九百二年英國トノ同盟ニ依テ益列強ニ伍セルノ事實ヲ確カメタリ其ノ後(千九百四年—五年)露國ヲ破ルヤ日本ハ確實ナル強國タルヲ表明スル爲列強ニ駐在スル公使ヲ大使ニ昇格セリ又其ノ戰爭ノ結果トシテハ朝鮮、樺太ノ半部及滿洲ヲ手中ニ收ムルヲ得タリ實ニ日本ハ五十年ニ足ラサル期間ニ於テ小弱國ノ境遇ヨリ起リテ遂ニ現代強國ノ地位マテ發展シ而モ英國カ世界ニ膨脹セルトキト等シキ好機ヲ有セスシテ列強角逐ノ間ニ伍セシナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ國家ノ問題ハ唯科學上解決ヲ與ヘタルノミニテハ不十分ニシテ數量ヲ超越セル或種無形勢力ノ存スルモノアルノ感益深キヲ覺フ左ニ最新強國タル日本ノ因テ起レル諸原因ヲ客觀的ニ考察セムトス

英國トノ地理上ノ比較

第二款 地理及國民

亞細亞大陸ニ接近シテ太平洋中ニ連亘スル華麗ナル列島ハ所謂大日本國ナリトス而シテ地圖ヲ一見セハ日本ハ島國タルコト及其ノ位置ノ英國ト類似スル所アルハ直ニ吾人ノ注意ヲ惹ク點ナリ即チ英國カ文化ノ源泉タル大陸ノ海岸ニ接近シアルト等シク日本モ亦東洋文明ノ源泉タル大陸ニ面ス唯英國ハ國中比較的文化開ケタル地方ハ歐洲大陸ノ方面ニ存在シ文化ノ程度比較的低キ地方ハ大西洋ニ面シアルモ日本ハ之ニ反シ文化地方ハ太平洋ニ面シ文化低キ裏日本ハ却テ亞細亞大陸ニ面シアルヲ相異點トスルノミ而シテ日、英兩國ノ顯著ナル發展ハ蓋シ其ノ接スル海洋カ大西洋及太平洋ノ如キ世界ノ文明ヲ

仲介スル海洋ナルコトニ歸スヘキナリ然レトモ大西洋カ世界文化仲介ノ海洋トナレルハ太平洋ニ先チシコト實ニ三世紀前ナルヲ以テ日本ハ第十九世紀ニ至ル迄ハ全ク世界文化ニ接觸セスシテ孤立セシカ一度太平洋カ大西洋ト等シキ文化ノ價值ヲ得ルヤ即チ日本ハ恰モ英國カ第十六世紀間ニ成シ遂ケ得タリシカ如キ進運ヲ示シ來レリ

島國タルノ利益

日本ハ東洋ト米大陸ノ中間ニ位シ(恰モ露國カ歐亞兩大陸ノ仲介國タルカ如ク)且米國ノ如ク他ノ諸強國ト海洋ヲ以テ隔絶シ孤立ノ状態ニアルノ利ヲ有ス蓋シ日本カ他ノ東洋ノ邦國ニ先ムシ能ク純粹亞細亞ノ境地ヲ脫離シ得シハ實ニ此ノ特殊ノ地位ヨリ生セル效果タルヤ明瞭ニシテ此ノ變化ハ強國トナルヘキ必然ノ要件ナリ又港灣ニ富ミ從テ海軍ノ發達ト海運事業ノ進運ヲ生メリ然レトモ其ノ本土ハ地味瘦セ鐵產物ニ乏シク面積及形狀共頗ル伊國ニ似タリ即チ日、伊兩國共耕作地十分ナラス鐵及棉花ニ缺乏スルヲ以テ產業界ノ状態彼此大差ナシ而モ兩國トモ河流ニ富ミ水力ヲ得ルニ便ナル點ハ相一致ス

國民勤勉

唯日本國民ハ頗ル勤勉ナルヲ以テ山岳縱橫セル國土ヲ開拓シテ生産物ヲ不十分ナラサル程度迄收メ得タリ實ニ日本ノ經濟上ノ基礎ハ列強中最貧弱ナルハ看過スヘカラサルコトニ屬ス是ニ於テカ日本ハ大陸ニ發展シテ基礎ヲ此處ニ固メタリ即チ滿洲ニハ鐵、石炭等ノ如キ日本ノ本國ニ缺乏セル物産アリ又朝鮮ハ將來之ヲ開拓スレハ大規模ナル米田及棉花ノ栽培地ヲ得ルノ望アリ然ルニ日本ハ大陸發展ノ結果國境線ノ不自然ヲ來タシタリ而シテ日本ノ發展ノ重心ハ經濟上ノ大市場ニシテ東亞政界ノ大舞臺タ

大陸發展

ル支那ニ在ルヤ必セリ

人種上ノ觀

又日本ハ國外膨脹ノ結果他國ノ民族ヲ合併セリ即チ千三百萬ノ朝鮮人、四百萬ノ支那人及「マレイ」人（臺灣土匪）等是ナリ本來日本ハ文明國中最大人種ノ統一セル國家ナリシモ右ノ如キ異分子ノ合併ト共ニ人種ノ統一ヲ破リシト雖尙總人口ノ七五「プロセント」ハ純然タル日本人ニシテ其ノ内一「プロセント」ノミ國外ニ居住ス故ニ日本ノ民族統一ハ頗ル確實ナルモノト看做スヲ得ヘシ

強健有爲ナル民族

由來日本民族ナルモノハ蒙古人種ヲ核心トシテ之ニ「マレイ」人種、南洋人種、北極人種等ノ混血融和シタルモノナルカ島國トシテ他ト分離セル結果遂ニ一ノ強固ナル特殊ノ國民性ヲ造リ上ケタリ彼ノ英國モ元來雜多ナル人種ノ融合混和セシト等シク亞細亞ノ英國タル日本ノ歴史モ亦雜多ナル人種ノ交配ニ始マレリ而シテ民族心理學者ノ說ニ從ヘハ幾多人種ノ融合混和セル國民ハ強健有爲ニシテ大ナル發展ヲ遂ケ得ルモノナリト謂フ

日本人ノ特性

日本國民ノ特殊ナル天賦ノ才能ハ右ノ如ク幾多ノ異民族ノ混合セルト共ニ國土ノ地位宜シキヲ得特ニ支那式典型ニ屬セサルノ三箇ノ原因ニ職由スルモノナリ而シテ日本ノ國民性中ニハ殊ニ「マレイ」人種性情ノ分子ヲ混入ス即チ日本人ハ海員ノ能力ト南國ノ衝動性ヲ有スルノミナラス尙武ノ氣象ト美術心ニ富メルハ彼ノ支那人ノ平和的散文的ナルトニ比スレハ頗ル逕庭アル所ナリ又四面環海ナルト火山ニ富メルトハ國民ノ性情ヲシテ進取ニ傾カシメタル素因ナラスムハアラス

支那人ト日本人トヲ大觀スルトキハ兩者間ニハ大ナル差異アリ即チ日本人ハ進取ニシテ空想的ナルモ支那人ハ保守ニシテ實利的ナリ新渡戸博士ノ物セル武士道ト題スル書籍ニ依リ解釋セラレタル日本ノ消德律ハ歐洲ノ封建時代ノ見解ト彷彿セルヲ思ハシム然ルニ支那ハ乾燥セル理知主義ト純然タル物質主義トヲ有シ歐洲ノ騎士道及日本ノ武士道ト相離ルルコト頗ル遠シ

日支兩國人種上ノ結合ハ權ノ來ルヤハ許ラレ

然リ然リト雖今一步ヲ進メテ觀察スルトキハ日、支兩國間ノ差異ハ日、米兩國ノ差異ニ比シ頗ル小ナルヲ認メ得ヘク日本ノ大和魂及支那ノ國民性トノ差隔ハ大和魂ト米國魂トノ差隔ニ比スレハ恰モ海峽ト大洋トノ比ニ等シキヲ考察シ得ヘシ是ニ於テ他日、支兩國國民ノ心性ハ融合シテ一層高度ノ東亞統一ヲ遂ケ歐洲ニ對立スルノトキ來ルヘキヲ信セサルヲ得ス「ハウスフォール」氏ノ所說ノ如ク日本ハ西歐ノ文化ノ全部ヲ採用セムト欲セス唯之ヲ利用シテ裝備ヲ固クセムト計リシコト今ヤ益明瞭トナレリ即チ歐洲ヲ破ルニハ歐洲ノ武器ヲ以テセサルヘカラス而シテ日本カ歐洲文明ノ外觀ヲ裝ヒタルハ唯歐米ノ羈絆ヲ脱シ自己ノ國家ヲ強勢ナラシメムトノ努力上必要ト認メタルナリ然レトモ千三百年以前日本カ支那ノ文明ヲ輸入セルトキニ拂ヒシト同等ノ注意ヲ以テ今ヤ歐洲文明ニ對シ改革ノ範圍モ唯外觀及實利ノ部分即チ交通機關、工業、法制、軍備等ニ止メタリ斯クテ社會ノ構成等ニハ歐洲式ノ改變ヲ受ケタルコト僅ニシテ日常ノ風俗及思想上ニハ殆ト何等ノ變化ナシ其ノ實證トシテ基督教宣教師ノ半世紀ニ亘レル活動ノ後纔ニ得タル信者數ハ十五萬人以上ニ上ラス日本ハ恰モ風ヲ受クレハ易ク屈撓ス

日本ノ歐洲文明ノ採用ハ唯外觀ノミ

ルモ決シテ根ヲ抜キ去ルコトヲ得サル樹木ノ如シ而シテ歐洲ノ文明ノ外觀ヲ有スル日本人モ其ノ胸裡
ヲ探リ見ルトキハ確ニ東洋式心臓鼓動シツツアリ

黄、白兩人
種ノ思想上
ノ差異

「バーシヴァル、ローウエル」(千八百八十八年) 及「ラフガデオ、ハーン」(千八百九十四年—千九百
四年)ノ兩氏ハ極東精神ヲ分解シテ「無我」ノ一語ニ歸スルモノトセリ由來黃人種ハ甚ク簡人ノ資格
ヲ省ミサルノ故ヲ以テ協同責任思想ノ特殊ナル維持者タルノ觀アリ其ノ反映トシテ政治上ニハ主權ニ
對スル信頼及義務觀念又道德上ニハ利他主義トナリテ現ハル然ルニ簡人ノ價值ヲ十分ニ發達セシムル
白哲人種ハ簡人主義、自由主義、利己主義ノ代表者ナリ日本ハ列強中露國以上ナル非簡人主義ノ社會
典型ヲ有スルニモ拘ラス對岸ノ米國ハ最極端ナル簡人主義社會存在ス

日本人ノ思
想ノ歐化

然レトモ日本ハ終始現狀ヲ維持シ得ルヤハ疑問ナリ一度歐米文明ノ形式ヲ採用シタル後永久ニ亘リ歐
洲思想ト隔離シ得ルヤ否ヤ鋭敏ナル觀察者(「ラスゲン」氏千九百五年)ハ日本ニモ既ニ歐洲思想ノ普
及スルト共ニ舊來ノ社會道德ノ基礎ヲ動搖シ漸次之ヲ破壊シ始メタリト云ヘリ是看過スヘキコトニア
ラス然レトモ又「シドニー、グロリック」氏ノ如キ日本ト歐洲トノ相異ハ唯發展時期ノ差異ナリトス
ル見解モ存スルカ故ニ歐洲ノ精神モ一度日本ノ新空氣ニ觸ルルヤ俄然變態シテ一層強度ヲ増加シ日本
ヲシテ優勝ノ地位ニ導クモノナルヤモ計ラレス孰レニセヨ現代ノ日本ハ歐亞兩種ノ最高文化ヲ一致結
合セルモ同時ニ歐亞兩大陸ト相關のニ離隔シテ獨立ノ發展ヲ遂ケタル特殊ノ一國家トシテ觀察スヘキ

モノナリ

日本ノ文化
上ノ使命

日本ハ恰モ露國ト等シク歐亞ノ兩種思想ノ仲介者タルノ位置ニ在リテ千九百十一年倫敦ニ開催セラレ
タル萬國人種會議ニ於テハ兩國ノ議員ハ共ニ其ノ祖國ヲ代表シテ歐亞兩文明ノ融合者タルノ務ヲ果タ
スヘキハ我カ國ナリトノ高遠ナル要求ヲ提出セリ

汎亞細亞主
義

新進氣鋭ナル日本ハ其ノ原始時代ノ國祖 天照大神ノ玄妙ナル豫言ノ力ニヨリ益其ノ所信ヲ固クシ
テ右ノ如キ遠大ナル理想ヲ抱懷ス而シテ之カ爲ニハ日本ハ先ツ亞細亞文明事業ノ指導者タルノ地位ニ
就クヲ要シ(岡倉氏ハ亞細亞ハ即チ一ナリト唱ヘタリ)之ト同時ニ又歐洲諸國ノ橫暴ニ對スル亞細亞
ノ防衛者タラサルヘカラス即チ日本ハ亞細亞ノ盟主トナリテ(「ラブロウ」氏ハ日本ハ黃人種ノ「チャ
ンピオン」ナリト云ヘリ)國外ニ力ヲ伸ハサムカ爲今正ニ準備ニ汲々タルナリ

第三款 社會及政界

然リ
日本將來ノ發展經路ハ英國從來ノ發展ノ歷程ト其ノ軌ヲ一ニスヘキモノアラム特ニ其ノ經濟界ニ於テ

僅少ナル貿
易額

然ルニ現時日本ノ貿易額ヲ研究スルニ頗ル僅少ナリ即チ貿易總額ノ一人割ハ列強中最低位ニ在リテ僅
ニ伊太利ノ三分ノ一ニ過キス而モ輸入超過ナリ(但シ重要輸入品ハ原料品ニシテ輸出品ノ主ナルモノ
ハ製品ナルハ歐洲各國ニ於ケル貿易狀態ト類似ス)之ニ反シ軍事上ノ統計ノ示ス所ニ依レハ陸軍ノ如

軍備ト經濟ノ發達ヲ圖ルヲ軍備整頓ノ次位ニ置ケルナリ由來日本ハ島國ナルカ故ニ比較的軍備ヲ輕減シ得ルナリ然ルニ事實ハ之ニ反シ國防費ヲ節シテ産業ノ發達ニ資セサルナリ此ノ點ニ於テハ稍露國ニ似タルモ米國ト正反對ナリ金子氏曰ク軍備ヲ完全ニシテ法制ヲ整フルハ健全ナル經濟政策ヲ立ツル以上ニ重要ナリシナリト然ルニ日本ハ順序ヲ追テ各般ノ方面ニ發達シ遂ニ歐洲人ヲシテ黃禍ヲ憂ヘシムルニ至レリ殊ニ第十九世紀ノ末期ニ際シ支那ヲ壓服シタル後ニ於テ黃禍論ハ盛ニ論セラルルニ至レリ而シテ黃禍論者ノ憂フル所ハ即チ黃色人種ノ生活ハ簡單質素ナルカ故ニ其ノ工賃モ自ラ低廉ナリ其ノ結果トシテ日本ノ工業製品ハ先ツ東亞ヨリ始テ漸次世界ノ他ノ方面ヨリ歐洲諸國ノ製品ヲ驅逐スルニ至ルナルヘシト云フニ在リタリ然レトモ右ノ所論ノ大ナル誤謬ハ日本ノ産業界ノ狀態ハ終始同一ニシテ特ニ勞銀ノ如キモ次第ニ増加スルコトナシト推斷セル點ニ存ス事實ニ於テモ日本ノ工業ノ般盛ニ起クニ從ヒ益勞働者問題ヲ惹起シ千九百一年ニ於テハ社會黨起リタルモ千九百七年政府ノ手ニヨリテ之ヲ制壓シタリ其ノ他日本人ノ弱點トシテ其ノ勞働者ハ忍耐力ニ缺乏シ企業者ハ過度ノ投機熱ヲ有シ其ノ商業道德モ發達シアラサルハ産業上多大ノ障害ヲ來タシツツアルナリ猶又封建時代ヨリノ傳説上實業家ノ地位低キモ經濟界不振ノ一因タルヘシ

是ヲ以テ日本人カ將來工業ノ如キ趣味ナキ事業ヲ完成シ能フヤハ疑問ナリ工場内ニ於ケル日本人ト戰場ニ於ケル日本人ト同一ナラサルハ贅言ヲ要セス
 上述ノ理由ヲ以テ黃禍ハ日本ヨリ發セスシテ將來却テ支那ヨリ來ルヘシ是支那ハ土地廣ク國民ハ實業家ノ素質ヲ有スルカ爲ナリ勿論日本モ自己ノ缺陷ヲ改メ將來ノ世界最大市場タル支那ニ活動スルノ機ナシト謂フヲ得サルヘシ然レトモ日本カ陸海軍ヲ共ニ完備セムト努力スル間ハ其ノ經濟上ノ發達ハ英國ニ比シ殆ト言フニ足ラサルヘシ

日本ハ次第ニ工業ノ發達セル結果農民ノ數ヲ減少シ千九百八年ニ於テハ農民數ハ總人口ノ六十一「プロセント」ニ下レリ然リト雖此ノ如キ天產物ノ貧弱ナル國ニ於テ人民ヲ養フ爲ニハ工業立國ノ必要アルヤ必セリ又過剩ナル人口ヲ處理スルカ爲多數ノ移民ヲ米國ニ送り收益亦尠カラサリシモ其ノ惡結果トシテ日、米兩國ノ衝突ヲ惹起セリ日本ハ又亞細亞大陸ニモ尠カラサル移民ヲ送レリ而シテ其ノ數ハ米國ニ送レル數ニ比スレハ頗ル僅少ナリト雖本國內ノ人口過大ノ弊ヲ多少醫スルコトヲ得タリ

工業立國ノ必要

過剩人口ノ處理

政府ノ取ル經濟政策

政治上ノ重點

政府ハ此ノ難境ニ立チ政略上ノ目的ニ從テ移民ヲ送り或ハ國民ノ經濟思想ヲ養成シ工業界ト金融界トノ密接ナル連絡ヲ立テ民間ノ事業ヲ獎勵スル爲多額ノ補助金ヲ與ヘ或ハ政府自ラ事業ヲ起セリ(若松製鐵所ノ如キ)即チ日本政府ノ各般ノ範圍ニ亘リテ取レル所ノモノハ國家社會政策ノ施設ナリ
 日本ハ露國ニ先ツコト約半世紀即チ千八百八十九年立憲政體ヲ採用シタルモ嚴密ニ觀察スルトキハ議院政治ハ唯外觀ノ裝飾タルノミニシテ政治上ノ重點ハ 天皇及元老ニアリ而シテ各般ノ改革事業ハ

明治年間ニ於テ行ハレタリ吾人ハ 明治天皇以上偉大ナル統治者ヲ有スル者ヲ歴史上ニ發見スル能ハス新時代ニ於テ日本國家ノ基礎カ如何ナル程度迄變化スヘキヤノ判斷ハ容易ナラス千九百十三年二月憲政問題ニ關シ騷擾ヲ起シ内閣ヲ更迭スルニ至リタルトキノ如キハ日本人ノ心理ニ變化ヲ來タシタルニアラサルヤヲ思ハシメタリ然レトモ十分消化セラレサル外國思想ニ基ク偶發的紛亂ノ如キハ未ダ以テ古來ヨリノ傳説ニヨリ日本人種ノ心底深ク刻マレタル觀念ヲ根柢ヨリ動搖セシムルコト能ハサルヘシ

第四款 對外政策

海外發展ノ必要 上述ノ如ク日本ハ列強ト世界ニ覇ヲ爭フカ爲ニハ頗ル弱勢ナリ然ルニ若日本ニシテ帝國主義ノ競走ニ參加セムト欲セハ必スヤ海外發展政策ヲ採ラサルヘカラス殊ニ人口ノ過剩ヲ處理スル點ヨリ觀ルモ露、佛國等ニ反シテ其ノ必要大ナリ

小村外相ハ嘗テ議會ニ於テ日本ノ周圍ニ在ル諸國ノ人口ヲ案スルニ支那ハ四億、露國ハ一億六千萬、米國ハ一億ヲ數フルカ故ニ日本モ此等ノ諸國ト互角ノ位置ニ就カムト欲セハ成ルヘク速ニ一億ノ人口ニ達セサルヘカラスト而シテ小村外相ハ亞細亞大陸ニ植民ヲ行ハムト企テ其ノ結果露國及支那等ト對抗スル爲陸軍ノ擴張案ヲ提出シテ軍人社會及國民主義者ヨリ援助セラレタリ而シテ桂内閣ノ政綱モ大體ニ於テ右ニ等シカリシナリ

亞細亞大陸ニ發展スル主義

北支南進論

右ノ大陸發展主義ニ反對スルモノハ南進主義者ニシテ彼等ハ新日本ノ發展上大陸陸軍ヲ要スト主張ス是ニ於テカ田本人間ニハ古代希臘ニ於ケル「スバルタ」式ト「アテン」式ノ競爭起リ延テ政治止ノ衝突ヲ惹起セリ然レトモ終局田本ハ太平洋及亞細亞大陸上ニ於ケル絕對權力ヲ獲得セムト夢ミツツアルカリ

對支政策 日本ハ露國ニ勝チタル後國是ヲ定ムルニ當リ支那ト提携シテ世界ニ當ルヘキカ或ハ自國ノ目前ノ利益ヲ進テ支那ニ當ルヘキカノ二點ヲ考量セリ其ノ當時歐洲ハ最黃禍ノ危險ヲ感シ日本ニシテ若シ黃色人種ノ盟主ト爲リテ一圓トナラムカ世界最大ノ自給自足ノ國家ヲ形成シ米、露兩國モ後ヘニ繼若タルニ至ルヘキコトヲ恐レタリ然ルニ日本ノ對支政策ハ何等同人種タルノ感情ヲ以テ行ハレズシテ只管自國ノ利害ヲ追究スル政策タルニ止マレリ

日、米問題 千九百六年ニ至リ同情ニ堪ヘサル「カリフォルニア」州ノ學童問題勃發スルヤ田本ハ外交上ノ後援ヲ造ルノ已ムナキニ至リ千九百七年佛、露兩國ト協商ヲ結ビタリ然ルニ千九百八年米國ト協約スルニ及ヒ政府ハ自由ニ大陸政策ヲ強行シ千九百九年支那ヲ壓制シテ滿洲ノ利權ヲ擴大シ千九百十年朝鮮ヲ併スルニ至リ先ツ日露戰爭ノ大段落ヲ告ケタリ

親露政策 日本ハ滿洲セル鐵道政策ヲ滿洲ニ施シ千九百五年以上ノ發展策ノ素地ヲ造リタルカ其ノ手段トシテ「ビスマルク」カ曾テ取リタルト同法ヲ用キタリ即チ戰敗國タル露國トク提携ヲ開始セリ伊藤公ノ親露政策ハ即チ是ナリ而シテ千九百十年米國カ滿洲鐵道ノ中立ヲ提議スルヤ此ノ機ニ乘シ日、露兩國ハ

新協約ヲ締結シテ接近ノ歩ヲ進メ支那ノ革命ニ乘シテ又モヤ露國ト一ノ協約ヲ結ヒ滿蒙ニ於ケル日、露兩國ノ利益範圍ヲ確立セリ（千九百十二年）千九百十三年秋ニ於テハ日、支間ノ雲行頗ル暗濛タルニ至レリ

日、米兩國將來ノ衝突

抑日本力大々の活動ヲ行ヒ得サルノ原因ハ財政ノ豊ナラザルト千九百十三年以降再ヒ紛糾ヲ新ニセル日、米問題ニ對スル願慮トノ二點ニ在リ事實上日本ハ獨國ト等シク二正面ノ戰爭ヲ行フヘキ公算アルモ目下ハ只管隱忍持久シテ米國ニ對シツツアリ然レトモ日本移民ノ渡米ト共ニ米國正貨ノ日本ヘ流出スル現況ニ鑑ミ尙太平洋上ノ優越權ニ關スル兩國ノ競爭及「ブイリッピン」群島「アラスカ」及布哇領土ノ保安等ノ諸件ヲ考量スルトキハ日、米兩國ノ間カ永久ニ亘リテ平和ナルヲ得ルヤハ疑問ナリ殊ニ兩國ノ思想ハ根本ヨリ相異セル所アルノミナラス兩國共ニ敗戰ノ慘禍ヲ被リタルコトナキニ於テオヤ「ハウスホーフエル」氏ハ國內ニ於テ現代の自由思想ノ蔓延スルハ日本ニ取リテ危險ノ増大ヲ意味スルヤ勿論ナリト云ヘルハ妥當ナリ

國內ノ危險思想

又昔英國ハ歐洲大陸ニ發展ヲ企テテ失敗シ海洋ニ發達ノ方向ヲ指向シテ成功セリ然ルニ日本ハ南進政

日英同盟價値減退

策ヲ取ルモ到ル處競爭國ト衝突ヲ起スニ至ルヘシ英國トノ關係ノ如キモ當初同盟ヲ結ヒタルトキト同等ナラス千九百十一年第三回ノ同盟規約ノ改變ニ於テ其ノ主眼點ヲ失ヘリ而シテ日本ノ益海上ニ雄飛スルニ從ヒ英國ハ日本ニ對シ一層冷淡ノ度ヲ加ヘツツアリ

支那ノ將來日本ノ將來

又支那ノ未來ハ大ナル疑問ナリ同國ハ今ヤ紛糾混亂ヲ極メツツアルモ其ノ成行ノ如何ハ世界諸國殊ニ日本ノ將來ニ大關係ヲ有ス若夫レ支那ニシテ一致團結シテ（縱令滿蒙、西藏等ヲ放棄スルモ）一大國家ヲ形成セムカ真ノ黃禍ハ此ノ地ヨリ發スルナルヘク歐米ハ勿論日本モ亦其ノ害ヲ蒙ルナルヘシ此ノ時ニ當リテ日本ハ白哲人種ノ同盟國トナリ米國ハ歐亞ノ間ノ緩衝國タルヲ得ヘシ然ルニ若支那ニシテ沒落ノ悲運ニ際會セムカ日本ハ寧ロ白哲人種ノ敵トナリ米國ハ黃白兩人種ノ決戰場タルニ至ルヘシ

結論

終リニ臨ミ更ニ觀察ヲ進ヘムニ強國タル日本ニハ二箇ノ思想ト二箇ノ政治上ノ問題ヲ有シ一様ノ方法ヲ以テ自然ニ國民ノ腦裡ニ侵入ス其ノ結果ハ大ニ日本ノ興敗ニ關係ヲ有スルモノナリ

強國トハ如何ナル國カ

以上ニ於テ列強各箇ノ觀察ヲ遂ケタリ今ヤ左ニ之カ概括的論評ヲ下サムトス
先ツ吾人ノ注意ヲ惹ク所ハ強國タラムカ爲ニハ徒ニ面積ノ大（「ブラジル」ノ如キ）ナルソミニテハ不十分ナルト共ニ又人口ノ多數及兩者ヲ併有（印度、支那ノ如キ）スルノミニテモ亦足レリトセザルコト是ナリ又日本ノ勃興等ヨリ案スルモ強國タリ得ルハ唯基督教信者カ或ハ白哲人種ノミナリトノ論斷モ正鵠ナラス政體ノ如何モ亦強國タルノ地位ヲ決定スル所以ニアラス露國ノ專制政體、英國ノ議院政

結論

治、佛國ノ中央集權制度、米國ノ聯邦制度ハ能ク之ヲ立證ス

強國ノ具備
スヘキ有形
無形上ノ要
素

抑強國ナル解釋ハ數學上、人類學上將ク又文化及宗教上ヨリ來ルモノニアラスシテ却テ力學上及心理上ニ基クモノナルコトヲ知ル固ヨリ有形物ノ數量ノ多キヲ要スルト共ニ高度ノ文明及法制上ノ調和ヲ必要トスト雖更ニ之ニ強固ナル精神ヲ注入シテ始テ強國タラシムルコトヲ得ヘシ即チ強國トハ豐富ナル國家機能ニ依リ活躍セル意思ニシテ常ニ外部ニ對シ各種ノ形式ノ下ニ反映ス換言スレハ更ニ大ナル強國タラムトスルノ意思ニ外ナラス「ランブレヒト」氏ハ如何ナル國家モ根柢ニ於テハ飽滿ノ狀態ニアラス而シテ強國トハ膨脹スル國家ノ謂ナリト云ヘリ實ニ然リ是ヲ以テ強國ナルモノハ皆利益圈區トシテ植民地或ハ屬邦ヲ有ス從テ利益圈區ヲ有スルヤ否ヤハ強國タルト否トノ重要ナル條件タルヲ失ハス又列強ハ事實上温帶國ナリ是國民精神ハ温帶地ニ於テノミ其ノ強度ヲ永ク維持シ得ルカ故ナリ尙列強ハ皆切磋琢磨スルノ機會ニ富メル北半球上ニ在リ其ノ他交通便利ナル地位ニ在リテ氣候健康ニ適シ地積亦十分ナルヲ要スルコトモ強國タルノ要素ナリ強國ニシテ若國家ノ最高目的ヲ達成セムトスル競争ヲ自ラ斷念シ人類ニ對スル政治上及文化上ノ使命ヲ果タサムトスル希望ヲ拋棄セムカ既ニ物質上ノミナラス精神的ニ死滅ニ近キツツアル邦國ナリト云フヲ得ヘシ

強國ノ類別

強國ヲ大別スレハ二種アリ經濟的強國及軍事的強國即チ是ナリ英、米兩國ハ前者ニ近ク日、露兩國ハ後者ニ屬ス而シテ獨、佛兩國ハ兩者ヲ兼スルモノナリ其ノ他海洋ハ通商貿易ノ媒介トナリ大陸ハ陸軍力

ノ強大ヲ圖ルニ便ナリ是ニ於テカ國家ノ形態ニ更ニ二種ノ特性ヲ與フ即チ海主國及陸主國是ナリ英、露兩國ハ此ノ點ニ於テ全ク反對ノ地位ニ在リ獨、佛兩國ハ兩者ヲ兼有ス然レトモ日、米兩國ハ此ノ本義ニ反シ前者ハ陸主國ノ典型ヲ、後者ハ海主國ノ典型ヲ具有スルノ傾向アリ又埃國ハ陸主國ニシテ伊國ハ海主國ノ典型ヲ有ス又世界貿易ノ發展ノ爲ニハ之ニ必要ナル據點ヲ各所ニ保有セサルヘカラス是ニ於テカ海主國ハ其ノ本國及植民地相分散セルヲ一般トス然レトモ陸主國タル強國ハ之ニ反シ其ノ領土通常一團トナレリ英、露(埃國)露國(如シ)兩國ハ兩者ノ適例ニシテ獨、佛兩國ハ寧ロ前者ニ屬シ米國モ亦今ヤ漸ク之ニ傾カムトス然レニ日本ハ其ノ領土分散シアリト雖同一海上ニ於テ猶相接近シ集團シアル關係上後者ノ典型ニ近邇セリト云フヲ至當トセム

此ノ如ク強國ハ其ノ觀察方面ノ異ルニ從ヒ各種ノ典型ヲ併有スルモノナリ然レトモ此等ハ永久不變ノモノニアラス又必スシモ同一程度ノモノニアラス若夫レ各國カ將來如何ニ發展スヘキカヲ考察スルニ當リ前ニ各國ニ就キ仔細ニ研究シテ得タル其ノ缺點及弱點ヲ以テ全般ノ是非ヲ速斷セムトスルトキハ大ナル過誤ニ陥ルコトナキヲ保セス若此等ノ缺點、弱點ニシテ他ノ邦國ト比較シ一定限度ヲ超越スルモノアラムカ此ニ始テ危險ノ其ノ國ニ迫リツツアルコトヲ推知シ得ヘキナリ

海主國ノ根據地ノ相分散セルカ如キ狀態ハ全領土一團トナレル陸主國ニ比シ其ノ國力ノ微弱ナルカ如キ觀ヲ呈ス歴史ノ證スルカ如ク貿易市場ヨリ發展セシ「カルセージ」、「ヴェニス」ノ如キ、河口ニ植民セ

結論

シ葡萄牙、和蘭ノ如キ若ハ内海ノ周圍ニ開發セシ羅馬、瑞典ノ如キニ於テ其ノ然ルヲ認ムヘシ然レトモ現時ニ於テハ更ニ自給自足ヲ完全ナラシメ得ルニアラスムハ強國タルノ地位ヲ獲得スルヲ得サルナリ殊ニ將來ハ本國ノ天産物ノ豊富ナルコトヲ緊要トス堅確ナル地上ノ根據地ハ鐵道ノ補助ヲ受クルニ至リ海上ノ連絡ニ依ルモノヨリ更ニ有利ナル地位ニ立タムトスルノ形勢ニ在リ然レトモ大陸の典型カ全然海國ニ比シ有利ナリト斷言スルヲ許サス寧ロ海陸ノ調和ヲ以テ理想トスルヲ一般トス英國及日本カ其ノ島國ヲ核心トシテ大陸ニ手ヲ延ハシ露國カ又大陸ニ加フルニ延長セル海岸ノ獲得ニ努ムルカ如キハ皆此ノ主義ニ基ケルモノナリ將來強國タラムトスルモノハ其ノ資源ヲ提供スヘキ屬領ノ存在ヲ必要トスルヲ以テ外形上ノ觀察ニ依リ其ノ國勢ノ如何ヲ判定スルコトヲ得ヘシ素ヨリ國土ノ大必スシモ強國タルニアラサルモ國土ノ大ナクムハ決シテ強國タルコトヲ得サルヘシ此等ノ觀察ハ今ヤ世界的トナリ歐洲ニ於ケル大ナル邦國モ世界ノ立場ヨリ觀察スルトキハ必スシモ其ノ大ヲ意味スルモノニアラス即チ此ノ意味ニ於テ現時ノ強國ナルモノハ世界的タラムカ爲ニハ其ノ量ト質トニ於テ更ニ大ナルヲ要シ猶未タ過渡時代ノモノナリト謂ハサルヲ得ス

所謂世界的強國

千九百十二年支那ニ於ケル借款問題ニ參與セシ列國中ニハ埃、伊國兩ヲ加ヘス又近東問題ニ關スル倫敦ノ大使會議ニハ日、米兩國ヲ加ヘラレサリキ是ヲ以テ埃、伊、日、米ノ四國ハ未タ世界的強國トシテ十分ノ資格ヲ有セサルモノト云フヘク其ノ世界ノ強國トシテ算フヘキモノハ唯英、露、獨、佛ノ四國ア

ルノミ

列國現時ノ發展ノ情況ニ關シ日本ノ一觀察者ハ次ノ如ク論述セリ曰ク佛國ハ夕刻、英國ハ正午、獨國ハ午前十一時ニ在ルモ日本ハ日出直後ノ状態ニ在リト予ハ之ニ附加スルニ埃國ハ午後、米、伊兩國ハ午前、露國ハ正午ニ近キカ又ハ既ニ正午ニ到達セリトノ語ヲ以テセムトス然レトモ數量上ノ比例ヨリ見ルトキハ日、伊兩國ハ遙ニ低下シ米國ハ其ノ地位頗ル高上スヘシ即チ米國ノ指針ハ悉ク發展ヲ示セルヲ以テ將來世界第一流ノ強國タルニ至ルヘキコトヲ看取スルニ難カラス之ニ反シ佛國ハ其ノ人民ノ減少ト發展速度ノ緩漫トヨリ見ルモ現時ノ地位ヲ永久ニ保持スルコト不可能ナルヘク米、佛兩國ハ他日其ノ地位ヲ相轉換セサルヲ得サルニ至ルヘシ而シテ英、露、獨三國ニ關シテハ其ノ邦土ノ分裂ハ政治上ノ分裂ヲ意味スルモノニシテ獨國ニ關シテハ多少憂フル所ノモノアリ

支那將來

千九百一年「ハルト」氏ハ其ノ著書ニ述ヘテ曰ク今後百年間以上確實ニ強國タルノ地位ヲ失ハサル邦國ハ露、獨、英、米、日、支ノ六箇國ナリト即チ彼ハ支那ハ佛國ニ代ルヘキノ時アルヲ豫言セリ實ニ支那ハ温帶地方ニ屬シ水陸ノ平衡ヲ有スル大國ニシテ人民ノ多キコト各國ノ遠ク及ハサル所ニシテ天産物ニ富ミ工業國タルヘキ能力ニ於テモ遙ニ列強ヲ凌駕セリ即チ強國タルヘキ要素ヲ具備セルモノト云フヘク唯強國タラムトスルノ意思ヲ缺如セルノ缺點アリ而シテ支那ハ何時覺醒スヘキヤハ單ニ時ノ問題ナリ若支那ニシテ起タムカ之ト對抗シ得ルモノハ米、露兩國ノミニシテ日本ノ如キハ殆ト獨立ノ

結論

歐洲同盟ノ
必要

地位ヲ保持スルコトヲ得サルヘク英國ハ大英帝國ノ組織ヲ完備セザル限りハ支那ニ一籌ヲ輸スルナル
ヘク獨國モ亦中歐同盟ノ盟主トシテノミ望ヲ囑シ得ヘシ

英國聯邦ハ既ニ現實ノ問題ナリ之ニ關シテハ前ニ幾多ノ缺點及弱點ノ研究ヲ遂ケタリ歐洲同盟ハ未ダ
眞面目ニ論議セラルルニ至ラス然レトモ從來此ノ主義ヲ主張セル者尠カラス「スリー」及「アルペロ
ニー」氏ノ如キ是ナリ而シテ嘗テハ早計タリシ此ノ思想モ今ヤ獨立自衛上必要ナル事項タルニ至レリ
將來益發展スヘキ敵即チ二億以上ノ境土ヲ有シ三億以上ノ住民ヲ有シ而モ自國ノ食料ヲ以テ自活シ得
ヘキ大敵ニ對シテハ現時ノ歐洲ノ邦國ハ相合同スルニアラスムハ對抗スルコト困難ナルヘシ此ノ大敵
ハ今ヤ隴氣ナカラ米禍、露禍、黃禍トシテ現出セリ斯クシテ歐洲諸國ハ漸次大ナル壓迫ヲ被ラムトス
若歐洲ノ合同ニシテ成立セムカ地理上、文化上獨國ハ自然其ノ指導者タルヘキノ觀アリ此ノ理想ニシ
テ實現セラレムカ遂ニハ世界ノ霸者タラムトノ大野心ヲ抱懷セル國民ヲ包括セル五大強國ヲ世界上ニ
見ルニ至ラム

列強中何レノ邦國カ將來最大ナル發展ヲ遂クヘキヤト云フニ科學ハ之ニ對シ正確ナル答解ヲ與フルヲ
得ス然レトモ大ナル國家カ益繁榮スヘシトノ解答ハ生スヘシ即チ反面ニ於テ小國ハ益小ニ其ノ數ハ
愈減少スヘキコトヲ意味ス此ノ如キハ果シテ論理上及事實上ノ斷案ナリヤ千九百一一年ニ於ケル「ボー
ア」諸邦、千九百十年ニ於ケル朝鮮、千九百十一年ニ於ケル「モロッコ」ノ如キハ強國ノ威力ニ依ル小國

ノ滅亡ヲ意味スルハ最新ノ史實ナリ千九百一一年ノ玖馬、千九百三年ノ「パナマ」及其ノ他亞米利加ノ小
邦ノ如キモ亦同様ノ景況ヲ示セリ又獨國及伊國ノ成立ニ際シテハ其ノ帝國內ニ包含セラレシ小邦ノ盛
衰セシヲ認ム斯ノ如キ情況ハ小ナル邦國カ多少苦痛ヲ免レテ滅亡スルニ至ルマテ繼續セラルヘキモノ
ナリヤ之ニ關シテハ恐ラクハ適切ナル判定ヲ下スコトハ困難ナラム

此ノ際特ニ吾人ノ注意ヲ喚起スル所ノモノハ多數ノ古キ小邦カ大國ト併立シ而モ繁榮シツツアルノミ
ナラス新ナル小邦ノ組織セラルルモノアルコト是ナリ千九百五年ニ於ケル諸威、千九百八年ニ於ケル
勃牙利、千九百十三年ニ於ケル「アルバニア」ノ如キハ最近ノ事實ナリ最近ノ巴爾幹ノ危機ニ際シテ
ハ小邦ノ地位ヲ一層高上セシヤノ觀アリテ單ニ小邦ノ膨脹シ得ルコトヲ明示シタルノミナラス隱然強
國（埃匈國及露國）トノ競争ニ於テ勝利ヲ收メタルコトヲ表明セリ是ニ於テカ小邦ハ衰亡ニ向フト云
ハムヨリモ益強盛ニ赴カムトスルノ景況ヲ認ム

以上研究シ得タル結果ニ徴スルモ全世界ヲ統一セムト企ツル國家ノ存在ヲ認メス從テ國家ノ發展ニモ
自ラ一定ノ限度アルコトヲ知ルヲ得ヘシ大國ハ益擴大スヘキモノ而モ全世界ヲ包括スルカ如キコトハナ
カルヘク小國ハ猶其ノ存立ノ餘地ヲ發見スヘシ即チ小國ハ其ノ數ハ減少セムモ世界ニ其ノ跡ヲ絶ツカ
如キ時機ハ到來セサルヘシ

列國ノ角逐
ト人類ノ進
化

結論

アラスシテ文化ノ勢力モ亦大ニ認メサルヲ得ス必スヤ精神的、物質的文明ヲ以テ世界ニ臨ミ以テ世界
 カ文化ノ向上ニ資セサルヘカラス此ノ最後ノ目的ヲ達成セムカ爲ニハ強國モ小邦モ一致協力シテ之ニ
 努力スルヲ要ス現代列強ノ植民地獲得ノ趨勢ヨリ推ストキハ勸モスレハ國際政局ニ於テモ亦巨大農場
 制度ニ類スルモノ實現セムトスルノ傾アルモ他日又一般ノ反動トシテ小國併立ノ秋來ルヤモ計ルヘカ
 是ハ人類ノ進歩性存スル所存ニ適スル如ク變化スル機能ヲ云フト

附表第一

英領諸島説明表

(英國地理ノ部参照)

名	稱	面積	人口	首都	摘	要
バルムダ	Bermuda	四七、四	二〇〇〇〇	グアテマラ	大西洋ノ西部ニ在ル(紐育ノ東南約千二百吉米)小島ニシテ英國海軍ノ船渠ヲ有ス	
セントヘレナ	St. Helena	四、二七五	六五〇	タグシガルバ	奈翁ノ賤地トシテ有名ナリ目下海軍ノ貯炭所ナリ	
ザンジバル	Zanzibar	七、三二五	一、三四〇、〇〇〇	サン、サルワードル	獨領東亞弗利加東岸ニ沿フ島ニシテ東亞弗利加貿易ノ中心地ナリ	
セイチレス	Seychelles	五、六〇〇	六〇〇、〇〇〇	マナグア	佛領「マダガスカル」ノ東北約千吉米ノ海上ニ在リ海軍ノ貯炭所ニシテ又特種燃料ノ補給所ナリ	
ペリム	Perim	三、三〇〇	四〇、七〇	サン、ジヨセ	紅海ノ南口ニ在ル小島ニシテ海軍ノ貯炭所ナリ	
バーレン	Bahrain	三、二八〇	約五〇〇、〇〇〇	バ、ナ、マ	波斯灣ノ中央ニアル島ニシテ亞刺比亞ニ近接ス	
フワンニング	Fanning	一、〇〇〇	約一〇〇、〇〇〇	ボ、ゴ、タ	布哇南方赤道下ニ在ル小島ニシテ海底電線ノ仲繼所ナリ	

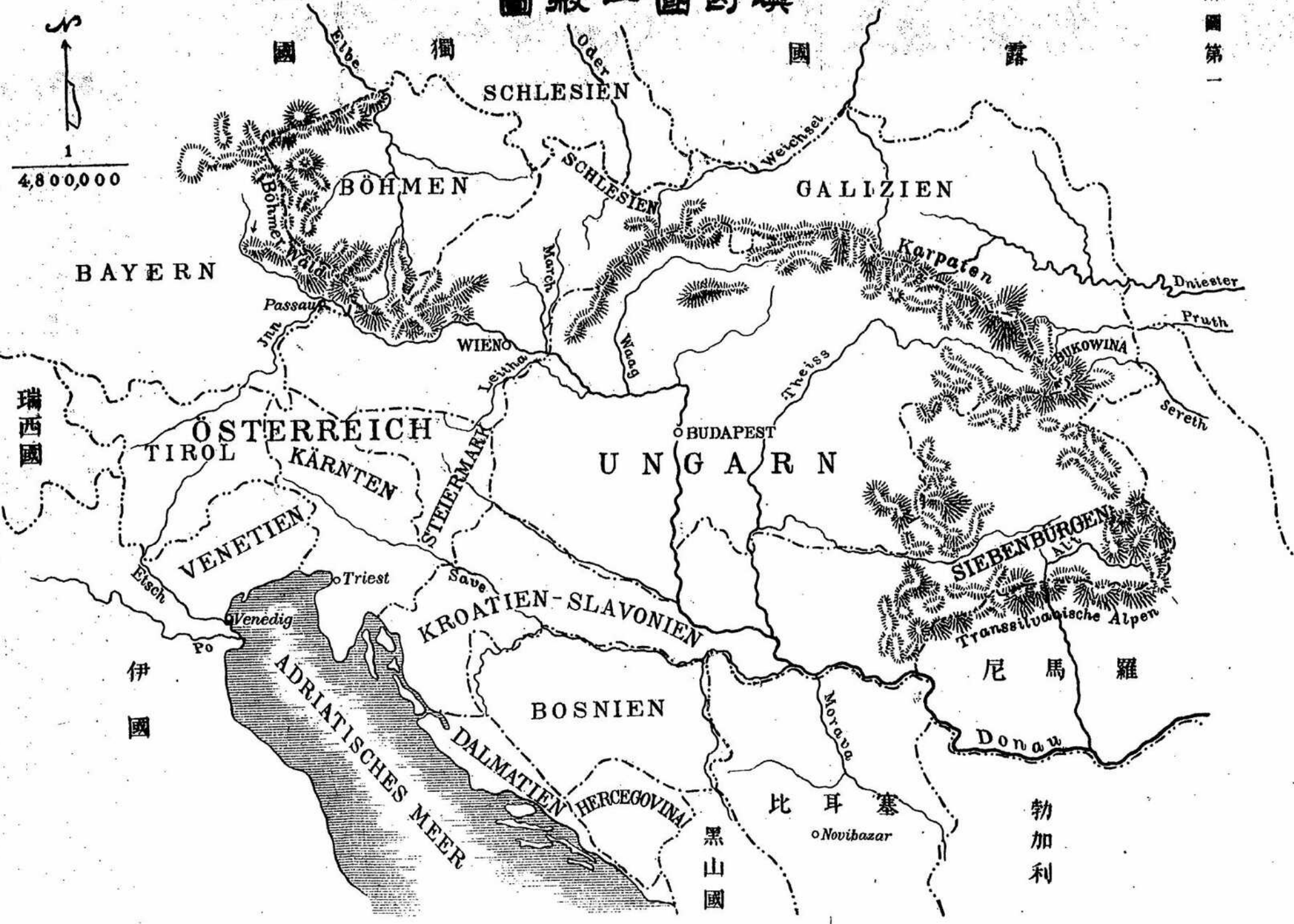
附表第二

「カリビアン」海附近諸共和國及英、米國所領

名	稱	面積	人口	首都	摘	要
「グアテマラ」	共和國	四七、四	二、〇〇〇、〇〇〇	グアテマラ		
「ホンドラス」	共和國	四四、二七五	六五〇、〇〇〇	タグシガルバ		
「サルワードル」	共和國	七、三二五	一、三四〇、〇〇〇	サン、サルワードル		
「ニガラガ」	共和國	五、六〇〇	六〇〇、〇〇〇	マナグア		
「コスタリカ」	共和國	三、三〇〇	四〇、七〇	サン、ジヨセ		
「パナマ」	共和國	三、二八〇	約五〇〇、〇〇〇	バ、ナ、マ	千九百三年「コロンビア」共和國ヨリ分離セリ	
「コロンビア」	共和國	四、六〇〇	五、四七五、〇〇〇	ボ、ゴ、タ		
「キバユ」	共和國	四、一七六	二、五、二〇	ハ、ワ、ナ	千八百九十八年西班牙ヨリ離レテ獨立セリ	
「ハイチ」	共和國	一〇、一〇〇	三、〇一九、七〇〇	ポルトオ、プリンス	米國官吏ノ下ニ警察ヲ置ク	
「サン、ドミンゴ」	共和國	一八、〇四五	約七〇〇、〇〇〇	サント、ドミンゴ	千九百十六年米國ハ同國ノ秩序恢復ノ爲海兵ヲ上陸セシメ今尙一部ヲ占領シアリ財政上ノ監督ハ米國之ヲ行ヒ又警察ヲ米國官吏ノ下ニ置カムトシツツアリ	
英領「ホンドラス」		八、五九六	四〇、五〇〇	ペリ、ズ		
英領「ジャマイカ」		四、四五〇	八三、三〇〇	キングストン		
米領「ポルト、リコ」		三、六〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	サン、ジュアン		千八百九十八年米、西戦争ノ後米國之ヲ占領ス

圖 版 一 國 匈 奧

附 圖 第 一



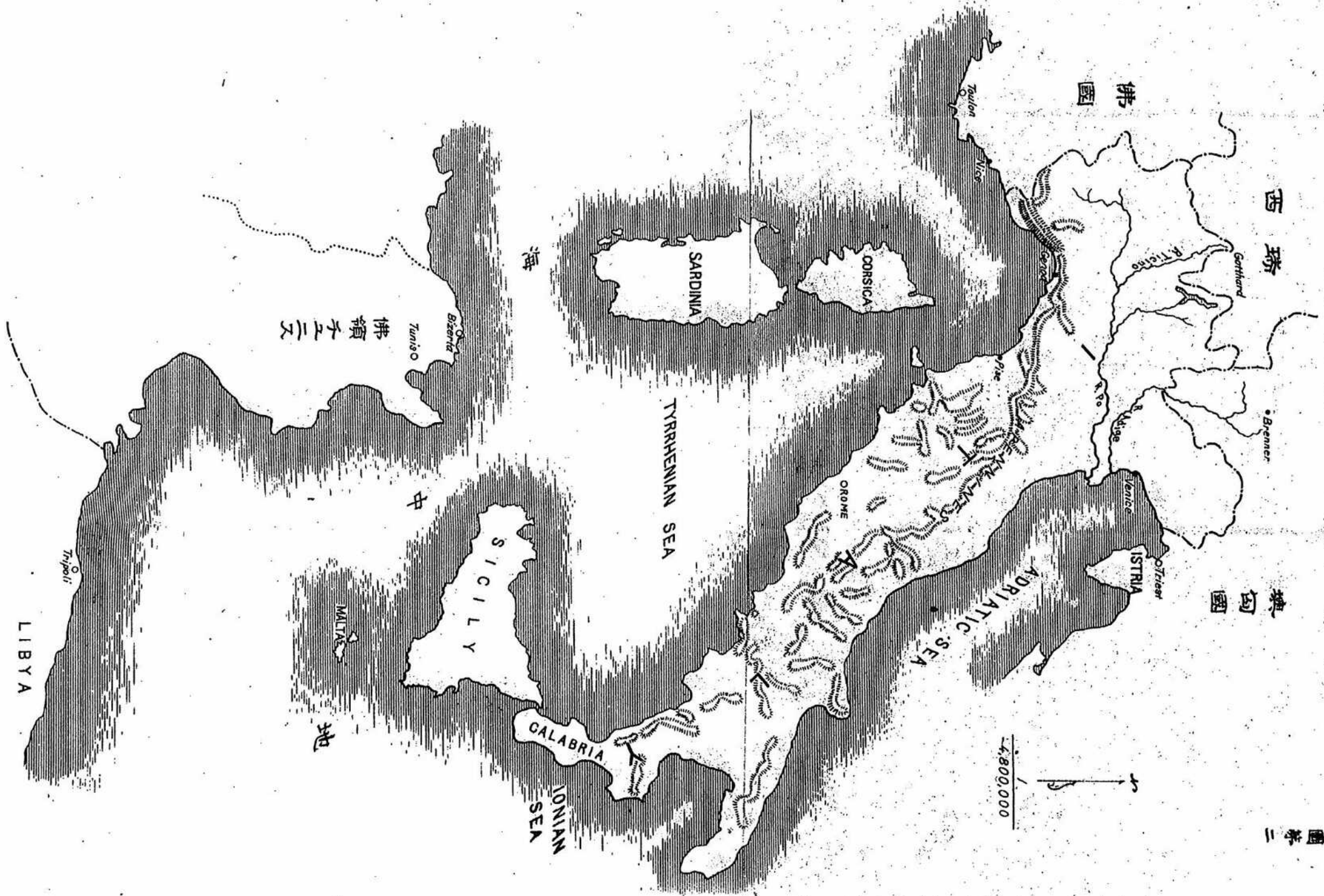
伊 國 一 概 圖

西 瑞

奧 國

佛 國

二 第 圖



佛 領 之 地

中 地

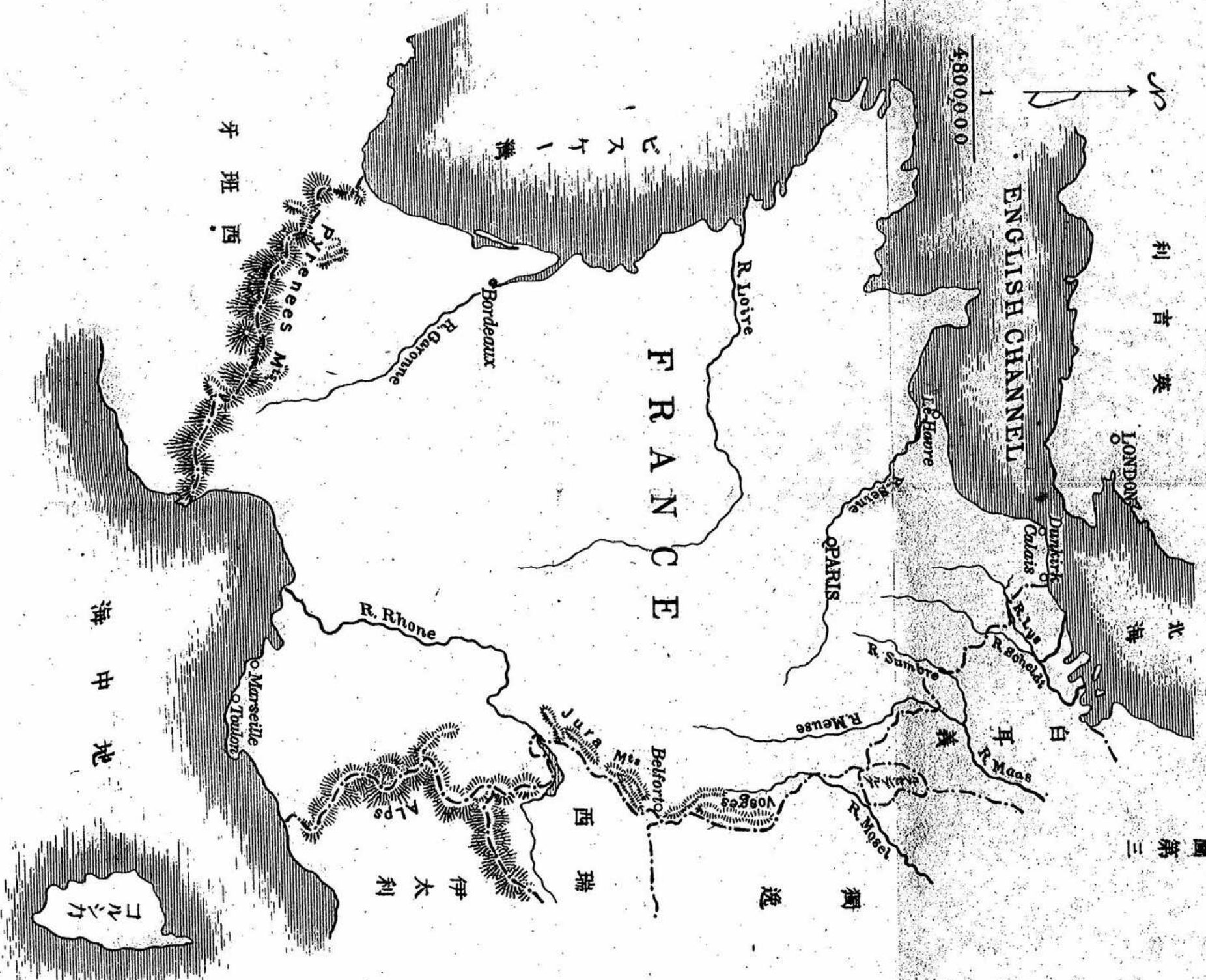
佛 國 一 般 圖

英 吉 利

LONDON

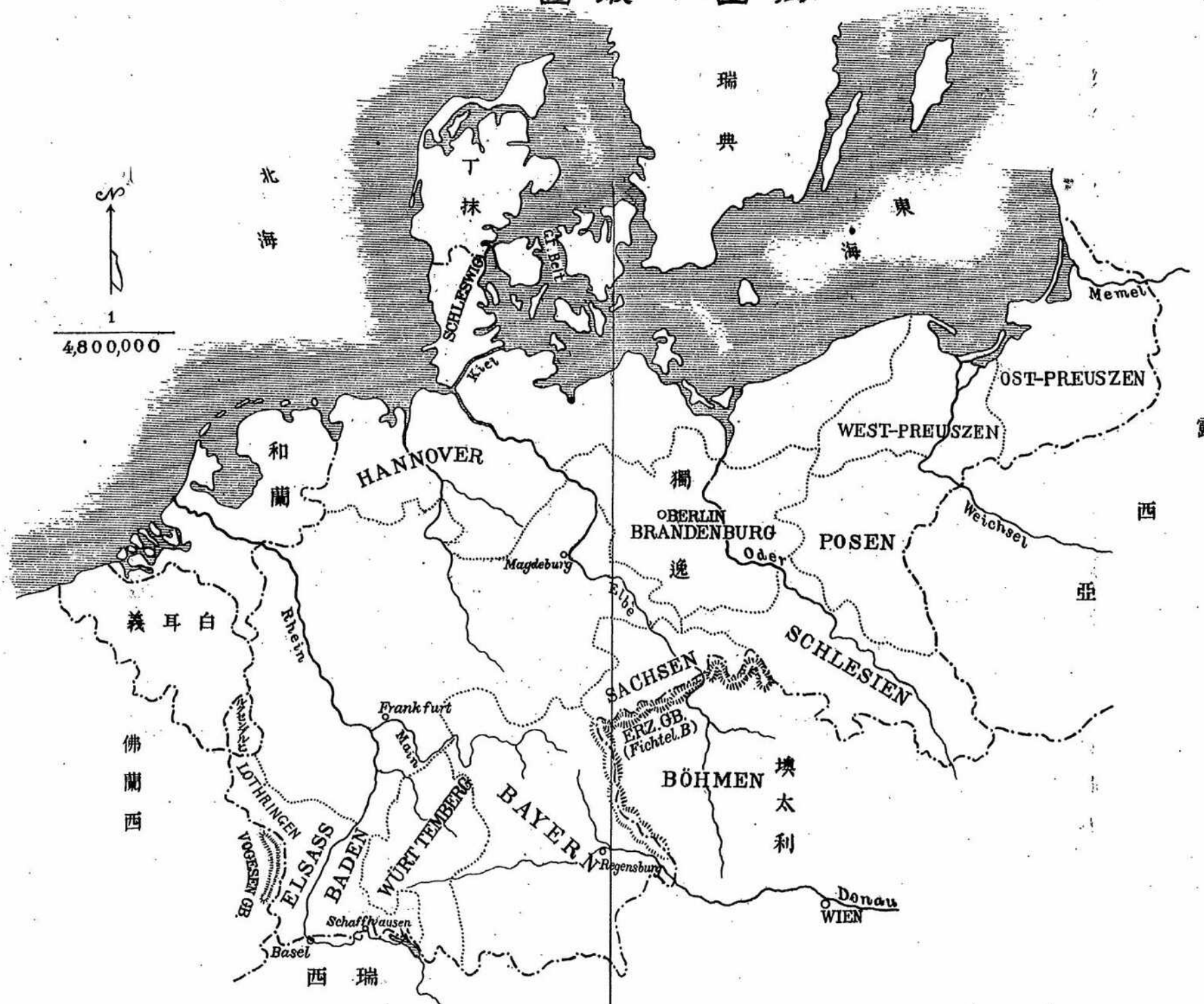
北 海

附 圖 第 三



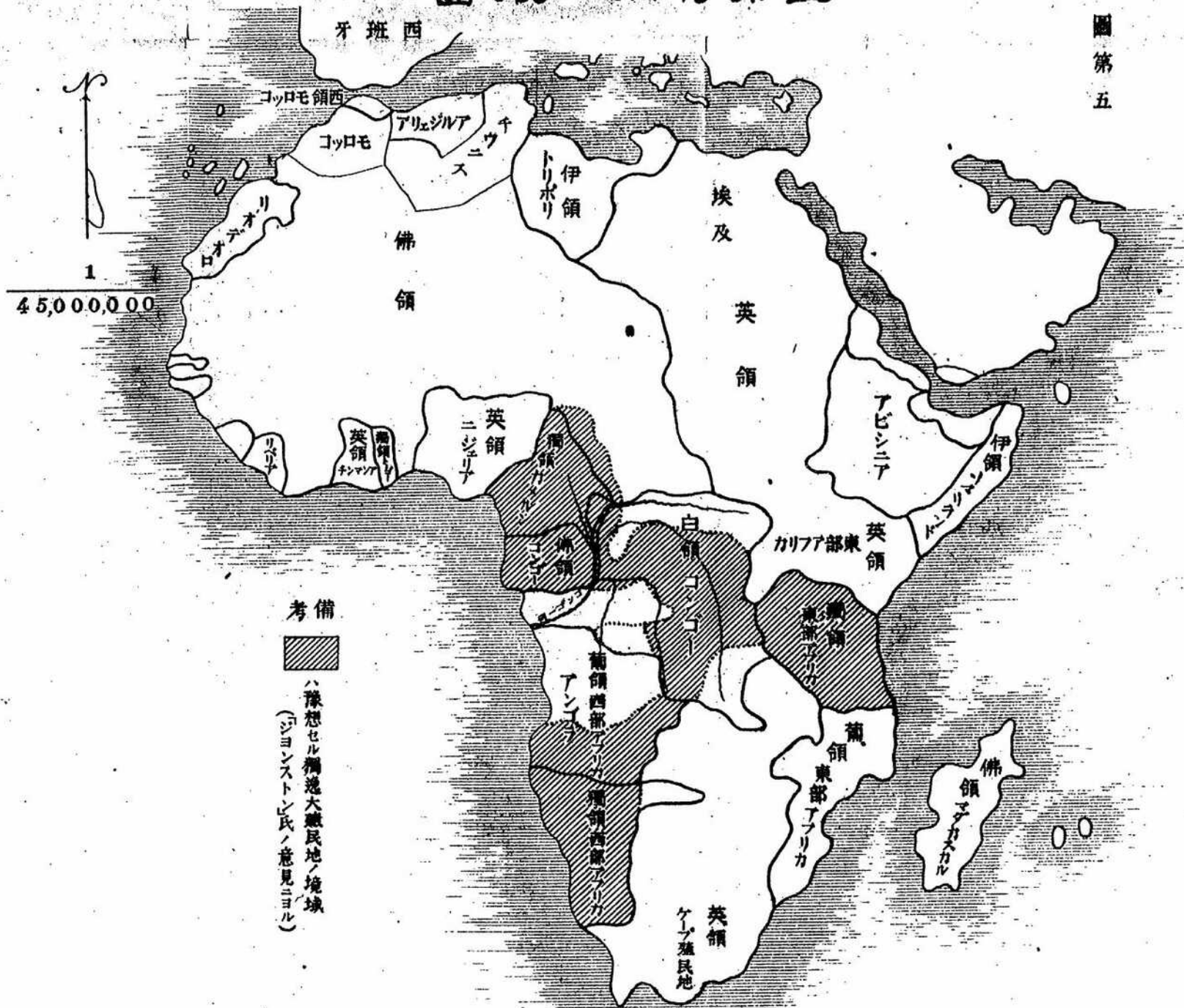
獨 國 一 般 圖

附圖第四



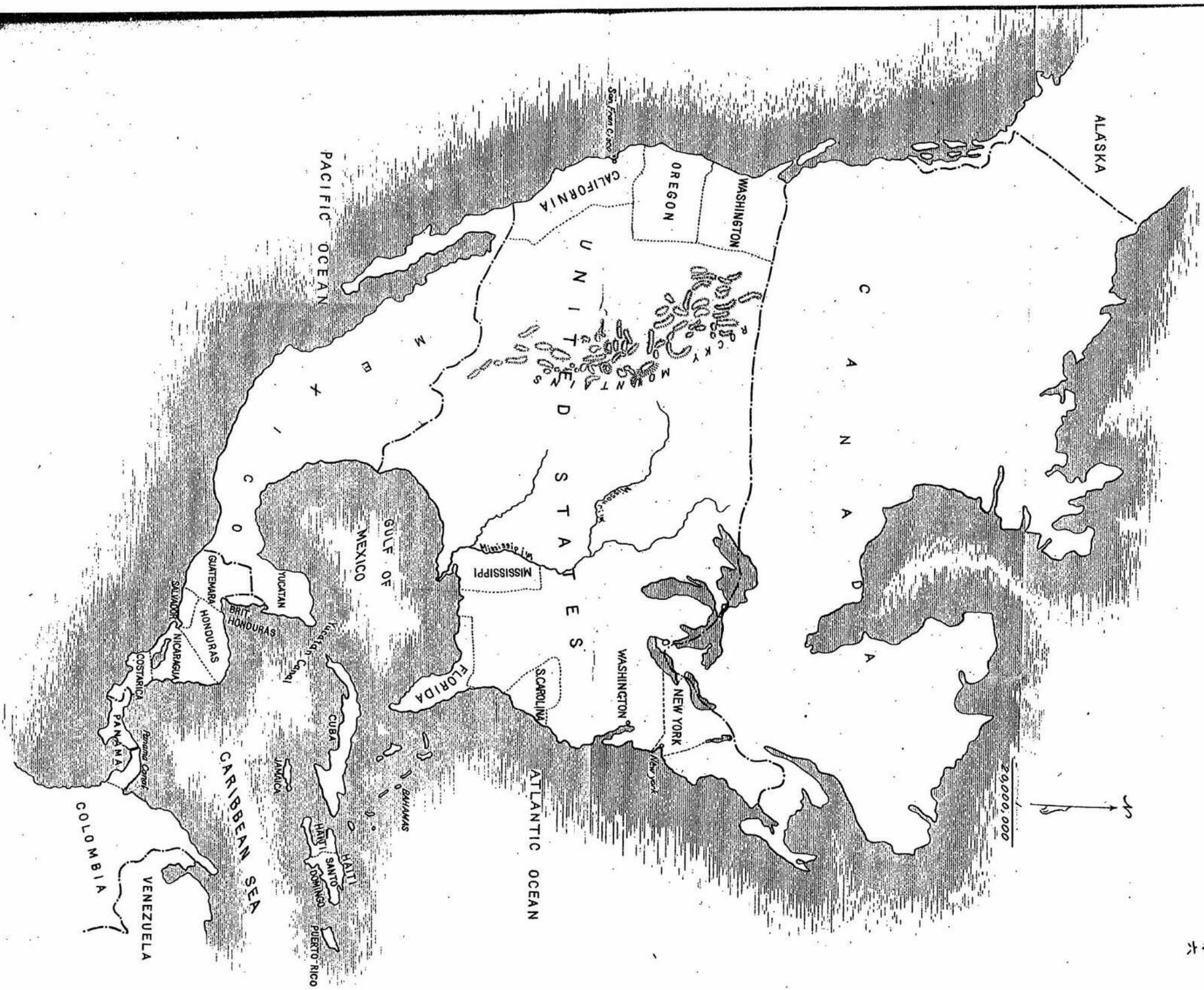
亞利加一版圖

附圖第五

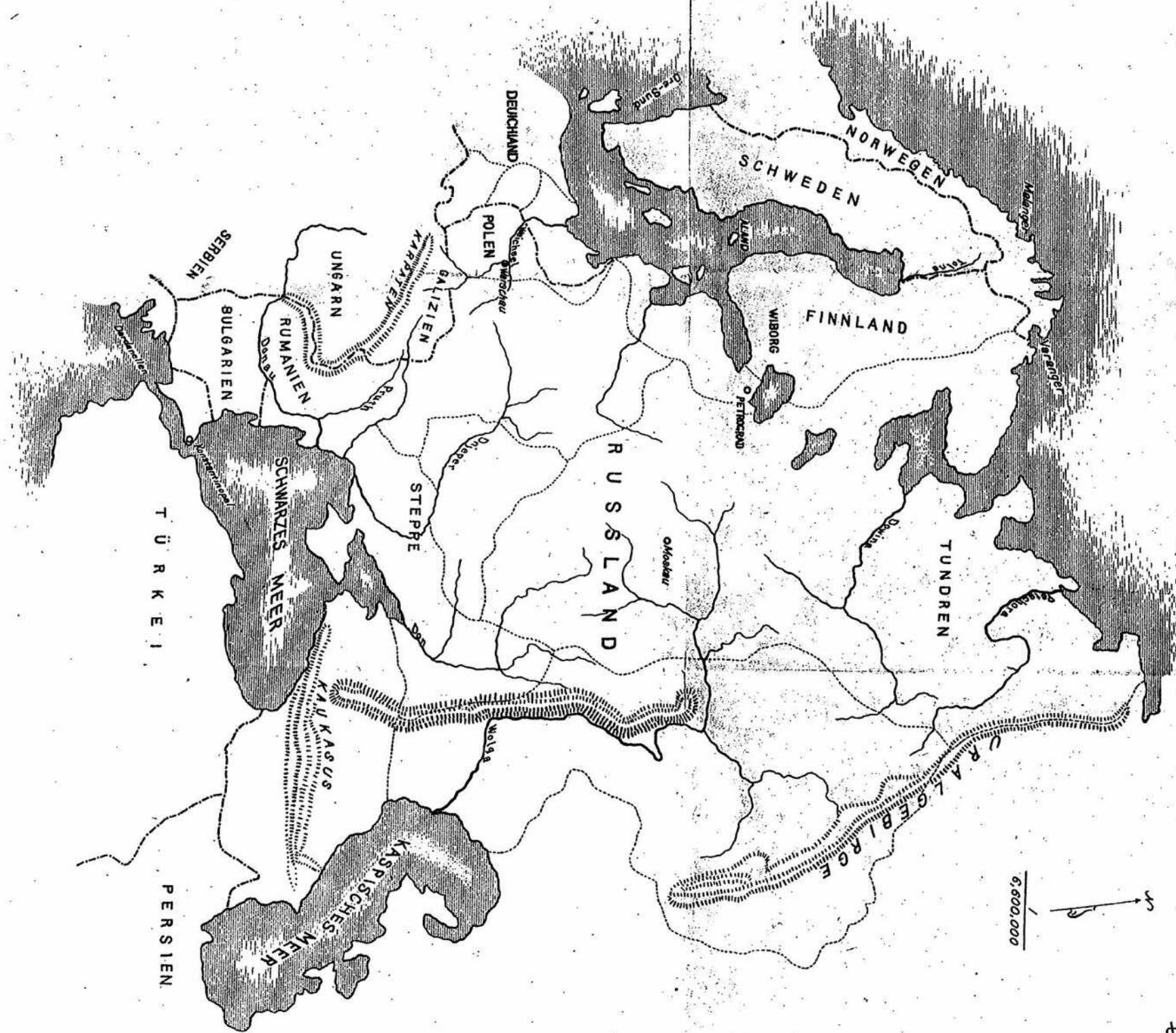


考備
 ハ豫想セル獨逸大藏民地ノ境域
 (シヨンストレン氏ノ意見ニヨル)

圖 一 北亞米利加及中亞米利加



附圖第六



歐 露 一 般 圖

附圖第七